学習院大学史料館所蔵史料目録 第四号

中 III 善 之 助 寄 贈 文 書 (中)



序

文

際収録できなかった仙台藩関係の史料を収録した。 ただいた故中川善之助先生収集・所蔵の全文書の目録と、 本書は、先に刊行した『中川善之助寄贈文書』上巻に続くものである。 なお、本書に収録できなかった仙台藩関係史料若干と、会津藩関 そのうちの近世史料の一部を収録したが、 上巻には、 令夫人中川綾子氏より御寄贈い 本書には、 その

係史料は下巻に収録して刊行する予定である。

だ村方騒動の審理過程等が詳細に記されている。本書が研究者に寄与するところがあれば幸いである。 づけた宝永七年と宝暦一一年の二冊の史料などは注目に値しよう。 生活や相続、 なお、 本書に収録した史料について一言すれば、必ずしも系統的なものとはいえないが、 本書の作成には主として斎藤洋一、 また刑事事件の処理などについて知ることができる。 高沢憲治、 須田由美子があたったが、この際、 それらの内でも、 例えば、 宝暦の記録には、 私たちが仙台藩評定所記録と名 仙台藩政の諸相、 本学法学部教授遠藤浩氏 七〇数名の処罰に及ん 殊に、 藩士の

から御援助いただいたことを記しておく。

昭和五四年三月二日

学習院大学史料館長 大石慎三 郎

例

言

に寄贈された、故中川善之助氏所蔵文書のうちの仙台瀋関係史料一、本書は、昭和五一年に令夫人中川綾子氏より学習院大学史料館

な点を示すと以下の通りである。、史料筆写は、通例の古文書筆写要項に従ったが、そのうちの主

を収録したものである。

- (2) 漢字は原則として必
- 仮名は、而・江・ゟ・〆・舟・圧・と・コは生かし、その他漢字は原則として当用漢字とした。

(3)

は平仮名に改めた。

誤字・あて字等は適宜 ()で、補足・訂正した。

(4)

(5)

闕字は一字あけ、平出・擡頭は二字あけで示した。

史料の部 ……………………………………………………………

1

敵討・仕置その他留書 3

仙台藩触留

22

 \equiv 服忌合 60

六 仙台藩評定所記録 (宝永七年)

71

仙台藩評定所記録(宝曆十一年) 江戸・仙台勤方条目 114

137

御礼廻并五節句御定之覚 220

諸願達編集

200

中川善之助略年譜・主要著作目録

225



史料の部

敵討 仕置その他留

徳刀寛蔵義母之敵を討御番外ニ被召出候事

江刺郡

野手崎村百姓善六義親之敵を討留大番組

二被召出

一 御 (編) 能 小 ,四郎義御小人ニ被召出候事、

坂能登役被召放閉門被 仰付候事

大町主計等役被召放閉門被

仰付候事、

を及殺害候ニ付御仕置之事

飯田能登家来日塔喜右衛門義右能登妻江不義有之、

能登

佐藤善左衛門義下飯坂義蔵ニ被切殺御仕置之事

御足軽床頭佐藤作左衛門妻みよ義夫之急難を救ひ御金被

下 -置候事

八嶋多蔵御呵之事

菅浪吉右衛門切腹被 仰付候事、

水戸様御家中先手組菅谷大内蔵次男同蔵之進事重罪之者 一付、 召捕之義水戸様御家老中ゟ申来候事

村形貞之丞他国追放之事

中村丹宮御金弐拾両被下置 田手全治役被召放閉門被 仰付候事、

斎藤斎義相原新治を及殺害御仕置

Ш [内源九郎御仕置之事

荒井加右衛門退役願之事

八乙女長太夫娘ます等御仕置之事

菅原市十郎等御仕置之事

渡辺義助義役被召放蟄居被

仰付候事、

石田道伯役被召放閉門被 仰付候事

大台五郎太義大塚善之進等を及殺害色品盗取御仕

三五郎御仕置之事、

赤沼敵討之事

壱朱

橋徒士櫛淵弥兵衛剣術内弟子 蔵

其方義母之敵長松を討留候由申といへとも、 ニハ後家入親と書のせ有之、 吟味とけ候処、 長松入夫之義ハ母きく相対を以相定既 継父たるへきニよつて親類 村方人別

同申候、

然る二人別帳親と有之候ハ長松存寄を以書 親類共承引無之処留主居等之ため頼置候趣ニ申 出候事二存旨 聞

相聞得母之敵討侯二相違無之侯、 ある所之人別帳可被用無謂候、 符合せしめ其始末継父ニ致したる者無之義と 依之構無之候 件之者共申状二変候

疑

持方四人分被下置、 町百姓勘五郎添人善蔵事徳刀寛蔵と名改、 右は享和元年七月於江戸深川敵討、 出入司支配御番外二被召出三浦善蔵 名取郡前田村之内中 御切米壱両御扶 由

名乗候事

江刺郡野手崎村百姓

弐朱

出旨 守り庄蔵等数人と戦ひ死を致し、 を経此度南部領庄蔵を切留希有之孝烈、父佐兵衛御役方を 其方義十五歳之節ゟ父之仇を復する之志深く、 儀二思召候、 御意之事 依之御 知行五貫文被下置大番組御広間江被召 其身其仇を報し父子共太(大) 弐拾九. ケ年

町百姓六兵衛弟 郎

三朱

過ル二日松平右京大夫殿御廻勤之砌、 者ニハ奇特成事ニ候、 相 人共不取逃其身壱人ニ而捕置次第格別覚語致指働候事 之者とも打擲ニも可被致候処、 守殿御駕籠之者理不尽ニ両人取懸り、 聞得、 右故当人も相知御沙汰も 依之右小四郎御小人二被 却而遠江守殿駕籠之者両 相分、 其外数· 右於屋敷加納遠江 御供先之儀 人取 召出 囲大勢 進 き

四条

退御切米壱両御扶持方三人分被下置候事

主

計

其方儀松前表御加勢之御沙汰在之哉も 仰付置 一候処、 弥以御書付を以被仰遣侯段江 八番同 難計、 内々心懸 沢 戸 石 表 可仕 見 る申

可仕 旨被 来、 行中申渡候処、 様 箱館御奉行所る御沙汰次第早速御人数被相出候品 無之趣 再三 御金并御具足等一式不被渡下義 申 出 兼 而御軍 一用之義 ハ夫々御定も 三而 は 有之 中奉 出 立

年来非常之儀も有之、 路金等も不被渡下五貫文巳上江 心指立候而も急速出立難成者も可有之義ハ勿論之事 尤累年相病候御家中之義 ハ御貸具足も 無之事 ガニも 如 候処、 何

1

敵討・仕置その他留書 出候通 申出 候而 \$ 相 候二 撰 \$ 不 召 = 付 相 連

候義 被相

かる

別

段之事

二候得共、

此度御

人数計御

手

被成下

様無之如

何

程

御

有合有之候而

も莫太之御金被相

渡義 当可

ハ可

被

相

候而 侯段申

ハ難罷

成旨

願申出候処、 方共も御具足弁

為士者一統具足無之義

ハ余敷

御金も莫太之拝借

不被

成下

出

候、

其

弁不仕

不 頭

相

叶 =

事

候

処処、

壱人前壱貫文之高

江拾切之刻

(割)

を以 分勘

計不叶 惣頭

然其

×

相

成候 =

上

既

過

急之節

=

到り

候

而

何

を も

被

仰付上ハ、

何

分

統

相

励

速

御

用

立

候様不

取

統御金拝借被

成下

御

具足等も不残不被貸下候

1

出

立

兼

不都合候

上之御

武器

而

1

惣御

家中

江

可被貸下

程

可

以

御役被召

放閉門被

仰付旨

御 意之事

備置

様

素

な無之、

御金遣も上之時

宜

応

し不被渡下

無之義 ハ勘弁可 有之義ニ侯を、 只 A 出 立 難

出不都合之到 為及様 = 候 得共 公義御 用 過急之義 御 懸 成 = 由 を申 相 到

ハ無之候共可 済方な御具足之内早速之所 相渡奉行中申 渡、 ハ被相 過急之御 渡 間 御 金も = 不 合 申

相達

候方と評義 左 候 1 + 番 承 届 体之内 候 而も る出 無覚束旨 立 口 申 罷 出 成者共之分計 然

右御 被相 而 迚も早 用 :備置候大勢を差引致役柄、 被相 速之所 除候次第具二 ハ不 御 用立 相 達 事 殊二此度可 = 御 相ミ得、 耳 = 不及是悲 被指向御 ケ様之筋之ため

其

方共

全体

父喜太夫弟ニ

鉄之進義惣兵衛養方之従弟ニ

候処、

病気

続

し、

も無之、 も可有之、 思召侯、 義 重役之任を失ひ只 |夜之任を失ひ只々録柄として重| |緑| |却而頭たる者其方共右体之次第 厳重之御沙汰ニも 無其儀大勢之内ニ 可被為及之処格 夫々心懸も仕残念 畳 二被 別之御 不 届 相 備 至 一存候 置 宥 極

候詮

被

五朱

其方儀去年正月養子願申上 一候節、 親類松川 四 坂番頭 勇 助 能 方 江不及 登

自分遠 談 = 8 慮仕 他人伊 居 候段 達安芸 相 達 殿 弟亘 御 耳 理 候 要 に付 人を願 而 候 不 勇 調 法 助 方 おも 付

平内娘 候 其上明 (勇助先祖吉左衛門妻ニ 二付旧 和 記等も為相 七年 勇 助 養子惣兵衛先養子 出引合被遂吟 嫁侯已来連 味候 綿 ,願之節 処 と松川之家相 其 (方先祖 其 方亡

付養子遣兼候由喜太夫連判之願書在之難遁之、 明証 B 有之事 候 処 養子之義 重 親 き事 類之義 = 有

可 被 仰付事 而 最初 る吟味決し 勇助弟も

人数之

之筋目を以

於

上二

5

義も一 願不申上已前勇助方る取発親 在之由之上ハ猶更之義是悲令相談を願不申上不叶義、 円不相用、 其上系図書ニ無之由一通を以事重き義 類之由鎌田松哲を以申入侯 尤

打捨置願を申上、 閑之致方ニ有之、 を広、吟味ニも不及親類ニ無之由及挨拶義ハ先以未熟等 追々親類ニ無之事見詰候 以後親類ニ無之由申払侯次第、 勇助方江吟味可申遣由及挨拶二置候上 ハヽ其段不申遣不叶 実は親 義只 K

類之由

ハ其方も心得居なから他人を養子ニ仕度肝

功る役

不届 威を以勇助を可押掠とし侯義事状と外不相見得、 居組之内右様之義在之候而も担当をも可致重役として猶 筋目違他人養子二被 至極被思召候、 依之嚴重之御沙汰二も可被為及之所, 仰付候ニも到り、 大勢支配を相預 為夫か

其方家ハ御由緒も在之 思召格別之御宥恕を以役被召放閉門被 御先代家柄ニも被成下候義被 仰付旨

御 意之事

飯 田 能 登

其方共親類飯

田能登

親

類

を、

之御宥免を以、

置被

仰付候

飯田家

ハ古来之御

族たるニよつて格別

此度御仕

右妻同道出奔し於南部領ニ右両人召捕被遂糺明、

飯田能登用人日塔喜右衛門、

能登妻ニ不義有之能登を殺し

仰付旨

半地を妾腹之子左門ニ被立下御一 族之席被

召上壱番座御盃頂戴被 御意之事、

能登父隠居 庭 楽 軒

ニよつて蟄居可罷在旨 を殺し候事重き横死ニ候を数日告達を遅滞候条、 其方義同氏能登用人日塔喜右衛門、 御意之事 能登妻二不儀有之能 不届 至 極

登

其方義松平右近将監殿江障り候名を不憚付居候、 能登弟 田

不届ニよ

右

近

つて慎可罷在旨 御意之事

御奉行宅ニ而

国分彦太郎名代 之丞

松前采女組 田

元 + 郎

上能登を殺し右妻を同道出奔し達を申聞能登在所 落人を尋候に抱り事重キ横死ニ候を数日告達遅滞候条、(拘) 用人日塔喜右 衛門、 能登妻 三不 罷越! 義 在之

候条、 行候事、 右之者主人を殺し候者之母たるによつて右之通被相 右之者主人を殺し 数日告達遅滞候をも心を不用、 之候上能登を殺し右妻を同道出奔し重き横死ニ 其方共儀主人飯田 於札辻晒竹 奴 田 代浜 不届 江 流 = 罪 よつて家老役被召放閉門被

隠飯

居留主居以上凡下二被落田能登用人日塔喜右衛門父

意

佐藤善左衛門義、

し候重科之者之父たるによつて右之通被相

日塔喜右衛門母凡下二被相落

田能登家老 毎日 同 首 藤 忠 権 兵 兵

不届

至極

=

よつて蟄居

可 罷 在旨

御意之事

於七

北

田

飯田能登妻凡下二被相落

衛

衛

登用人日塔喜右 衛門、 能登妻に不 義 有

て右之通被相行候事

同人殺害するの場に立会直々伴ひ

出奔、

無類之重科ニよ

右之者家柄として家来日塔喜右衛門ニ密

通する

而

已ならす

能

候を親 類 中

且落人を尋る手段を寛慢

+

月三日

御仕置

七朱

仰付候事、

古田舎人組御郡方横目死亡 門

親 類 共

を付妄言を発し候を憤及口論終ニ殺害被致候哉ハ雖不分明

大森於御本石二同所御役人下飯坂義蔵疵

、相明侯義を指控侯義等も有之由ニ而可殺害心懸侯事 義蔵義前夜之妄言と言及再応ニ下役等を為立 亦 相

二到 ŋ 而 も最初屛風亦 は障子をも つて取 极居 候 事 = 聞

終ニ不抜合油断忽之致形不届といへ共依死亡無御(組脱力) 脇指 ハ六七寸抜懸居侯条可抜合とし 候事ニ 相見得候 構被

日

塔

喜

右

衛

懸候

得、

行候 門

事、

見得候条、

何分ニも夫々之備を可成事

=

候を無其義義蔵

切

ね

雨戸

2

鋸 而 挽之侍丁市中引晒於七北田 磔

右之者家柄譜代之家来として主人の妻に密通する而

す主人を殺し女を伴ひ出奔し候条、 無類之重科ニよ つて右 已なら

7

之通被相行候事、

1

右善左衛門親類 る跡目願可申上事、 文化 十年 月廿

八月

仰付候事

8 殺害、 同 十二年十

月落居、

佐藤作左生 衛門院頭

妻 7 よ

少

進

右夫作左衛門義、

同組庄左衛門并新右衛門相越令口

「論右両

十朱

及変欠入候節右庄左衛門儀夫作左衛門を強勢ニ打擲し(鷌) 人夫を理不尽ニ申掠侯ニ付、 難を避候様始終心を尽し 既二 追 而

美御金拾切被下置候事

ひ候次第深切成志女之身として奇特之事ニ候、

仍而為御褒

し候

難題申懸、

又は他村より附来侯炭薪を不法之下直ニ押買

殺され候と存、

身の危を不顧新右衛門ニ切付夫の急難を救

宝 曆九年二月十 九日

御徒組 嶋 多

蔵

同 其方義去年 .人妻ニ不儀を通し候訳ニハ無之を源十郎疑之心得を以 四月十日之夜伊藤源十郎方江 相 越台 所 臥居、 過

難相立 甚二被取 存候由に 候 扱とい 而同人妻ニー角を貸置候由之義ゟ事起し、 共、 へ共、 不 儀 陥候を意 夜中とい 趣 三含俱 両人而已居候不作法申晴 々御仕置 を 兼而不 可蒙と

= 由

病身ニ到らせ、

都而強暴理不尽之所行士ニ不似合而已な

申立、

同人を立木江縛り糞をか

とけ

汲頭

る懸口

江

相

入終

儀を通居侯段源十郎方へ欠合、(掛) 彼是不届至極二仍而半進退被召上閉門被 ニ取立囲江入御吟味し候由虚事取繕御町 剰実兄古山直記其方を乱心 奉行宅江直訴 仰付候

に付格之通御減少被 仰付候事

会銭弁諸道具体之色品を借受不相返、 吟味し候由申脅し、 其方儀百姓共江非理なる義申懸候上不都合之答ニ及候ニ ハ 可用捨由を言数度ニ及ひ金子を貪取、 百姓共入寺等をなし侘候へハ金子を出 沼辺蔵人組 被責付候 吉 二到り 或 右 は百姓 衛 知而 付 共

申口 御糺明ニ到り彼是申紛とい 不相立、 剰長左衛門水 吞栄蔵とい へ共引張申口事状符合し候上 ふ者其方屋 敷近 所ニ

為立去、 し珠数等を奪取、 而百万篇講を催し候は不都合之由 清兵衛と申 其方目通之家ニは居間敷由を申渡其所を -者ゟ爪之価を催促 = 而 せら 同 人宅江. れ 却 而 押込打 悪 口 L 候 擲

によって切腹 而伝之丞方江遣置子たる之道をも失し、 付十之丞子共伝之丞ニ為取仕廻、 十之丞馬を伝 仰付候事 玉 郎方合買取 其節其方母手伝穢侯 立 置、 彼是罪科重畳する 正月始 右 馬 殞

写

享和

四 年二 月 八廿三日

尼正甫、 水戸殿先手組菅谷大内蔵次男同苗蔵之進 一歳三十五歳、 奥州仙台領 波波波ニ 而林玄民 事 下綱総 国

長五尺八九寸

目之内悪敷所有

面

長色白鼻ミね走り、

左之内股ニ古鎗之疵

剃髮之由

田 迄無残相尋候得共行衛無之候処、 右之者品有之、去々年ゟ江戸京大坂長崎五城(畿 横町 与 五郎と申者金花山自分参詣之砌、 当三月中 蔵之進御領分渡 Щ 備 七道山中 前守在 島 所

> 之平 波と申 由 市蔵中西駒之助小人十人相添御領内江 所ニ林玄民と名改罷 在候旨明二 申 上候、 指 仍 向 申 而 為捕 候、

右

手

由 候

蔵之進義奉対 明不申不叶品有之者二付早速搦捕召連侯様 陸奥守殿宜敷御披露御 天子公方江日本国中草木を相分尋出 国法御 添心二 一預り 候様 申渡候条 可申 達旨 水

糺

戸殿被申付如此 御 座候

右蔵之進 罪科 向御 心得 左 = 申 進

=

而

平

弟同苗大吉小人十人組浅香弁蔵等三人申合水戸殿宝蔵堀 屋権吉方江永代二売捨、 ノ三月 水戸殿先手組菅谷大内蔵次男同苗蔵之進、 水戸殿若堂宇津宮弥三郎娘密々(党カ) 其身本国江 立帰 り都本役下津 召 去ル 連新吉原桔 安永 五 軍 破 治 梗 申

り、

金小さね

の御具足壱

輛

金之御 軍 一配壱本

ハ従 蜀紅之錦之御 神君 黄門殿 直 乗 具 御

K

右

預

後西院 御宇 黄門殿 副将 軍

水戸殿領内絵図

通

御 輪給

右以上一箱二入

三条之宗近御太刀 腰

右は

菊桐金御紋錦之御幕弐張

秀忠公黄門殿 拝領

右は水戸殿御預

神君為御遺物と従

ニ而下津大吉召捕、 右之通盗出三人共ニ 同 無行衛相成候処、 十一月日向国 延岡二而浅香弁蔵召捕 去年 西 ノ九月出 雲国

糺明申候処、

之進所持之旨申出、 国佐倉堀田相模守殿御医師佐藤正安弟子ニ罷成平尼正甫と 致置候旨白状二依早速請取 右品々江戸三味線堀尾張屋仁右衛門店江質入 然処に極月水戸殿家中菅谷蔵之進下綱 ・速請取申候処、御論旨并水戸絵図は蔵

衛相成候旨 名改師匠正安令殺害、 其上正安家財盗出し正安妻召連無行

然処正甫事玄眠と名改御領内渡波と申所ニ罷在候条何分御(尽) 国法を以召捕侯様致御頼侯、 委細両使可及相談候

水戸殿奉行 備 前 守

月 日

Ш 辺 主 水 正

青

木

下

野

守

相模守殿御家老井上内記方ゟ水戸江申遣侯

極ニよつて他国追放被

仰付候事

御松 秋奉平 陸 奥 守 殿

保 記 殿

大 立 下 野 殿

大 町 多 近 将 江 殿 殿

十二

形 貞 之 丞

飲酒し候而已ならす菅井藤次郎宅ニおゐても平惣作等と博 打懸金之代り大小衣類を遣し木脇指計を帯翔歩行、於市店 其方義於青木良右衛門宅同人等俱々御制禁を犯し博奕し、

御目付宅江直訴し候次第、 同人立去候様申談候ニ到り 奕し、右戻り之節木脇指をも失し佐藤権太夫方江相越居、 候而 総而士ニ不似合致方重畳不届 ハ襦袢計を着し無脇指 = 而 至

袖ケ崎御屋敷役

治

立塞居火消人数欠付候を難相入由申断指留候ニ付、(駈) 其方義去月晦日萱場忠左衛門屋敷出火之節、 忠左 衛門門 御目 付

一聞、

尚も不都合に付又々

得断を候

由

相見

敵討・仕置その他留書 11 1 無遠 得、 又々 不 処、 を以申 申度由之儀等申

目付宅 江 御目付る断を得候 相 侯ニ付押 御人数御目付 電越 入候儀 令過酒 候様 江 相 候故 而 ハ不分之由及承合ニ不都合ニ 再三申 越 相 候義 入候処、 方江欠付候砌 申談候様無然由 聞 而 ハ格別、 候 遅帯ニ付、 二付、 引取 其 候砌も門ニ 鎮火罷成候間 大方宅江 火事場格式之間 「彼是も 紙 相 面 相 越 一付紙 一待居鎮 を以 達候得 候義 難 難 相 面 承度候 火二 を以 共、 申 1 人 不都合二付、 聞 由 全体. 可 相 申 候 申 ·断指留 1 間 成 1 候 聞 火消 屋

宅江罷越申入候間及出会候 取 合候 聞 候義 義 申 事六ケ敷相 聞 候 付 重々不都合二付承談候得 成勤 処、 功江 御格式之儀取合候訳も B 拘候間 穏 便 は = 相片付 無之 紙 面

彼是共紙面

を以

申

聞候様又々得断を候処追々

大立目

弥

兵

御

事

依之別段之御吟味を以御

金弐拾

両

被下置旨 急難難行届.

御意之事 も可有之、 敷 由 =

御時

兼而

火事 当

庙 御役柄 至 御 慮御目付宅迄 火消 極御役目被 御 人数妨 対し不都合之取合ニ 罷 越 召放閉門被 二も相 尚も及取合ニ其上令過酒 成 且 火事場役之不 およひ 仰付旨 再応断 得指図 を得 御 意之事、 重畳依 事 候 而 -\$ 候

> 十年 四

段相

達

御耳

江

戸

表同

様消

江

取

候儀動振と心得、

且

其節

より承届

侯砌不都合之及挨拶二不調法二

付自分遠

慮

相

達候

御 参 府 御 供 、登被 仰付置 候 処 御武頭 過 ル + 九 村 日 夜居 丹

宮

聴候、 家令

心懸ニ 節 相 江 而 柄をも令勘弁難渋之義も不申立自 続向不如意之事ニ聞得候得共 戸 登諸支度之内焼失之分も在之事 畢 一竟御 奉 公二 志厚故之義と相見得侯 御 力を以 発駕江 被及 取 8 繕罷 共非常之 指 懸 御 登

且

候

十朱五

定御供斎藤勘左衛門

然とい 所為と堪忍致なから手あら 不得 打擲二可及様子二付其方立入引采配、 を含其方を堀 方なるのミならす、 其方義相原新治を討果候義 止 事 ^ 共町 取合討果候、 場酒 江 押入又 店 新治義凡下体之者慮外在之由 = は お 全体之事状申 手 る = T ハ同 而 新治 頭 人酔 上等 俱 白 中 H L無相 を打候 飲酒 其後新治義 被切 違被御 L 懸被為疵負候 + 共 風 を以 所 を 聞 沈 存 猥 済 不遂 取 候 候 抑 致 故

き取扱ニも及候故

酔

人刃を

頭

閉戸被 L 切 懸ケ候之怒を起し候段ニも到り重々不届至 仰付候事、

極ニよつて

境野平八郎組御給主 新頭

親 類 共

成るのミならす、途中行違之砌凡下体之者刀之柄江袖を引 相原新治儀斎藤斎倶々酒店ニおゐて飲酒し士風を猥候致形

手を以頭上等を打脳し、(悩) 懸ケ侯を慮外し侯由事々敷申答既ニ打擲ニ可及様子ニ付、 切殺候段ニも到り、 斎義立入引采配候を指含諸肌を脱同人江取縋堀江押入亦ハ 沈酔理不尽之所行重畳不届至極とい 追而 ハ脇指を抜切付為疵 負候故被

共依死亡家跡没収被 仰付候事、

佐々伊織組死亡 九 郎

覆二為致重々不届

至極ニよつて親類ニ被相預旨被

親 類 共

平吉妹やす江不義を通し追而ハ連除宿元江囲置、 Ш 入飲酒 内源九郎義荒町毘沙門境內江角力見物ニ相越、 候 ハ士 一風を猥 し先以不届成而已ならす、 兄平吉被 同 右茶屋 所茶屋

> 身自殺之場ニ至り未練柔弱之心を生し狼狽周章、 欠合所置ニ逼やす申勧ニ随相対死を約し右やす切殺し、(掛) 三唯江 名取郡 其 兀

姓共ニ被見当遂自害半途ニし追々死亡ニおよひ侯次第、 ニ不似合所行重科といへ共依死亡家跡没収被

仰付候事、

郎丸村迄相越川江飛入可為溺死とし、

亦

ハ僅

施付百

侍

十七二

其方義奈良坂清蔵と密通俱々出走大台吉之進方江相越居

く小間物売卯兵衛事庄蔵江慈慕密通し、 不届ニ付慎被 仰付置候処、 更ニ悔恥心なく身分之弁も 同人一同出 走江 戸

数日止宿し居候次第、御咎中之身として不恐憚淫乱不法之 所行ニ有之、 江可立越由を約し、夜陰宿許忍出赤間八十治宅江俱々相越 右様不行跡故両度迄御沙汰を生し終ニー 家傾

候事、

計 引 之 屋 組 女長 太 夫

其方義去々年四月十二日夜奈良坂清蔵 ニ性名を名乗非常之及狼藉侯義ニ付専遂糺明之処、(姓) 屋敷 前 江相 越 清蔵義 高声

庄蔵と密

通之上出

走を心懸夜陰家出

赤

間

八十

治

方江

相 兵

越 衛

候 事

し未練之所為先以不届有之、

右已前娘ます義慎中

卯

得は右を糺問仕白地ニ為申

演候義

ハ才智運用不令候

而

御

所柄恐懼仕

言

申

出

兼

候類も

有之、

種

×

体

=

無之候

候ニ至り候而 手 敷江相 一敲等をなし、 入候 1 ハ家内江入間敷と鎗を携戸口 又は流木を打附台所戸口之板戸を打こわ 可 取押と大右衛門俱々立 廻 = ŋ 控居侯由 居 門内江 申出 計 相

其方及佐藤大右衛門江種

々悪口し石を打付門之扉等打破

垣

所

江

を切倒し

候節

閉門中故門外二

相

出

[侯義難

成義と心得、

屋

取計

入

之、 之処、 向不取合恣為及狼 取押可及始 候上ハ、縦令閉 驚臆し始終狼狽し居 其節御咎を蒙居 其方義 宋事 は 右清蔵. = 門中二候 藉 候 ヲ、 唯々為引取候次第 候義とい 候事状二相見得、 相越及 追 共猶予する義ニ無之門外江 而 乱 門 N 内江 重而 暴候節未練 相 相越先件同 入 及乱 重々侍之覚悟を失 実は清蔵強暴之勢 不始末之取 暴 候 様之及所 上 8 =

8 相

出 行

仰付置候処、 置候上、父子之情 を、 竟 兼而子を教之道なく家風不取 狐猩二誘侯義 上之御世 話と成 相続向指 = = 而已 泥候由とい 可有之由等 逼 候由 ならす右 = 而物成金取立等之ため知行 同 締 ~ 故右様之義 共不始末之至 人申 件二 三任 一付御 せ内 詮 \$ 義 相 × 有之、 中 出 慎被 而 再応 引 畢 戻

> 是重々不 密 達吳侯様親 K 庙 罷下、 至 極 剰留 = 類 ょ 只野周治 つて 主中 評 江相 定所る被召呼 御城下追放被 頼置 一候次第、 候 不恐憚致方彼 病 別身之趣

十八二

有

拙者義御

町奉行御役不得手二付御免被成下

- 度奉願

候、

不行届、 儘 内ニハ姦計暴悪非常之者 処 御 = 申募り候義有之、 町 奉行之儀御 就中御愈議到而 政事 或 重 職 1 重き巧を仕非を飾 不得手二有之候品 魯鈍朴素婦 分ニ 在之候処不才之拙 女子之類 り上 一を犯し 御尋者之 厳 者 威 万端 我

ニ有之、 拙者共評定所御役人江 容易難糺得 X 申 出 候をハ妄りニ不 其情を得候 事 = 候処、 時 組 還而 審を入半 ハ宜を相 合詮義仕 姦計之言ニ疑惑を生し を相 失し申儀 候処、 逆 候類皆 二御座候、 仰役人 了簡句 之所 実事 兼而 獑

変理非邪正分弁可仕様無之義

= 而

御

座候、

拙者義此段(マ

及候をも

組

合

致

三不

相

揃

候

暴戻之者を扶ケ臨機応

候時 迂思且決断無之多くハ組合御役人之了簡 女御 座候、 如斯之違難計然ニ御大切不軽義と常々不 相附 紀問 任居

上之御吟味を以可被 重き御役之義最初ゟ御辞退をも申上度奉存候得共 仰付を早速申上候義遠慮至極 三奉

安恐入奉存候、

身分鈍才初而只今心得候ニも無之候得

共

存候間、

から年月功を以少しハ相熟候義も可有之哉と奉勤仕居候

聴候処、

応尤之義ニは被

思召候得共引続

可

相

御意之事

両年も先輩同役共之扶を得候ハヽ身分之義な

得共、 罷在候処、 候内先同役高橋丈太夫御役替被 被 生来不敏曾而手入兼候問去年中退役願可申上奉存 仰付候上文蔵新役之義早速ニも申上兼只今迄延引 古左太夫義 御先々御代合段々御恩光相蒙 仰付、 小梁川文蔵右代

義永く御奉公も仕万分一も奉報上度志願ニ御座侯を、 次 而 、二拙者義右ニ申上候通年来結構ニ被召仕冥加至極之御 退役願申上候段於身分二甚残念至極無拠仕合不本意奉

ハ身分之不調法ハ少しも 年四拾壱歳罷成候、 此段恐入奉存候二付如是奉願侯、 々前書之通ニ而不得手之上穿鑿之過有之候 相厭申義無之候処、 延享四年る今年迄引続 御刑法之 拙者義進 還 実兄松岡静吉江為及相談侯義ハ我儘勝手之所存ニ有之、 父子愛情之教更ニ無之松木勇蔵を以

存候得共、

品

違

ハ不軽御義

而

退五拾貫文、

御奉公拾七ケ年奉勤 仕候、 以上、

宝曆十三年七月

荒 井 加 右 衛 門

御 奉 行 四 人

右願御月番蔵人殿江同役文蔵指出候処、 八月廿三 日 下 平 殿

於御宅左之通被仰渡

其方義御役不得手二付御免被成下度 品 × 願 荒 之趣 井 加 相 右 衛

門

御

十九九

百理石見組 市 + 郎

間敷由 有之、 早出勤成兼候ハト退役致候様申付候義ハ先以甚敷不都 其方竜ケ崎出立之砌墓参等 其方義松岡治兵衛四男源之助義先年聟養子ニ被成下侯以後, 源之助不行届之義 同 人江厳 二申付、 又ハ源力 ハ幾重ニも正道之教諭可 ハ勿論留主中家事之儀江 之助御勘定人加 人勤 加之処、 仕之節 _ 切携

唯二家督指除度由同

実 人 方義

事之義

出

成

兼

候

1

し候様被申

付候義等

苛酷之取

協候様心を

可尽之处、

無其

養家

=

居苦敷

由

け

h

由

申

出

候

御

制

禁を

犯

尤養父之儀

候 畢

条聊 一竟其

口

愁事

=

無之何 義

分孝道を励

とい 節早

とも、 勤

方不行 退役

届之儀も

有之故と外不

相

見

敷取 て進退 無之、 相ミ得 ケ条申立親 L 同 人大小 計源之助 都 三ケ壱被召上旨 而 而 E 類共 しなら 父子之情合を 隠置門 方な自 八分為相 す メ置 同 然実家 人非分を拾 達 食事 被 取 失ひ 仰付 江 等 或 一為引取 江 1 候致 家内家 徒之 候 U 事 証 候様仕 聞 形 跡 得も 跡 重 \$ 畳 取 無之不束之義迄数 有之、 乱 不 向之所為と外不 届 候 を 至 其 極 強 心 = 得も よ 居苦

指留

候

8

書級

相

達

候次第案外之到

=

一有之、

源之助 内忍出

養 候 ケ

家 由 崎

=

居夜中

帰

宅

居

候節夜中帰宅し

候得 都

ハ門を〆置又

ハ大小 候仕

隠置候義等有之、

変障

持道具自

身

=

持参、

家内寝入居候

子共之非公

分を 人義

道之教諭

=

無之、

而

情合を取

失ひ

向

有之、

養家 付

岡

治兵衛

所

江

源

之助

相

越

候砌

其方竜

留主中

同

自

身二

持参夜中密

々

忍出

実家

引

込候

上

市

+

郎

申

振

IE

市 + 郎 死亡 付 親類 江 被 仰 渡 候 事

菅豆 原理

> 子 \$

とし

江 養 父 切 市 携 + 間 郎 敷由 存 生 I 厳被 中 教 論之由 申 付 又 = は 而 御 同 人竜 勘 定 ケ 人 崎 加 人勤 留 主中 任 之 家

付夜具等 養父之心 得 扱 振 鈴木 等 去月十 不心付謡 諷 取 理 噪 穏 四 又 寄合、 去 日之夜於江 候 1 小唄 次第 兼 を 被遂糺 而 諷 戸 御 定 其 刻限 方御 明 之処、 等 仕 = 長 背き夜更迄 候 屋 大酒 江 児 及沈 玉 一覚之丞、 酒 酔 興 御 制 乗 别 刻 過 所玄 L

1

8 唄 桃

打捨置 る及告達順 衛方な養家之親 候様思 無之不束之義 難計 T 候 ハ 有間敷 慮 由 ハ先以甚敷不都合ニ 心を可 幾 等 H 被 重二 凡 (懸) 数ケ 承届 類 致 而 8 公共江: 養家不 形 条 重 候 可 更二 為及欠合候 畳 申 = 申詫事二 不 至 取 立 無之、 実 家兄 扱之品 届 n 有之、 候 至 候を是又養父之心を安 松 而 極 数年之間 = 岡 而 H 1 ょ 静吉 養家之非 為夫 為申 巳ならす、 0 て家督被 方な為相 カン 聞 遂二 実家 分を拾 実 養父目 父松 江 1 市 引 達 召 候 N + 込 岡 放 次第、 î 通 郎 治 証 只

方 X 慰 被 兵

0

菅市石 十見 原郎組 智死源養亡 之 助

仰

付候

二朱十 被

出入司

義

助

門嫡子

猥成致方先以不都合成而已ならす、御小人目付罷越申断 節脇指をも不帯出会用捨を乞侯義等、 都而身分之覚語を失(悟)

天保二年六月

L

候致方不届至極ニよつて役被召放蟄居被

仰付候

二条十二 其方義於江戸表旧臘廿二日遠州様御出御酒被相出侯砌、

石 田 道 公 田 道 公 伯

慮仕居相達候趣相達 為召罷出御酒頂戴不敬不作法之義申上不調法ニ付、自分遠 .後忘脚如何様之不調法申上候哉不覚之由申出 ^(却) 御聴ニ御懇之御沙汰有之、 悉ク大酔

候処、 **倭上指上、其他音楽をそふし倭由ニ而不分之事を唄ひ余り** 最初御勝手座敷江被為入侯砌被相出侯茶碗物を以給

条

其節之次第前

甚敷及不敬候ニ付御次江引下ケ御膳所脇御廊下ゟ御大所之 同遠州様奥御対面所江被為入侯を伺へ亦々不図推参、 大酔之様子ニ付御次江引下ケ侯 先柄之無勘弁も身分之覚悟を失ひ重畳不届之到、 方江御小性共四五 人に而連立候処、 以由之処、 高声を揚 御 曹司 屹度可被 御前体御 様御 尚 8

仰付事ニ候得共酔中之所為ニよつて御用捨を以役被召放

閉門被 仰付旨 御意之事

候

大台五郎太義大塚善之進所ニ止宿 し居、 物取之ため右善之

大台甚右衛門家附役介叔父死亡 (厄)

果候事二相聞得、 進及母妹迄三人殺害し大小等盗取 強暴大悪之所行犯科重畳すとい 事露顕之期ニ臨ミ自殺相 へ共依死

亡無御構被 仰付候事 被

一瓶六郎左衛門妻

候上大小等持除候義既ニ指顕候上ハ、大罪を犯し候者ニ 其方儀先夫之子大台五郎太、 大塚善之進及家内三人迄殺害 候

なから其場ニ臨ミ後居侯を見兼侯由ニ而、 太儀先非を悔覚語を極竹村秀治を介錯ニ頼、(悟) 上之御裁許可受筈之処、 無其義可為自害旨諫 其方短刀を取 其身短刀を抜 言 L 五. 五. 郎

様取計 候由 とい 共 事重き義を始終隠密し置候次第不

至極ニよつて慎可罷在事

郎太咽江突立死亡為致候

他之恥を恐れ母子之情

難止

右

竹 村 秀

治

二十三

马

施

於其所磔

竹鋸二

而

挽之道中

於札之辻三日

晒

候節、 之上其罪難遁、 其方義大台五郎太儀物取之ため大塚善之進 其 方介錯を被頼 母とせ Ŧ. 諫 郎太其場ニ = 随 ひ先非を悔自 後 れ 居 害之覚 候をとせ義 殺 害し 語信 追 を H 露 短刀 極

X 顕

居

右之者始末も

なく御領

内

江

入

而已

ならす、

新

被召

n 五

同 郎

人を切

其手之上ゟ力を添本望を為遂候処、 を取 元大罪之義夫々 五. 郎 太咽江突立 上之御吟味不相請不叶義始終隠密 候由とい へ共手元弛ミ候 無余義義情 = 付、 = 候得 其 L 置 共根 方も

届

至極ニよつて慎可罷在事

野 養 治

行方不相知候

二付敵討申度奉存早

-速下野 而

守

江

暇

を

申

受 太郎

=

弥 而

其

小

11

其方共大塚善之進家内被及殺害侯次第不心 候を隣家として一円不心付居 佐 得之由 藤 源 とい 之 ^ 助 共

候義

ハ甚等閑之至不届 至極 ニニよ 0 て慎可 罷 在 事

数人之横死非常之大変ニ

右 は弘化弐年八月 件発 ス 大塚善之進苗跡被立 下 候

当座召仕幸部出生之由無宿 生之由無宿 郎

> し非常之犯科ニよつて右之通被行 なかか 5 同 人妻千代江 不 義申 懸 候 不被肯を 憤

廿朱 四 小針彦治郎 赤 敵

計

不

拙 ゟ欠落仕 針 者 四 郎 義白川本多下 右衛門臥 候、 其 節 居 -野守下中 候所江 ハ拙者義当番 富永弥 = 御 座候処、 太郎義忍入 居合不申 去 一々年 討 候 申 八月親 候

赤沼海 拙者を見当互ニ取 諸 方尋 道 廻り = 松島 而 彼弥太郎 江 罷 越仙台之方江 弟 五 郎 七と逢申 今日 罷 候 通 処、 候 処 右 宮城 両 人も 郡

合働申

候処、

右弥

太郎

拙

者

討

留

五

郎

前二白 富永八兵衛、 一付討· をハ家来片石孫兵衛、 川立 申 ·侯間其場江札 一除申 次男五 候故、 郎 七 を 右八兵衛并五 立 子喜兵衛討留申 = 置 御当 男 Ŧi. 匹 地 四 郎 江 郎 親 罷 越 候 何方二居合侯 子三人十 右 右 弥 両 ケ年 太郎 人 1 敵 親

方不 相 知 候 以上、

延宝三年五月

七日

小 針 彦 治 郎

御 家 老 衆 中

以 留 郡 飛 赤沼と申 同 札 日暮 致啓達候、 所ニ 二当地城下江 而 然 過ル七日富永弥太郎、 1 其 **電越敵討御座候由思慮書ニ而相** 元御家中小針彦治 同 Ŧi. 郎 郎 此方領内宮城 七と申 者討 出

候 間 委細 承 右彦治郎主從三人共二手負申候間医者相懸置 届申侯、 尤弥太郎五 郎七 両 人之死骸為見 届 其儘

勿論思慮書も 指進申侯条御受取可被成侯、 恐惶謹

言 申

留申候、

下野守殿へ被為聞為御褒美御

加増二百

石

宇佐

美

候、

Ŧi.

月八日

鈴 伊

木

新

兵

衛

様 様

年八月同家中小針四郎右衛門寝所江忍入四郎右衛門を殺

奥州白河城主本多下野守殿家来為永弥太郎

と申者、

延宝

元

害

藤左近右

衛門

指置申候、

井 仲 左 衛 門 Ш

崎平太左衛門

1 申 脇 而 江 一龍帰、 指 候 針彦治郎主従三人共二手負申侯、 月十六日二 は 赤沼為之丞 右彦治郎并家来孫兵衛子喜兵衛弐人同月廿三日本国 其後下 相果申 野守殿被召出委曲御尋被成候処、 ニ看病を受候故孫兵衛遺 候、 右孫兵衛指料大和作弐尺弐寸右 然二片石孫兵衛深手二 言 一而右脇 彦治郎申 指 孫

> 倉 上候 領石 国海 及石卷立除候間、 申候得共 相 尋 道相尋候処最上米沢会津秋田仙北津軽南部松前 ハ先江戸江罷登三月迄逗留仕江戸中色々心を配り ノ巻ニ而越年 京都大坂江罷登相尋候得共行方不 切見当り不申候故、 ·仕相尋候処、 過 ル二月始松島 弥太郎兄弟拙者着仕侯 三月廿日江戸を相立 江罷 越 相 相 尋 漸 知 候 五. 月 付、 一夫な鎌 七 仙 相 を承 台御 H 北 尋 討

判弐拾両被相贈候由、 御使者にハ御武頭板垣十兵衛被指越、 長光之御刀被下、 家来片石喜兵衛銀子三拾枚被下、 右彦治郎働前代未聞 御 医師千葉宗録 と申 仙 台 1

城郡 片石孫兵衛、 年之内不報讐ハ二度帰参仕間敷由披露して暇を 其夜当番二而 L 一行会、 て弥太郎其場る欠落無行衛、 赤沼大日向とい 世粹喜 城中ニ 1兵衛、 詰居取告しらす、 働彦治郎追而弥太郎を八ケ所切付左之 へる所ニ 両 而敵富永弥太郎 人を召連令廻国、 匹 郎 右 則下野守殿 衛門嫡子 取 延宝三 同 氏彦治 弟五 n 江 相達三 一年宮 郎七 家来 郎

言を通し相

喜兵衛二十九才 孫兵衛六十才 彦治郎三拾五才

同壱ケ所

同 四ヶ所 疵壱ケ所

腕を打落則引組討留る、

弥太郎弟五郎七八彦治郎下人喜兵 死

骸之上に此者富永弥太郎と申者ニ御座侯、 衛初太刀、同孫兵衛助合弐人して切殺す、 白川小針彦治郎 其後弥太郎か

父之敵たるニよりて討留候由書置致、

夫な仙台国

分町

江

来

京都御警衛文久三亥年分

米沢十五万石

松平紀伊守 上杉弾正大弼

羽織壱ツヽ、孫兵衛、 袖壱給壱単物壱帷子壱羽織壱彦治郎ニ被下、 飛脚を以申越侯処無相違侯、 新兵衛所江町奉行国井仲左衛門、 候品々告達し、仍之留置白川町奉行伊藤左近右衛門丼鈴木 喜兵衛ニ被下之、 仍御刀島 山崎平太左衛門方る品 [田助宗判金壱枚 木綿衣裳帷子 有り 1 X

> 国之節赤沼ニ 以上、

而 死 ス

四月る六月迄

七月台九月迄

(盛) 南:南:

部

守

松 TV.

> 備 美

> 前 濃

守

金沢百弐万石

賀

中

納

言

豊前中津拾万石

大膳

大

夫

十月ゟ十二月迄

濃州大垣十万石

女

IE.

二本松十万石 筑後柳川十一万石

左京

大

夫

飛

驒

守

以上、

鹿児島藩横山 正太郎 建

手負二付外料千葉宗録被相附孫兵衛帰(科)

方今一新之期四方著目之時、 府藩県共朝廷之大綱ニ依遵シ 白

弥太郎弟也

永五 四 郎

五 弥太郎三十九才 郎七三十三才

同三ケ所

同

四 一ケ所

逐 電

富

喜兵衛、

右孫兵衛、

ニ徳政ヲ敷クヘキニ豈料ン也、 旧幕之弊暗二新政二 遷

リ昨 日非卜 セシ モ今日却テ是トナスニ至ル、 細ニ其目ヲ挙

ノ大任ヲ始メ侈靡驕奢上 朝廷ヲ暗誘シ下 飢餓

第二大小官員ト ・モ外ニ ハ虚飾ヲ張リ、 内二 ハ利ヲ事 1 スル

ヲ不察ナリ、 第一輔相 テ云ンニ

第三朝令夕替万民狐疑ヲ抱キ方ニ迷フ、 畢竟牽合附会心ヲ

不少、

人心之帰不帰ニ不拘刻薄之処置ナリ、

第四

道中人馬賃銭

増シ上五分

ノ献金等総テ人情事実ヲ不

著実ニ不用故

ナリ、

第五直ヲ不尊シテ佞者ヲ尊、 廉耻上ニ不立故ニ軽薄之風ア

IJ

不尽職事ヲ賃取仕事ノヤウ心得ル者アリ、 第六為官求人ニ非スシテ為人求官故ニ、 毎局 己力任 ニニ心ヲ

起

スニハ名アリ義アリ、

殊ニ海外ニ対シー

度名義ヲ失スル

不振ヲ慨歎

第七酒食 ノ交リ勝テ義理之交リ薄

第八外国人江対シ約条ノ立方軽卒故物議沸騰ヲ生スル事多

キ廉直 第九黜渉之大典不立多クハ愛憎ヲ以テ進退ス、(陟ヵ) ノ者却テ私恨ヲ以テ冤罪 = 陥ルコ数度ナリ、 春 日某カ如 是岩倉

徳大寺 ノ意中 出 ル トキ ク

実有之度存候 第十上下交征利 而国危シ、 今日在 朝之君子公事正大之

可立故二不顧恐献微身歎訴仕候間 右 二其効ヲ不見、 ハ是迄建白仕 況ヤ至愚草莽 候者不少哉 ニ承リ候得共 ノ臣譬ヒ幾 何卒御洞察被下 万遍 日二衰敗

雖建言勿論

趣

丰

更

- 度奉歎

願 候 恐惶謹

庚午七月廿六日

但シ別紙ヲ添差上 申 候

横山工 正 太 郎

朝鮮征伐之儀草莽ノ間盛ニ主張 ノ余リ斯ク憤激論ヲ発スト見 バスル由、 畢竟 タリ、 皇国之委靡 雖 然兵

姑ク舎キ我国 ラス、兵法ニ己ヲ知リ ニ至テハ譬ヒ大勝利ヲ得ルトモ天下万世 ノ情実ヲ察スルニ、 彼ヲ知 ル ト云ファリ、 諸 民 ノ飢(渇 ノ誹謗ヲ免ル 今朝鮮 困力 窮 迫リ政 ノ事 ^ 力

令ハ瑣細枝葉而已シテ根本ハ今ニ不定、 何事モ名目虚飾い 以下ヲ小

1

ス

ル

1

藩分為之現米拾五万石以上を大トシ五万石已上ヲ中トシ

シ万一 慮リ此 姑ク蕭牗意外ノ変ヲハカルヘシ、 スル 所言 兵革ニ慣フト聞ク、然ラハ文禄 其土民ノ怨ヲ受ルコ多シ、 若我国勢充実盛大ナラハ区々 ノ徳化 ランヤ、 テ政令ヲ一ニシテ天下ニ示シ万民ヲ安堵セシムルニ在 ス、秀吉 ミニシテ実効 右至愚之見込ニ御座候得共添テ差上候 トハ是等輩ヲイフナルヘシ、今日之急務 ノ如キ朝鮮掌中ニ運ラサント欺己欺人国事ヲ以テ戯 蹉跌アラハ天下億兆ニ何ト云ン、 二不出、 ハ聊モ見得ス、 ノ威力ヲ以テスラ尚数年ノ力ヲ費ス、 ノ立所甚軽 只朝鮮 万民洵々トシテ隠ニ土崩兆シアリ、 ノ小国ト見侮リ妄リニ無名 薄、 且朝鮮近年屢外国ニ接戦シ ノ朝鮮豈能非礼ヲ我ニ加ンヤ、 新ト ノ時勢ト 豈朝鮮 П = 蝦夷 ハ同 ノ罪ヲ問フニ 唱 日 工 ノ開 ハ先綱紀ヲ建

> 大参事 知事 不過 弐人

7 興 ントモ

新

但 石

1

両相

場ヲ以雑税金現石高ニ結フヘキ事

藩庁

権大参事

拓サ ノ師

七 ル

有無其便宜ニ

従リ小藩

ハ之ヲ置

カス、

少参事 不 過 五. 人

権少参事

有無其便宜ニ

従リ小藩

ハ之ヲ置カス、

今佐多某輩

ノ論

=

アラ 頗

大属 権大属 小属 権小属 史生 以上掌見職員令

以上分課専務スル所ア ルヘシ、

譬

へハ民政会計軍

刑法学

暇ア

IJ

校掛リ 類 ノ如シ、

ル事

右大中

小藩ニ従テ官員多寡アルヘシ、

先藩々ノ適宜

二三任 ス

藩 堂

使部

高

藩 ヘハ現米拾万石内十分一

石高実数ヲ以称スヘキ事

残九万石内五分一 壱万石知事家録、(禄)

残七万弐千石 壱万八千石海陸軍費、

公廨諸費士族卒家録、(禄)

官録藩々之適宜ニ任スヘキ事

功有ル録ヲ増シ罪有ル死ニ処スヘキ等ハ朝裁ヲ請フヘシ、

時之賞幷流以下之刑ハ収録シ毎年五月可差出事

士卒二等之外別ニ級アルヘカラサル事

正権大参事ノ中壱人在京集議院開院之節即議員タリ、

代ハ藩ノ便宜ニ因ルヘキ事

但、 公議人名目ヲ廃止之事

公用人ノ称呼ヲ廃止、 大属等ヨリ用弁ヲ為サシムル事 其事務 ノ大小ニョリ或ハ参事或ハ

国家重大之事件ニ因リ朝集 ハ此限ニ非ス、 知事朝集三年壱度年々四季ニ分ケ滞京三ケ月ヲ期トス、

歳入歳出明細書ヲ以翌年五月限リ可差出事 従前藩債ハ一藩ノ石高ニ関スル事ニ付十分一其家禄ヲ以

償と其余ハ公解ヨリ可出事、

従前私造之紙幣往幾年ヲ以テ引替済シ、

目的ヲ定メーケ

年毎ニ引替高明細書可差出事、

家人職員

家令一員 家扶人員適宜ニ任ス、

家従同 家丁同、

右之通指出申候也、

六月二日

林 嘉

善

_ 仙台藩触留

交

御条目之事

忠孝を専にし儀理を守礼儀を正し学問を励武芸を可嗜事に

応分限良従令扶助之并弓鉄炮鑓甲冑馬皆具可嗜之、 諸侍男女共ニ行儀を正くし風俗猥ニ無之様可相嗜事、

軍役之節は百石以上馬上役たるへし、 之外不入道具を好私之奢り致へ からす事 常々於国元は百五

十石以上馬上役たるへき事

2

結徒党或成誓約落書張文博奕好色ふけり、 諸事内証之奢を省不困窮様心懸奉公可 相 勤事 惣而侍に不似

喧嘩 かるへき事 口 論堅可慎之、 不依何事令荷担者其咎本人よりおも

合業仕へからさる事

於城中万一喧嘩口論有之節は同間之者可取扱之、 猥に他

番人無之席は其所之近キ輩可計之、 〈所之近キ輩可計之、令由断は可為越語同間之者人少之節は他間之者可相: 断は可為越度事、

間之者不寄集、

奉行頭人其外以下之役人迄其役之勤方不怠無滯相弁、

様可心 之は無遠慮其意趣可申聞之、事 欲ケ間鋪儀は勿論依怙贔屓不可仕、 上掛、 尤奉行頭人其支配頭等申付儀候共、 雖然上を軽し私意ヲ以申募 其役々二付下々不痛 存寄於在

軽キ 諸 役人迄音物堅不可受用 之ましき事、

ア 解縁組之儀ハ召出以上之族諸役人近習小性組は私ニ不可 になることではなるではないではないないではない。 き事

結婚 而 他 所る結縁辺義令制禁之、 姻 縦雖為大番組三百石以上之は頼ヲ以可申 無拠子細あらば奉行所達可 合

惣

一件の不及申軽キ扶持人たりと言共、 計 請指図事、

他領江

参候節奉行支 并 在 国府

役人仙台之外江参候節は右門 同 断之事 配頭等之不請指図して相越事一切停止

たり、

本主之障有之者不可召抱、 附 領分之男女他領江相出侯儀如先規令制禁之事 若其子細を不存抱候共其本主

ゟ其告あらば達奉行所可請指図

於国許乗輿之事免許之輩之外輿不可乗之、

儒医師諸

出家

計之、

は制外之事

私

衣裳之品誰々によらす拝領物之外羽二重以下之小 袖 可 著

屋作之営并音信贈答嫁娶之規式応分限可用

倹約

但一門中弁三千石以上之族は制外之事

振舞之事二汁三菜酒三献祝儀之節といふ共不可過之、 外人之会合いたりとも御旗元歴 女衆 ヘハ二汁五菜たるへ

但

養子之儀同性相応之者を撰ひ、 勿論木具台之物金銀薄之類堅停止之事 若無之におゐて 由緒シ

急病に而末期に及養子願候共、 正し存生之内可 申 五拾歳以下十 七歳以上

は

性他 性之親 類 ハ勿論他 人 に 而 \$ 可許 容事、

候、 五拾歲以上之者兼而養子不致病気付養子願候者相立間

敷

は致連判願可申上事 願 書 死後二候共存生之内令判形、 親類共 無別条存

拾 跡目 以相続可申付事 七 歳以下之者跡目、 弟在之は可相立之、 | 一之、同性近キ親類おゐてハ減少ヲ
指護従弟ニ迄ハ吟味之上 に
指護従弟ニとれら味之上 に

拾七 る跡 目相続可 歳以上之子は目見可為仕、致 申付事 若目見不致と言共其品に

隠居之後家督之者父に先立令死去、其子無之者 無相違隠居之父ニ可返与之事、 ハ本進 退

父之姉妹方母方共ニ同性之伯父又伯父又々伯父他性之伯 他性之孫他性之甥姉 無相違可 申付之、 *妹 之子 其外同之 他性指渡 で性親 ~二類 之之 ≥廻ハ 従弟 ≥従先

> 進退減少之事知行三貫文切米壱両扶持方四人分以下之者 ~付 実父方之続 1 相 立 間 敷

右之条々今度定之訖堅可相守者也、(朱) 不及減少事

御朱印」

宝永元年六月 七

中 村 日 白 殿

津 民 殿

富 田 壱 岐 殿

遠 Ш 帯 刀 殿

施 和 泉 殿

布

覚

御 門衆幷三千石以上之者 ___ 門中始諸侍衣裳之儀、 八何 今度御条目被 = 而 8 ף勝手次第著記(着) 仰 可仕 出 候 通 御

江戸詰之時ハ御小性組以上之者ハ巻物之類をも勝手次第 三千石以下之者ハ拝領物之外羽二重以下之小袖 可著之事

惣而 羽織袴等は羽二 重以上之物二而 も勝手 = は 御 国

著仕不苦候

で可に申

懸心事、

以上、 右之通被□ 而も著之候而も不苦候事、 仰出候間面 々も其心得支配中江も可被申渡侯、

同年六月七日

御定

御家中押並而 卷五筋如御定急度下々迄相調可申候、 前立物金之半月太刀之鞘黒色赤キ五分筋左 太刀かたなのさや

しゆさやニ仕候而も不苦候

鑓印之儀短冊

弐枚上

二

而中ヲ閉付太刀折

江附可申候、 んにて横九分長五寸七分半之短冊ニ可仕候、 是又御

家中押並 而下々迄可相調候

武具拵結構ニ有之儀以之外被 在之候得は成程麁惣仕路金支度可仕候、 思召侯、武具御定之数さ 只今迄は路金

上
る被下候事と存候様被及 可在之候得共上々な被下候御格ニハ無御座候事、 御聞候、 時ニ寄左様之儀

武具手際悪キ分ハ不苦候、 罷成分は他国ニ而不申付様 可

> 下 梨地之諸道具豹尾獺尾之革之類新規不可申付、 は熊毛□障羅紗之諸道具用申間敷候事、 御定不被 壱万石以 仰

出前猥りニ武具不可申付事、

右之趣被

仰出候間御下中.(家)

延宝五年三月十 日

押並而可存其旨者

大

条

監

物

小 梁 JII 修 理

柴 田 中 務

右金之半月弁大小之鞘御本は御兵具奉行衆手前被指置 侯間

右武具可被成分は上方を不好

御国元ニ而拵、 見苦敷分ハ不苦候而猥り費無之様ニと右之

勝手次第段々承合可被申候、

す

通被

仰出候者也、

御役人列之事

御 家衆 門衆

御

准御一家衆

御奉行衆 御 族衆

- 1	一卸町奉行	一御納戸奉行	一御城番	一御近習御鉄炮組頭	一脇番頭	一御徒小性組頭	一御鑓奉行	一御留主番頭	一御申次	一御小性組番頭	一出入司	一御兵具奉行は兼役故列無之事、	一江戸番頭	一大番頭	一御旗奉行	一若年寄衆	一御宿老衆
一方者從怪主居	一京耶即留主号	一御作事奉行	一御割奉行	一御勘定奉行	一御留主番与頭	一御武頭	一御小性与頭	一江戸番組与頭	一御医師格	一御目付	一御近習	一御郡司	一公儀使	一御旗元足軽頭	一御名懸組頭	一御給主組頭	一御不断組頭

からす、

御屋形幷御供先下馬腰懸門外等も一入つゝし

御金奉行 御二丸御留主居

山林奉行

津奉行

御祐 筆頭

相去御足軽

頭

御記 記録頭

評定所役

定

公儀之儀は勿論

ヲ入相守之、 諸侍 ハ不及申下々迄礼義を正し猥成風俗仕 御自分之儀共兼而被 仰付置候趣念

申付之、 ミ、喧嘩口論惣而不慮之儀仕出へからす、下々ニも堅可 勿論御屋敷之内ニ而御大名方ハ不及申、 御旗元

衆御通り之節参り候ハヽ遠近によらすつくば 御 屋敷之内も侍白衣衣体羽織なしにあるき申間敷 VI 可申 事

見成共不仕様堅可申付事、

御成之節窓ヲふさき候儀は公儀ゟ被

仰出

下々すき

御城廻り為見物諸侍ハを始下 々迄罷出 間 敷

所々見物又は用事等有之頭々江申達相定候御丁場之外ニ ハヽ手形ヲ以罷出へし、 且又面々内之者用事在之被出

諸役人丼軽キ侍共迄傾城町其外茶屋遊女之類在之所江 ハ勿論、 於他所言外成見物事惣而遊山ケ敷儀相慎可(間脱カ) 申

先々滞留不仕様ニ申付昼夜人をちらし申間敷事、

候時、

何方ニ而も町之者才覚を以慰事仕義無用たる 且又御当地町 方江振舞夜咄等ニも罷出間 敷候、 Ļ 訖 勿論 度

相慎可申 事

火之用心油断仕へからす下々迄堅申付へし、 儀 ハ別而御定書之趣相守 へき事 出火之節之

笠博奕之類不仕候様ニ下々迄堅可申(附脱カ) 博奕惣而賭之諸勝負并近年別

公儀

る被

仰出

物数寄をい たし道具を好無益之費致 付事、 へから す 衣類刀脇

指印籠巾着之類其外惣而目立様仕間敷事

料理之儀ハー汁三菜以下を用へし、 但外人会合といふ共

事

用

き事

御 旗元歴々之衆江は二汁五菜、 其外は一 汁五菜或は三を

江

諸役人ハ不及申其外之者迄長屋人江寄合夜更迄令長座酒 盛等ニ而取乱し候儀は 切無之様慎へし、 尤自分之寄合

DU 時を限るへき事

附 者有之ハ可為不届 下々迄大酒不仕候様能々申付へし、 若酔倒候様成

屋 小歌三味線惣而不行義仕へからす、 窓ゟ鏡を出し或は窓ゟ見得候様はたぬき候様之義不仕候 を キ御長や又は指立候御客等有之時分遠慮仕へし、 通候見 に候共下座鋪ニ而は不苦候、 せ物 ハ不及申、 窓江人を招寄商売物ヲ呼留 但御上屋敷は大手御門近 謡鼓太鼓笛は表御長 且又表 或は

様下々迄稠敷可申 一付事

御長屋麁抹致 義も申達此 承合へし、 方江伺得指図可申付之、 且又自分勝手向を替候様之義 からす、 受取渡其外始末之義 自分住居勝手直 1 頭々江 ハ御作 候様 少之 事 方

図仕

からす候、

宿守新規二指置候

ハ、宿守指引之役人

事

之義堅仕間

鋪

候

頭

共江

相

達承届候共此

方江

伺

なしに指

る様に可申付之、 た等相定はきため之外江捨 承合始末仕差置 てし、 面々御長屋前掃除寄麗に致しちりあく 尤御長屋前 へからす、 江宿守商売物 勿論灰を捨候 出さく 時は

有之候ハヽ主人迄可為越度事

とくと水ヲかけ火をしめし捨之へ

L

若不濡灰を捨

之者人数相改、 附 内之者人数増減有之節は其時々早速支配頭江達之 御徒目付改証文を以御扶持方受取 可 申事 江戸詰之者上着之砌支配頭より御徒目付江指出しを以内

召抱 召仕之者抱候 し、若増減有之を断延引之族於在之は可為越 へからす、 ハ、能々遂吟味、 尤眼相 出候者御国元江指下候 本主之障り有之は猥 ハ 度事、 り成

様致首尾可相下之事

附 翔込者主人之障り在之者尤悪事致候者隠置 候

口 為重罪

下々衣類番頭格以上は小性以上、 様之者ハ絹紬着之、 ハ木綿為着 へし、 御一 三千石以上歴々之召仕も徒之者な以 門衆并万石以上之輩 其外は一僕者も召連侯 ハ御制外之

被相通事

2

惣而 悪事之巧少も承候 ハハ ひそかに御目付御徒目 付等

> 12 カン

但、

公儀使ハ徒之者

ニも絹紬為着

不苦候事

御 江 褒美其品ニ応し被下之、 申 聞 し、 穿鑿之上縦同 あたをなさゝる様被 類たりと言共其咎をゆる 仰付

に出 之へし、 ル 輩 且又欠落者居所存知訴 あらば可為同 然之間兼而出入之者抔ニハ申聞置 人出 「ル輩 も可 為同 然事

面

「々内之者等ハ不及申、

他所之者たりとい

ふ共訴

事 記

他所之者一 附、 召仕に候ハ、其主人ゟも其品応シ褒美可遣之事 夜成共留置へからす、 若難黙止品有之者ハ此

方江申聞指図を請 へし、 下 々之義 ハ御 目付 江 相 伺 L

尤夜ニ入候迄留置 入致さセ候儀 相 御用私用共に品々御 返候 か又は夜中あなたゟ罷 武頭 江中 越御 達 御 門可 門出

尤惣而女御門

相

出時

御

武頭手形を以通へし、

女中幷下女等は奥年寄手形を以通す

へき事

附 出 惣而 家 御国之者ニ而も我等共江申 不 時参候者一 夜成共指置節は御国之者たり 聞指図を受留置

夜中御 手形を以通へし、 と言共御目 門出 入之義手形等不及格之輩 付可· 申 支配頭不居合節指当も在之は御目付 断 事 ハ各別、 其外

は

相

定

六より明六時迄出入候分、 置 及へからす、 御 しら 武頭 江 申達手形を以出 月切此 惣而夜更迄御門自分之出入慎之へ 方江申 聞 御用私用共二於御門番所 入致 候様申渡置 L 尤出火之節 候間 其心得 ハ合判 可 帳 仕 暮

させ出 共手 手 頭不居合時 附、 形調候儀成かたき急成時 形ヲ以 歩行不叶 入へ 通 は御目付御 病人駕籠に而御門出入ハ昼夜限らす我等 但女は常々 L 急病 武頭 人二 駕 は御門番 江 申 籠 候 達 = 而 手 支配 御 御足軽江 形 門出入不 アヲ以通 頭 手 申 形か支配 断 L 見届 若

らす、 御国許江之道中往還無是非急用 御目付江 且又早翔惣 相 達得指図乗可申 而 御免之外駕籠 は各 = 乗 別 五月ゟ早ク急 からす、 病 カン

者也、 右之条々其身勿論下々迄堅可相守之、 於令違背は可為曲

右之通被 仰出 [候間御参勤之節丼正月と両度相 触可 被 申 候

以上、

其間罷登候者ハ各罷出見届令判形候様に兼而首尾可被申

候

享保十年九月

要

主 計

石 見

御上屋敷之寄場触候共、 者長屋へ上り火を防へし、

依時宜其御屋敷扣居御目付可得 御屋敷近所之御屋敷居候者

向

日

御

目 付 中

いつれ

の御屋敷にて

其

所々御 御屋敷居候者共早速走集消留へし、 可申 屋敷之内之出火ニ候ハ、見当り候者ハ不及申、 付事、

も風上之急火ニ而御屋敷危ク見江侯 ハノ、

其御

屋敷中之

刑 部

指図 事

御近所出火ニ而御屋敷江も火懸リ候体之節、 火ヲ防

付方ニ而用捨可仕事、

存寄候

ハ、誰々によらす無遠慮御目付江申聞へし、

御目 へき

火消附之者頭々之下知は不及申、 其役司之指図背へから 火事場見物として主人は不及申下々迄堅罷越間敷事、

さる事、

出火節之儀従

公儀被

仰出候趣訖度相守へし、

召仕

定

出火之節御定触

等迄堅可申付事、

御旗元御供之面 一手頭たりと言共御目付可任差図 々は兼而被定置候通行列を乱すへからさ

る事、

兼而召

櫓番之者弥心ヲ付兼而被定置候通り相守候様訖度 勿論 御 旗 元御供は不及申被定置候火消之手寄場 手頭附之輩は一手頭断候上立場ニ可扣 江可以 居 相詩

敷に而は御目付御武頭御徒目付之内江申聞へし、 よらす見付候者櫓番江早速告しらすへし、櫓番無之御屋

御屋敷近所ニて火事出候ハ、辻番之者ハ不及申、

誰

H

K

仕之者ニも可申付置事、

附、

得事

事 附 立場を乱シ通り之さまたけニ不成様下々迄可申付

手附之輩 ハー 手 頭 江 兼而申合置得差図勤 し、 勿論 病

気指支等在之節 い其時を 々可 申 断

令指図条御人数出 手頭之御人数火事場被遣候時分ハ御近習目付御目付可 L 火事場ニ而之義 ハ依時宜 可勤事、

火消之輩火元江罷越候砌、

公儀御火消衆御旗元衆抔此方

とか 候、 御火消之中割御通り、 め候而は 且又脇々使者等人馬混乱之節ニ 往還之障り等に成候、 縦理不尽之仕形在之共聊構申間? 而不作法之義候 公儀御火消御用之 共 敷

妨ニも成候而 は不可然候条、 如何樣之義在之候共構不申

様召仕等ニも 兼 而 可申 付 事

出火之節取込候と言共、 之様下々迄堅可 申 一付事、 VI カン 0 かましき理不尽之仕形無

於火事場喧硴 候共堪忍仕 L 口論 若其通 堅仕 間 敷候、 ニハ難 縦傍輩中不礼之仕形有之 成品在之おゐ ては 申 断 置

後日沙汰仕 他所之衆江対し候而も此趣を可被相心

> たる物 年木人足又者等於火事場濫妨狼籍(季力) も盗取おゐては穿鑿之上急度可被 ハ軽キ物ニ而も不拾取様召仕等ニ堅可 ハ不及申、 仰付之、 申 且又途 少之物ニて 付置

支配頭ゟ御目付 へ申断 代りを附 へき事

出火之節難出体之病気に候

ハヽ前

廉御目付江

申

断

火消御

用に加り候者

ハ御用引御役替番代り

御

暇等之節は

押候而も 可 勤程に成候 、是又早速可 申 断

寄場触候節品なく立 湯江 不相詰者有之におゐては

上急度可被仰付事

出火之節諸役所ハ不及申 面 々御長屋之火之元部

屋

× 々迄

入無油断用心可仕

附、 御近所之火事ニ 候 ハ 早速御長屋之窓ヲふさき火

之元水にてしめ L 可 申 事

御道具取舞之役人は兼

面

々請

取

之御

蔵

而心ヲ付、

破

損等も候ハ、早速御作事方江申達 し、 且又常々御用

事時節 ハー入念を入心懸へ

候御道具之外不時

二御用立候物

ハ御蔵に入置へし、

き事

御留主火消 幷御蔵〆役等勤方之儀、 万一 御屋敷火懸り候

御家中

押

並

御使番 之事、

相定鑓印江紅白之短尺可附之、

挑灯印

ハ御紋小引

両ちら

しに可附之事

共御留主居指図無之間は立限(退) 而下 々人足体迄革衣法破江白半襟無相違可附(被) からさる事、 附、 屋根ゟおろし候ニは拍子木打可申候、 下り候者

立場ニ揃居可申事

火しめり 御人数為引候 ニも拍子木為打候

> 御 屋

> 敷

1

之外にても同前之事、

正月と両度相触、 右之通訖度相守候様ニ御屋 其間罷登候者 敷御定触 各江罷

同

并

出 =

見届令判形候様 御参勤之節

兼而 首尾可被申候、 以上、

出火之節御先手御旗元并御立除方諸高挑灯印

袖印は、 付事、

御

行列帳見届其役々にて定置候通り無相違可申

出火之節は相定鑓印可附之事、

九月

刑

主 要

計 人

部

石 見

向

日

御 目 付 中

御 牛車大八車之儀に付

御定触

罷

4 成様前々 頃又候猥ニ相成往来之人をもよけ不申我儘に引通候付、 車大八車 8 度々 地車并荷附馬等引 相 触 就中去ル寅 通之義、 ノ年急度相 往来之障 触候所 りに不 近キ

待差図事、

寄場は板を二つ充続て打御長屋人へ為相触候事、 屋形中は坊主相触候事

早

駆は鉦

を打何方と呼可申事、

三御屋敷中御長や之前ヲ

鉦

打通可申

附、

三御屋敷之出火は

VI 0

れの御屋敷と可相触

事、

御

屋 形坊主.

相触候事

出火は板を一ツ充間を置

打候事、

出

山火之節相図(合)

御 人数屋根 江 上り

候二

は鉦ヲ打可申候、

急火之節ハ不可

極ニ 果候、 節同 右衛門 付二兵衛は死罪清六は遠島被 町 畢竟先年ゟ度々触書之趣忘布致候故ニ(却) (知) .店清六と申者両 兵衛悴 新八と申十 から車を引牛込 仰付候、 引 払 自今車 一而旁不 カン 方町 け新 通り之 引馬 庙 八相 至

頃日

8

神田佐久間町壱丁め久次郎店仁兵衛神田

相生

町

伝

付候、 共其主人并家主五 我等於有之は当人共は重き御仕置被 士 等此趣を急度相守可申 雇 U 候者にても念を入候様 人組名主迄それ 候、 此以後往来之者江我儘 二弥 < 可申付 仰付、 ニ御谷メ可被 候、 人之召仕侯 麁末之 致怪 仰

右之通 委細 江 も弥急度可被申 可被 町 中 相 触者 江 相 触候 也 様町 奉行 申 ·渡侯間、 面

々家来下々

-付置

儀も候

ハ、可為越度候、

此段町中地借り店借り召仕等迄

九月

右之通 可被 相 触候

勤節 右之通 并 候処、 不時登之者江は其時々相触候筈ニ 大目付衆より 此以後被登侯者為承知之兼而御 御 廻状到来之段公儀使申 候間、 長 聞 夫と一 屋 候 に付入 同 御

> 候間、 触、 別条二此度被 其 為 向後御 = 罷 輩 屋 敷御定 江 仰付候品々は書立無落相 8 各 江 触 罷 同 出 前 見 届令判形候樣兼 御参勤之節 通 幷正 可 申 一月と両 而 由 首尾 被 度相 印 仰

申 候、 以上、

享保十三年十 月十

四

H

御

目

付

中

源 大太 夫

被

出

江 声 他国に 而内之者暇相出 候義に付 御

在番中ニ 為取被下 人在番中は召仕 分勝手之仕形在之段相聞不届 連候者共、 江 X 戸 n 他 仕不埒無之様首尾仕 玉 而 候節 -季明 も暇 相詰 ハ於御 候 相 置居続之日数ヲ以御定之通は給金割 候者内之者、 出 人は主人在番中 候義は可為勝手次第候条、 玉 元暇 暇 可 可 成 御 相 相 出 ル 玉 」候、 出候、 ニーも 義 許 にて壱季半 雖然主 候、 強 若違背之者於在 而 縦 V 季明 人相対 とまを 先々之義 -季召 候 費 を以 ラ以 抱召 共 主 自

右之通 之は 御目 宝 永五年 付 一可 二月 申 相 出 触 事 候 所 当 時 は不存候輩多候間

12 参

敷触相

通

候節

同

相

触可被申

候

以上、

御

屋

月十一 Ŧi. 日 刑 要 人 屋形様 延宝八年庚申六月廿八日御 生

部 姫君様 御子様方

石 見 英姫様 宝永二年乙酉二月六日御出生

同三年

丙戌三月

日 向 十四日卒

御参勤之節并正月と両度相触可申由御奉行衆 千五郎様 和姫様 宝永三年丙戌四月十一日御誕生 宝永六年丁丑七月六日御出生

右之通

御

目

付

中

被仰渡侯間、

御承知被成御支配中

へも不残可被相通!

触候、以上、

子ノ正月十八日

松

前

殿

鈴 武

木 市

権 善

九

郎

権 采

几 女

郎

伊

藤安

衛門

殿

林 村

> + 右

蔵 覚

殿

大 西 大条

町

出

殿 殿

田 若

左

殿

候、 御 十二月廿六日卒

支配之内其間罷登候は私共方へ罷出致判形候様無落可被相 兵 衛 富姫様 御出生 菊次郎様 宝永七年庚寅八月廿六日御誕 後号武三郎様ト

正徳元年辛卯十一

月廿

五月

生

享保七年

正徳三年癸巳五月十八日卒

橘姫様 正徳二年壬辰正月八日御出生 同五年乙未二月

十五日卒

敏姫様 正徳三年癸巳四月九日御 誕 生 同 四年甲午六月

+ 日卒

益之助様 正徳五年乙未二月二日御出生

御鑑様 勝千代君 享保八年癸卯二月廿二日御出 享保三年六月廿七日 御 出 生 生

御当代

仰付其

E

於

御座之間

御目見被

仰上

御手自御

百

元禄八年御 養君被為成御年拾五

宝永元年五月廿一 同 拾 五年 应 月廿六日御婚礼 日 **一御入国**

同 三年七月四 H 大御所様 御

同 弐年被任中将

正

|徳元年冬ゟ日光御普請

享保三年六月 曹 様御

誕

生

同 六年御上屋鋪御作事 成就

同年十二月江

戸

御

E

屋

敷

御 類

焼

敷木挽

同

九年正月晦

日

御

Ė

屋

町

御

屋敷

御

類焼

同 十六年 四 月十五 百御上 屋敷御 本 屋敷御 類

同 同 年十一月廿三日 十六年九月九日 御曹司様御元服御官位被任従四 御曹司様始而 玉 節句御 登 城 位

同 年十一 -侍従御 月廿八日 字御拝領越前守宗村公卜 御曹司様月次始 奉 而 御 登

享保廿年御上屋敷御作事 年 四月廿七 日利根姫君様 成就 御 御曹 様 御 縁

> 実娘有之輩養子之儀左之通 仰出

銘々御熨斗御頂戴御退出被遊侯

者又ハ他人ヲ実娘ニ取合聟養子之願は難御取 同性二廻り之従弟又ハ他姓指渡之従弟ヲ指置、 Ŀ 一候事、 遠キ続之

同性二廻り之従弟又ハ佗姓指渡之従弟無之者は、 兼而養

右之親類ニも娘年頃相応之者無之侯 ハ、佗人にて 8 娘

子二可申達親類之内二而始二取合智養子二願可

申

Ŀ

候

取合聟養子ニ仕度と願候者ハ可被 仰付候事

右之通被 仰出 候間、 各其心得可有之ハ勿論組中於能 H

以上、

五月十五

ニハ無之候間、

支配

頭中

ハ其心得申候様

二首尾可被申侯

右之被 仰

出 ハ正徳弐年 九月 七日於 御城主水殿より 借 用

大

町

監

物

「○享保八年四月被 (朱)

城

仰出候日切すへに記此合紋之所可見

合事、 尤朱書 也、」

組

被

何も拝借 願 御参勤御供之者 ハ 正 万晦 日切、 冬番之者

右之通: 可被申候、 御参勤之時 御下向之節 年始 諸願 禄 回 十五年 七月十 相 宝永元年十二月五日 相出 被 前年 ハ前々之通 諸 願之格 口 以上、 仰出 候事、 日切、 申 ハ極 十二月七日被相 分ハ三月十五日切ニ 候、 候間 月十 御着城之翌日 正月十一 常体之者拝借御用捨等之願 右之通違背之者 向後其心得仕候様ニ兼而之通無残相触 日切二相出候処二、 日ゟ可相 触候也 6 願等可申上 相 出 出候事 曲事二可 可申 向後ハ 候 一候事、 民 被 日 壱 和 ハ九月晦日切 極月廿日切 仰付· 岐 向 泉 由 元 御番 父母大切之煩之節御 当番之衆昼詰 前髮取候儀被 上御 等共 御番 事、 附、 方へ 衆御日帳

可被召上候

衆諸事願之儀御帳役中吟味之上脇番頭

ハ脇番頭方ゟ可申

一聞候、

勿論急之義

ハ可為各

别

江指

之、

我

學奉行衆 へも可 相達候事、

每年二月晦日切十

煩等之一

紙我等共見届

候

御番代之義元禄三 一年被 仰出候趣を以願可申出吟味之上

可及披露事 仰出候趣を以二十 -歳ゟ願

可申

出

候

其内

候共依器量吟味之上及披露可申 渡

前髮有之衆六十歳以上之衆被 仰出候通夜番御 免之事、

割限以後令登 城 ハ御帳面 二二可 相附事

1 几

一ツ時前

八ツ出

1 七

ツ

前

可

罷

出

候、

右

余代之義ハ同間之内申合置代不罷出内は下宿 申

間

敷候、 併難去品有之候 ハ 仲間 中合可以 相 勤

申者無之無是非義にて御暇於申上ハ、 妻子兄弟大切之病気ニ而至而少進成者、 暇 願出 申 上は可被下之、 品々吟味之上御 其身合外看 并祖父祖母 病 暇

御国御番衆病気にて御番引続弐度勤仕不致候ハト長病役

37

2

元禄十年八月日

大河 内 源 太夫

披露候

可被下候、 尤御 帳 面 三御 眼 と可記之事、

当番之砌御 番明 候時 分大番 頭 罷 出 司相

渡置 面 K 其心懸可仕 候事、

御供割馬上衆相

達通遠近之御

供前ヲ当番

中一

日

切

一年度申

野

主

藤

幡 家

杢 織

助

部

切支丹宗門御改之義、

每年四月中銘々証文大番頭

持

相 I納可申 事

御帳役之義進退不寄多少馬上ニ候共依 人体可

被

仰付候、

御帳役候共御役目可被 仰付事

附

前々之通

神文を以御用相

勤

可

申

御座敷奉行四 間 る可被 仰付事、

御 御給仕人相入候節 進物 番 人体次第四 ハ馬 間 上ニ候共 6 可被 可 仰付事 被

仰付事、

御門合判脇番 頭衆も可 相 出 事

御 番 組 死去之節我等共 方へ可 申 聞 事

御 番始 請取渡之義如前之朝五 " 時受取 被可仕

今以後可相守此旨者也 右之通我等共吟味之上御 奉行衆 相達今度被相極 候条、

自

右 1 御城 御番所御 帳役部 や張紙

> 天 鮎 大 中 石 只 佐 木 Ш

童

路 衛

貝 立 島 母

太

郎 淡

兵

目 右 田

隼 衛 織

人

門

部 計 杢

也

用 子 相済候 々ニ而気乱候 ハ 跡 目 ハ、早速可申上候、 可 被 仰付 个候、 子共無之候 実子実孫又ハ 以御 前方養 減

少其身一 代可被下置 候事、

附

有之候 子共無之候共兄弟伯父甥其外同姓之近キ親類なと ハハ、 以御減少苗跡可 被 仰付候

乱心外向 江 出 以御減少跡目可被 走候 か難 為宿所、 仰付候、 佗人之存候様成訳 実子養子共 而 無 及

ハ妻子内之者なとに疵付候共右同然之事 ハ、以御減少其身一代可被下置事、其身疵付候共或

自害自縊等にて相果候 跡目可被 仰付候事 ハハ、 子共有之おゐてハ以御減 小

佗人ニさハり申候ハト夫々ニ御仕置可被 妻子又ハ内之者なと及殺害候ハト進退可被召上候事

右之通致承知、 吟味候事 あやうき様子も候ハ、早速可申立之、

外か

仰付候条不及

ニも可罷成候哉なとゝ身構いたし、さもなき義申立候 御耳ニも立候 ハ、親類等可為曲事候、 雖然病気ニ而乱心 ハハ

可為有義候、 将又乱心不仕様子之者ヲ隠シ置養子之願取組

又ハ乱心以後之事ヲ申立侯ハヽ親類迄屹度可被 仰付候、

元禄十二年二月

以上、

大番頭指支候砌 脇 番頭各御用相勤被申候節諸願等 へ宛書之

義先達品々被相達候、 江戸ニ相詰侯同役へも吟味之上左ニ

書記候事

支候時ハ、其時々当番か加番之大番頭充書ニ而相出 之大番頭添書を以可被指出候、 勤候、 等且又佗所御使者等ニ大番頭被罷越候節も其大番頭充書 別紙之通元禄十年ニ伺相済同十五年ニ申渡候処ニ心得違 二而脇番頭請取、 只今迄之通江戸へ為相登其大番頭末書可有之候、 = 而中絶ニ成侯義と存侯、 大番頭江戸当番なとにて相詰被申節不急願之分ハ 其時々当番之大番頭 向後 大番頭何か障有之宛書指 ハ此御定之通屹度可被相 相出当番か加番 急之願 添書

大番頭指支候時ハ御番方之御用只今迄之通 被申候事、 を以可被指出 以上、 候 事 施 番 頭

相

勤

可

九月廿七日

大番 頭衆中

脇番

頭衆中

津 田 民 部

大 町 監

物

二男三男出家仕侯義頭々へ可申出 一男三男等家中 へ養子ニ遣候節支配頭迄可申 事 出候事、

向後一

右

誰

可申 事

御仕置被 此方へ可被申聞 仰付候者之子共出家仕候義勿論支配頭江相達

正徳元年三月十八日

得同役并支配有之輩は可被相 右之通先年ゟ相添候得共其節不

通候、 相

以上、

触候二付如斯

候

各其心

布 施

和

泉

中 島 刑 部

鮎 大 貝 町 兵 監 物 庫

所嫡子 可申 何之誰義当年 様無御座候間隠居被 同 氏誰当年 何拾歲二罷成候所、 何 歳 = 一罷成候 仰付、 二被下置 跡式御知行高何貫文之 老衰仕翔走御奉公相 候様二 奉 願 候

憐愍如願之被成下度親類以連判奉願侯、 義 何 年 -何月何 日始 而 之 御 目見被 以上、 仰付候、

願主何之誰 重判

親類

何之誰

重判

誰殿御番頭充所名字なし、

子共養子ニ侯 誰何男智養子二被成下度由奉願候処、 成候二被下置候様二奉願候、 ハ 跡式何ほと之所壻養子 誰義男子持不申 何年 同 氏誰 何月如願之被 候に付誰 何 歳に罷 組

御憐愍如願之被成下度奉存親類以連判奉願侯、 仰渡候、 右誰義何年何月始 而之御目見被 仰付候、

以

正徳五年御奉行衆《左之通申 来

目 部屋住ニ而御 指出候節、 部屋住にて御奉公相 奉公相勤部 屋住料被下候者、 勤居候子 共何御 其親隠 奉公相 居 カン 跡

之候、 義隠居跡目願申 勤 酸付部 尤同役中 屋住料何ほと被下 も可被相 侯節書加願申 通候、 - 候処、 以上、 何年御 候様二自今其心得可有 加増被下候と申

尚以右之通品々触等二相 几 月廿 五.

通し候義ニハ無之候、

各其心得置

以御

御首尾可有之候、

柴 田 外 記

年号月

蓋 名 刑 部

加番大番頭

名代御奉公願

拙者 嫡子同氏誰当年何歳に罷成侯ニ名代御奉公被 仰付

=

之誰 被下 源治 -置候様 相 請色々養性仕候得共本復仕兼候、 奉願 候 拙者義何様之症病気ニ 右 候 江誰義何. 間 師 年 何

成候、 何月家督並之御目見被 病気本復仕候 1 追而御 仰付候、 奉公可 拙者義当年何拾歳 奉願 候、 右申 上候 二罷

通被成下度奉存候、 拙者御知行高何貫文二御座 侯、 以上、

何

之誰

重判

殿

誰

年号月日

覚

病気ニ而 願申上 可込御奉公不仕罷有候者共、 拾 七 歳以上

御奉公被 仰付可被召仕候事

之子共有之候

ハ

名代之願可申

1 侯

御吟

味次第相

応之

御

目

付

中

拾七歳以下之子共有之者共ハ其品申上置、 + -七歳ニ

一罷成

候 ハ 早速名代願可申上

名代願申 此末病気ニ而 Ė 候以後其身気色本復仕御 願申上候節名代之願共 候

申

事、

候

1

可申

上候、

名代被相除其身二

御奉公可被 奉公可 二可

仰付

候

仕 上事、

ほ とニ

罷成

矢

其 身御奉公仕 罷有候者、 部屋 住之子共自分物入を以 御 奉

公為仕度存候者有之候 ハハ、 御 国 篇之御奉公成共無遠

願申 候者縦拾七歳以下之子共ニ 而 \$ 可 申 上事、

宝永五年八月十四日

右之通被

仰出

[侯間其心得御下中不残相触可被申

候、

以上、

慮願

口

申

上候、

御吟味次第相応之御奉公可被仰付候、

右

和

泉

部

民

向

庫

兵 日

病死跡 式

何之誰義何之症相煩何歳にて何月何日病死仕候、 跡式御 41

以御 知行高 憐 愍如 儀 何貫文之処嫡子 何年 願之被 何 月 成下 何 日 家督 度奉存親類以 同 氏 並之 誰 何 歳罷 連判 御目 成 候 見被 奉 一被下 願 候、 置 仰 以上、 度奉 付

願

快気之方ニ

御

座候

何

カン

VI

然不仕、

性仕

誰

年号

月日

右

願

忌明

玉

+

H

8

相

出

候、

若

五.

+

8

上之御

願被成下

度奉存親類以

連判如

此 立 御

奉

願

候

以上、

此外親類縁者之内養子

二可 類二

申 而

者

無御

座

候、

以

御 御

愍如

右 に被 歳 候 少

誰

義 成 罷

誰 下

何

廻り

之親

知行高

何貫

文ニ

座

候 願

支之日

候

計之延

引ハ不苦候

~ 日

共

人方な

殿

類共 連

判

= ~ ×

成男子持不申

候間

誰 体 6

何

男何歳

罷

候ヲ養子

進退.

何

程

之処

末

H 性 叶 時

右

誰

一被下

置 =

候

様 成 誰

奉

共段

人々指

重り存命

難 所

相 同

罷

成候、

右

義 K

何

年号月日

双

方

親

類

判

養子之実父 願主何之誰

其判

重

判

誰 殿

判仕 在 もより之御目 急病養子 郷 誰 願指 住居之者 為見届 H 願 候 書 様に 候段 付御 1 書 何 郡 首 判 願 徒目付之内手 何村 尾可 可 書 仕 書 = 仕 様 在 無之印 頭 由 郷仕 西 シ、 前 罷 判計 正 病 か呼 有候故 月 人印 被 候 = 而 判 而 御 計 様子 仰 指 徒目 出 = 出 為見 [侯者 而 付 事 親 届 類 為 連

急 病 養子願 幷 死 後 跡 目 願

何之誰義、 重 判 龍 何 成 時 候急病 何之症. 養 子 相

5

煩何之誰療治.

相

請

何

時

=

到

加

書可 申 事

之誰

誰

ニ被成下度

由

願 ハ

候

処、

何

年

月

如

願

之被

仰渡候、 何男右

誰義何

年

·何月始一

而 奉

之御

目

見

被

仰付候

子共

=

1

誰 無 日 12

義嫡子

何

月

病死仕候

=

付

五

日目

=

日

付

=

而

御

番 誰

頭

泛

1 為指出

置

可 願

男右

誰 嗣 十

ヲ 子

嗣

子 候

二申

何年 候、

> 而之 何年

御

日見被

仰

付

誰

殿

候と文言ニ

相

加可 養子

申 立

養子二候 -何月始

誰

義男子

持 何

不申

見届不申由之文言相 入可申事、

急病 右願直々大御番 養子 願ハ文言善悪ニかまいなく早速被相出筈ニ侯、 頭 へ指出候者有之候、 左候 ハ、末書御

御帳役御呼出シ則時ニ御 奉行衆 へ被相出 候事、

右願書御帳役へ相出候

ハハ、

右之通文言へかまい

なく請

頭 候 取候て直々大御番頭へ則持参御奉行衆 へ指出シ、 惣而急之願急之達シ御帳役 事済候以後脇番頭へ可申達 へ相出候 へ被相出候首尾仕 由 ハ 正徳四年三月 直々大御番

誰

=

被下置候様ニ奉願候、

誰ニ何様之親類にて誰義

誰

何様之続ニ御座候、

誰病気指重り候に付

親

類以連判誰

養

廿八日主水殿ゟ書立を以被 附 も可有之候、 品有之候急之達は其親類大御 急之願急達刻限延引仕間敷由右同日 仰聞 候事、 番頭 江 同道能 出 候事

同

候、

右願之様子ニゟ右願被出 被仰 聞 候 一候以後親類続書為相出候事も有

右願申上置願人死去仕候へハ昼夜をわかたす親類を以御 頭 達書相 出 御 番 頭ゟも則時 ニ御帳役を以御奉行衆

病中養子願申上置死去仕候ハヽ、 番 御 達候事 願二申上候養子定式之

> 目之願: 忌相懸り五十一日めニ宛初連判仕候親類共養子之実父跡(最) 連 判 = 一而指出! 候、 養父実父之御番頭宛所にて

右跡目願

出候、

何歳ニ 何之誰義当何月何日何歳にて病死仕候、 罷成候ヲ養子ニ被成下、 誰御 知行高何貫文之所右 右誰 何男誰義当

子二被成下度段当何月何日願申 被成下度奉存候、 存生之内奉願置候通以御憐愍右 誰 御知行高何貫文二御 Ŀ 侯処、 誰 二跡目被下 誰義 座 候 何 時 拙者共 置 病死仕 候様

年号月日

親類に付如斯奉

一願候、

以上、

誰 殿

最初願申上

一候親類

重判 重判

養子之実父

誰 殿 与市

左衛門

殿

水

舎 主

人

殿 殿

印 判 計 K T 奉 願 候急病養子 願之格

仕候 花見四 \$ 痢 病 共残命難成仕合 相 郎兵衛義 煩 療治 相 六拾六歲 叶 不申 = 昨 御 = 罷 日 座 夜五 能成候 候、 然処 " 処 時死去仕 (嫡子 痢 病 同氏喜太郎 相 候、 煩 色 兀 女 療治 郎 兵

共同 衛義 喜太郎 氏勘平弟正六 る外子 共無御 郎当十七 座 歳 侯 一付、 罷 成候実甥二 妹智 栗 野 勘左 御 座候、 衛 開子 右

四

郎

兵衛家督二

被成下跡式御切米弐両三歩御扶持方三人

性佗性之親 分之所以御憐愍正 類二 可申 六郎 立者無御 二被下 置 座 候、 度奉存候、 勘平 進 退 右正六郎外同 御切 米壱 両

御扶持方四 見届親類以 連判 一人分ニ 奉 御 願 候 座候、 以上、 御 徒目 付 栗村佐 八 郎

一徳弐年 九月十六 H

正

栗 花 見 野 几 郎 勘 兵 平 衛 EIJ 重判 判計

西 村 理 伴 重 判

花 見 権 大 夫 重 判

> 添書被相入兵 類花 見権大夫則 兵衛義、 庫 同 一殿 詩 + 主 八 早 水 日 速被相 夜五 殿 相 ツ半時死去仕 出候得 達 候に付、 は、 御物 右達書 侯段達書 書 草 主 を以 [IX 永 新

殿 親 右

四

郎

四 八 郎ヲ以被御 聞 届 由 御 断 也

加不 郎兵 九 郎 申 日 兵 别 衛妻十 衛病死 = 跡 紙 を以申 目 月十八日病 願 跡 申 式 上候を Ė 願 候 書 干 願共に十二月十五 死 但シ右願 月 正 六郎 九 日 延引之段 儀 = 重 相 志 相 出 申 日 懸 日 願 ŋ 数 = 日 書 候 故十二 向 ^ 候 は 処二、

月 刀口

被指 出 候

判

元

四 右 郎兵衛嫡子 四 郎 兵衛 跡 同 目 氏喜 願

花見

太郎

義

痢

病

相

煩

九月

#

五.

日

病

死

仕候 持方三人分以御憐愍正六郎 衛残命之内奉 奉 平 実弟 願 候 而 処 同 几 区 氏 郎 正六 兵衛家督 願置 兀 郎当年拾 郎 兵衛 候 無御 通 几 義 座候 郎 は 七 二被下置度奉存候、 兵 同 歳 衛 月 + 罷 付 進 退 八 成候を家督被 日 右四 御 切 病 米 死 郎 、浅両 兵衛 仕 候 成 甥 歩 兀 下 栗野 度段 御 郎 勘 兵

拙者共

親 類以連判 如斯奉願 候、 以上、

IE. 徳 年十二月 九

栗 野

御番頭

在所御座候か或は江戸佗国御用にて御在合無之節

花 見 権 太 夫

西 村 勘 平

理 伴

御番組急病之願罷出末書判形早速可相調様無之候時ハ当 番之御番頭

ゟ添書罷出候、

若当番之御番頭指支有之添書

勿論宛書ハ其大

当

難成候 加番之御番頭ゟ添書罷出候、

番之御番頭名本にて可相 番頭御名本に而願相出候、 是又加番之御番頭可為御名本侯、 出 御番 候、 当番之御番頭指支候 頭忌中か遠慮等之節 惣而急願急達も

同前之

舎 主 与市

人 水

殿 殿 左衛門殿

事、

御書立ニ委細有之候事、 此段宝永六年御奉行衆より大御 番頭脇番

頭江被相

出

候

重

几

郎

同氏正六郎

=

花見四郎兵衛病死跡目願十一月九日二可申上候处、

右

願

别

紙

忌相懸りニ付延引仕侯、 兵衛妻十月十八日病死仕

忌明候条如斯御 候而栗野勘平弟

座候、

以上、

IF.

徳二年十二月九日

栗

野

勘

平

養子

願幷嗣子申

立候格付養子

相

達候

願

嗣子

申立格

西 村 理 伴

花 見 権 太 夫

頭迄其品達書相出候得は御番頭 嫡子病死仕次男嗣子ニ申立侯義は願ニ不及申 る添書を以御

奉 行衆

御

御

達置、 重 而御目見願申 上候節其品願 書加相 出候事

与市 主 左衛 水 問殿

舎 人 殿 殿

)願文言

男右

誰

娘

江

取合養子被成下度旨何年

-何月奉

願

百

相

返候様 誰

被成下度奉

願 修候、

誰義男子持不申ニ

一付誰次

年

何

月如願

誰智養子ニ被成下何年

並

御目 候処、

見 何

被

被成下度奉存 無御 之続ニ御 文之所末之右誰 同 氏 之誰 誰 座 任候、 何 義当年何拾歳 座候、 歳 誰 = 候 御 罷 知 右之外同 に被下置 成候ヲ右誰養子ニ被成下、 双方親類以連判如 行高何貫文に御座 = 罷 候様ニ 性佗性之親 成男子 奉 無御 願候、 候、 斯奉 類二 座 一候間、 以御 願 養子 右 候、 誰 御 憐愍願之通 = 義 知 何之誰 以上、 可 誰 行 申 H 高 何様 何貫 立 次男 者

判奉

候

る取合指

重り家督相続

可仕 願

体

=

無御

座

候条双方親類

以

連 時

退

切米 上

仰付難有仕合奉存候、

誰病気色

々養性仕候得 何月家督

共

何

両

御扶持 一願

方何 以御

人分 憐愍如

誰御

知行高. 被成下

何貫文ニ 度奉存候、

御

座 誰進

以 御

年号月日

年号月日

父 何 誰 誰

方 親 類 連 判

双

誰

殿

双方親類連

判

実 養

父 父 候、

之 之

誰 誰

何 何

誰

殿

苦候由 御 改易之者、 被 仰渡置侯者、 御 赦之願申 養子 上候而 願 上候節は不足者之方之 子共弟等養子 遣侯義不

養子 類連 頭計之充所にて願申 清野 判之御 + 玉 番頭支配 郎弟新三郎を奉奉 上候、 頭充所ニ 但宝永五 一不及候、 一願候節、 年 養子二取候方之番 + 月門沢小右衛 -五郎親誓 門

類

桜

養子願候者 何之

実 之

誰 殿

誰

殿

養子 相 返 候様

一被

成下

·度由之願文言

然不仕本覆仕兼候病症 相 煩候に付御医師 誰儀 当 军 何之誰療治相請 何 歳 二御座 = 罷 成 上候間、 候

(色々力)

何

6

性仕 月

候 日

7 何

誰実父何之誰方

何之誰智養子

\$ 之症

様ニと御

指図にて、

主水殿御一名にて奉願

相済

候処ニ、

八右 原 衛門 指出候得は 連 判 仕 八右 八右衛門御番頭御名本ハ 衛門小右衛門両 人之御 指除願申 番 頭宛 所ニ 上候

右新三 下度由 申上、 郎 病気ニ付而 如 斯被 養子被相除別而養子奉 仰渡侯ニ付正徳三年閏 願 候様 五月安久津 二被成

善助子共吉太夫養子二被成下度由

奉

願候節も、

善助 名本

親

類

申

候事

小関平太夫連判にて申

上候得共、

平太夫支配

頭

ハ相

嫡子病死仕候而右死去仕

候嫡子二孫有之候

ハ

願

申

Ŀ

者共ニ 除主水殿御 Ŧi. 立郎善助 御 両 座 候 人共 一名ニ而奉願候得は如願之被 勿論 二御仕置被 + 五 郎善助 仰付段々之御赦 ハ連判不罷 仰渡候、 成候故 三蒙御 親 免候 右十 類 主

聞

届御奉行衆

達置

格

養子願 二子 共所持不仕と為書申間敷候、 子共持不申と書

可

申

事

立願申上候事

類連判を以家督 嫡子病人にて一 附 右之外 類二養子二可申 相応之者無御 被相 生可御用立倅ニ無之者ハ、 除被下置、 座 一候と書 立者無御 次男誰子二被 申 間 座候と書 敷候、 父方母方之親 成下度 司申事、 右之外同 由 願

相

出

候

右

順申

上候、

次男三男一

腹候哉異腹二候哉、

又

四拾歳以下之者養子願 養子二候哉之品共 = 一委細願 ハ御取上不被 紙 面 申 成 上候事 候、 但急病亦

生御奉公難成品之者 ハ各別之事、

佗人養子 御 座候二付、 二願申上候者 佗人二御 座候得共右誰を奉願 ハ親類縁者之内養子に可申立 候由 願 書 者

加 無

成長仕 候二不及、 候 1 嗣子 1 被相 ニ仕幼少にて早速 御目見 願 候事 可申上由 御目見 申 達 御 願 香 難成者 K

義 る智養子弥七郎ニ名代御奉公為相勤 多田庄太夫義病気にて御奉公相 正徳四年正 月十 七日乱心仕候に付、 動可申 罷 品 様無御 有 候処、 X 申 座 上乱 弥 先年 心 七 無

候 願 督二被成下度由親 二不及義 成長仕 候、 御目見願可申 嗣 類連判にて同 子 仕幼 上由 少 年 申達、 四 而 [月奉 早 速 御番頭被御 願 候 御 目 ^ 見 難 右 成 聞

弥七郎嫡子松之助三歳罷

成正太夫嫡孫

に御

座

候間 無御

家 右

紛 囲

仕

八置

申

様にと被

仰渡、

正太夫儀家督

座

郎

進退半之丞

一被返下候樣奉

願度由

一月十

九

日

類

金上八十

郎口

上書を以申達候ニ付、

主水殿添書にて

御月 親

被相 飾 返候、 御 目 見願可 依之松之助義幼少 申 達置 上由庄太夫方公申 路二候 K 由同十三日に て 御 座 候間 上主 水殿 将 成長仕 監殿 添書 6 顧 候

而

御

奉

行

衆

被相

達置

候事

届

御

奉行

衆

被相

外品 養子 遠キ 次男三男弟有之親類共 請候得共無然養子二 者有之候を指置佗人を 附 願申 類 有之養子 親類縁者之内より 延判に 願之品 上候者近き親類ニ 二難 7 ゟ親類続 相 申立 H 候 可 へ何も右 書相 申立様 願候 事 儀 願 候か、 有之候 一次男三 入申 ハハ 無御 願 候、 書 右之者病人にて 遠近之親類 1 座候 一男弟等有之候を指置 1 江 連判 続 其 書 段 由 仕 ^ 願 書 8 相 紙 顕 緑者ニ 願 出 面 誰療治 書 候 何そ其之 ~ 書 相 事 相 応之 加 戴 相

返、

只今此段不及相

達候

由

行衆

から被

之義早 隠居以後家督 当二月末な病気ニ付段 落命 速心 仕 侯 付吟 1 病死隱居 = 味仕 几 郎養 兼 々指 候 父二本進 父同 養子 重リ子 氏半之丞 願 退被返下格 共無御 可 申 一隠居 j. 丽 座 匠候処、 仕罷 \$ 小 無御 林 有 養子 候 座 DL 間 郎 兼 願

> 私 ^ 兵 ハ、 (庫殿 = 咄 只今不及相 申 候 多ヶ谷 ハ子共無之者病死隠居之父在命罷 市 達候由被仰聞 左衛門持参物 右達書被相 書 中 村喜 四 郎 返 有候 を以相 候 喜 は 四 達

郎

候 番

去此段ハ三 進退被返下御条目二 申 達シ、 翌廿日 兀 郎 親 八 類二不及申 十郎主 候へ 共 水殿 無心 通 候 御 由 元存申達義と存候、 宅 申 江御 候、 呼右 其段共主 達 書被 一水殿 相 乍

無御 然所四 以指 座候間養父半之丞ニ 重 一月朔 展 ハ 日 養子願 三四 郎 義急 無油断吟味早 進退被返下 持 御奉 病之痞 々可 候様 指発 申 仰聞 上由 IJ 追 相 候、 果候、 被 而 仰渡 願 病気 口 子 申 弥 Ŀ 共

物書大内到平を以半之丞ニ 出 候、 一候間、 主 三四四 水殿 郎 只今被相 添書にて大内弥次助 病死之段申達シ置 達 一不及候 進 候由 由 退被返下 K を以将 て右 K 7 監殿 園崎 達 度 及段追 書被 仲兵衛 被指出 相 而 願 候 申 奉 上義 書 候 処 依 相

三四四 相 小 順伸 林三 郎 儀子共 四四 = 郎義 付常盤玄椿 八無御 二拾 座 七 療治 候故養子願可申 歳 = 罷 相 請 成 候得 候所、 とも 上と奉存候内、 段々気色無然ニ 月 一十八 日 食傷 下郡 付

之半之丞忌明左之通奉

願

候

参武 右願 返下 奉存親 Ш 縁組 罷成候二被返下候様二奉願候、 壱両弐歩御扶持方四人分隠居養父同氏半之丞儀八拾歳 養子願不申上候、 何之誰 一候処、 自快療治ニ引替申候へハ段々快方ニ罷成候条右願 田 四 候由被仰渡出入司 IE IE 月十 徳四 一件兵衛 願 徳四年五月 主 類以連判奉願 嫡子同氏誰方へ 当月朔日 年 二日 水 四 一相渡候、 月 相 殿 出末書以将監殿 右三四 痞急ニ 候 御書付出 何之誰娘縁組申合度奉存候、 五月五日右願之通半之丞三進退被 指 以上、 一郎御知行高拾五貫拾五文御切米 上病死仕候故三四 以御憐愍如願之被成下度 候 へ被相 伴 中 出 清 多ヶ谷市左衛門 村 伊 水 葛西万六郎持 郎残命之内 六 久 左 之 兵 衛 延引 門 丞 衛 誰御 小性組 三百石以下にても御召出以上丼詰所有之御役人御近習御 諸事 被成下度奉存双方以連判奉 御役目付へ申合候文言 以連判奉 にて詰所御座候間 拙者嫡子同 付被下置度奉願候、 年号月 年号月 而罷有候、 誰 誰 家督 御目 へ申合候得は願 一願 並 見願 候と書 氏 御目 殿 殿 以上、 誰 義 河歲 見 可 願申上候、 拙者御 願 申 相 二罷 事、 ハ御知行高之末へ、 出 一願 [候事、 成 知行高何貫文御番所何間定仙 候 候 右如願之被成下度奉存双方 以上、 娘之方何之誰 娶候方何之誰 家督並 何之誰

誰儀何御役目

重判 重判

御 目

仰

知行高何拾貫文誰御知行高何十貫文二御座侯、

右如願之

誰

殿

重判

加被相 仰付候由

出候事、

御目見

願

書加相出、

書替文言へも其段御

嗣子智養子二侯

ハハ

何年何月何日嗣子或ハ聟養子

被

替にも其品御書加被相出

候節も其段文言ニ

相加

口 申上候、 候事

> 勿論御番 頭

頭る被出候書

而

之

御目見申上御目見可被

仰付由被

仰出

一触遣

節、 始

病気に一

而

御目見罷成兼候者

は追而

御目

見願不

申 候

継 Ħ 御目 見 願

拙者親 相 達 拙者二被下置旨何時被 同 氏 誰 当 「何月何日病死跡式御 仰渡難有仕合奉存候、 知行高. 何貫文無御 依之

可然候間

支配有之面々ハ支配中へも可被相通候、

以上、

宝

永三年五

万十

九日

見為仕可然由被 上支配頭方と其品

仰出候間、 一一一一

向後其心得其身にても存居

何時にても病気本復之節

御目

何間 在郷 = 罷 有候、 以上、 継目

御目見被

仰付被下置候様二

奉願侯、

拙者御

番所

誰

殿

年号月

家督並之

御目

見願拾歲迄之内申上、

拾壱歳二

罷

百

石以上

御目見は太刀目録御太刀御馬一

疋と書仮名実

右

願不申上候者

ハ延引之品

兼而御番

へ相

達置、

願 成

申上 候迄 何之誰

重判

Ш 家 义 書 殿

中 津 富 布

村 田 田 施

向 部 岐 泉

民 日

壱 和

名書申侯事、 (以脱力)

. 目見は目録計白銀壱両と書仮名実名書 申候事

前髮取 拙者嫡子 願 同

氏誰義当年弐拾歳二

前

髪為取

申

度

年号月

奉存候間

如願被

成下度奉存候、

以上、 罷成候条、

何之誰

重判

右願書折紙にて罷出候を脇番頭へ 相出候、

誰 殿

弐拾歳以前之者前髮取願 ハ、 右誰義何歳二罷成前髮取候 誰 殿

下度奉存候と文言ニ相加指出候得は、 年頃ニハ無御座候得共、 何樣之義有之右之通如願之被成 御番頭右之者見分

之上願之通ニ相済候事

仮名実名相改願 其身名改願

何之誰名改

何様之指支御座候条如

右之願ハ折紙にて罷出候事、

嫡子名改ハ指支之品無之候共相済申候事、

重判

付、

嫡子名改願ハ御番頭御聞

届一篇にて済申候事、

仰渡候以後、

何

何之誰

斯申上候、

願のとく被成下度奉存候、

以上、

年号月

誰

殿

右両名之内名改被成下度奉存候、

様之品有之誰義名改申渡侯由御奉行衆へ被相達侯事

其身名改願ハ御番頭にて御聞届如願被

拙者儀、 本御番所証状取願 先年御手前様御番組二御座候処、

奉公被 仰付候、 仰付候、 依之本御番所御証状被相出被下度奉存候、 然所此度右御奉公御免被成下御番入被 何年何月何御 以

年号月

名二御座候間願之通被成下度奉存候、

以上、

右両名之内嫡子誰名改被

仰付被下置度奉願候、

先祖類

拙者嫡子同

氏誰名改

嫡子名改願

何之誰

重判

拙者実名何と相改申候様ニ被成下度奉願候、 実名改願

何様之指支 以上、 重判

御座候間如斯申 上候、 如願之被成下度奉存候、

年号月

何之誰

殿

誰

Ł

申

-様無御

座

何月右御奉公御免被成下度由

奉

願 相 何

仰付難有仕合ニ奉存候、

拙者義当年

何

拙者義何年何月御奉公被

月何日ゟ何之症

相煩、 同年

色々

(生)

共弥以気色無然

仰付相勤罷有候処二、

何年

病気本復願

事、

2 仙台藩触留

誰

殿

右願

派書折紙

心にて相

出

当時之御番

頭ゟ以前之御番頭之節、

其組之御番

年号月

何之誰

重判

条、

御国佗国

共相応之御奉公被

仰付被下置度奉

以上、

何

之

誰

以御憐愍右願之通被成下度奉存侯、 年号月

誰 殿

薬弁鶴拝 領 願

鶴拝領

御番組相除候以後名改仕候

ハ 御

番組之節

何と申

何之誰殿御番頭之節何番御番組

三御

座候と書

司 組

申 二候

事

二名改仕候由

書加可申

事

親代御番組相除候

ハヽ其品書加可申事

鶴拝 領被 成下度奉願候、 竪紙 拙者義親同氏誰儀

何様之病気に

付如

て何之誰薬貼用仕候処、 上候、 願之通被成下度奉存候、 鶴相用 申 候 以 ハ、可然由申に

何之誰

斯

申

御奉公年数ニ仍而間所被上下々に而証状申受候も有之候

誰

年号月

殿

何薬拝領仕度奉 薬拝 領 一願候、 竪紙

拙者義当年何歲二罷

成当何月何

日

ゟ何之症相煩申候に付. 侯 ハ 遠慮至極奉存候得共右之通申上候、 口 然由 右誰指図 何之誰 仕候得共 療治相 自分才覚可 請申 候 処 以御憐愍願 仕様無御 何薬 相 用

拾歳 候得 勤可

罷成年若御座 如願被

候

而

永々御奉公をも不仕罷

有候義

申

拠仕合奉存、

取詰致養生候処ニ今ほと病気透と本復仕候

座候条、

51

一九両 五貫百四十八文	一拾両 五貫七百弐十文	判金壱枚 四貫弐百九十文	御切米御扶持方直高		年号月 何之誰 重判	度奉存候、右之通申上侯、以上、	湯相応可仕様ニ及承侯侯間、以御憐愍養性御奉公相続仕	へ共、時々右之痛指発り申候故何之誰得療治候処、右入	候、拙者義何様之痛有之何之誰療治相請段々痛治シ申候	何月何日ゟ往還之日数共ニ何十日御暇被下置候様ニ奉願	拙者儀何方何之誰殿御領内何方へ入湯仕度奉存候条、当	佗国入湯之願	一入湯其外佗国御暇願		誰殿	年号月 何之誰 重判	之とく被成下度奉存候、以上、
一四匁	一五匁	一六匁	一七匁	一八匁	一九匁	一銀拾匁	一壱切	一弐切	一三切	一壱両	一弐両	一三両	四両	五両	一六両	一七両	一八両
三拾八文壱分	四拾七文六分	五拾七文壱分	六拾六文七分	七拾六文弐分	八拾五文七分	力拾五文三分	百四拾三文	弐百八拾六文	四百弐拾九文	五百七拾弐文	壱貫百四拾四文	壱貫七百拾六文	弐貫弐百八拾八文	弐貫八百六拾文	三貫四百三拾弐文	四貫四文	四貫五百七拾六文

玄米四 壱人分 弐人分 三人分 四人分

石

壱貫文

九百文

壱貫三百五拾文 壱貫八百文

四百五拾文

53

表何間

何番町

2

替 屋敷願

屋鋪替譲屋敷拝領屋敷願

裏横何間

御知行高何貫文

誰組何之誰

東長サ

西長サ何間

何間

表何間 何番丁

裏横何間

御知行高何貫文

西長サ何間 誰 組何之誰

東長サ何間

七人分

三貫百五拾文

八人分

三貫六百文 四貫五拾文

九人分

御扶持方拾人分

四貫五百文

壱匁 弐匁 三匁

九文五分

拾九文

弐拾八文五分

五人分 六人分

弐貫七百文

誰義屋敷替之願此度共何度御座侯、 右之通屋敷所持仕候処双方勝手を以屋敷替仕度奉

以御憐愍願之通被成下度奉存候、 以上、

誰義

始而

二御座 一願侯、

侯 右

年号月

何之誰

重判

重判

何之誰

誰

殿

誰

殿

譲屋敷願

何十間之屋敷所持仕候処、 何之誰義何方に表何拾間裏江何十間東長サ何拾間西長サ 連々困窮仕修覆可仕様無御座

候条、 度奉願 候、 親類何之誰義やしき所持不仕候間 勿論右誰義其 身一 代屋 敷拝領之願 右屋敷相 申 上間 譲 敷 1) 申 候

誰御 を以奉願候条如 知行高 何貫文誰御 願之被成下 · 知行高何貫文ニ御座候、 度奉存候、 以上、 双方勝

譲り人何之誰

年

一号月

誰

殿 殿

誰

請取人何之誰

重判

被成下度奉願 難有仕合奉存候、

候、

御

組付屋

一數其組之減高人数ニ過之申

屋

依之御

組

屋敷

何方所持仕候を直

女

拝領

重判

手

拙者義何之誰組

何組

御

座

候所

何御 度

川当年

迄

何

年

相

勤申候二付、

何月何日御組御免被成下御

番

入被

仰 4

付

諸

組付

組

御

免之者居

屋

敷直

々被下置

由

之願

敷引続御用相勤申者ニ ハ直々被下置候、 拙者義 引続

用相勤申 侯条以御憐愍右之通被成下度奉存侯、 拙者

進 右

退

御切米何切御扶持 方何人分ニ御座 候、 以上、

年 一号月

殿

誰

何之誰

重判

分知

願

勤、

兼而

困

[窮之上右之通方々借宅仕御奉公相続仕兼候間

る当年迄 何之誰上り

何

ケ年

-相勤申

候処、

屋

敷所持不仕

方々借

宅仕 用

相

屋敷拝領被成下度奉願候、

拙者義何御

何年

領

屋敷

願

無足に 拙者弟同氏誰 右 知 誰 行高何拾貫文之内何郡. IZ 分知被 て指置申 何歳 ·義無拠奉存候、 仰付被下置度奉願侯、 に罷 成候処無速に(足) 何村 何貫文之所にて 如願之被成下末 7 年頃 罷 有

K

も罷 何

成

K 相

応之 候処 百文

貫

何

候間

拙者御

誰

年号月

拙者

進

退

御

切

米

何

一両御扶持方何人分御

座候、

以

上

何之誰

重判

御

奉公為相勤申度奉存候、

以御憐愍右申上候通被成下

公相続相勤申 右之屋敷拝領被

度奉

存候、

以御憐愍願之通被

成下度奉存候

仰付被下置候

ハ

何様にも作

事仕御奉

殿

1

奉願 候、 以上、

年号月

殿

誰

知行佗人江分譲り義 知行替之元願向後頭々末書にて可申上事、 向後御停 止之事

覚

知行他人江分譲之義先年ゟ御停止ニ侯、 目之品ニゟ被 仰付候処、 二男三男弟等佗へ養子ニ 親類之分知 相 ハハ筋 済

候以後分知願申 上候者共有之候、 養子ニ遣候義ハ不 龍 成

方共に其身代ハ分知被 節分知仕候同前之義ニ候間、 筈二候処、 養子ニ遺候者 仰付間 へ追而分知仕候 向後ハ養子相済候以後 敷候、 双方共に子孫之義 へは養子ニ遣! も双 候

一成候 ハ 願之品ニより 御 吟味可被成下 -候事

訳二 縁 紅組之儀或娘妹等縁組之者孫甥等に分知之義も右同 願之品 候 間、 ニゟ御吟味可被成下事 向後ハ分知被 仰付間敷候、 双方代替二成候 前之

> 右之通 被 仰出 候間其心得大番頭中丼各同役中へ 8 相 通

大番組 中 8 相 通 可被申候、 以上、

元禄十六年正月廿八日

和

泉

何 之

誰

上 郡 Щ 七 郎 殿

> 壱 帯

岐 刀

日

向

惣而二重之願只今迄ハ不申上候処、 願書に実嫡子実弟なとゝ実之字惣 而書申 痺罷成候間向後二 間 敷候

之願申 上不苦由正徳元年十 月被 仰出 候 事

御帰国御暇被

仰出候得は

御着城之日迄不急願

相

出不

重

郎 申、 方合中 御着城翌日ゟ相出候筈ニ候由 津 川新四 郎 方へ 手紙にて申 兵庫殿物 書 中 村

正徳三年 + 月

(朱) 仰出

御参勤之年只今迄は三月十五日切 発解申 上候 処 向後は

御

触

向後其心得仕候様 右之通当年る 着用侯、 番頭以上之輩指立候節ハ巻物以上着用不苦候、 御 冬番之者拝借願只今迄ハ七月十日切申 詰所以上

を御小性組

江戸番馬上

迄ハ、 参勤御供丼冬番之者とも六月晦日切可申 八月十日切可申上事、 着古候品巻物以上ニ而も不苦候、先は常々絹木綿をも可 可被相用、 重以下木綿をも可被相 享保八年四月十九日 門衆并三千石以上之衣服雖為制外、 御目付中」 常々は羽二重以下木綿をも可被相 御参勤之御時節違候に付而被 兼而之通不残相触可被申 用候 指立候節羽二 上候処、 多く 侯 刑 要 石 用 仰出候間 ハ軽キ品を 常 以上、 向後 H 一重弁 は御 見 部 向 羽 御一 不苦候 婦女之衣服父夫之身分ニ准可申侯、 御改易以上之御仕置被 御 御親類様始御大名方な拝領物 着用指立候、 家業人芸道相勤侯者巻物類着服不苦侯、 候、 兼而巻物類御免に無之輩之内御紋付拝領之分、 組士差立候節絹類着用不苦候、 其余大番組以上之輩指立候節羽二重着用不苦候、 常 花美ニ相成侯由相聞得侯、 仰出候通身分ニ応シ供品可相用候、 も着用不苦候、 絹木綿をも可着用候 右何も於江戸他国是迄之通可 ハ紬木綿相用候事 門衆始御紋拝領之輩次男三男弟等は家ニ居内 門衆始御紋御免之衆ゟ貰居をも御召物拝領無之者 御紋付父兄拝領之外着用難成侯 凡而御紋付相贈侯義は可有斟酌侯 御紋無之分ハ御目付江届置着用之義不苦 = 候間、 仰付候者御紋付着用仕間敷候 於御中奥ハ前ゟ御側向之者常 御家中之儀 ハ伺之上可着用候 相心得候 常々は紬木綿可 近年婦人之衣服 常々 ハ猶質素ニ可致 ハ此度被

ハ着用

統

於御

国元

相用候、

常々

は

候、 用候、 事 候、 常 K 詰所以上之妻子差立御祝義に銀や糸縫ちらし不苦 は染模様可相用 候、 其余大番組以上染模様可

相

御

但、 縫ちらし御免之分目立候金糸入 無用 候

御旗 但、 元足軽已下諸組之者右二准御扶持 夏物晒帷子半晒等不苦候 人木綿可 相用 候

諸職人之中法体之者於御国 国は是迄之通 可相心得候 許絹類 着用難成候、 於江戸佗

百性衣服男女共二布木綿着用可仕候、 紬之類可為無用、 木綿合羽 切可為停 帯襟袖口等惣而絹 止

但、 大肝入山伏神主 禰 宜之類、 其身并 妻子 共組織 紬 之類

御城下町人衣服門前町之者迄男共共ニ木綿 先規之通着用不苦候 可 相 用 候

但、 夏物 1 晒 唯子半 .晒等不苦候、 襟袖 口 帯等 は絹 紬 相

倍臣衣服之義御 用 不苦候 直参之輩さへ麁服相用候事候間、

御 一可可仕候(ママ) 門 一衆家来 一家る小性迄 猶更質(素脱カ)

> 代々着座 家御一 一并大番頭格已上之家来家老差次迄之家来 族御家老并三千石以上之家来 家る留主居迄、 此

無之候

右之通差立候節絹類着用不苦候、 五百石以上之番頭格以上之家来并三千石以上平士之家来 常 H 紬 等可 柏 用

右家来差次と一之者ニ候ハヽ外人江之使者其外指立

右之通何も木綿着用可仕候

計絹紬着用不苦候、

常々

1

木綿

一 相

用候

絹紬不苦候、 附 木綿着用之者之内小性組以上之者帯襟袖 勿論夏物晒帷子不苦候、 女も右 口 等 准 可 =

申

候

宿守屋敷主内之者ニ 口 准 候

妾ハ侍之娘ニ而も子共有之候とも衣服家来格可准

右之通被 度可被及 御沙汰侯、 仰出候、 若心得違御 此旨支配有之輩 制 法相 犯候者有之候 ハ頭々召仕等迄 屹

1

心附御制法不相背候様申 門衆始御 家中 ハ不 · 及 申 軽キ 付何も厳ニ 者迄不 一相守一 残可相触候 可 申 候

二七

趣

御

明

和

七年十

月廿八日

備 前

御 目 付 中

木村軍治義養父看病御暇無成下(被)

其

身忌中等二

而

看

病御暇申

写

=

将 孫 主 兵

税

衛

長 門

拙者義養父病気ニ付看病御

暇奉

願 候

如願之被

成下

看 去

病 月 江戸登り御暇

原之事

監

も御 仕居侯所、 十九日 6 養父同氏誰住居罷在候何郡. 座候条、 弥増病体相勝レ不申手放シ兼外ニ看病仕候者 当江戸登り差免被成下度奉願候、 何 屋敷ニ罷下り 当分容体

二付如此奉願侯、 願被成下度奉存候、 而ハ早速本腹難相成、 前文之通甚之大病不得是非 指懸り右様奉願侯も無拠仕合奉存侯得 拙者儀御知行高何貫何百文二御 且存命難計段御医師等も申 如此 奉 願候、

御憐愍を以

座

聞候

候、 已上、

早速罷下り看病仕候

何年 何月何日

誰 殿

> 何之誰 重判

村 内 如

此奉願候、

御憐愍を以如願之被成下度奉存候、

右軍

治

跡

式

願 文言

義御知行高十

貫

三百拾六文二御座候、

旦上

木村左太夫六拾壱歳

罷 成指

附積之症

相

煩

候、

当

四

月

十六

文政

七年三月十

九日

义

書

殿

廿六日迄日数十五日忌中ニ而罷在候に付、

拙者儀依親類

催治祖母病死仕候所、

様為申登候所、

右軍治義過ル十二日実方父方之祖母金沢

他家相続ニ付半減之忌服相受来り、

申外ニ看病仕候者も無御座候之条、

病気ニ而

罷有候所、

過ル十

七日之頃合病体 知行所ニ住居罷 - 度奉願侯、 上候願

相

勝

如

氏左太夫儀桃生郡寺崎

村御

能在候所、 至而

久々 レ不

共

右軍治養父同

蔵 治 重判

日

軍治義当三拾九歲二罷成候二被下置度奉願候、 病死仕候、 跡式御知行高拾貫三百十六文之所、 右軍治義文 養子同 氏

段相

俵

座候、

已上、 何

誰

殿

何年 御

·何月

申 御 治 以奉願侯、 如 願之被 上候、 礼御用捨被成下、 二名代御奉公被 御憐愍を以如願之被成下度拙 仰付候、 右軍治義当時 文化九年七 家督並之 仰付被下置度旨奉願、 定御供相 月一 勤罷有申候、 御目見御 統 者共親類ニ 流 二被直 文化九年 手伝御年 以 下候二付不 上 付連判を 限中 + __ 月 諸

化

四

年

四

月如

願之養子被

仰付候所右左太夫病気ニ付右軍

拙者 之

儀

養

子

同

氏

誰

儀当

「何歳ニ

罷

成候

所

加家督並

文政七年六月八 養江戸詰 B

义

書

殿

浅 野 与 郎

番

所

何間当時

何御

役相

勤罷.

有申候、

愍ヲ以如願之被成下度奉存候、

拙者儀御知

行高 -願候条、

同何貫

引続諸御礼御

用捨被成下候得とも為冥加奉

如

願智養子被

仰付難有仕合奉存候、

御

手伝御

年限

御 中か

憐

御 聟

目見被

仰付被下置度奉願候、

右

誰儀 為冥

何

月

何

日

金

沢 催 治

何年 -何月何 H

誰 殿

足袋御免之願之事

拙者義御

供立之外足袋被成下

御

免度奉

一願

候、

拙者義

脚

拙者儀何ニ

付願之上何卜名改被

仰付候間

御

屋

敷

方御

本

被成下 気之症相煩両足冷候得は寒痛甚敷歩行不自由仕候間 ·度奉存候、 如 願之

達候様 可仕候、 右病症少も快方ニ罷 拙 者儀御 小性見習相 此成候 勤 進退 1 1 早速相 御 蔵 米 三百 控其

重判

岡村

何年 -何月

何方ニ御座

侯

御 屋 敷奉行衆

折紙 名改等被 書判 而 仰付候節御屋敷方御 指 出 口 申 事 本牒直り書付、

牒被為御首尾被成下度奉存候、 拙者義 誰 組 而 何 相 勤

誰名改 何之 誰

(表紙

服忌合

目々沢氏

服忌合

父母 服十三月閏月をかぞへす、

養父母 服百五十日

遺跡相続或分地配堂之養子は同性ニても異姓ニ而も養(姓) 之親類ハ服忌無之遺跡相続せす、或分地配堂せさる養 忌可請之、兄弟姉妹ハ相互に半減之服忌可請之、此外 之親類服忌無之実方之親類ハ定式之通相互ニ服忌可請 之、養方之兄弟姉妹ハ相互ニ半減之服忌可受之、此外 子ハ同姓にても異姓ニても養父母ハ定式之通服忌可受 は父母定式之服忌可請之、祖父母伯叔父姑ハ半減の服 方之親類実のことし、 相互に服忌可請之、実方之親類

之、

嫡母

(裏表紙

対面無之候ハヽ不交服忌、 おゐてハ妾の子不可請服忌、但嫡母之親類ハ服忌無之、 とも服忌可受之、父死去之後他へ嫁し或父離別するに 忌十日服三十日

通路いたし候ハ、対面無之

一継父母 忌十日服三十日

初る同居せされハ無服忌、 父死去之後継母他へ嫁し或 母方

夫 服忌 九十日日

妻

離別之母 服十三月閏日をかそへす、忌五十日閏日をかそへす、

父離別するにおゐてハ不可受服忌、

但継父母之親類に

服忌無之、

服十三月閏月をかそへす、

嫡子 服忌 九十日

家督と定めさる時ハ末子之服忌可受之、女子ハ最初に

生れても末子に准す、

末子 忌十日服三十日

養子に遺候ても服忌差別なし、 家督と定る時ハ嫡子の

服忌可受之、

養子 忌十日服三十日

夫之父母 服百五十日

家督と定たる時ハ嫡子之服忌可請之、

祖父母 服忌二十日 服百五十日

曾祖父母 離別せられ候祖母も服忌無別義 服元二十日

母方ニハ服忌無之、

但、 遠慮一 日

高祖父母 服三十日

母方ニハ服忌無之、

但、遠慮一日

伯叔父姑 服九十日

母方 服忌十日

兄弟姉妹 服之二十日

父母種替之兄弟姉妹ハ半減之服忌可受之、

別腹たりといふとも服忌ニ無差別、

異父兄弟姉妹

嫡孫 服三十日

嫡孫承祖たり時ハ嫡子之服忌可請之、 祖父母死去之時

類服忌差別なし、曾孫玄孫たりといふとも同例なり、 も嫡孫の方へも五十日十三月之服忌可受之、此外之親

末孫 曾孫玄孫 女子ハ最初ニ生れても末孫ニ准す、娘方之孫服忌同前、 服己日日 服之三日

従父兄弟姉妹 娘方ニハ曾孫玄孫共に服忌無之、 服忌 七月日

甥姪 父之姉妹之子幷母方も服忌同前、 服尼三日

可請之、

姉妹之子も服忌同前、

異父兄弟姉妹之子ハ半減之服忌

七歳未満之小児ハ無服忌 父母ハ三日遠慮、 其外之親類ハ同姓ニ而も異姓ニ而も

之服忌可受之、

一日遠慮日数過承候ハヽ追而不及遠慮、

但八歳る定式

附、 月をへ而承候共聞付候日より五十日遠慮すへし、 ニハ五十日遠慮、 七歳未満之小児之方江も服忌無之父母死去之時 其外之親類ハー日遠慮、 父母ハ年

聞忌之事

日より服忌残る日数可受之、忌之日数過て告来ハ一日 遠国ニおゐて死去年月を経而告来るといふとも、 ハ聞付候日より忌五十日服十三月、外之親類ハ聞付る 父母

遠慮服明候共同前

重る服忌之事

父之服忌いまた不明内母之服忌在之ハ母之死去之日よ

り五十日十三月之服忌可受之、おもき服忌之内かろき

穢之事

服忌之数可受之、

服忌有て日数終ハ追而不及受服忌、

日数あまらハ残る

産穢 婦三十五日

る日数之穢たるへし、 遠国る告来七日過候 ハ、穢無之、七日之内承候ハ、残 血荒流産同断、尤妾之産穢之時

も同例、

血荒

夫七日婦十日

流産 夫五日婦十日

形穢無之ハ可為血荒 形穢在之ハ可為流産

死穢 日日

合を経而候 へハ穢無之、 一間二居合候共不存候

二階ニ而も揚り口敷居之外に在之候得ハ穢無之

家之内ニ而人死候時一間ニ居合候ハヽ死穢可受之、

無之、

候、 主死去候而も死穢之儀差別無之、 家なき所ニ死人在之時 八其死骸在之地計穢侯、 死後其所江参候者

家

骸在之候とも踏合之穢なり、

改葬 踏合 遠慮 行水次第 H

子ハ不残遠慮、 候親類改葬之場江出候者ハ遠慮すへし、忌不掛親類 但不承候ハト追而不及遠慮候、 忌掛り

ニ而も一日遠慮すへし、

其場江出候とも不及遠慮候、

改葬之主ニ成侯ハト他人

附、 候日と葬候日と二日之遠慮なり、 に成候者ハ同断、 堀起候日より葬候迄日数在之候ハヽ子ハ不残堀起(掘) 但堀起候翌日より葬候前日まてハ幾 他人ニ而も改葬之主

日にても不及遠慮

限不存相済候已後承候ハヽ追而不及遠慮候 改葬之儀遠所ニ而申付日限存候 ハヽ其日遠慮すへし、

元禄六年十二月廿 日

忌可受之、他江嫁するニおゐてハ服忌無之、

養父死去已後養母同居せすといふとも他人不嫁候得は服

養父之妻養いれさる已前ニ死去候ハヽ嫡母ニ准シ其親類

服忌無之、

受之、 父之後妻と通路いたし侯ハ、対面無之とも継母之服忌可

義絶之嫡子之服忌は末子ニ可准之、

ふとも服忌別義なり、

此外之親類義絶とい

女子婚義以前る養ハれ、或入聟を取家督相続之時ハ養方

婚義未相調内ニ而も祝義取かハし候得は夫婦相互ニ定式 之親類実続ことく相互ニ服忌可受之、

之忌之日数可遠慮、

但、 服無之、

父之妾服忌無之、

日

妾之服忌無之、但子出生ニおゐてハ二日遠慮血荒流産在

之計ニ而ハ妾死去之時遠慮無之、

遺跡相続せす或分地配堂せさる養子養方之兄弟姉妹他家(当) 江養るゝ者ニハ相互ニ服忌無之、

追加

同 1.姓ニ而も異姓ニ而も一人江両様之続在之ハ重キ方之服

忌可請之、

名字を授候計ニ而ハ相互ニ服忌無之、本姓之方之親類定 式之通服忌可受之、

候故互ニ服忌無之、

一子無之死去候者名跡相続之ため親規ニ家督相続之時は養(新)

父之ことく服忌可受之、死去候者之妻ハ養母ニ可准なり、

離別之女はたとひ実子在之他へ不嫁候とも夫婦之縁きれ

母ハ定式之服忌可受之、 候者之親類ハ相互ニ定式之服忌可受之、実方之親類ハ父 死去候者七歳未満ニ侯ハヽ服忌無之五十日可遠慮、 祖父母伯叔父姑ハ半減之服忌可 死去

受之、兄弟姉妹ハ相互ニ半減之服忌可受之、此外之親類

服忌無之

内ニ而も養父母計五十日十三月之服忌可受之、

養子願書指出之老中請取之、其已後死去候ハヽ家督不定

半減之日数三十日ハ十五日也、 余ハ准之、

日在之ハ当夜之九ツ時ゟ明日夜之九ツ時迄なり、 但、 七日 ハ四 日 になり、 三月 ハ二日なり、

前ニ候得ハたとひ四ツ半過ニ而も一日之積也

右十六ケ条元禄六年追加之内也、 今般聊省略二而書載

之、

十三月可受之

妾腹之子其父嫡母継母を以養母ニ定むる時ハ忌五十日服

母方之親類之服忌養実之差別家督相続之養子之ことくた

るへし、

養母之子継母之服忌ニおゐても父之極次第右ニ同し、

但

継母之方之親類にハ服忌無之、

家督相続之養子たる者実方之養母嫡母継母服無之分地配 当せさる養子ハ右之服忌可受之、

養方之伯叔父姑兄弟姉妹人ニ銀るゝ者ハ半減之服忌可受(限カ) 之、実方之伯叔父姑兄弟姉妹他家ゟ養るゝ者も服忌無差

別

其身養子ニ参実方之伯叔父姑兄弟姉妹之内人之養るゝと

いふとも其儘半減之服忌たるへし、

養実ともに半減之服忌可受之、或父も養子其身も養子の

父養子ニ而其子人之養子に参り候時ハ父之父母兄弟姉妹

九ツ

受続在之ハ服忌可受之、 時ハ養父之実方服忌無之、 若実方ニ付候て半減之服忌可

半減之服忌ニ祖父母伯督父姑兄弟姉妹と在之ハ、母方之

祖父母伯叔父姑異父兄弟姉妹も同例

右七ケ条更増補之、 嫡子を人之養子ニ遣時ハ服忌末子之とくたるへし、

元文元年九月十五日

父妾を妻ニ准候忌服之ケ条此度被相除候、 然は享保十八

ハ唯今迄之通たるへし、

年妾を妻ニ致侯儀可為無用旨被

仰出侯已前相届置侯者

父計之養子母計之養子忌服之ケ条此度被相除候、 済在之分ハ准今迄之通たるへし、(唯) 然共相

九月

松平伊豆守殿御渡候御

書付

服忌合追加、 付候而被書加、 此度林大学頭其外儒者とも江も吟味被 或被相除、 或省略之所も在之候、

唯今迄

仰

申候、若難心得所も候ハ、兼々大目付御目付江承合置 載候上ハ大学頭江承合候ニ不及紙面ヲ以平日相糺置可被 之服忌之儀臨時ニ林大学頭江被承合候得とも、

委細被相

向後差懸尋侯儀無之様ニ可被致侯

所々江相渡候服忌合数通之儀二付、 如何二候間板行申付候、 大目付御目付る可被相渡候間 若書違等在之候而

合可被受取候

元文元年服忌合追加被相改候節有馬出

羽守殿江御伺被

承

婚儀二付養娘之儀、 此度服忌合ニ被除候上ハ不及沙汰ニ

成候御付札

事二候、 候、 然共是ハ取り親抔と申一通り之筋ニ侯間服忌 婚儀已前る養候而智養子ニ嫁候か、 ハ無之

又ハ他江縁

付候得は養方親類迄も定式之通ニ侯、 娘を養候迄ニ而

三十日百五十日之服忌二而侯、

聟も不取縁ニも不附ケ候得

服忌合本文初ケ条ニ在之

養女之名儀同前之事ニ侯、 但、年久敷被養候養女も年不久候分も養女ニ致候得 右娘を以入聟を取 嫁候歟、

又ハ他江縁付候得ハ服忌家督相続之養子之通ニ而候、

軽キ服忌之内重キ服忌在之候も死去之日ゟ其服忌受申候、 軽キ服忌之日数済候而初而重キ服忌ヲ請申義ニ而

弟たる者兄之家跡之相続之儀ニ付被相 通ハ嫡孫承祖之格とハ違弟たる者兄之養子ニ成候得ハ祖 父母ハ曾祖父母之服忌受之侯、 実之兄弟姉妹ハ伯叔父姑 信候御 附札 書 一

右実之兄弟姉妹半減之服忌ニ而侯、 ニ成候間養子ニ成候者之方ゟハ養方伯叔父姑之服忌受候 其外之親類右二准

名跡 忌受候事ニ !相続之儀は追加ニ在之通り養子ニ成候心ニ而養弟服

茂十郎 馬殿江御伺 様 江 被 成候処以書付御 屋形様 御 付札被仰渡候 始御服忌之儀御目 付松前主

別儀相 離別之母服忌無別義候処、 ニ不相見得候候得 互 一二受申 儀 二御 ハ離別ニ付親類義絶ニ候とも服 座候哉、 親類之服忌受兼之義服忌合 母子計服忌相 受親類 忌 無

服忌不相受義ニも御座侯哉、

右之品難相極候、

相伺候

様ニと国許る申越候、 奉伺

田

作

兵

衛

松平主馬殿御付札 離別之母之親類とても母之血縁に候故通路対面

候とも定式之服忌受候

右は元文三年也

養子ニ参候者養母ニ養われさる已前令死去ハ嫡母 元文之追. 加二妾服 二可 准

旨元禄之追加服忌合ニ相見得候処、

成へき由、嫡母之子継母之服忌も父子嫡母継母之服忌父養母と定むる時 旨品々被 嫡母之子継母之服忌も父之極め次弟たるへき 仰出候、 元文追加之趣を以御吟味被極 ハ遺跡相続之ことく 候処

間沙汰ニ不及候、 父存生之間在之候 養子已前死去之時 縦左様ニハ無之者も養父ニ初妾計在之 八養母二無紛候間、 ハト養母 二定置候歟、 養父申置候儀 養子も可 承置 無之 候

共ニ死去已後ニ而も其親類定式之服忌相受候、 違 可申 思召侯、 苗跡 相続被仰付候者 此訳と同 ハ養父母 候迚養母ニ不祭候は薄き方ニ而還

而

元文追

加之御

趣

意

江

候就養子も可承置事ニ候、 思召侯、 若左様之義無之養父死去ニ侯 由

仍而元文追加之趣を以養父存生之内相定置

ハ、其本妻を養母ニ祭其親類母方定式之服忌相受可申

但、其養父不幸ニ而妻数人呼取何も養子ニ不参已前死 ハ、初妻を以養母ニ祭候儀

被

仰出候事

勿論二候事

去仕養父も極置侯儀無之侯

已上

寛保一 年十

月

士分二御取立之者凡下親族之忌服相受候儀向後左之通可 相心得事

其身并父母代々御取立被成下候者は、 迄之服忌ニ族ハト士親族之通上江も可相達之、 之忌服妾腹之者其実母方親類忌服相達候通可 伯叔父姑兄弟姉 仕 従弟甥 姪 妹

孫代ニハ不残妾腹之者実母方親類忌服之通可相達候事、

已上

享保二年十 月

合之末江も 右弐ケ条儒者中江為心得之可被御申渡置候、 書載置候樣可被致候由若老江孫兵衛於詰 御右筆

所ニ寛 方服

保弐年十一月十九日直々申渡之、

寬保三年十一 月十七 百

右衛門婚緣之御姫様 裕姫様御逝去二付、

御(マ

御(マ) 姫

御問合候処以御附札被 仰渡之、 裕姫様御逝 去二 付

樣御從弟樣二付御遠慮之訳大御目付衆朽木山城守殿江

松平陸奥守娘事従弟之続互二七歳未満二御座候处、 之遠慮仕儀ニ可在之哉服忌合ニ互七歳未満之御定不相

得候ニ付而罷出 一月十 一六月 相 伺 候様二陸奥守申付候、 御名内飯淵三 已上、

+

郎右衛門

御付札

右之通服忌合記置候様ニと同 書面之通七歳未満一 一日遠慮 年 同月十八日日 = 而 附

而監物方

ゟ申越之、

付札二而

松平陸奥守殿江祝儀取かわし婚義未相整已前舅姑之服忌

之事

右な御付札

書面之通御祝儀取かわし婚義末調已前候へハ舅姑死去

之時ハ服忌無之候、

但、

右之舅姑実続も在之ハ其服忌可受之、

之日付ニ而監物方より申越之、付御遠慮不被成筈ニ相済候事、前書之通寛保四年二月九日付能勢甚八郎殿江被御聞合候処、右之通御書付被相渡候ニ付能勢甚八郎殿江被御聞合候処、右之通御書付被相渡候ニ右之通片倉備中病死ニ付於郷殿御服忌之訳御吟味ニ付御目

養父之ことく服忌可受之と服忌合ニ相見得候処、死去候一子無之死去候者名跡相続之ため親類新規家跡相続之時ハ

十七歳已下ニ侯ハヽ死去侯者を兄ニ准し死去侯者之父を

者十七歳以上之者ニ侯ハ、養父之ことく服忌可受之、

事之由対馬ゟ延享二年八月申越之、

ニ祭り其者之父を苗跡相続仕候者之養父ニ祭り可申

養父に可准候、

仕居候処、右之通十七歳已下之者ハ養父ニ准シ不申死但、只今迄ハ死去候者十七歳已下ニ候得ハ五十日遠慮

之候、若名跡相続之者死去之弟ニ而先達父之忌服受候去候者之父を養父ニ准シ候条五十日十三月之服忌可受

ハハ追而不及受之候事、

監物、対馬、孫兵衛申渡之、

右之通被

仰出候条何も承知仕候処可被相触旨御目付中江

延享二年三月十九日

右之ケ条ハ当春被相触候已後苗跡相続之者計相用候 市二可在之哉承合候者も在之ため田辺喜七郎承置可 然由江戸江為申登候所、右之段ハ被 仰出候已前苗 跡相続之者共ニ当春被相触候通ニ可相心得事之由喜 時間、たとひハ先年十七歳以下之者之苗跡相続

一養父死去已後再縁之養母之事、一養母嫡血共ニ各夫死去已後他ゟ嫁シ侯義之事、一養母嫡血共ニ各夫死去已後他ゟ嫁シ侯義之事、

3

御先代被仰出候二付而略之、

養子ニ参候者養われさる已前死去之養母之事

享保四年正月油井善助、境野幸之助曾祖母病死忌服之訳 吟味不同二付林大学頭殿江承合候様被 仰付大学頭殿江

談大学殿御判断之趣申来、 且惣而下中服忌之儀は何方と

公儀使罷越服忌合方之御用人川添兵左衛門二出会品々申

申来候而も吟味不仕候得共、

其元様御事ニ御座

次第被 吟味仕侯と申侯、 仰付可然奉存候、 向後ハ被相届御下中之儀ニ候間御吟味 此段各江可申談由大学頭申付 候得 は間

候趣右兵左衛門橋本平八郎 二申聞候事

為後証之記置候 右之趣公儀使方御用留享保四年正月廿日之記ニ相見得候間

右之品々此度猶更 末江記置可然候段田辺喜七郎申聞候事 定置候間、 留江記置 候様可仕 右屋形様江も被 由被 仰出 候、 仰上候上被相 服忌合之

延享弐年九月

妾腹之子実母之服只今迄之通可相達侯、 右は同年九月廿一 日之日付二 而対馬 実母親類 方な申越之、 (ハ倍臣)

等

上る士分之格ニ被成候者ニ

候 ハ

服忌可相

達候、

其

外軽キ者之服忌ハ不可請事

附、父方母方共ニ祖母妾ニ侯ハヽ右ニ准シ侍格ニ無之

女之服忌ハ不可受之事

右之通此度御吟味之上被相改相触候事、

寬延元年十月八日

右は田辺喜右衛門江吟味之上相伺無御異儀旨被

仰

覚

実方弟 △右弟他江養子ニ参候已後又以右養家ゟ他家江養子ニ

参ニ候得は、最初養子ニ参候節実方ハ半減之服忌 相成

再

候処、 又以他家江参候得ハ最初之養家之服忌ハ無之追

而参候養家之方ゟ右実方半減之服忌相受候訳ニ御 若又一度養子ニ参実方半減之服忌ニ相成候上ニ又 座候

以他家江養子二参侯訳ニ而実方之服忌 向無之訳ニ相

△御付札

二而 幾度養子ニ参候而も養方と申候ハ家督相続之養父方 御座候、 併中之養父実方半減之服忌可在之候

一元他人ニ而候得は服忌之構無之と御座候儀は、

中之養父若や実之続も候

ヘハと申事

三御座候

通り参

候

候養家他人ニ候得ハー向服忌無之、元服忌受候親類ニ

無左候得ハ元他人ニ而候ヘハ服忌之構無之候

以上

覚

御附札ニ養方と申候ハ家督相続之養父方ニ而御座候

乍然中之養父実方之半減之服忌可在之侯、 無左候得は

服忌之構無之御座候

相続相極侯方を養家と相定申義ニ相見得侯事、

幾度養子ニ参候とも家督相続之方養父ニ御座候間

下江御付札

書面之通ニ御座候事

中之養父実方半減之服忌可在之候哉ニ御座候得ハ、

通養子ニ参候へハ其実方同然ニ半減之服忌在之訳ニ御

下江御附札

座候哉之事

下江御附札

得は半減之服忌受申義ニ御座候哉之事

書面之通二御座侯

実方ハ服忌無之訳罷成候哉、 候とも、 督相続之方養方ニ相極候得は、 中之養家之服忌無之候得は実方ハ如元之半減之 若又幾度養子ニ参侯とも家 中之養家公又候養子二参

下江御附札

服忌二御座候哉之事

追而

実方何レへ幾度養子ニ罷越候而も実方ニニタ返リハ

無之候事

以上

右は宝暦弐年五月

先達

伊達式部様此度田村之御家江御養子ニ御出被成候得は御 実方之御服忌は如何様 二相 成候哉之趣、 此度林図書 頭

江以公儀使被御問合候処、

幾度養子ニ参侯而も家督相続

71

参

処、 右

様御 申 追 御 渡 A 候段 服忌 別 中之養家之続在之候得 座 候、 紙 写 同 無之訳 尤御 候御 年 五. 月六日 右 附 御 筆 札 之通 日 方 座 日 江 候 付を以 被被 \$ は半 申 此 仰 段各 渡 聞 主 候 候、 減 以様於: 計 無左候得 K 方る申 白 御 此 承 石 方 家 知為留等之如 越 -= は 若年 服忌 無之 寄 江 式 部 \$ 斯 由

之方を養家と申

候

= 付御

実

方

1 相

定候

通

半

減

之服

忌

=

在

丞も

参

六 仙 台 藩 評 定 所 記 録

付、 大指 Ŧi. 郎 可 遂 加 兵 月十二 衛 愈 申 渡 議 儀 於評 旨 日之夜本多源之助 御 同 定 町 組 奉 関 所 相 行 五. 尋 評 兵 候趣 衛 定 父子 所 左之通 御 組 役 -人 疵 御 を 江 近 付 習 御 候 目 御 鉄 由 付 馬 炮 相 組 籠 達 候 松 作

本多源之助 松村 五炮組 郎 兵 衛

右六之丞尋

申

·候処、

十二

日

之夜須

藤

八之丞

所

江

安

達

左

候得 五. 郎 屋 敷 兵 安達左太郎と手 向 衛 須 尋 藤 申 候得 八 之 丞 ハ 所 其 木善之丞 = 夜近 而 口 論 所 江 御 論 参 座 酒を給 仕、 候 間 其 取 座 鎮 罷 口 帰 関 申 臥 六之 と存 居 候

口

兵衛二 処、 無之処、 節 を取 たく 候と申候得 あ 候 罷 な 当 8 世 酒 U 而 有 、脇さし 我等親 人 候 鎮 小 候 色 給 は 為 畢 疵 内 H 無別 それ 酔 竟 付 口 申 申 を 互 申 あ 何之弁も 共不承分 をつきたを Ŧī. 条還 参侯 抜切 = 候、 る 善之丞居 兵 N 衛こ 酒 候 付 内、 六之丞儀 而 -1 給酔右之仕合無拠儀之由 其 1 申 む 3 なく立く 身凶 候 左太郎と善之丞を引分置 なもとを取 N L 候 申 畳 所 量敷之せ 関 其 と申 事 兼 候 わ 仕 あ を六之丞見 H 五. 候間 ま 別 1 兵 引ふ ŋ はき所 衛 不 ŋ 而 -届之段 右之所行 懇意 太刀当 屋 敷 世 申 きたを 付 江 右人数 相 n 而 而 五. 付堪 申二 御 糺 毛 候 郎 大勢 哉 鎮 頭 尋 申 L 兵 候 付 忍 衛 口 意 Ŧ.

不仕

向

とミ

成

カコ

行当 示 調法 至 極 之由 申 候事

而 処 申 口 趣

其

論

関五兵衛嫡 関子組 御 近習御 鉄炮 之 丞

論 郎 并手 仕 Ŧi. 候 郎 内 木善之丞 兵 衛 参、 Ŧi. 兵 省寄合酒 衛 そ を れ 五 6 郎 親 を 給 兵 Ŧī. 衛 候 兵 上左 0 衛 きころ 屋 太郎 敷 は 何 善 之丞 L b 候間 参 候 致 而 何故 猶 論 更 候 親 処

由 抜合候内あんとんをふミ消し見分可 をつきたをし候哉と申候得 候間、 申二付、 むな本を取候得 左太郎と善之丞致口論侯 ハ脇指をぬき切付候付、 ハ うてむくり二而とり 申様無之内被取 ハ、何とそ取鎮不申 私 抑 8 カン 候 則

剰其身家内迄大勢つれ

参当人ハ無別条候処、

其身と五

郎

兵衛凶 之所行只今御尋二 を給八之丞所ニ而も給以之外 候処、 六之丞親五兵衛儀 事仕出 世 は き し不届之段相糺申候処、 所 而行当不調法至 二而 五郎兵 大勢い 衛二 酔 とミあ つきたをされ候哉 極之由 勿論外之者共 ひ候内自身ニころ 其時分宿 申 候 も給 と尋 而 酔右 8 N 申 酒

申

きたをされ

ハ不仕由

五兵衛申口

御

座

安達 左士衛門元組 須 藤 八 御近習御鉄炮組 本多源之助組 太 郎 丞

之

罷

互二給; 家内江右左太郎関六之丞手木善之丞をまねき酒を給 右両人尋申候処、 而給候くら 酔 候 上左太郎盃を善之丞ニさし と申候而盃をなけ候得ハ、それを致口論 当御切米被下置侯祝儀可仕卜存八之丞 候時 分 5 ぬ 候処、 兼 五

> 兵衛 事仕出 所江 何 L 申 レも参侯 候、 畢竟何レ 而 互 二二申 も給 あ ひ候内 酔狂之あまりニ 五郎 兵衛と六之丞 而 外二

X

7

無之由 同 之申口 = 御座候事

手

木

善

之

水

うぬくらへと申候間、 屋敷うらへ参居侯内五郎兵衛六之丞凶 なと被頼其 夜五兵衛方ニ 右善之丞尋申 論仕五 めやうと申 兵衛所江 上酒を給殊之外給酔居候処、 候而 -候処、 而酒を給罷有候得 互 何 兼而関五兵衛家内を借り = V 致口 8 VI カン 同 論其盃取不申候、 に私式ニ候共あまり = 罷 ハ、八之丞所 帰 候内ときやく心有之、 事仕 左太郎 出 それ 罷 候 江 有候、 成 被 由 盃をな 5 呼 = ル 御 町 VI 座 P け 用 其 X

L

口

剰盃も 候、 在処、 左太郎儀酒狂之上うぬくらへとなけ候 手取不申案外成仕形不 酒 ニ給酔候を見添 なから慮外成挨拶等 届之由 糺 申候処、 ハ 構 其 VI 時 た 不 分 L 申 口

之外給酔何之弁も 右僉議之趣を以凡下罪付吟 一人并 出 入司 野 無之申あ 村内記、 ひ候 田 、味但 村 由 書 木志摩、 御 座 清水主 候事 評 定役浅

奉行望月内記、

石母田市之丞、

評定所御役人小原吉

御

町 井 閉

門

助 遂 相談及披露候処御仕置左之通被仰付候、

御 改易

其

給

酔右之仕

形不

庙

至

極 = 候、

依之右之通

被

仰付候、

竟 衛

大方儀関

松村一松村大 五炮組 郎 兵

六之丞 疵を付候品 御 愈 議被 成 候得 ハ 畢

御本鉄多

家督

I被指除

方儀松村

郎兵衛二

-給

酔 五.

無十

関地組関五年 丞

愈議 被成 候得 は

方も仕形不 疵を被附候品御 届之至候、 依之右之通

海近習御鉄炮組本多源之助元組

之 丞

蟄居

仰付候、 双方酒

世、 其 方儀座元 左太郎善之丞口論之上松村 = 而関六之丞安達左太郎手木善之丞酒 五郎兵衛立合 X 事 為 を給

不 調 法之至 依之右之通被 仰付候

御木 近幡 安達左

太 郎

其 右之通 方儀 酒 仰付候 給酔手木善之丞と口論 仕不 調法之至 侯、 依之

無御

構

本多源之助 本多源之助 五炮元 組組 兵

衛

右之通 廿 其 日牢 方儀御愈議之上不調法無之段被 可首 尾旨 御 町 奉 行 望 月 内記、 石 母 聞 召 田 手 市 届 木 之丞、 候、 善 之 御

目 丞

付

源右衛門、 脇坂又八郎、 1/ 御 原 吉助、 用番 御 大江 武頭 文左衛門申渡之 永嶋 市 郎 評 定 巻評. 所御 役 定 人 所 永 納 倉

者 也

宝 永 七 年 正 月 # H

> 布 施 和

泉

津 田 民 部

大

町

監

物

F

鮎 貝 兵 庫

之国 江刺 行評定所御役人申渡於評定所相 大金之申 郡 分 町 高寺村百 懸ヲ 雁 金 得 屋太左 無拠 性 八郎 衛門 由 左衛門子長兵衛儀、 訴 申 所 出 宿 候 付、 を取 尋候趣左之通 居候 日 遂 一愈議旨 処、 病気為療治 博奕之上 御 町 奉

江刺高寺村百性八郎左衛門子

屋太左衛門所ニ宿を取居候処、去年霜月廿八日北材木町右長兵衛儀、一円耳聞得不申候付、為療治之国分町雁金

六郎兵衛と申者之所江振廻ニ参、六郎兵衛す

町平内立

町新兵衛亘

理之長兵衛と博奕を打、

平内

方よ

Ŧī.

7

めに

而

け候、 半之借方をも為取可申候、 は在郷より金子を取寄返し 切新兵衛方より三切亘理ノ長兵衛方な四切取合三両 兵衛ヲ使に而長兵衛申越侯間、 借り方之内長兵衛方四切之借り方早々済候様 可申候、 何とそ事広不仕候様ニ偏 骨折分二其 只今弐切相 方ニ 済 壱切 三取 打 残 ニと 所 生

衛直々参六七拾切之借り方早々済候様ニと無実之大金を持頼候由申候得は、心得候由請合候処、翌日亘理ノ長兵

手廻り 此上は長兵衛と打 味と見得取持くれ to ね _ 而 少疵付申候得 果シ 不申 候間 可申と存候処、 は 口 I借存脇 居合候者共取さへ候故、 指を抜 宿太左衛門取 かけ候得共、 いおさ

金子を出し

可申候間堪忍可仕由長兵衛二侘申候得共承

者と乍存請人ニ成り金剛院借屋ニ差置候段無紛不

-届之段

受人二立候右伝左衛門召出

弥兵衛事元来る懇

而

立帰

仕候故、

六郎

兵衛二

々申聞

取

持賴候得共、

長兵衛と

申かけ然と附居ね

ニ品れ

申候間、

色々申分ケ候得共承引不

引不仕候付、不及是非目明十右衛門方迄訴出候由御

北材木町 兵

衛

座

候

新五兵

衛

之借 右両 理ノ長兵衛ニー 方共 人二 二長兵衛申 相尋候得は、 味仕無実之儀を申 出 候通相 博奕を打江刺高寺村之長兵衛方江 違無御 かけさせ 座候、 候儀 六郎 兵衛儀 無之 耳

也工是或英ヨ即至英、由申侯、亘理ノ長兵衛儀只今は伊達領ニ罷在当座

=

御当

地江罷越候由御座候、

安 左 衛 平内長兵衛両人之者欠落行方相知不申候事、 不無正八郎宿守

兼而 引まとひ立帰居候段此度之御愈議ニ 衛 右衛門申 左衛門と申者ニ候処、 小田原金剛院借屋二居 姉舞 懇意 三而、 出 = 候処、 候間 先年科有之他国御 此 弥兵衛欠落行方不相 者長兵衛行方存知 弥兵衛卜名改先年奴二成侯、 候弥兵衛と申者 追放 候儀 顕 = 成候矢目御 知候付弥兵衛借屋 八北材木町 難計 亘 理ノ長兵 候 由 足 六 目 軽喜 郎 明 + 兵

御宮城市

妻子奴家財欠所

無御

構

妻子奴家財欠所

75

納置 右之通

者也

可首

尾

旨

御

町 奉 至 極 御 座 相糺申候処申晴無御

座

候、

剰御

愈議之節色

×

申募重

一々不

村内記、 右愈議之趣を以罪付吟味評定役浅井隼 田村図 書、 清水主税、 御 町 奉 行望 人 并出 月 入司 内

野

中

佐

助、 石 母 大江文左術門遂相談落居左之通 田 市之丞、 評定所御役人永倉源右. 衛門、 小 原吉

妻子奴家財 欠所

他

国御追放

妻子奴家財欠所

他

国御

追放

六 郎 兵

衛

立 町

新 兵 衛

右山

郎

儀、

去年七

月七日

幕方白

石

城

廻

ŋ

堀

は

たにす

1

内

伝

左

衛

門

北材木町

石黒正八郎宿守

御足軽喜左衛小田原金剛路 平

右之方目之上る上口

U

る迄被切付候付、

江刺高寺村百性八 長郎弥立矢屋左左 兵衛 兵

行評定所御役人申 渡 之 巻 評 定所

而

則

自

害仕

相

果候を、

後二

承

候得

1

八十

郎

=

而

候

由

申

施 和 泉

> 氏家主 自害相 藤九 水 組平 果侯段相達侯付、 左衛門嫡子佐藤 由市 助次男平 Щ 可遂愈議旨御 三郎 田 八 + = 一手を為 郎 儀、 介負、 町奉 片倉小十 八十 行 評定所 郎 郎 儀

左之通

御

役人江御

目付脇

坂又八郎

指

加申渡於評定所相

候

氏家主水組平田 大郎下中佐藤 九 三、十郎下中佐藤九左衛門嫡子 田 八 十 十五歳郎

ミ居、 罷有、 山三郎 猪狩平八十 土 手江 四 成歲、 寄 かっり 加藤 助内拾弐歳 居 候得 ハ何者ニ候哉与風 此 両 人 8 同 所

申候、 脇指を抜打付候得ハ手こたへ 目江 血入二ノ太刀打可申 VI 様 たし 無之内彼 む カン 5 0 者 刀を打 引去候 落

候得共下中法度之儀其 + 郎 と品も 御 座 候哉と尋 上押付奉公ニも罷出候筈 申 候得 兼 而 執心 之由 候

町 監 物 Ø

大

宝

永七年二 月三日

布

申 付

聞

笹之丞 申 故旁以不 候処 通凶 由承及下中稠敷法度二被申付置、 = 葉逸平を以八十郎方江侘仕候得 江 を以申入候得 L 聞 御座候、 可 礼迄申談始終事済致満足罷有候得 事 申と存候付彼是侘可仕と存、 候 相 出 一両人を頼千葉逸平と申者兼而 違 龍 無御 候 依之九左衛門二承候処山三郎二八 右之儀ニ付ケ様之所行仕候哉外ニ存当無之由 成訳申 由 座候、 申 ハ可存留 候 談合点不 畢 依之右新左衛門笹之丞逸平をも 由首尾能挨拶二付、 竟男色之望調不申意趣を以切 仕 候 ハ存留 其上押以 親類関 此儀 八十郎 b 親 七月 屋新 可 付奉公ニも 九 十郎 江 申 左 其以後八十郎 七日 懇意付逸平 由 衛 左衛門同 執心 門 致挨拶由 1晚右之 承 相 有 及千 尋申 付自 弟 H 之

見 八 届 十郎死骸御 申 候 徒目 付被遣為御 見届被 成候処自 害 無紛

右愈議之趣を以及披露候処左之通落居被

仰付候、

害仕候ニ紛なく

承

届 申候事

紛

氏家主水組平田市助次男 片倉小十郎家老 佐藤山左衛門嫡子 日野甚五左衛門 郎 郎

無御 死損

構

三小十十

- 日温塞

三十日即 17. 温方を

付、 郎

> 片倉小十郎家老 橋 五. 郎 兵

不審 儀も 衛申 候付取仕廻寺江遣置候段家老日 無紛と相極 成仕形ニ侯間右甚五左衛門 下 由 趣御 監物和泉方と申渡候処、 候得 由 御檢使被遣候処八十郎死骸櫃 中佐藤九左衛門嫡子 市助次男八十郎儀男色出入二 可有之候処、 徒目付見届 = 候、 ハ道 死骸寺江遣候儀自分之仕形候、 場 筋 所 二候間目付物 凶事出来之段此 相 指置 達候 不申 上 Щ 六其段 三郎を切付即日ニ自 右之通申付候由 五郎兵衛儀呵 - 候得 頭指遣為見届 野 方江住進仕置行(注) 甚 付去年七月七 江 ハ自害之様子 ハ無別条候得 入寺 Ŧi. 左衛門高 口 = 指置 申 乍去も自 自害無紛見 申聞候事 旨 八共、 等難! 害相 橋 日 候 候 小 付、 晚 上自 五. 郎 見 郎 果候 小十 卒 害 方 爾 無 害 届 兵

者也、 右之通 脇坂又八郎、 源右衛門、 可首尾旨御 小原吉助 御用番 町奉行望月 御武頭南村甚太夫、 大江文左衛門申渡之一 内記、 石 母 評 田 定 市 卷評定所納置 之丞、 所御役人永倉 御目 付

宝永七年二月三 日

施 和 泉

布 津

田 民 部 衛門

所 左 帳

=

而 門 L 所 指

書

調

相

出

御

郡

司

聞

判

相

調

候

無紛

候 肝 地 衛 御 長 指

形

請

取

人

長

衛 直

弟長兵衛其外之者

共立合連

判之願 右衛門

書 幷

地 人

形を

軒

永代

=

売

渡

候儀

は、

其節勘 門才覚

役

中渡於評

定 訴

相

尋 候

候得

は 日

長右 愈

衛 旨

-

而

勘 定

右

次郎右之訳

追

付

遂 候処、

議

御

町 衛門 衛門

奉

行

評

所 後

右勘

五

郎

儀

養父勘右

衛門

幷

長次郎

=

K

くま

れ、

女房迄

地

代 郎

金

勘右

衛門

方江

は

為手

取

不申 永

手

前

=

始

末

候

由

先年

勘

右 出

衛門訴

出

勘右 長右

病死以

Ŧi.

実父長右衛門

二五

拾

切ニ

代被売候儀不

存候、

且.

諸 帳 Ŧī.

事

取

切

分 拾

而 =

事を済 永代

其

、上首

尾落:

協力 諸

衛 尾 軒

衛門事

を 共

仕 有之故

调

L

得共、 入久右

外二

長右

門 \$

首尾

落共

有之疑を得

様

VI

置

付

而

中

扱

不

募候、

疑

敷

事 候 迄

訴

H

候 た

儀 L

は

=

候得 度取

共

段 用

H

議之上疑

とけ

候 を

1 極

理合合

点可 無余儀

仕

処 事

無其

儀

其

身推

量 御 申

を持 愈 申

は

n

候儀

不

庙

至

候

鮎 貝 兵 庫

家督

遣

L

売置

候

地 Ŧi.

形 郎

\$ =

候故、 五

勘右

衛門

地

形

大

町

監

物

(FI)

石長右衛門儀

次男勘

金子 取

一両持

参為仕、

勘右

開 勘

八黑 郎川 長兵郡 次衛帝

郎

儀実父勘右衛門 地 形 壱貫百 1弐拾 几 文之所、 養弟

右長次郎

直 郎

五.

切 =

=

相

渡立

引 共

等迄

其

分方ニ 応吟味も

而

首 仕 1

進 し、

退

と存勘右衛門

方之親

類 返

=

8

不 致

門父子 疑心 を以 訴 出 候、 畢 竟 長右

-VI たし 置 候よ ŋ 事 発り 不 届 至 極

町

勘

勘衛

Ŧi.

候

居 左 つニ 様 口 之訳 成 申 処、 b = 居 候 同 悪キ 所之弥! 1 様 1 双 一被仕 方親 郎 懸不 と申者之所 類 共 及是 8 申 非 聞 龍 江引込居 候 出 カン 候 実 由 候儀 父 申 方 候得 畢 成 竟 共 共

行 跡 之仕 形 候

町

断

甚檢

門

黒川 長右衛 甲甲

共同 町 儀兵衛 相 果申 候を押隠シ 頓 死 ح 偽

左 9 衛 死 門 骸

町 町 **外**

仲

右 右 右

衛 衛 衛

門

門

仕

廻侯段此度長次郎御詮議

=

而 顕

申候、

就中甚右衛門久 右覚兵衛儀去年 九月廿九日之夜同 家添置 葛西三郎兵 候姉

右 衛門儀は役目も有之候処 右愈議之趣を以罪付吟味評定役浅井隼人幷 右之仕形 重畳不 庙 至 出 極 入司 野

石 母 田 市 之丞、 評定所御 一役人永倉源 右 衛門、 原吉

村内記、

田

村図書、

清水主税、

御町奉行望月内記、

樋口 段相

十次郎指加申渡於評定所右覚兵衛相

尋

達候付、

可遂愈議旨御

町奉行評定所御役人江

御

申

を切

付候

兵

衛

高橋三次郎母

=

候処三次郎乱気仕候付、

最前親 候得

類

共 右 目

申 姉 付

助 大江文左 衛門遂相談落居左之通

三拾日牢

廿日戸結

黒川郡富谷町八郎兵 長 右 次衛 衛 郎

富谷町検断 同町勘右衛門 甚 右 五. 衛 郎

同町肝入 門

仲 久 右 右 衛 衛 門 門

同町

十五日戸結 十五日戸結

#

日牢

舎

久 左 衛 門

町奉行評定所御役人申渡之一 巻評定 所

江

不

- 申候得共羽

織之様

ニふ

わ

と申

候間

無疑盗人と存、

右之通 納置

可首

尾

旨

御

者也

宝永七年二

月廿六日

+

戸

+

白戸 日

布 施 和

大

町

物印 泉

存盗·

上在所二押込置、 母を ハ姉之儀ニ候間覚兵衛所 江 引 取 申

為臥、 姉并覚兵衛嫡子作太夫当年拾六歳 覚兵衛夫婦ハ茶之間 二臥申侯、 然処去月廿 = 罷 成 候 を 九 所 日 夜

兼 候、

別而家も

無之候故居家江まかりニ小

座敷をし

0

5

更小座敷之腰せうしあき申音い 申候間、 盗人忍入申侯儀ニ可有之と存、 たし候由覚兵衛妻承 則 起 申 0 け 候

せうしあき候而庭に人かけ見得申候、 而 茶之間之ひらきる庭江罷出 小座敷之方見申候得 闇 而 はきと 1 見 腰

則 留 協指 可申と存候得共とかく近 ニて抜打ニ切付申 候得 所之者ニもしらせ申候た 無言にてたをれ申 8 ٤ 討

切付候者を見申候得 人切付候由声を立候得 ハ 盗人ニハ無之伯母 子とも作太夫承 = 候由 付則 申 罷 聞 候 出

付申

た

る儀

=

御

座

か

脇

而

付

候

得

間

近

丰

右之通

口

首

尾

旨

御

町

奉

行望

月

内

記

石

母

田

市

之丞、

御

Ħ

付

風 =

妻 而

切

候

条男女又

は 口

何 有

之風

俗

VI 切

カン

11

夜

候 事

共見

わ

け

口

申

処

卒 様

爾

成切

付

様 申 指

不 儀

届 \$

之至

一と承 にや

届

由 0

候

倉 樋

候

宋

永

t

年二月廿

七

布

施

和

泉

御 け 由 5 き 女 小 而 7 = 進 外 徒 4 由 至 目 立 無僕 同 N 侯 お = 相 8 極 こさ 品 付橋 出 = VI 土貢 尋 尋 由 体 当 \$ 申 た 見 申 無御 れ 故 本 聞 候 L 年 申 侯 可 とうて 六拾 ·候得 兼 孫 候 処 候 処 申 覚 哉 座 + 盗 疵 郎 兵 様 候 歳 とくと臥 11 N 人気遣 衛 円 罷 は お 余 無之無拠 だと姉 0 類 越 N 無 は N あ 焼 相 罷 た 言 べさき少 ま = 以 尋 間 = 成 を 入 (候節) ŋ 存 後 仕合 申 柄 而 れ 候 よく = 罷 5 居 屋 候 罷 う切付申り 処 何之わ 有 候 之由 有 敷 覚 候折 かこひ 外 兼 候 を 兵 覚 衛 二存当 則 由 而 申 きま 兵衛 柄 候 吉 申 病 座 -を 聞 付 寝 \$ 敷 人 一之品 耳 生 申 姉 候 立 江 8 をも 江 子 は 口 而 VI 候 なく 一之通 親 た 与 聊 付 共 6 候

故

則

親

類

共

為

知

由

候、

卒

爾

姉

を

切

什

申

候

儀

御

愈議

被

成

候得

ハ

居

続

0

5

N

を

太 調

、方夫婦

茶之間

候 屋

処、

九 本 敷をし

日

夜

更

小

座

敷

之 姉

脇

#

条姉 申 存 打 有之と存庭 至 \$ 候得 盗人切 人影 留 5 極 之様子 為知 わ 可 付右 申 見 付候 候 と存 之通 盗人 1 由 申 江 由 候得 申 VI 申 候 出 = 声 被 か 出 候 1 を立立 12 共 間 闇 候 座 無之伯 闇 無 敷之方を見 仰 K 7 付候 一候得 12 脇 7 疑 ても かく近 は 指 盗 = 母 人 きと見 と存 之由 見 而 分 子 一候得 所之者 切 付候 共作 得 日 申 脇 申 聞 指 不 得 太 腰 処 候 申 = 卒 夫承 - 候得 故 L 世 而 間 5 驚 5 爾 抜 うち 付則 世 Ĺ 近 人 共 切 則 候 羽 丰 明 織之 付 事 親 罷 た K 候 切 類 出 8 不 -加 候 付 共 見 庭

早 無之 類

速

-

故 き N 作 不

7

あ 5

> 5 臥 品

Ĺ 其

明

丰

候音

VI たし

候

由 臥

妻申

聞

候 # 11

間

盗

人忍入候

儀

口

共

源 口 + 右 次郎 衛門、 小 御 用 原 古 番 助 御 武頭 申 渡 之 大 河 内半 卷 評 定 四 所 郎 納 置 評 者 定 批 所 役 永

津 民 部

大 町 監 物 F

百半日進 其 方儀 門被召上 右 去年 愈 議之 九 月 趣 廿 を 以 九 及披 日 之夜同 露 候 如 家 御 仕 添 居 置 左之通 候 黒 姉 田 = 手 覚 を為 兵 仰

負 衛 付 事

候

鮎 貝 兵 庫

郎

宝永四年十二月十三日桃生郡柳津村六左衛門手前

る同

申

1

申者無尽代三貫五百文取候処、

右

両 郡

針岡 、取候党 村勘平勘十郎 無之印 判 \$ 相 達二 候、 致末書侯肝入権六判 11 正

円覚無之候間御愈議被成下度由権六訴出候付

判候得共

之書出 同郡横 相調候由 町 申出候、 鍛冶孫右衛門右長次郎ニ被頼三貫 且又横川町権平卜申者市中 (五百文 = 而

可遂僉議旨御町奉行評定所御役人申渡於評定所相

一尋候得

針岡村五平次ト 処相違無之候、 将又宝永四年十二月始横 申者出合承候由 一付而彼 ノ五 III 町二歳日 平次 相 市 私 候 長次郎二出合右無尽之取次を被頼候得共不受合候、

其節

郎

方江申

断

候得共不埒二申断不届至極

候得共手

前

る申

肝 入指図 権六罷 帰 而 付為御用之印判を長次郎 不 龍帰 候付晚 方印判取 返し 預ケ 候、 置 候、 此節長次郎 然処大 付権六長次郎も詰居候処、

同

十三日朝

二用

事

有之針岡村

丞

行無紛候条数度拷問仕候得共落口 無之候

柳津 名元二而無尽代七貫五百文取済方致難渋候付相糺 町六左衛門手前ゟ宝永五年三月朔日針 岡村与 七郎 候得

候、 右七貫五百文之指出証文喜兵衛手跡似寄候二付相 名元印判共針 岡村ニ無之謀書謀判之由 肝入権 六申

候処、 円不存由申募候条拷問仕候得共落口無之候 桃生郡横川町鍛冶

長次郎 二被賴無尽証文謀 書を書調、 其 上致 披露候節長次

候事、

右愈議之趣を以罪付吟味但木志摩、

評定役浅

并集人、

出入司野村内記、 評定所御役人永倉源右衛門、 清水主税、 御 小 町奉行石母 原吉助、 田 市之

左 衛門 遂 相 談落居左之通

桃生郡針岡

妻子奴家財欠所

牢朽

同村右長次郎弟 衛

無御

も十三日之儀にて証文も日付十三日ニ

候、

旁以長次郎

所

印判被盗候哉と権

一六申

出

位候、

孫右衛門ニ

指

を頼

書候

日控

預

候様二申

入候得

知客他

行之由

=

帰

応之断

もなく

翌日

名

取

柳

生

府

柳生

寺 付申

を

後 置

住 罷

申

付候

由

而

押而

指越候間対面

も不仕候、

其以後檀

内

6 仙台藩評定所記録(宝永7年)

> 置者 右之通可首尾旨御町奉行評定所御役人申渡之 也 巻評

無御

同郡

孫川

右蝦

衛治

門 所

談之上雲洞院を後住

願候得共

取

上無之付、

又以檀

定

納

中 中

連 相

宝永七年三月二日

布 施 和

泉

之処、

町 監 (FII)

大

候ことく願候様ニと指図に付、 院を仕度段本寺松音寺江窺候得は、 八塚 福寺柴田 長泉寺儀老衰付隠居 船岡之大光寺を願申 仕、 後住 候 右雲洞 然処永住 = 松音寺先住 院并 宮城 之甲 田 子 御 斐 城 代 之雲 B F 西 願 洞

> 之通 御目

出候得 後住 得共是又任 而 く寺内居荒シ類焼以後一 願 之願 侯儀不届 共叶 は難 不 願候由被申 取 候得 申 候付、 上候、 共 左候 付、 且 老衰故隠居之儀 又修覆 方之取立もなく小 無拠存後住之儀色 1 存 金拾 寄之儀 両 は順 可 指置 候 間 ニま 屋 一懸之儘 後 H 由 住 追 カン 11 分 訴 せ 候 両 相 候 =

> 合之由 寺相応 付馬籠作太夫指加申渡、 判 訴 此度隠居後住 K 建立 出 而 侯 指出! 心修覆仕 付 一候得 可遂愈議旨御町奉行評定 願 は三日留 之砌不寄存儀共を被 公辺并本寺惣禄檀 置相 於評定所双 返シ 申 今候, 方相 中 る違 所 申 御 尋 懸 住 役人 無拠 職之内 候 乱 趣 \$ 江 仕 左 無

長惣録 松寺 八塚曹洞宗 泉 寺

本拾五 拠存候、 候間· 之客殿庫 候得共当分三尺五六寸廻り以下弐千本余も可有之候、 分焼失仕候、 右長泉寺訴出候 度も左様之断無之処ニ此度右之通申懸候由 本寺之儀と申 一両二. 裡 客殿之屋根 建立: 相 払萱繩竹飯 且又類火に而家近之木は大分ニ 仕 ハ寺内之木伐払居 卓 候共支無之候、 -速其断 替 可 仕 米 と檀中 等 \$ 調置 可 有之処、 若伐荒 候処、 江 荒 8 2 候由 相 去年 L 談之上杉 拾 [松音寺· 候 焼 五 春 ハ 失い 年 類焼之時 住 隣 五. 申 た 拾三 懸 職 之 依 居 L 無

申分も無之処永住之内左様之儀は不仕為私欲之伐尽申 此段松音寺江尋申候得は、 修覆建立之方ニ用立候得は

去々年御屋敷奉行る寺内之木払申間敷由御触も有

之候処不届ニ候、

寺内二弐千本程有之由ニ候得共用木

由申付、 ニも不罷成細木何程相残候而も身分之晴ニは罷成間 御徒目付佐沢源助を以相改候得は左之通御座 敷

候

杉三百九拾五本

同四百三拾壱本

四尺三寸廻りる弐尺廻り迄

壱尺九寸五分廻りる壱尺迄

杉四百弐拾九本

九寸五分廻りる五寸迄

合千弐百五拾五本

栗弐拾九本

七尺廻りる三尺廻り迄

同八拾本

式尺九寸廻りる壱尺迄

合百九本

雑木百三拾九本

四尺七寸廻りる壱尺三寸迄

都合千五百三本

右之通太木共有之候を一向用木ニも不罷成細木計有之趣

ニ申出候訳追而松音寺江相糺申候得は、先寺之代る有之

之通申上候由申聞 本成共用木ニ成侯を伐侯得は伐尽ニ有之との心入を以右 候、 畢竟事を重ク申なし候儀松音寺不

候太木共伐尽候故其身代ニ植立或は残候木有之候共、

調法と奉存候事

松音寺申出候は、

覆等之材木

二用立候外売方等

二仕間敷由 御城下諸寺院

天和年中四ケ寺吟味に而寺内之樹木修

之由に付長泉寺相糺申候得は、 江申渡置候処、長泉寺儀段々ぬきく、ニ相払候儀無隠儀 先年江湖相附候時分飯米

弐本荒町権兵衛と申者所江遣し申侯、 ニ行当杉弐拾五本を五拾切ニ相払、 此外塩噌糀之代二杉 右之外ニは屋根替

先年上方江罷登候留主之内監主雲洞院相払候時分ハ惣録 可仕と五拾三本相払申侯、 右之時々何方江も届不申候、 通

願

候得

は不

寄存儀を被申懸侯、

最前

内意窺候節

方

HH

口

然由之儀、 付外之挨拶

出家道之理合は左様

無御

座

永

調法

不仕

候、

且

又

申

-付を違

背

VI

た

L

候

不仕 段相 致 相 披 伺 払候儀長泉寺不 露 売 払申 口 申 処 由 天 御 和 座 調法之至と奉存 年 候、 中 無余儀 四ケ寺之申 入用 渡を請 = 而 相 な 払 から 候 1 届 1

松音 殿等も 同 家 申 足 覆等も不仕 なは古ク 聚侯儀松音寺江相糺申 候 = 寺申 由 由 修 聞 申 相 出 覆不仕古来之木をも伐尽侯儀 聞 候 且又檀· 見得候得 不 候 レは、 届 之由 然 寺内 ル 中之内
る
申出 を寺内居荒殿堂大破なとゝ 共大破と申 付 段 一候処、 日 K 居荒殿 中 候 幷 程 永住之甲斐も 候は先住 玉 党堂大破 之儀 人組 共 重 -キ不 代合家数 VI 無御 尋 た なく 届 申 L 候得 と存 事 候得 座 も作 庫 を 候 共 候故、 重 裡 由 は 修 n 7

火事 由 候と重 而 以 後 後住之願迄 方之取立も不仕小屋懸之儘 一ク申 上候 行取 由 御 上儀無拠 座 恢候、 去年七 K 而 隠居 月 内意伺 願 不 申 届 之

申

懸

候儀、

畢

一竟本寺

惣録之威を以掠候仕

様

承

届

追

而

方之建立 隠居仕後住 尤其 は 節 品 8 可 取 \$ 次 仕 有 は 雲洞 候者 之事 段申入候得は 候間 院 為 を被指置 取次可 先住代 然 度 普 二指 請之儀 候 由 付任 出 候願 左 候 其 は 意先 挨拶 書 之通 1 無之 相 住 口 談 隠 指 相 仕 出 出 候

其

取

立

一候

上隠居

仕

候様

ニとの

挨拶

候

1

1

違

背仕

儀

右之仕合 候 由

方之取

立

可為仕と之儀

若雲洞院

不

申

付候

1

申 1

間

此段松音

寺

江

尋

申

- 候処、

雲洞

院

を後

住

申

·付候

洞院 之内西福寺と長泉寺 付取 所存 申 上 付候様仕 = 相 一ケ不 聞 得 申 痛 由 度色々了 入候得 内 御 座 × 出 簡 共、 候、 入有之段承及 仕 候得 寺之ため 願 之出 八共、 家を 後 難 候 候 住 間 間 申 付 楚粗願 願 候三人 之通 訳有 忽 難 雲

指図 たし 最前内意伺 候 而 ハ 為願、 不 候節 届 其願 候処、 方之取立 難 敢 其 上迚 砌 をも は 相 円 返し 可 仕 挨拶 候節 由 申 無之後住 一付候を ニ至り右之通 違背

候

ハ

其

八趣能

々長泉寺

=

一申含相

返し

口

申

処無其

殊

たし雲洞院を ニ三人之内 松音寺 江 相 何 申 成 尋 共申 候得 付候 様 付 は、 候 = との 様 長泉寺事 願 内 意我ケク 可 申 先松音寺 処、 儘 和 成 談を 代 たし 和 違変 談之通

も請 出家道之理合左様ニハ無之由之儀、 寺る別之僧を後住 も可有之儀 合之挨拶も有之候 寺江承候処、 出候得共長泉寺過失共有之候付、 ケ寺共 候儀は、 処、 不相聞候、 たる儀候得は是非共雲洞院後住ニ 旨出家之本儀取失候付呵 出家之本儀ニ候処雲洞院を不申付候 を後住ニ仕 住之内不慮之火難ニ而焼失仕候間弟子ニかきらす何者 川院を以内意請候節先寺之代願之通 其 カン VI 訳も無之候得は理不尽ニ 申所存之者二 願候様 西福寺ハ輪王寺末寺ニ候故除候儀如 候 夫共二出家道之理合をとくと申含答メ可 候共庫裡 長泉寺合点仕候様二致指図 長泉寺内 二申渡候儀御座候、 二申付候、 成共立置、 無之故理合不申渡 意願 本寺と申 候由 且又長泉寺儀何を申 付 は 相 其上隠居後住を願候儀 願之出家は 録所之儀 聞得 仕度と申 龍川院を以内意 円 松音寺大本寺輪王 右之通申渡願 ハハハー 不相 二可 候段糺 候而其 由 候間 構過失を申 候 申 出候事 向構申 相除 何と存三 出 申 上不都 候処、 申 由 一付様 候而 松音 為相 中渡 二七 ヲ窺 間 申 敷

付候儀理不尽ニ相聞得出家道之本意とハ不存由申聞

候

談と御座侯儀松音寺身分ニ而難調事

三御座候、

三ヶ寺

然は御 候儀と承 一尋ニ行当出家道之理合は左様 届 重畳不届之至ニ奉存候 三而 無之なとゝ

而

を願 は不仕旦中帰依も無之柳生寺を押而後住ニ申 檀中願候雲洞院は指支候間余人を願候様 二旦中一和仕一同二願申様 之方江 付候 之訳松音寺江相尋申 無之候共、 を申付候由御座候、 申 = 此 願 つとく為仕長泉寺ニも申含、 中も両 -付度色々了簡仕候得共長泉寺西福寺出入之儀有之、 可仕由之被仰付無御座侯、 段松音寺江尋申候得は諸寺院後住之儀 候方も有之由候条二わ 申 ハ、違乱有之間敷処、 儀 相 も可有之処其申渡も 付可然哉不及了 . 方江引分り罷在侯段承侯付三人共相除柳 左様ニもめ候後住ニ候 候得 旦中之願次第二可申付由之被仰付 簡 かけニ は、 二吟味可有之処、 畢竟純熟不仕仕形と承 儀 無之、 旦中引 何も 二御 勿論長泉寺願候三人之内 罷成難申付候 ンハハー 座 旦中之内ニも 分リ 候 和之上柳生寺 中渡候 入旦中 日 両様之願 旦中之願次第 中 付候由之事 左様之吟味 ハハ、 ハハ、 江も 和 西福 届 何 を申 生寺 夫共 n 别

日

江

相

尋

申 一候処、

西

福寺外残

ル二人共ニ長泉寺弟子

故双

非を不

承

届

申

付候

而

再乱

危存不都合之様ニ

候

得共、

三人共

=

相

除別之出家申

付候

由

御

座 侯事

及事と存候訳も可

'有御座

一候哉、

然は松音寺不

調法

は

無

師 仕 匠 福 共 候而 寺儀 = 十三回 難 も末々 先住弟子 申 付儀 忌之法事 無覚束候得共、 故吟 候得 味を尽シ 共念頃ニ 江 湖之節招 不 方残念無之、 先松音寺任 出 申 候得 入も不仕、 由 御 共不罷 座 指 先年 义 出

も先住代之通 願 可 申 由 指 図 = 而 相 出候を 向 取 上無之由

西

福寺と致

連

判

願

書

相

出

双

殊当

和 体

談 故 西 福

V 後

た 住

> 両 越

松音寺る

長泉寺儀

両

日

控

預

候様

ニと申

断

候節

知客

他

行

=

候

段及承候得 候 共若正理之方指置 共双方之理 非義之方江申 非不 承 届 候条、 一付候儀 縦 8 連判 難計 三而 。存、 出

此段松音寺

江相

1尋申

·候処、

長泉寺

1

西

福

寺

出

入有之

候

人之内

VI

0

れ

=

成

共

楚

忽

=

難

申

付差

除

候

由

御

本

候

長泉寺不

届之儀

と奉

存

之内 座 生寺を後住ニ仕度存念ニ而右之仕 左 様難 候、 吟 其 申 味可 上西 付 訳候 福寺 有之処、 ハ ハ右之品 最前致 三人共二一 指 二而 図 為 難 形 願 白 申 指除 付候 と承 候儀 候儀 届 ハ 都 残 而 合 松音 畢 ルニ 育 而 御 柳

> 生 日延引 候 故対 一寺を後 預 不仕 候 住 様 申 候、 = と申 付度 且又檀 候 入候内右之仕 1 中 之願 応之断 \$ 合理不 有之候条後 可 有之処、 尽成仕 住 之儀 形 押 而 指

寺

柳

候 由 一之事

其 惣 御 余人江 八以後幾 録 座 之申 候、 其 成 重 渡 上柳 共急度可 候間 \$ 生寺 口 申 先 以 申 申 -付候段 処、 届 応之答 処、 本 寺惣録 無其儀 前 廉断 は 仕、 之下 無之候 罷 在 訴 知を背 申 共 始 度 一本寺又 未成 儀 候 断

との 願を不 隠居後 処、 カン 生寺 一候節も 6 届二 押 此 取 住 遣 方な後住 而 品 L 上方二而 遣侯段難 願之儀委 ハ無之候、 候時 H 委細 分一 申 相 心得 細 付 = 申 応之断 候 然共願之後 返シたる儀 = 儀之由 聞 口 二究りた 候得 上書を以申渡、 無之訳 は 不 住不 御 る儀 候得 松音 座 取 応 候 は 候、 柳生寺 条改 上候得 再 寺 其翌 最 往 江 尋 前 日 は は お 申 申 後 お よ 追 候 候 付候 = 0 住 15 願 処 芝 不 候 指 0

7

旦中之取立ニ而候得は、由緒有之所ニ檀中之願一円取上
が開かをしたひ参候儀も旦中をたのミニ仕罷越寺建立も
が開かる後本寺遂相談可任其意と御座候、長泉寺は米沢
の寺院方御条目ニ旦方建立由緒有之寺院住職之儀は為其旦

大檀那 無之由 間 と承届此段も松音寺江追而承届 例も無御 心院昌伝庵 之右之訳輪王寺江承候処、 基大檀那之事 此段松音寺江 上松音寺先住代二長泉寺開 [柳生寺を申付候段旦中長泉寺ニとくと合点 「之訳々迄を委細 ハ、不快之儀も有之間敷処、 は勿論 [証文指出今更右之通申出 座候、 ハこもり不申 旦 -相 一方由緒江こもり申事之由被申 然共旦中之願難取 而如長泉寺之寺院之儀ニは無之侯、 一尋申 旦 候得 中 は、 江 由 其寺ニ品有之功御 基旦 申 而惣録之内も不同 御条目 聞 難心得 那 候処、 無其儀麁抹 上品々も候 有之哉と尋候得 且又願之後住は支候 = 由 旦中も二つニワ 有之儀 = 成以 御 座候分 VI 聞 は其 ハ、御条 座 たさせ 二有之 候、 たし 候 、寺開 は 泰 依 其

候、

依之御愈議被

仰付候処、

寺内之樹木少々為修覆之

申聞候由御座候、

カコ

り居勿論

西福寺も雲洞院も難申付儀故相談仕悪ク不

之弟子ニ而松音寺当住先住共ニ因無之出家之由申聞柳生寺は誰弟子ニ候哉と承候処、一之関瑞川寺先住

追院

候、

右愈議之趣及披露候処御仕置左之通被仰付候

八塚曹洞宗松音寺末寺

ケ無之御条目

ニ違背仕

たる申

一付様

御座

候由

之事

被申付無拠存候趣四ケ寺江訴状指出候付、 出候得共相除 取立も不仕隠居願侯儀不調法之由ニ 之寺内居荒樹木等伐尽殿堂修覆も不仕 宝永六年本寺松音寺江隠居願指出 所縁も 無之檀中帰 衣も 候処、 無之柳 而 後住之僧三人望 類焼以後一 永住之甲斐も 僧録 生寺を 所る相対 後 住

東請合! 段 破候訳ニは無之由組合之寺院諸 儀ニは無之候、 八不届無之候、 殿堂も古家故ふるくハ相見得候得共及大 乍去本寺な後 住 檀中 柳生寺 同之申 申 渡 口 遣 候、 候節 此 早

先年伐取候得共於に今残樹木大木等大分ニ有之伐尽シ

候

円不請合柳生寺ニ出合不申儀本寺をかろしめ候仕形不届束請合候上何様之訴成共可申出処、無其儀本寺之指図一

候由、

其上八拾歳に及候老僧之儀ニ

候間、

隠居難指

延

訳

当長泉寺弟子候故内

々出入有之、

先松音寺代二和談之上

-右

暇相

出

候三人之内西福寺は先長泉寺弟子

=

候、

雲洞院大光寺

至極 候、 依之右之通 仰付候、

八塚曹洞宗惣録

其方事末寺長泉寺訴状之趣被相尋候処、 永住之甲斐

無

申出

一候、

和談之上 若不相

> 而 何

申出

候上は三人之内僧柄次第

申

子付候か、

応ニ 連判ニ

而

別人申

付候

ハ、其訳を長泉寺

之寺内居荒し樹木等をも伐尽殿堂修覆も不仕候付、

音寺代二隠居願 致類焼候間一方之取立をも可仕処、 候得共寺修覆以後願候様申 無其儀 渡置 小 屋か 候 け

然処 先松 8

も可申含処、

無其儀事を

重ク申立過失申

懸候儀、

0

ま

寺之威を以掠侯仕形録

所二不似合所行不届

至

極

付右之通 畢竟本

にて隠居願侯儀不届侯、 樹木大木等に今有之伐尽候儀には 依之後住之僧望之者不申 付 柳

由二

候、

無之、 組合并檀中共二申出 生寺を申付候 殿堂も古家ニハ候得共大破ニ及候訳ニハ無之候 候、 類焼前先松音寺之任指図客殿作 由

屋をも萱茨ニ二つ三つ相立朝暮之務指支無之様ニ VI た 事為可

取立小萱材木飯米等迄相調置

候処、

致類焼

候

付

小

も可 有之候条過失二申付候儀不都合二 相 聞 得候 段被 相 糺

候 処、 木を伐尽侯と申理合 別而申分無之古木之樹木壱本成共伐取候而は、 二候由色々申 粉し候、 且又後住 望 其

寺

実之和談候哉疑敷候故、

n

12

成共難申 K

付候条相

除

候

願

候様

ニと申

上渡候付、

致和

談候由

而

以

連判申

H

候得共

被 仰付候、

御用番御 右之通 可首尾旨 武頭田中久太夫、 御 町奉行石 母 評定所御役人永倉源右衛門、 田 市之丞、 御 目付朽木近之丞

原吉助、 大江文左衛門申 ·渡之一 巻評定所二納置

者

也

小

宝永七年三月二日

布 施 和

泉

津 田 民 部

町 監 物印

大

貝 兵 庫

鮎

松岡清兵衛元内之者弥助名改

市之進儀、 候付同 元来真 年十月松岡清兵衛所江壱季 山 庄兵衛譜代內 侯 処、 = 相済中間 宝永 五. 奉 年

古

河

町すさハら

公い 直 たし × 小 田 江 道 戸 朔所 江 罷 江取 登、 付 同 六年 同 七 九月道朔 月清1 兵衛方
る
眼 所る暇 相 出 相 候 付浅 [候得

江 口 VI 相下 たし 居 由 被仰付御 候段御徒目付 屋太郎兵衛 徒目付被遺候処、 入間 所ニ JII 平 一借屋い 左衛門 去年極月末罷下 相 たしト 達候 - 咒を渡 付 御 候 世

行評. 由 宿 太郎 定所御役人申 兵衛申候付、 渡於評定所右市 御当地 = 而召捕 之進 相 可 遂愈議旨 尋 候処、 御 小 町 田 道 奉

文字村 申 候 黒川 権平 羽生村 所 罷 Ш 在 候 伏地家と申者之所又は弟深谷之内 重 而 口 罷 登覚 語信 無之江 戸 は

小

H

路金支度い

たし候付宝永六年極月廿日過ニ江

F 罷

罷立

方な罷

出路

金も無之候故咒

1

抔い

たし

古

河

町

在

而別 召出 町ニ居候惣吉と申者ニ少稽古仕 円 候而 二仕 而 疑敷筋之物二 良覚院 廻 電下 候 二為見 は うらない等之儀は拾四五 届 無之由申達候、 候処、 常体俗 一候由申 之取 付、 右之外余二 扱申 所持之書物 年 候書物 ·以前 一悪事 柳

御目

は、

出入司野村内記、 右愈議之趣を以罪 清水主税、 付吟味但 木 御町奉行石母田市之丞、 志摩評定役浅 并集 人 幷

暇を不申

-上候得は不罷成候処、

無其儀殊書置等も

不仕

罷

罷

定 所 御 役人永倉源 右 衛 門、 1/ 原吉助、 大江文左

遂相 談落居左之通

か 由被仰 国 加 他国

出あるき申間軟

敷重

市之進

親類

黒

JII

郡

羽

生村久右衛

門同

那味明

源

松岡清兵衛元内之者弥助名改

衛門 = 石母 田市之丞宅 = 而 申 渡候

右 右之趣

右之通可首尾旨御町奉行評定所御役人申渡之一

巻評

定

所

納置者也、

宝 永 七年三月二 H

布 施 和 泉

物 FD

斯七郎養弟無進退 助七郎養弟無進退 上左 覚 拾六歳

立帰侯段相 右左覚儀去年十月廿 付橋本左太夫指 達候付、 加申渡於評定所 可遂愈議旨御 五日無行方罷 能成候処、 町奉行評定所御役 右左覚召出 当正 ガ 月 廿 一 尋 申 - 候得 人 日

路金ニい 登参宮を仕 兼々 たし去年十 伊勢参宮仕度と存罷 廻 立 帰 月廿 候 由 五 申 = 日存立、 配在、 付、 惣 ほまち金四切持申候 同道も 而 他 無之拙者壱人 罷 候 は 御

之通:

被

仰付候

而

89

永七年三月十

九

日

巻評.

定

所

納置

者

册

加

候儀 出 一候得 口 有 は 御 伊勢 座 2 相 参 糺 12 は 申 有之間 候得 は 敷 御 候、 暇 外 を 願 何そ品 可 申 共 有之 不 心 付 罷

存大小をもさし 風 存立 罷 登 一候外ニ 不 品 申 無腰 無御 座 = 而 候 罷 登 且又御 候 由 境目抔 候 差 支可

申

鮎 大 津

貝 町 田

兵 監 民

物 庫

FD

部

与 出

類 御 愈 議 之趣 を以 及披 | 著名小太郎組川田助七郎 | 著名小太郎組川田助七郎 | 本式を記する 露 七郎兼 党

候

切 助七 其 被成候得 方儀、 致所持候を路 郎 方 6 は 宝永六年 兼 相 達 而 金い 置 候処当 + 伊勢参宮心 月廿 たし同道 IE 五 月 日 かけ B # 無 無之壱人罷 行 罷在 日 方罷 = 候付、 立 成 帰 候 登 付 候 候、 付 ほ まち 其 御境! 御 節 金 愈 III JU 田

帰 候 被見尤不申様ニと存 由 申候、 御 暇 不 申 無腰 剰 無腰 凡下之姿ニ = 而 罷 登 重 罷 畳 不 庙 付右 参宮

=

而

成

致

右之通可首 藤市 右之趣 郎、 尾旨 親 評 類 定 御 JII 町 所 奉 御 助 役人 行望 七 郎 小原吉助、 月 笠 内記、 原三太夫 石 川 母 大江文左衛門 田 田 市 五. 之丞、 亚 次 申 御 申 目 渡 渡 付 候

布 施 和

泉

勝手 人足共諸 H H 方江 = 定 附二 定 附 申 = 遣候儀、 渡 候 付、 軽 御 丰 人足役人賄 御 人足 体之者共 之音 物 痛

役人 成 候 段 江 御 其 目 聞 付 江 有 加 之二 藤 市 付 + 郎 指 口 加 遂 申 愈 公議旨: 渡於評 御 町 定 所 奉 相 行 尋 評

候 定

趣 左之通 所御

-取 御

罷

海人足役人葛西三郎兵衛組 和目伊右衛 用房右衛 同 朝組 倉 権 六 郎 亚 門

定附 綿袴羽 候得 其 味仕候書付役所ニ有之候得共、 右三人江戸 向 々 遣し候御人足之人柄横 織地之類祝儀と申 応 御 人足 し定 , 詰之節 附 諸 方 御 遣し 江 人足共方な賄之音物を取 定附 候格 - 候而持参仕候を受用 申 目 渡 それ 先年 候得 并 肝 を用不 入床 御 作 酒 事 頭 肴 方本 二広ク 鼻紙 申 拙 仕 候 風呂 段相 候 共 横 致 目 吟 敷 且. 尋 吟 慮 申

ニも音物受用仕間敷由被 而 相 附横 目 幷 肝 入床 頭 二吟味不仕 仰出候処致受用、 候 由 申 剰先規定置 付、 御 条目

候吟味書付をも 用不申候儀、 不届至極之段相糺申候処申晴 畢竟賄之音物を取 可申 ため

御座 候

慮

=

而

相

附

候

二無紛、

無

其

方共御人足役人在之処、

而

御条目を違背仕

御

人

足

共方合音物を取不届

至

極被思召候、 私欲二

死罪

=

可

被

仰付

牢朽 牢朽 牢朽

同同人組

倉

権

六

郎 平 御人足役人小梁川中務組

門

同葛西三郎兵衛組

七

高梨源三郎

同芦名小太郎組 勘 郎

御免以後 御 城 番支配

百日閉明

候得共以御宥免右之通被

仰付候、

御作事方

高梨源三

郎

御作事 营谷勘十二

御免以後御城番 支配

御

7

得 其方共御 罷有候由申上不調法之至候、 迄広ク吟味仕筈ニ候を、 八先年御作事方本《横目吟味之上、 ハ先役之勤来候仕形ニなつミ、 人足方横目役相 其方共用不申候品御僉議被成! 務候処、 然共 改而吟味可 惣而定附 去年春出入司 何も立合肝入床頭等 人足を附 仕 江相 共不心付 達改 候儀 候

御長預沼 候由ニ 其方養父権六郎儀、 長太郎 候間御 宥免被成右之通被 私欲 ニ而御条目を違背仕御 仰付候 朝倉権六郎養嫡子 人足共方 几

郎

可仕共不心付罷有候、 足方相務申候処、 江相達、 無之由 最前不心付罷有候儀只今御不審二而行当不調 先役之務来り候仕形ニなつミ改而吟味 二御 其節ゟ横目弁肝入床頭ニ吟味為致候筈 然処ニ追々右ノ書付等吟味仕 座 候事 去年

春出入司

罷

成候、

尋申候処、

勘十郎

ハ元禄拾五年源三郎

ハ宝永四

一年が御

人

人足役人共用不申候段何様之訳にて吟味をも不仕候哉 頭等迄広吟味為致所柄ニ応し遣し候筈ニ書付置候を、 年御作事方本《横目等立合致吟味候上、

右両人御

人足方横目役相務候処、

惣而定附人足遣候儀先

何も立合肝入床

百日閉門

法之段申晴

右愈議之趣を以及披露候処御仕置左之通

仰付候、

其 無御

、方父伊右衛門私

欲二

91

被

仰付候、

構

付候、 子二而罷有右之訳不存儀無之筈ニ侯、 る音物を取不届至極ニ付牢朽被

仰付候、

其

方儀数年

者也、

依之右之通

仰

鳥 海 七 五 湯 海 権 十 郎 養 子 郎

無御

実父渡辺七平儀、

牢朽被

仰付候得共其方儀他苗相

候故右之通 被 仰付候

無御

父七平私欲二

而御条目を違背仕、

御人足共方合音物を取

渡辺七平養嫡子

郎

御

辺

屋喜助名本謀書謀判いたし

御

蔵る金子三拾切相

対

候内養子ニ被 不 庙 至極付牢朽被 仰付候故音物取候訳不存筈候条、 仰付候、 其方儀去年七平江 戸 右之通 = 一詰居

而 御条目を 違背仕、 細 細 目 松 之 進目伊右衞門実嫡子 目 御 人足共方と

音物を取不届至 付右之通被 仰付候 極二付牢朽被 仰付候得共、 其 方 ハ幼 11

右

十次郎

儀

=

源右衛門、 橋本左太夫、 右之通可首 尾旨 小原吉助、 御 用番御 御 町 奉 行望 大江文左衛門申渡之一 武頭白石伊太夫、 万内記、 石母 評定所御 田 市之丞、 卷評定所納置 役人永 御 目 付 倉

> 儀 去

女

右十次郎義去年

極月喜助方江

拝借:

上納

可仕由

御触参候時

宝永七年三月廿 六日

布 施 和

泉

田

民

部

町 監 物

FD

貝 兵 庫

鮎 大 津

宮町 検断永野 甚右 衛門 儀 呵 部 + 次郎内之者 同 町

借仕候品、 甚右衛門実父休栄申出候付、 可遂詮 議 旨 御

奉行評 定所御役人江御 目付朽木近之丞指 加申 渡於評

町

定 所相 尋 候趣. 左 之通

葛西三郎兵衛組 阿 部 組御徒 次 性 郎

御宮 町 抱屋 敷 所 持仕内之者名 元渡辺 屋

申候、 然所同 所検断 永野甚右衛門と申 者

助と致軒帳指置 今度顕 年極 月右喜 V 召 捕 |助名元を謀書謀判仕相対借り三 遣 L 候内欠落于今行方相 知 一拾切仕 不 申 候 候

分、

不

審

を立

段

×

承

は

~ 甚右

衛門

謀判仕

候

段

承

な

カン

6

其

御

謀判仕 段披 先以済方上納可為仕と其通ニ 候以後喜助 露も不仕、 一候段早 速 為申 披露仕 其 以後甚右衛門実父休栄方ゟ悪事 出 候 延引之品 17 1 仕居! 急二迷惑可 尋申候処、 候 以由申 仕 = 甚右 と不 付 悪事 便憋 衛 之品 菛 一謀書 有之 存、 申

切

仕 共 形 之段糺 申 候処二、 内 々 = 而 済 L 口 申 所 存 1 無之 段承候

済方之儀

江構候事 納

無之候間

早速可

申

処

遅

早

上 蔵

成

、候儀、

竟

金子

さ

候

1 =

内

H

=

而

事

を済

口 出

指置

候

其者不便 = 一存致 延引 候 由 申 口 候

右僉議之趣を以及披露候

処御仕置

左之通

被

仰付候、

左 仕 右 立

候

1

1

印判遣

L

口

申

由

申

候間

印

判

相

渡

申

候

源

左

衛

門

葛菅 西野 三正 郎左 阿斯爾門部組元 御 徒 次 小性 郎

五.

+

H

蟄居

不 断 其 永野 方儀、 調法之至 甚右 御 候 衛門 宮 町 依之右 謀 抱 書謀判仕 屋 敷二 之通 指置 候 品乍 [候内之者喜助 仰 存早 付候 速 披 名元 露 不 を同 致 延 所 検

申

候

处如申晴

無之

候

右 卷之内無披露左之通

町 源左屋 正町 衛 門 吉

> 屋喜助名本謀書謀判 宮 速召: る御 衛門 曲 候 納為仕 相 対拝借 正吉 右 町 触参 検断 申 捕 正 候処、 聞候 = 吉 = 申 遣し 候 任 源 永 候処、 -渡侯得 左 而 野 1 衛門 類 甚右衛門父休栄甚右衛門悪事 甚 甚 候内欠落行方相 右 右 族改之事 召 共、 衛門謀判 旧 VI 衛 たし、 門義、 冬極月拝借上納 出 其 相 節 = 尋 一付御 候得 隙 顕 去 31 指合出 知 K 部 年 + 町 不 + 次郎 極 奉 申 次 行宅 去々 -候付拝 郎 可仕· 兼 月 内之者 候 方る 御 年 蔵 由 由 即 霜 借 訴 申 喜 ゟ金子三 申 判持 月之頃 候得 出 助 同 口 断 入二 右 方 町 候 金子 参 付 渡 江 相 日 甚 辺

候、 事も 座 L 候、 申 若 候 百 此節被突申 町 検 断 安田 検断之儀 = 候とて大切之印 屋 理 - 侯哉其外存当無之由 兵 -而 衛 疑可申 方借 金 之口 判 共不心付两 手 放 入 = L 被頼 遣 シ不 人共 而 外疑 任 調法 其意印 敷 FIJ 一之段糺 儀 判 無御 遣 判 申 遣

望月内記 并 右僉議之趣を以 出 入司 野 石 村 内記、 母田 罪 付吟 市 之丞、 田 味但 村図 木志 評定所御 書 清 摩、 水 役人永倉 評 主 税 定役 御 浅 井 源 町 右 奉 隼 人

申

而 江

一切分直 加

段極 御

メ候以後借シ金江

指引

日 参

申

由 麻

申

売居 口

候所 由

甥

兵

衛

足 軽

隠居

弥太夫同

心

而

買

頼 応

相控候得共承引不申、

伯

1父之事

故

達

而

留

兼

麻買人二被

右伝左衛門儀、

+ 小 原吉 助 大江文左衛門遂相談落居

左之通、

-日戸結 戸 結

+

日

欠落行方不

相

知

妻子

同所小松屋 町 左 衛

野断 甚 右 衛

> 門 門

如家財 欠所

宝 永七年三月廿六日 者

橋本左太夫、 源右衛門、

御用

番

御

石 伊太夫、

評定所御役

人永倉

而

原吉助、

大江 武頭白

.文左衛門申

渡之

巻評

定

所

納

置

右之通可首尾旨

御

町奉

行望月内記、

石母田

市之丞、

御

目

付

申

と弥太夫ニ

申

合候所

江 町

加

兵衛見廻

候を麻買

人に拵

参候 取

得共済不申候故、

薬師

=

而

商

候麻を借金之代

りに

布 施 和

泉

津 田 民 部

鮎 大 貝 町 兵 物 庫 F

右加

兵

〈衛事、

当三月十二日伯

父伝左

衛門

所江

見

廻候

得

連坊 伝 左 左

町

=

而

当三月十二日南鍛 冶 町 八 兵 衛薬師 衛 町 門 = 麻

> 入候さ 付 布代物弐 兵衛合点不 貫文程 申喧 とら 咙 れ たし打擲 候 由 八兵衛申 VI たされ 出 候 金子六切

先年弥太夫取 遂愈議旨御町奉 次二 行評 而 定所御 八兵衛二金子三 一役人申渡於評定所相尋候得 切 骨シ 候をせつき候 口

相対 入候さい 八兵衛合点不 麻 直 而 段極 布 麻 成共取 代物 メ候 申 以以後 ハ取 喧 硴 可 借シ 申 不 VI 処、 申 たし候段拷問 由 金之代りに 畢 = 候得 · 竟事 を巧 共借シ金済 之上白 取 無体ニ 可 申と申 状 取 不 申 华候, 可申 申 候得 候 仕 金子

不届 至 極 候事

大町備前屋正右衛

八兵衛ニ 商 借シ金在之候をせつき候得共済不申 候 以麻を 取 借 金 江 指引可 申 由 伝 左 衛門申 -候間 候故、 薬師

八兵 参麻 、衛合点不申喧啦 直段 VI たし 候以後借シ VI たし 候 由白状 金江 指引可 申 候 申 金子入候さい 1 申 候得

布代物

ハ不存

由申候得共、

畢竟事を巧参侯儀致同意不届

程とられ候由

訴出候二付、

被相糺候得共取人も無之、

其

此以後不審成事候

至極候事、

桑嶋孫次郎組御足軽隠居

夫

致同 先年借金取次候をせつき候得共済不申候故、 商侯間借シ金之代りに麻を取可申と伝左衛門相談申 右弥太夫儀、 意 加 兵衛を麻買人ニ拵参直段極候以後借シ金江指 連坊町酒屋伝左衛門方る南鍛冶町八兵衛 薬師 二而 一候を 麻

有樣致首尾麻二而成共取候様二可申処、 白状申侯、 元来借金之取次もいたし候間八兵衛ニも申断 事を巧無体ニ取

引可申由申候得ハ、八兵衛合点不申致喧咙候由拷問之上

由二候得共仕形不届候事、 可申と致同意不届至極 三候、 金子入候さい布代物ハ不存 南鍛冶町中山屋正四郎借屋

右八兵衛儀、 薬師 町 三麻商居候得 ハ当三月十二日 伝 左衛

衛門借シ金指引可申と申侯故、 門加兵衛弥太夫参、 而 払 候間 罷 成間敷由 麻を買可申 自申候得 問 由 ハ無体ニ 二而直段極候得而伝左 屋方な麻を請 取 日 申 由 取 **心売立代** = 而 致

三十日

遠

慮

喧硴打擲いたされ候節、

金子六切入候さいふ代物弐貫文

節 ハ大勢人も寄候由ニ而不相知候、

可 門申出事、

御 右愈議之趣を以罪付吟味但木志摩、 并出入司野村内記、 役人小原吉助、 大江文左衛門遂相談落居左之通 御町奉行石母田 市之丞、 評定役浅井隼人

評定所

三十日牢舎

連坊町酒屋

伝

衛

門

三十日牢舎

十五 無御 日牢舎 構

> 桑嶋孫次郎組御足軽隠居 大町備前屋正右衛門手代

南鍛冶町中山屋正四郎借屋 衛

右之通可首尾旨御町奉行評定所御役人申渡之一巻評定所納

置 者也、

宝永七年四 月九日

布 施 和 泉

大 町 監 物印

御武頭 村 仲 右 衛 門

浅布 斎藤房之丞内之者無合判通路為仕、 御 屋敷御風呂屋 口 江 御 番 二龍 有候御足軽八人之者共、 原右京内之者も常

御扶持被召放 御扶持被召放 御扶持被召放 御扶持被召放

右八人之者共浅布御

而申付様麁抹故、 合判見届不申通路為仕不どり至極 ケ様之儀出来不調法ニ付右之通被 候、 御番人御足軽 = 仰 兼

右之通三月十六日古内主膳古内治太夫を以於江 F

被

付候、

仰付候

御扶持被召放

早川三弥組御足好

軽

角市左衛門

左武右衛門

御扶持被召放

御扶持被召放 御扶持被召放

同 同

伊

兵

亚 衛 平

物被進候御飛脚二鈴

ケ森迄罷

越

宝勝院様御

通

を不

瀬成田愛蔵 葉御 右軽 衛 門

水野甚九郎元組御足軽 郎

藤房之丞内之者合判なしに通路為仕、 屋敷御風呂屋口御 番二 原右京内之者も常 二罷有候処、土 才ご

合判見届不申通路為仕 藤喜六郎立合於江戸被 右之通御目付大松沢権平於御長屋右権平幷御徒目付遠 候 仰付候 依不届右之通被 仰付候、

宝永七年四月九 日

右之通評定所御

留

記

置

巻奉行手

前

納置

者也、

布 施 和

大 町 監 物印

津

田

民

部 泉

貝 兵 庫

鮎

進退被召上候

右

衛

門 七

進退被召上候

芳賀与五郎組御!

足軽

石之者共三月廿 七日 宝勝院様御着付途中江 御 御小 外 葉人 御 書并御

進

附居可申儀候処油断之仕形不届至極付於江戸右之通 御通被遊候儀 存罷在御首尾合欠申 ニも御座候哉と申 候、 其所二而少之間 口 候、 認仕候共壱人充 認 二引込申候節

仰付候、

右之通評定所留二記置

_

巻は奉行手前納置

者

也

宝永七

年四

月十

布 施 和

泉

出入司方小間使御人足江刺野手崎村

免本所江被 相間 返使指

用之物取出し 右彦惣儀、 去月廿七日鮎貝兵庫物書部 居候を見尤メ召捕相達候付、 屋江参御 可遂愈議旨 用 は、 櫃 る御 去 御

月始 町奉行評定所御役人申渡於評定所右彦惣相尋候得 復寒之様 三相煩 小屋江引込透と本復も不仕候処、 #

七日二は和泉殿江御寄合二付あなたへ参候得は誰哉ミ

申 人は覚不申 兵庫 一候か、 殿江 罷越広間 兵庫殿御 る物書部 屋敷江 参御 屋 江 帳共持 罷 通御 参可 帳 共 仕 取 由 被

候処を被見尤申候、

気色あしく物毎はきと見覚不申

お

ほ

ろくと仕ねほけ候様成気持ニ而、 無之候得共いまた心持はきと不仕候 由申 只今ハ其時之様 候 依之出 二は 入司

召使置申候、 人足小屋江相返し候処、 勿論 廿七日使ニ申付候者も無之由 本復いたし候由 而頃日 御 参 候間 座 候

方物書をも

承候処、

彦惣申

口之通復寒之様

=

相

煩 候故御

L

時疫之症ニ有之付物毎前後仕儀 座候得共、 只 (相) 猶更為吟味御医師関浪快益二 而 替ル 様子ニも無之、 も可有之由 外ニ怪敷訳も 品々承候得 申 聞 は 無御

彦惣儀病気被犯無十 右愈議之趣を以罪付吟味但木志摩、 方仕形無紛 承 届 候 事 評定役浅井隼人 房ニ被見尤メ候間、

并出入司野村内記、 母田市之丞、 評定所御役人永倉源右 清水主税、 御町 奉 行望月内 衛門、

助、 大江文左 衛門遂相 談右之通 石

納置 者也、

N

右之通可首

尾旨

御町

奉行評定所御役人申渡之一

巻評.

定所

永七 年五 月 四 日

布 施 和 泉

大 町 物印

小梁川 右善兵衛姪は **候段相達候付、** 権 郎 るを致殺 中 桃 可 遂愈議旨 生 害、 郡 1 与三 舟越村善兵 御 郎 町 奉 義 行評 ハ自害半 衛下人 定所御 与三 途 役人申 VI 郎 た

(ママ) 渡於評定所 相 尋候趣左之通 小梁川権三郎下中桃生郡小舟越村善兵衛下人

郎

は

3

二仕 右与三 はると申合廿三日 候付、 一郎義、 彼地御 当四 屋密通: 代官早 月廿三日 仕候を、 速 罷 昼 越与三郎 はるを致殺害其身自害半途 主人善兵衛弟善之丞女 相 尋 候得 兼

隠しくれ候様ニ申候得共主人耳江

死

損

子

97

宝永七年五月十八

H

也

き 可 入候 VI 申 たし 上と刺 カン 首 候得 刀を カン 」 持裏 け = 而も仕 女も心得鎌を持参い 江 一罷出! 候得 相果申外無之由 女草つミ居 たし、 申

聞

江

一候様

=

大所二而

其段

一曲申

候間、

無拠存女と申合

相

大

町

監

物印

をも 切 同 私 前之存 尋 も自害仕 申 候処 詰 = 候得 相 而 違 刺 無御 共半 刀致 持参 座 途 候、 = 仕 候 与三郎義色々 候由白状仕 由 申 候而、 女の 候、 療治 善之丞 ふゑをか 仕 候得 女房

共

疵

深手

=

而

相

果申

右愈議之趣を以罪付吟味但木志摩、

評定役浅井隼

人

御

当

地 添状

江着

不

仕 月

候品

× 過

御

徒

組

頭 頭

相

達候

処、

半蔵

儀

去 人

候処、

は二

#

H

御

駕籠

方

江

便

を

以

指

下

両

月 共 下

廿 =

門 望月内記、 并 出 入 小 原吉助、 司 野 石母 村内 記 大江文左衛門遂相談落居 田 市之丞、 田 村 図 評定 書 所御 清水主 役人永倉源右 税、 左之通、 御 町 奉 衛 行

共奴家 財欠所 梁川権三郎下中桃生郡小舟越村善兵衛下人 郎

尾 旨 御 町 奉 -行評定 所御役人申

渡之

巻 評·

定

所 る

は

仕 口

夫る高

野

大坂

方江、

もめくり

あ

るき、

道中水

增

等

御

座

候

右之通 者

可

首

死損

布 施 和 泉

直 江

日

申

出

事を色々

偽を申出

参宮仕重々不届之仕形

候

戸

る其

(ママ)

無行 方

聞

候

間

私

き \$

詣

無拠 候を手

候

間 ま

JII

御駕龍 廻嶋体村

たし 右両人当二 直 候様 H 御 当 = 御 月 地 徒 釜 九日季明江戸 組 崎 江 湯治仕 申 渡 添 る罷下 状 度 を 由 調 申 - 候節、 両 出 人一 候 付、 半 同 = 蔵 廻 御 事 n 日 比光江参 許 逗 留 江 差 VI

評定所御役人申渡右半蔵 七日本所江 立 帰 侯段 召 相 達候付、 田 相 尋 候得 可 は、 遂愈議旨 拙者儀 御 数年 町 奉 行

下 而 此 由伝七ニ 度 伊勢江 8 申 聞 ぬけ参い 添状相 たし 渡、 私事 候間、 は 直 添 状は其 H 伊勢参宮 方持

願

=

罷

と存候段去年罷 故存之外日数をく 段 申 遣 登 候 候 ŋ 由 立 時分宿 申 帰 侯 申 候、 江 伊勢 \$ 季 申 明罷 置 江 参 詣 下候節は 此度も兄弟共 申 侯 は 1 1 参宮可 其 、段真 方迄 仕

望月内記、 并出入司野村内記、 右僉議之趣を以罪付吟味但木志摩、 石母田市之丞、 田村図書、 評定所御役人永倉 清水主税、 評定役浅井隼人 御 町奉行 源右衛

無行 廿日牢舎 門、 方 小 小原吉助、 大江文左衛門遂相談落居左之通

同黒川郡吉田村 御駕籠一廻嶋体村

笠を奪取候儀は前後共ニー円覚不申候よしニ御座

小八二も尋申候処酒ニ給酔候様子ニ而手足もふるひ、

申に付、

夫江相入ときやく仕候節とらへられ

申

候、

カコ

候、

私 忰 5 江

きやく心有之二付、 候哉覚不申候、

北三番町

上侍屋敷門之内ニ雪隠見

後二段々案シ見申候得は其砌気色悪クと

納置者也 右之通可首尾旨御町奉行評定所御役人申渡之一巻評定所ニ

大 町 監 物印

布

施

和

泉

宝永七年五月十八日

支倉源太左衛門元内之者 助

右覚助儀、 八と申者之持申候から笠を奪取、 過ル十八日昼途中ニ 而 侍屋敷江欠入雪隠ニか 村田 又四郎召仕 候件小

御役人申渡於評定所相尋候処、 くれ居候をとらへ相達候付、 可遂愈議旨御町奉行評定所 去月九日 源太左衛門方と

置者也、

十日牢舎

門、

小原吉助、

大江文左衛門遂相談落居左之通

支倉源太左衛門元内之者

在奉公之口を承

なけ入置候を尋出し 返し候得と申候得は、 肩江手をかけなふりからかさをうば 申候而相渡候間、 候由申 其方内之者ニは無之候間 欠出申候からかさも近所侍屋敷 聞 畢竟酒狂 い取あしたを持可参 二而外 から 二品 つかさを

相

見

江

由

江不申候

并出入司野村内記、 右僉議之趣を以罪付吟味但木志摩、評定役浅井隼人 田村図 書、 清水主税、 御町奉行

望月内記、 石母田市之丞、 評定所御役人永倉源右衛

右之通可首尾旨御町奉行評定所御役人申渡之一巻評定所納

布 施 和

泉

宝永七年五月廿七日

居候内、

其日酒を給殊之外酔申候而途中ニ而何様之事仕

暇被出実父九右衛門と申者之所江引込罷

於宅申渡之令首尾者

4 逼

右三

郎

兵

儀

兼

而

至而

病 身御

座

候

而

持

病

頭

病

舞 衛

痞

葛 西 郎 兵

> 鮎 大 津 布

> 貝 町 田 施

兵 監

庫

之症 殊 至 在之相 頃 日 両腕 務兼 連 痛 申 申 候条、 候 処、 大番 手 綱 頭 取 御 役目 申 候 儀 御 免被 不 自 成下 由 御 座 度 候旨 候

願 書指 出 候付、 左之通 被 仰 付候

其

大方儀

御役目御

免之願

申

Ė

侯、

兼而·

病身と

ハ在之候得

共

をも仕 手 由 候処 綱 番等懈怠仕 取 不相 候儀 急 二御役目御 不自 叶 候 節 以共不 由 勿論 = 候と申 免之願 被為 候処、 申 聞 一候得 無其儀御 上 候、 个. 共、 且. 願 又至 申 奉公退 Ŀ 年若身分 寅日 候近 候心 日迄 腕 之痛 往 入 相 不 養 指 務 届 候 生 出

届 至 至極 極 候 被 剰右之訳被相 思召 上候、 依之御役目被召放右之通 尋候処不都合之御 請申 上 被 仰付候 重 畳不

由 通 御 意之事 町 奉行望 月 内記 御 目 付大松沢 権 平を以右

郎

兵衛

脇

監 民 部 FD 宝永七年六月三日

和

泉

民

部

物印

大 津

町 田

古内 町 氏 奉 主 Ŧi. 一行評定 兵衛喧 膳 預岩 所御 沼 咙 仕 御 役 双 給 方手 人 主 江 武 御 負 田 目 候 七 付 由 郎 横沢半右衛門 相 兵 達候 衛と 付 阿 部 可 権 遂愈議 指 兵 衛 加 申 嫡

於評 定 所 相 尋 候 趣 左之 通 御

同

[1] 阿権 兵 衛

候得 壁をぬ n 候而 事仕候間、 右五 な ~ 惜存迷惑い 罷 5 一兵衛尋 有 作 りすつ 請 事 カン 文蔵. 場二 取 な 当 けカ申 申候処、 とあ 候得 5 咄 たし候と声をかけ三太刀切 所 月廿三日 取 居 江 た名を と申 七 寄申 申 武田 郎 候、 候間 兵衛参 度 申 由 昼 七 七 郎 土を 申 郎 見 候間 候間 気色悪 兵 廻 兵 顏 衛 衛 参酒ふ 江 カン = 敷不 な 家之戸 自 兼 X 身二 n 而 付申 5 るま 申 罷 懇意候処 相 壁 口 候 成 候得 を手 候 而 渡 江 候得 拙 れ 立 由 者 共 致 -小 小 帰 而 家作 挨拶 参かか 申 申 候 X

n 指 申 田 ニっつ 候 又兵衛斎半左衛門居合申 所 か袋 =, か 七 H 郎 申候故手之内ゆ 兵衛親 武田 候 半 るミ切り 兵衛刀を以うしろる一 一付即 留 組 不 留 申 脇指もきとら 候 処 傍輩 太

> 候儀 L

あ

15

衛所江 刀を持 又以半 除申 刀切 付ら 立 罷 左 出 寄右之品 衛 n 門取 計 る半兵衛抜 申 果 侯 印 押 即斎半 申 申 H 申 と存、 候 聞 刀二 候得 拙者 左 而 品 衛門拙者を引 儀 H 追懸討果候様 為可 即 無刀ニ おさ 申 置 罷 お H 組 成 カン 候故宿 合之大久長 ニと申 れ 門之外 申 候処 候 江 罷 由 江 申 兵 立 帰

候事

半兵衛 合申 無刀 は 共 カン 右 七郎 H VI 七 取 申 候又兵 郎 兵衛手 申 兵衛親半兵衛 切不 間 候 拙 、衛半左衛門 間 相 申七郎 口 渡五 負候を見 切 惜 付申 存、 兵衛を為討 兵衛切 二尋 儀 申 并 拙者其刀をう 一候故即 七 申 = 郎兵 候処、 候 1 無之由 单 由 衛 候処、 刀を取 内之者 同 喧硴之本ハ不存 之申 は 申 斎半左 罷 VI 作 付 取 口 助 五 其 衛門 尋 御 兵衛を追 七 場 座 申 郎 ·候処、 刀う 兵衛 候得 候 居

> 衛普請 参候処、 配と承 候得 無之侍之仕 たし 届 刀をも指不申 と声を 申 無刀ニ 候 形 五兵衛儀屋敷をは カン 而 け 二不似合儀 脇 居 候故半兵衛二 候 指 を切 計 = 付候儀、 而 相 罷 被切 糺 なれ 申 候、 候儀 七郎 候 は 其 処 た 八上七 兵衛 と存 申 L 晴 あ 郎兵 所迄 N 罷 候

古内主膳預

七郎給主

兵

衛

座

所行ニ

参く 而咄 右七 け Ŧi. 而 事仕 兵衛顔 5 to れ 罷 酒 郎 候故 候様 兵衛 を相 れ 有 申 江 候 手 候 出し 何心なく立帰 = 尋 と存 と頼 拙者 申 = 而 候様 候処、 おとけ二土を付申 申 儀自身ニ ふり返り手 候得 と申 小家作 候処うしろな被切 一壁をぬ を 即 付酒 事 上申 取 仕 ŋ 候処 振 一候得 参戸 候 申 廻 候 申 四 常々 候以 口 処、 1 部 左之手 行申 = 五. 立 相 後 カン 兵 候 な 普 居 互 衛 被切 申 ~ 見 杖 お 候 5 廻 申 間 取

無刀ニ 半兵衛刀を持出相渡侯間即五 左 衛門取 而 脇指 可仕 押 様無之ニ 8 きとら 申と右之手 付家江 n 申 候間 指 兵衛二 欠入脇指を 又立 切付申 帰 刀取 取 又以被切 罷 候 出 岡田 候処、 参 候節 又兵

切 五.

其以後其刀を半兵衛うは

V 郎

取

心追懸、

引返しはた

兵衛儀

其

砌

被

組

留

居

候

所を七

兵衛う

ろら

肩

先を

候故、

取

可

出

候得

申候

候

事

不

届

之至

奉

存

候

故

そ 候

n

ま

カン 砌

せ +

=

VI

たし 衛

不立

一寄事 ٤

\$

口

有之候 衛半

得

共

夫 付

申

口

見得

申

其

郎

兵

丰

負

候

即

又兵

左

衛

門

取

其

他

玉

御

追

放

参、

旁以

不

儀 尋申 立私 衛 廻 上候 -承 Ŧi. 候処 候 宅 兵 処 所を半 衛 江 召 相 な لح 其 違 連 組 無御 日 参侯 左 付罷 衛門 = 候 座 上 1 由 有 申 おさ 候節 左様之儀 候 は やく -且. 付、 故切先少 ^ 普 刀 又五 才半 をう 請 不 兵衛 を仕 申 打 候 は 左 廻 ひ 付 衛 文蔵 取 闸 前 申 U 之日 又兵衛 け 岡 候 とあ 間 3 \$ カン 又 兵 た名付 二ノ p 拙 五. 衛 きをも 兵 者 太刀 衛 を = 引

候

記

石

母

田

市

之丞、

評

定

所御

役

人

小

原吉

助 奉 評

大江 望

文 内

行 定役

月

浅

井

之顔 Ti. 兵 あ た名申 衛 = 而 あ 与 侯儀 蔵 た名 之様 を付其 実儀 = 候 = 可 ح 有 申 顔 江 御 候 由 土 座 本 لح = 付、 承 而 双 届 侍 論 申 三不 候 = 候得 -似合儀 +; 郎 共 兵 畢 女 衛 仕 竟 儀

活 田 七郎 作兵 衛内之者 助

=

而

自

な

切

果合

可

申

無之、

刀

立寄 右作 立 寄も 助 可 儀 申 共不 不 仕 喧 罷 存 硴 之場 罷 有 候 有 候 品 = 罷 由 相 = 尋 有 御 申 主 候得 人 座 候 七 郎 兵 此 其 者 衛 時分とうて 手 人 柄 を 負 お 人候得 3 カン = N 共 仕 相

> 御 座 候 事

共

一立寄介

抱

等可

仕

処

無其

儀

不

庙

之段糺

申

候処

申

晴

隼 右愈議之趣 j 并 出 入司 を 野村内 以 凡 F 霏 記 付吟 田 村図 味 但 書 木 志 御 摩、 町

被親指家督 左

そり

度

と申

-侯得

衛

む

さ

1

U

様

申

候

間 由

我

等

L

P

5

0 玉

能 兵

む

さ 挨拶

1

N =

=

候、

御

丰 之

前

11

虚 候

症

当二月

廿三

日

同

組

田

七

郎

兵

衛

切

行二三

ケ

所

衛 門 遂 相 談 及披 露 古内分 主膳預御給主阿部権兵衛嫡子、御仕置左之通被仰付 付 候

其方儀、 手を為負 請場 郎 候 間 兵 七 衛 (候処、 兼 討 郎 果可 兵 而 衛 懇 居合 意 申 と存 顔 = 候者: 申 江 合 切 土 行候 を 候 共 取 武 ぬ = 付作 押引 由 5 申 n 其 ·候得 放 事 上あ 見 L 共 候 廻 品 た = たなを 七 参 H 居 被 郎 付 相 兵 候 衛 なふ 処 尋 無刀 候 於 処 ŋ

普 七

申

をもさ 身致 不 普請 申 脇 指 計 候 而 付候 屋 一敷を 儀 は な n 七 郎 所行 兵 衛 所 迄 見 硘

至 極 = 付右之通 被 仰 付

古内主膳預御給主 郎掌 兵 衛

方儀 之通 相 四 部 違 無之候 Ŧi. 兵 衛 被切 何 程 念比 付候 品 候 H 以共侍 被 相 尋 あ 候 た名を付 処 Ŧi. 兵 衛

仰付候、

剰顔江土をぬり候儀不似合所行不届至極ニ付右之通

被

堤下之者共女を抱置客をい

たし候由ニ而、

隠シ

自付

而

遠島

妻子

武田 作作。

助

卷二付古内主膳留 主居二左之通

被

仰渡候、

当二月廿三日昼岩沼御給主武 田 七郎 兵衛を阿 部 Ŧi. 兵 有切

付候処、

翌廿

四

日晚相

達候、

若家中

同

前之儀

而

内々ニ

申 由

渡於評定所相尋候趣左之通

而 事済候儀と心得違延引候哉、 口書等取 揃 候 各別 候処

左 |様之儀も無之披露延引不調法之至 立候、 向後ケ様之儀 411

之様ニ 一相心得 可 中由被 仰渡候

大江文左衛門申渡之一 巻評定所納 置者 也

小

原吉助、

宝永七年六月十一日

横沢半右衛門、

御

用 番御

小梁川

郎

評定所御

役

右之通可首尾旨御町

奉行望月内記、 武頭

石母田 権

市之丞、

御目付

布 津 施 田 民 和 部 泉

大 町 監 物 (FI)

同

所肝入坂 申候得は

元喜六郎

所

指置、

女房は

金五

両

而 Ŧi.

年之

五.

兵衛と申者夫婦共ニ身を売候を、

兵衛 几

鮎

貝

兵

庫

居消

抱置客之相手為仕候、

善三郎と申者給取に而伯父

合候付、 会且又隣ニ居侯笹屋半三郎 は留主ニ候得共、 人商人之体ニ仕参候得は、 御目 而 参、 付相達候付、 膀示を打彦右衛門を召捕 彼之隠目付共ニ相手をい 伯父善三 可 遂愈議旨御 小舅長助と申者之女房之由 郎と申者之女房之由 菅野屋彦右衛門と申 町 たし其夜留候筈ニ 半三郎 奉行評 定 は 所御 預 ケ置 者其 而 候 申 身

K

菅野屋彦右衛門堤下菊田屋弥三郎借屋

候儀 カコ 侯ニ無紛候得共色々申陳し侯、 右彦右衛門儀、 々之品有様 く女を拷問可仕 無疑相見得申候得共、 三可申出候間女之拷問控候様ニと申聞候付 女を抱置伯父娵と名付客之相手 と拷問屋 伯父娵二侯段申募侯二付、 江引懸候時彦右 勿論彼之女も下女ニ被抱 衛門 申 いたさせ 候 は 7

門

所江

手引仕

所之喜六郎

所二罷在様子存候上、

剰客有之節は

彦右衛

候以後は密々ニケ 釈迦堂ニ而 之儀仕候哉と尋申候得 之通相違無御座 女房分ニいたし は稠 敷御停止 候 指置候由白状仕 様之儀仕 前 は、 々より = 候得共、 候而も苦ケ間敷と心得違、 余ニ渡世可仕様も無之候 稠敷被仰付候処 候付、 堤下江替地被下 女ヲも 何と而 相糺 右 に付 取 左 申 右 様 移 口

同

堤下肝入坂元喜六郎所ニ召仕候

之所行仕候由申

口御

座

候

右 身を売申候処、 五 女房を彦右 兵衛儀、 桃生北境之者ニ御 衛門所ニ指置客之相手為仕侯を、 遊女二紛候儀不仕筈稠敷御法度候 座 候、 進退叶不申 其身も 夫婦 を相 共

右五兵衛 房

夫五兵衛ニ身を被売、 右之女彦右衛門伯父娵分ニ成御尋之上ニも申募侯、 罷 罷 !在様子を存候処不義之勤をいたし 成客之相手仕候儀は 又は主人彦右衛門下 科 無御 座 候得 共 剰五兵衛手引之 Ŧ. 知 兵 衛 随 伯 \$ 然共 父娵 口 所

> 二迄出会候儀不届 御 座 候

は無之候を、

伯父と名付帳

面

二相付、

彼ノ女

ハ善三

郎

客

笹屋 半三堤下菊田屋弥三郎借屋 郎屋

白状 取申候、 拷問可仕由申 小舅長助女房分ニい 女堤之茶屋善七ト申者之所より拾五 客之相手いたさせ候儀無紛相見得候得 右半三郎儀、 所之彦右衛門白状之趣申聞、 いたし候付、 つや季明候 懸候得は、 女を抱置小舅長助女房と偽 つやニも相糺右申口之通相違無御 ハ、長助女房ニも たし帳面付客有之節はしやくをも 余ニ 渡世可仕様無之付つやと申 有様 一切三年之居消 二不申候 共 可仕と存罷 帳 色 面等江 × ハ、女を始 申 陳侯-付置 在 一買取、 座 由 内

親類等も持不申末々身之片付所存当も 取合夫婦 年之居消 買取候処、 郎白状之趣を以尋申候得は、 右之女半三郎小舅長助女房ニ侯と申募り罷在候内、 二半三 可 首尾能奉公仕候とて五切ゆるされ、 仕 郎 由 所江 御 座 堤二 候間 取付申候、 罷 親共 元来牡鹿 在候茶屋 季明 相 無御座 禿居 申 善 高木村之者二候処 候 七 所江 所 1 候間 江無之仕 小舅長 拾五. 五. 両 切三 長助 = 被 助

候

由

申

候

ニし 女房ニも たか ひ長助妻と名を付罷在、 成候得は身分之安堵も御 客有之節は相 座候と存、 手いたし 郎 下知

右半三郎小舅木挽生所江刺人首

相手為仕侯を其身女房と偽り帳面等江付上ヶ、 御尋之上 右長助

儀

姉聟半三郎ニ添居候処、

半三郎女を抱置

まかせニい 右之女拙者女房ニは無之侯、 たし 置候付、 何様二首尾仕候哉不存候由 御帳江 付上ヶ候儀は半三郎 申 紛

候、

元 喜 郎

相糺申

候処申晴無之油

断至

抱置 先年 匠候儀顕 此度も油断仕不届之至ニ御座侯、 釈迦堂二 罷在候節組頭 油断之由御 とか 仕 候、 8 を得戸を為御結被成候 此時分も組合之内女を 此段相糺申候処申

菊 田 屋 弥 Ξ 郎

無油断借屋之者共相改候 堤下屋敷をは右彦右衛門半三郎ニ借シ置、 御足軽 屋敷ニ引放レ居候得共 ハ、紛候女抱置申 兼々稠 間 敷被仰 弥三 敷所、 郎 付候間 弐拾 畢竟

> 座 候

ゆるか

せニ

たし不届

御

座

候、

此品

相

糺

申候

処

申

晴

松 桐 山 小野屋正右衛門 形 屋 屋 善 屋 雲 兵 六 衛 郎 t

衛門半三郎女を抱置客之相 手いたさせ候を不存罷在 右之者共菊田屋弥三

郎

五人組御

座候処、

弥三郎借

屋 彦右

極候、 二日 安住断住断 覚 兵

堤下町 手 遠二罷 ニ検断無之付二日町ゟか 在候共兼 而稠敷被仰 付候間日夜屹度吟味可仕処 け 持二申付支配為仕

畢竟油断之仕形不届ニ御座

候、

此品相糺申

-候処申

晴

座

候

幷出 望月内記、 右僉議之趣を以罪付吟味但木志摩、 入司野村内記、 石 母田市之丞、 田村図書、 評定所御役人永倉 清水主税、 評定役浅井隼人 御町奉行 源右

小原吉助、

大江文左衛門遂相談及披露候処、

御

三拾日牢舎 三拾日牢

舎

三拾

日牢

舎

北江御追放

他国御追放 親二被下

一役目被召放

右之外不及披露御町奉行宅ニ而申渡候は左之通

三拾日牢 三拾日牢舎

舎

一日 堤下 堤下 堤下 堤下 堤下

町検断

1 野屋

衛門 衛

安

住

覚 正右

兵

仕置

妻子奴家財欠所

左之通被 仰付候、

世界 世野屋 彦右衛門 場下 新田屋 新三郎 借屋

子共無之家財欠所

遠島

牢五 舎拾 日

遠島

妻子奴家財欠所

堤下肝入坂元喜六郎所ニ召仕

堤下菊田屋弥三郎借屋 女女

房

右五兵衛

半 郎

堤下肝入 右半三郎小舅木挽生所江刺人首 右半三郎下女 助

菊 桐 田 屋 屋 善 弥 六 Ξ 郎 郎

坂

元

喜

六

郎

Щ 松 形 屋 屋 雲 兵 衛 七

> 同 同 堤下茶屋

> > 大

崎

屋

久

兵

衛

助

菅 原 井 屋 屋 弥 与 五.

五

郎

同 同 同

> 浪 屋 半 兵

橘 柏 丁子屋七左衛門 恵美須屋与平 丁子屋次郎兵衛 大黒屋八左衛門 屋 屋 長 万 右 太 衛 衛 郎 次 門

同

同

同 同 同

玉

分屋小右

堤下茶屋

高

橋

兵

安

達

屋 屋

藤 次

兵 衛門

衛 衛

堤下茶屋

同

堤下茶屋

宮城 江 1 嶋 屋長左衛 屋 喜 三 門 郎

堤下茶屋

屋 武 兵 衛

刺

同

同

嶋

屋

市

右

衛

門

庄子屋勘右衛門

此度菅野屋彦右衛門笹屋半三 付御仕置被 仰付候、 先年釈迦堂ニ被指置候時分る稠 郎 女を抱置客之為致相 手不

敷被 仰付候処、 右両人御法度を相背不届至極候、 禿候

置者也 右之通可首尾旨御町奉行評定所御役人申渡之一 巻評定所納

宝永七年六月十 H

布 施 和 泉

妻子家財無之

桃生郡立浜 四 郎

候内、 右文四郎儀、 大町四丁目壺 兼而不行跡者故親兄ニ勘当を得方々あるき 屋理兵衛棚江参小間物銀九両分と代

壱貫五百文かたり仕盗取、 其外国 分町はこ屋長十郎所

候処、 一夜とまりはたこ代も相払不申逃去候を其以後見当不申 五月十日之昼大町横棚を罷通候を見付候段 申出

廿一色入置候か

侯内親類岡崎仲三郎宿守

所二

彼

ノか

わこ有之付、

出所

四郎相糺申侯処、 付、 = 而 かたり 口 遂愈議旨御町奉行評定所御役人申渡於評定所右文 、仕侯儀又ははたこ代相払不申儀相違無之よし 色々申紛候間拷問仕候得は 小間物屋

承候得ハ、

仲三郎指図ニ

而御名懸佐藤八郎右衛門所と

令白状候

并出 望月内記、 右愈議之趣を以罪付吟味但木志摩、 入司野村内記、 石母田市之丞、 田村図書、 評定所御役人永倉源右 清水主税、 評定役浅 御町奉 井隼 行 X

仕置 左之通被 仰付候

小

原吉助、

大江文左衛門遂相談及披露候処、

御

他国御追放

桃生郡立浜 四

郎

納置者也、 右之通可首 尾旨御町

奉行評定所御役人申渡之一

巻評定所

宝永七年六月十一 日

布 施 和

泉

町 監 F

御次小性鈴木半十郎申出 わこ壱つ被盗候ニ付、 一候ハ、当二月九日之夜衣類等 所々心を付尋 申

持参仕 定所御役人江御目付橋 候段申 聞 候由 相 元左太夫指加申渡於評定所相尋 達 一候付、 可遂愈議旨御 町 奉 行 評 事

鈴木半

郎被盜取候物之内、

カン

わ

きぬ

頭巾

也

な

かけも

郎右

衛門あけ、

それ 候得

6

何

方江 仲

立出申侯

其節

物 わ

カン

け

候趣 左之通

遠野, 仲

内崎膳 郎

カン

わ

こを右八郎右

衛門 様

詐

置

引見江不申

候付、

何

=

仕

候哉と仲

郎

=

尋

候得

得 候

寄 佐 右仲三 忍入か ノ衣類 藤 衣類之内四 八郎右衛門 指置 郎 四 わこ壱つ盗取、 相 色取 候 尋申 由白状仕候付、 [色菊田 上ケ半 所ニあ 候処、 + 武 つら 当二月九日 郎二 兼 兵衛内之者宇 ひ置、 而 返し 宇左衛門相 懇意にて出入仕候御 翌十 あ [之夜親] た 日朝 左 ^ 申 類鈴 糺 衛 門と申 候 相 宿 守 木半 違 無之ニ = 者 名懸組 申 付取 所 郎 付 江 所

明申 之由 忌之由 上遠 由 家 内 付何とそ 承 付此品 付 申 野 届 上御 内膳 妻病気指 = 候得 而 御 忠 暇 不 相 番を 被下 一罷出、 は 達 重 郎 無妻之由 候 ŋ ·候内、 0 = 候 カコ 尋 且又妻病気指 仲三 由 n 申 中度存、 是又偽 候得 御 御 愈 郎 儀当二 ハ 座 議之上座牢江 御 候、 暇 始 進 重り外に 願申 ニハ 然は 退 月 困 五. 上候 一第仕 血忌と偽 最 日 被 看病 る当 前 衣類 相 由令白状 偽 入候付、 を 可 番 血忌 等 仕 申 候 無之 者無 出 処 候 候 血

御名 佐懸 郎右 衛門

様子

,甚兵衛

一尋申

郎 カン

あ

0

6

N

置

候

カン

B

1

X 付 助

風

申

右も 右衛門 門二 半十 衛と申者之臥 方より 議仕 門取 引なし はけけ 出 此 糺 候内彼 7 郎引合候得 郎 置 引 訳八郎 候付取 方る同 無田 申 候哉 カン ニ為見届相違無之付返し 敷時 候得 わ K 甚兵衛も 甚右衛門と申者之所江質物ニ きぬ 1 と存候得とも其段達 所ニ 相 右 上候得 人親類鈴 カン \$ 共双論 務 衛門尋申 わ 頭 8 仲三 口 き 巾 7 申と存市 引ニてあるき候付、 7 は ゝ引有之をたもと ぬ む 引と存居 郎 頭巾 木 な 候処、 半 三被頼 市 御 カン 之助 けも + 座 to 4候、 之助 郎被盗候も な 候 其 質物二 あた 所 カン 而 1 由 所 且又も 時分火触 不承 江 け三色共ニ八 引無之ニ付、 翌日宿守を遣し 申 = あ 紛 あ 置 0 届 入罷 5 候 つら 右之品 指置 兼 1 ム引壱下り 候 候 引 而 VI 由 由 依 罷 参居 VI 置 候付、 出 申 付 之其 候得 置 出 相 候 郎右 八郎右 紛 八 申 候 候、 違 由 郎 段 候 取 節之 甚 候 共 無之 八 衛門 市 付 右 取 寄 × 常 兵 郎 衛 上 愈 候 衛

仲

衛門 カン 罷 わきぬも 帰又以出 ゝ引有之候を見 申 候処、 其 砌 カン 1 カコ け わき 申 候、 ぬ 間 \$ 8 1 引見江 なく八 不 郎 申

侍

儀見不申と挨拶可仕 候、 此 節 郎右 衛門 由 申 侯 申 聞 候 仲三 由 申 郎 付 承 八郎右 候 共 か わこ明 衛門と甚 ケ候

倉源 置

右

者

也

衛引合候而も無体 = 一申募候、 仲 三郎 盗物之内を又盗仕候 兵

事、

儀

証

拠

共

慥

二而無紛候得共

理不尽ニ

申

陳し

落

口

無之候

右愈議· 趣を以及披露候処、 御 仕置. 左之通 被被 仰付

岡崎川野内膳組 仲

郎

斬牢 罪前

二而

候

御

検

使

御

徒 月

付

御 名懸紹

藤八郎右

門

牢朽 其 岡 こを盗取致持参其 崎 仲三郎親類鈴木半十 方所ニ 託 郎 所江 置 候 忍入、 処、 仲三 衣類 郎 居 等 相

く候かわ

不 \$ 中時節 を盗取 ム引も壱下り 質物 をね 5 盗取 指置 ひ、 脇江 右か 御 あ 愈議之節質物屋 わ ح 0 0 5 U 内 置 6 候処、 カコ わきぬ 方る顕 預 頭 り人方より 巾 む 且又 な カン

申

出

一両様共

、二盗取

候証拠無紛

候処、

御

愈議之砌

色々

中陳

右伝七

郎

尋申

候得

兼

而

付脇坂又八郎

指

加申渡於評定所相

尋侯

趣

左

之通

橋元左太夫、 右之通可首尾旨御町 二不似合仕 衛門、 御 小原吉助、 用 形重畳不届 番御 奉行望月内記、 武頭 大江文左衛門申 小梁川 至 極 = 権 付右之通 石 郎、 母 渡之 田 市之丞、 評定所御 被 仰付候、 巻評定所 御目 役

人永

付

納

宝永七年六月十八日

津 民 部

布

施

和

泉

大 町 監 物印

鮎 貝 兵 庫

伊 由 助扶持被下候処、 親類共令披露伝七 相 藤 新左衛門本組(元) 達 候付、 可 遂愈議旨御 郎跡 去年 氏家伝七 + 御 月十六日之夜養父所 闕 郎儀、 町 所被 奉行 仰付、 去年 評定所御役 四 養父母 月出奔仕 人江 江 7 = 候付 御 帰 候

類真柳権之丞扶助を得罷有候処、 進 退 木 [窮仕 権之丞御仕 氏 候付伝七 家 伝 郎 七 親子共 郎 斯牢 罪前

二而

候、

6 仙台藩評定所記録(宝永7年)

御

検

使御

徒目

付

臥居翌 有候処、 南 病気ニをかされ方々欠あるき申候外ニ品無之由之申口 を借り一 之眩暈指発去年 一売はら 方たゝすミあ 日 宿仕、 段々寒気ニも ひ 1 / 湊薬師 所々茶屋なとニ 夫ゟ覚之丞所を定 应 るき候内、 月六日 江 参、 罷 そ 与 成候付十月十 而 あ n 風 た 6 立 N 方々 0 出 宿 釜 無腰 其日 三い 野 = 六日 居 Щ たし八月末迄罷 候乞食覚之丞 = = 1 夜立 而 臥 薬師堂長 居大 五 帰 月

十日 八小袴共

调

候事、

右僉議之趣を以及披露候処、 御仕置左之通 被 仰付

作不届御

座

候

而

所追放

-

あ

VI

候以後同

所乞食浦

助

次

郎

伊藤新左衛門 氏 · 元 家組 伝 七 郎

伊

右伝七郎嫡子 家 彦 七

大年寺鳳山弟子右伝 七郎 次男 郎

御親 御親預類

預類

七 郎 養父母被下候御 助扶持被召 上候

右伝

右之通 脇坂又八郎、 可首尾旨御町 御用番御武頭 奉 行望月内記、 小梁川 権 石母 郎 田 評 市之丞、 定所御役人小 御 目 付

連 町 右

参 =

尋人も候

ハ

相返可申と指置候得共

主も

無之候

次郎 人相

助大雪降

まよひ

なき居候間

不

便

一存宿

江

宝 永七年六月十八日 仰付候以後役介を得可申方も無之苦労ニ仕居候内、(厄)

持 床

病

原吉助

申渡之一

卷評定所納置

也

布 施 和

泉

津 民 部

町 監 物印

貝 兵 庫

鮎 大

成候処、 去年拾三 飯淵三郎 IIX 歳 右 田 = 衛門元組御足軽助右衛門と申者之子 罷 白 成候処、 石乞食万作夫婦之者とら 宝永五. 年 極 月 廿九日無行! 置 候 次郎助 処、 衛 万 罷

申

付、 助 由 緒承届侯 上親助右衛門方江 去年五日 月廿八日 相 候

定所御役人申渡於評定 彼万作夫婦召捕. 相 所相 達候 利田郡白石ニ居候乞食. - 尋候趣左之通、 付、 可遂愈議旨: 御 町

同人 女

候得 は、 去 H 年 十二月日 は 覚不 申 候 白 石

両

尋 申

作

所納 助 房

郎 手

緒をも 間其通ニ と附 唯今は其身恰好之能様ニ申なし 末々渡世之便ニも可仕と乞食をいたさせ指置候由申侯 候得は、 大法を背無通判 帰と申 かをも 助まよひ居候節女房行会候 石町ニ而万作女房宿借シ可申と申 江 売払可 あるき乞食為仕候付、 右愈議之趣を以罪 無紛候付、 相 子 不 候得は、 尋申候処 たし 共 申 申仕形無紛 何方江 指置 可 罷成と申候間召連参候、 両人共拷問仕相糺候得は、 とめられ 伊勢参宮可仕 8 候 沙汰 由 付吟 伊勢参宮 由 夫婦 相 なし 味評定役浅井隼 無是非只今迄居 何方江も手放し不 糺 而 申候処申 候得共、 = 同 口 卜罷出候段不調法至 子(供) 永々 之申 仕と与風宿を罷 - 候故致 抱置候段 口 晴 成り 無御 畢竟致養育置 而 物をも為給置 候由 人 一可申 白石 宿 申 并 座 次 人勾 出 候、 申 候、 一哉と申 町 郎 翌日 女房然 出 入司 引之 二次 候処 助 極 次 御 郎 由 他 口 奉 野 置者 右之通可首尾旨御町奉行評定所御役人申 一其所ニ而 拾 其所ニ 自縊死亡 也 五日 加美郡 死亡、 宝永七年六月十八日 議旨 通 所百性清右衛門下人権兵衛ト密通之上、 牢 御 権兵衛ハ欠落行方不相 町 1 野田 奉 行評定所御役人申渡於評定所相 本郷 加美郡小野田本郷原ノ町 原之町 同人 刈田郡白石ニ居候乞食 飯淵三郎右衛門元組御 百(性姓 知候段相 勘 十郎子 津 布 鮎 大 百性勘 一渡之一 定 軽 数 次 数 達候付、 施 勘 貝 町 田 女郎 万 右之女ハ自縊 巻評· お衛門 一郎女房 監 民 和 尋 兵 候趣. 物印 定 可遂愈 部 泉 庫

助 領

罷 白

村内記、

御

町

奉行望月内記、

評定所御役人永倉源右

衛門、

小原吉助

遂相談及披露候処、

御仕置左之通被

不翔

和落行方

当五

月五日之夜雨

ふり、

右勘三

郎夫婦兼而之臥

所 兵

江

雨 衛

\$

権

左之

F

同

仰付候、

出

入司

野

村内記、

田

村図

書

清水主税、

御

町

奉行

望月内記、

石

母

田

市之丞、

評定所御役人永倉源右

小

原吉

助

大江文左衛門遂

相談及披露

候処、

御 衛

同

綿給壱

つ、

弁伝兵衛と申

者

無御 骸早

座

候、

権兵衛と密通仕候を夫勘三郎

二被見尤無拠

速彼地御

代官罷

越見

届

申

·候処、

自

縊無疑外三

怪

敷

儀 死

書を以御

領内被相尋候得

共于今行方相知不

申

候

女房 留人像

女

首か

け

VI

たし

相

果、

権兵衛

ハ欠落仕候

一無紛

承

届

候

右僉議之趣を以罪

付吟

味但木志

摩、

評

定役浅井

隼

人

不 欠 落 行 方 一足其所ニ而

仕置 門

左之通

被

仰付候、

加美郡小野田本郷原ノ

町

処、 首かけ仕相 ゟ勘三郎 呼不作法 棒を取追か 兵衛と女房 翌六 日 VI 1 果、 直 たし かけ 早 申 所ニ 朝 X 作場 権兵衛 候得共権 口惜者之由 臥 勘三郎 江 居、 龍 ハ欠落仕候付、 勘三 作場江 出 兵衛をは 一候処、 阿居侯 郎を見付権 参候節見 彼女房其 取逃し申 内親勘十 御境目被相 兵 申 夜屋 衛逃出 候付、 郎 候得

取

夫レ

女房 候間

女

宝

永七年六月十八

日

敷 抑

裏

三而

候

付、

所ニ

臥

兼女房

ハ次之間之座敷ニ引放

臥

申

候

共

財

欠所 町

奉

行評定所御役人申渡之一

巻評定所

右之通 置 者也 印 首 尾 旨 御

ハ V

右権

布 施 和

泉

津 田 民 部

大

町

監

物印

鮎 貝 兵 庫

本寺 中を痛 本吉 申 罷 出 有葬礼 候 江 郡 b 津 D 付 訴出 法事 一谷村 色 K 一候得 我か 日 等 曹 遂愈議旨御 洞宗 0 共 ま カン 1 東禅寺監主黙要義、 を申、 させ、 本寺も 町 奉 手ニあ 或 村中之者共仕 行評定 ハ盗をい ま 所御 n 候 常々 た 役 由 あ L 、寺中 = ま 又 申 而 1 渡 品 度 = 檀 於 不 X X

たひら壱枚被盗候得 一村之善六と申者所る木 付 定 所 相尋 此 段相 候趣左之通 糺 申 候処 共

> 出 家之儀

候

間隠

VI

た

候

カン

百性勘 女郎 勘三 郎 衛 房 由

同所百性清右衛門下人

権 兵

之質物 指置 候由

令白状候事

貧窮仕

候故右

定

色盜取 密

五. L

百 居 所る

文

令白状候事

村中幷近村之者共建立い 相 紅申候処、 是又困窮二付金弐歩二相払候義相 たし置 候十王仏を売払候由之義 違無之由

処、

五右衛門と申者之女房病死仕候時分、 之子ノ刻ニ出シ候様ニと致指図なから不罷出、 人為抱置漸為取 仕廻候由之儀相糺申候処、 葬礼之刻限 隣村江参酒 翌日迄 前之夜 死

給酔臥わすれ不罷出候由令白状候事 三居不申候故、 家も大破いたし法事

常々寺内

等可仕

様無

銭等物入いたし檀中之痛に罷成候由之義相! 之、 貧寺故所々をあるき扶持をもらひ給罷. 且又惣禄る触なと参候時分も方々を相尋候付而 有候 糺 由 申 申 紛し 候処 候得 路

候儀 共 ニ可有御座と相尋申候処申晴 畢竟博奕を打盗をいたし寺ニハ不罷有、 無之候事 方々あるき

毎年宗門改之帳 分法事ニも不罷出檀中 江 判 形つ 難 儀仕候由之義尋申候処、 カン 、させ、 又ハ年忌等当り候時 手習之

無念ニ存其者共江之あたり 子共を被取返、 又は狐 0 かひなとゝあた名申由 = 法事ニも不罷出、 宗門帳 候間 江

判形指支候由令白状候事

同村之長五郎と申者之脇指を無体ニ取置候 質物ニ成共置候か売可申との所存ニ而 二於于今其身手前 あやうくうはひ取候由申 長五郎酒ニ酔衣を引さかれなとい = 抑置 一候義、 一一一一一一一一一一 畢竟酒 左候ハヽ 狂之取 たし候間 相返し不申 追而相 山之義 抑 ·指置 **科尋申候** 事 可 怪 よせ 我も 申 処

= 無紛侯段糺申侯処二申晴無之候事

門、 右僉議之趣を以罪付吟 望月内記、 并出入司野村内記、 小原吉助、 石母田市之丞、 大江文左衛門遂相談及披露候処、 田村図書、 味但木志摩、 評定所御役人永倉源右衛 清水主税、 評定役浅 御 井隼 町 奉行 御 人

仕 置 左之通被 仰付候、

一
其
所
ニ
而

本吉郡津谷村曹洞宗東禅寺監主

寺 二附候物之外家財欠所

首尾旨 御町奉行評定所御役人申渡之一 卷評定所納

置者也、

右之通

可

宝永七年六月十八日

布 施 和 泉

津 大 田 町 監 民 部

FI

鮎 貝 兵 庫

女十

月朔

日

晚

IF

助

所

江

密通

顕

如

此之仕合候間

何

方

召

連可参候、

無左候

ハハ 参、

殺候様

ニと申ニ

石川大和殿下中泉次郎左衛門元内之者(家) 達郡伊佐沢町百性彦

助

様子怪

敷候付糺

申

候得 月四

は 日

より女を召

連参

候 候

由

以 段 宿·

九

右衛門と申者

申出

[侯段相 伊 達領

達候付、

可

遂愈議旨

御

右両人之者去年十

晚

牡鹿郡

湊町

江 参一

宿仕

処处、

質物奉公ニ 泉次郎左 奉行評定所御役人申渡相 衛門譜代内之者候処、 相 出 其身は主人大所ニ | 尋申 候処、 進退 而 困 致奉公、 一第仕 正助儀大和 候付 兼 妻を 殿下中 而 合力 脇 江

年右 主人為取置 田 畑 々妻をも身請為仕 散田 物 候田畑を散田ニい 成金三 両三分作人手前 候上家をも持申筈候処、 たし、 る取 物成金を以借 立直 H 宝永 欠落 金 仕 几

五年 伊 達 秋 領 江 る伊達郡伊佐沢村百性彦三郎I 参鍋鋳之弟子三 罷成候得 共渡 所江壱季 世不 罷 三取 成 候 付 付 去 同

年 通 村 能 江 九 在 縁 月 付置 四 日迄 候処、 然処去年九月十日二右女夫方ゟ暇出候付、 相 勤 彦三 即伸候、 郎 所江 右彦三郎 参候節去年二月之頃 娘 は つと申女同 る致 郡 大条 彼

> 連御当 此段女ニ 朔日夜自 地 江 用ニ 尋申 立帰 候処、 起申候節正助待居とら 居所を求 前 H メ申度と存湊迄 密通仕候儀 = 候而 参侯 無之候、 付 無体 由 申 二二召

月 連

参候 々ニ而もかとわれ 包致 応正助申 由申 持 候得 参、 口 中途ニ而衣類を払路金 共 之通白状仕 其 参候段は不 身着替之衣類手道具鏡等迄 候上ハ、 申出 密通之上相対 湊二 = VI 而も た 愈議之節 二而 風呂敷 且 又宿

侯段紛無之由糺申侯処申晴 無御 座 候

右愈議之趣を以罪付吟味但

木志摩、

評定役浅

井隼

望月内記 幷 出 入司 小 原吉 野 对村内記、 助 石 遂相 母田 市 談及披露 之丞、 田 村図 候処、 評定所御 書 清水主税、 御 仕 役 置 人永倉源右 左之通 御 町奉

一其所ニ而

仰付候、

石川大和殿下中泉次郎左衛門

(奴家財 欠所 妻は 伊達領伊佐沢村彦三郎娘 無御

子

共

本所江被相

返

は

0

右之通可首尾旨

御町奉行評定所御役人申渡之一

巻評

定所納

三五郎事無十方、

(以下欠)

宝永七年六月十八日

布 施 和

泉

八

江戸・仙台勤方条目

田 民 部

津

大 町 監 物印

大番組之者前髮取候義、

十八歳以上は其身部

屋

住之者共

其

貝 兵 庫

鮎

勝手次第取可申候、

+ 七歲迄之者前髮取申度候

額角入之儀是又其身部屋住共二拾六歳以 願申出番 頭之可得指図事

御目見願指出侯輩 十五歳以下左之通各相心得 差図可有之候、 勿論我等在所之砌

脇 番頭 〈計出会候様首尾可被申候、 以上、

十二月廿 四 H

杢

太夫印判正判江見合候得は納証文拾五枚謀書謀判ニ無

相違二相見得候付、

御金間御本帳江引合、

源左衛門長

文其節之御金奉行塩森源左衛門并帳合遠藤長太夫印判

林方上廻り高橋清兵衛見届候処、

船御前金等之上納

証 山

第角入、

可申事

上之者

勝

手次

南部御材木御買人松野屋三五郎宝永元年分内勘定、

其節· 大番組家督継目等二 之段今日被相任候処二、 頭 可 申入出会候様ニ 右之段被相 通 候 可致由志摩殿主計 而 然所 組へ相通候義 御目見願申上候節、 組 相触候義 殿 ハ無之候間 へ被 K 8 大番 口 仰渡 有之候哉 頭脇番 其番 = 付

部

御

紛候由

Ш

林奉行相

達候付、

可遂愈議旨御町奉行評定

所

(役人申渡於評定所相尋候趣左之通、) 南部御材木御買入柳町松野屋三五郎手代) 化ドログル

御材木御買 VI 右儀右衛門ニ相尋申候得は、 たし三五郎幼少付私儀後見名代右御用相勤申侯、 人御 用相勤候節 ゟ手代奉公仕 三五郎親十右衛門代る南 十右衛門 近年 病

上

右之通御

座侯段、

無延引御

順達御留る被相

返可

被下

以

8 江戸·仙台勤方条目

養子并縁組等申合候由之達書、

直々番

頭

へ為指出

可 申事、

触受所引替之義二季二不限相達次第向後相改可

不

罷

成事

二候間、

向後共二直々受取

可

申

事

御

屋布願直受取之事、

但シ、

指急相出候程其身ニて痛

ニもも

年三月当番中相済候事

之御牒役へ申渡置御目見願申上候節、 大番頭脇番 頭 申

ゟ志摩殿 入出会候様ニ御帳役共へ其番切ニ申渡置 へ被 仰渡侯間、 此末無落大番 頭 可 以脇番 然由

御

奉

行衆 出

相通申侯、 以上、

候様

面

夕御

帳役

被

仰渡可然奉存候、

志摩殿

へ御 頭

相

談

前〆切之節、

只今ゟ以来渡番受取御帳役両人共

会

元文三年二月

杢

様

御

役料仙台之者計御本帳

附置

但シ、

江戸計

御役料

1 御

本帳

~ 附 申

間

敷

於候事、

延享元

御

用

前当

番

前

る勤

候

1 1

御

番明

候 ハ

残日

数に

充候様

帯

刀

杢

殿

御 同 役様中

ツ前 御用

御

城へ罷出可

申事、

延享元年二月右膳殿被

仰渡

候、

二月十

七日

覚

当番之節 ハ御用前相禿取合次第相 務 口 申 候

可 仕

本丸虫旱之義 ハ御用 前之外別人罷 出 可 申 但 シ、

罷出 見届可申 そ御本丸にて御帳見届

申候御用有之候

ハハ、

御用前之者

何

申

事、

右 膳

覚

御番入之御徒小性組ゟ相出候諸願末書之義 向後 八一式

延享元年五月六日

御 徒 小性双方ニて相調候筈ニ申合候事

ら直々大番頭へ被指越、 顧御徒小性頭方へ先以相出無異義候哉之段御徒小性頭 相談之上無異儀申達侯 ハ 御 徒

小性方ニて末書

調御帳役

相出脇番頭

御帳役持

脇

相達義被相

一候事

衆へ直々御首尾二罷

成候間、

御牒役中手前る当番加番

落有之ニ付而、 当番加番大番頭

へ最前

ハ御牒役中ゟ直々書出

候処二首尾

自今ハ手前大番頭衆ゟ当番加番之大番

候間、 番頭の私共方へ相出連判致直々御奉行衆へ 其心得可被申侯、 以上、 相出候様申合

御 帳役中 IE

徳二年十月

弥 五.

郎

内之者無品欠落仕候節相達候ニ不及候、 乍去於江戸欠落

覚

仕候分 得候様ニ脇番 ハ品無之候共相 頭忠五郎殿 達申筈二候条、 る御用前御帳役長沼庄八郎ニ被 此段御帳役中其

享保七年十 月九 H

大番組嫡子名改侯義、 至而幼名か、 替り候名弁 何か障候

尾可被成候由奥山隼人殿る将監殿 間敷候義私同役中へも吟味相済候、 名二而無是非名改願申候義 八格別、 申来候に付御用前中 其外之義ハ名改為仕 左様其元様 ニも 御首

荒井与 市 郎 K 被 仰 聞 候 帳役中

六月十七日

役中

知

人二

成指置不申候得

ハ御用支候間

知人二成候

様指図可被申候、

以上、

新番入并跡目被

仰付候者名代願被

仰付候

ハハ

御帳

仰聞

候、

以上、

御用前之段両番頭へ 前日二其段相 達可申 事

御 用前割之内 而引込候 其 追而味進相務可申事 身煩申候か、 又

ハ自分御暇

又は忌中等

=

ハ

享保八年八月十八日

広間卜已来書申筈

二閏四

月廿 ハ其

四

日縫殿殿被御申

渡舟橋才

T

年数之内か又ハ代替ニ候共、

年数懸り有之候

進退困

窮

誰子共ニ有之候由

書付可被相出候、

向後見分二大番組之內計出侯様二申遣侯節、

八郎罷出書来

病死之者跡式未相済候者

部屋住御番入候 御徒小性之訳

ハ、部屋住之訳

117

享保九年四月

右之通以来之為書置候事

御城看板壱番ゟ十番迄不同有之候ニ付、 役中へ御相談被成候由ニて、 孫兵衛殿御加番ニ七番之大番頭福原縫殿 以後左之通 五番大番 殿御詰之節御 番 る十番迄不 頭後藤 同

同無之書印 可 申 由 ニて享保九年四月十七日岡助太夫罷出

書替申候

父母病死二付而 金等之願段々罷出候、 独参湯相 右願向後 用 候間、 ハ渇 人参買金拝借 命願同 然親類 并御 一共吟 取

候儀 連判ヲ以差出候様首尾可有之候、 ニハ勿論無之候、 同役中 ハ可被相通候、 支配中へ

も被相

通 味 越

仕、

五.

月十七日

耳 理 石

> 見 部

芦

名

刑

中 村 日 向

心得可被成候、 享保十年六月阿部彦右衛門御用前 にて承、 右之義忠五郎殿る皆様

申伝候様二被

仰

聞

候間、

左様御

如此御座 候 以上、

名代之訳

御呼懸壱二番座之訳

覚

尚

助 太 夫

以上、

直々江戸番御 ハヽ其品書加、 願申上、

小性頭へ被申越侯共二右之通可被心得

享保拾年五月

御奉行衆御名元

大番頭中

脇番頭方ニ有之御本牒, 尾可被申候、 心得被申、 御 無左候得 用 前切 時 女 八御用支之品有之同役中吟味之上 首尾被申事も 向後我等共手前御本帳同 我等共方同 前二首 前 二相

如斯侯、 以上、

一保一 年 正

右昨十

七日兵庫殿

る同役中

^

可罷出候由ニて申来、

記事 病二付不 日御宅へ 罷 罷 出候、 出 候 残七人 ハ右之御事立被相渡候、 一 罷出 御 用 前万城目庄兵衛受取 岡助太夫義 翌十八 ハ尚 相

後藤孫兵衛 様 田川田 村平三 三兵郎衛

被下候、 相 有之様可仕様無之御座侯間 節 足二付去年る別 各様御番 柄 廻 \$ 前々る勤方繁骨折相勤候 候間 組 御川近所之者計被 御 JII 私共方
ら申立
も不罷成義
侯間 而被 横 目 御番除無之相 仰渡置 仰付候、 御番除被成相勤 候神文ニて相 共 勤来候所、 扨引続年数相務者 御合力等も無之御 勤 侯様御吟 近年魚至 昼夜御 外御用捨も 一味可 JII 而 時 不

> 為御相談之旁如 前之勤方ニ 無之様罷 成御用支も此末可罷成と奉存候、 御 座候間、 斯御 さ候、 是又御番除御吟味被下 以上、 御 - 度候、 鹿 横 も右同

享保十二年十二月廿九

御帳役中為心得之中地半兵衛殿右御書付被相 右之通之訳ニ付自今ハ当番 相勤不申 筈に御吟味相 渡候 極 ŋ

敷候事 長病相除侯義、 規長病二可被致候、 無役之大番組 相除 御 国 ハ病気ニ而当番引続 篇之御奉公計勤候程 他国御奉公共二指支無之様二令本覆 病気之日数に ハ構被申間 にて 度相勤不 ハ長病被相 一敷候事 申 者、 除 候 如 先 間 1

上、 右之通長病之義首尾可 加 候様二令首尾候間、 病気に付御役御 へ可被指出 兼而申渡置候通名代か隠居願 候 免長病に可 御番不相 有之、 相断ヲ以長病可被相 勿論十 仕者 除御用勤居 1 相出候様 七 歳以· 御 候者 番 上之子 記事 入書付 可被申 ハ役 頭 共有之候 一候、 其 る申 段 以 遣 書

大番頭方

江戸 • 仙台勤方条目

る申

遣

し間

敷事 通

身頭々へ

相

勿論御詮義之者ハ親類方は相通御町奉行

=

御詮議之者どり親類申渡候節、

右〆り又ハ除候義共

二其

相達候様可仕事

右之通可被相心得候事、

享保十一年十一月三日

大番頭衆

大番組諸役人二申

御番組除

書付は

相

控、

其 分身共

迄一紙帳末書文言之内面々証文并宗旨之寺請証文ハ私手

黒 芦

亘 理 石

名

沢

要 刑

人

享保拾壱年十二月五日

中

村

日

向

病気之者、

御国

篇之勤

1

罷成候由申

・侯而も長病に記申

見

格二候、

部

享保十一 年十二月五

日

切支丹御改証文頭々へ相出候も、 右之訳人数一紙帳末書へ左之通書加へ可被指出候、

頭々手

前二

証文留置

只今

役御用仕廻候節共ニ役頭る大番 頭 前二留置如此御座候、

役目御免、

又ハ当座

面

A

頭

A

罷出

相達候様可仕事、 渡候節、

申遣候義、

定役指免候節

ハ格別、

当座役之分ハ是又其身

証文文字世間通用之体ニ侯

ハ、其分ニ可

仕候、

先年品

H

右之通其外之義ハー式前々無相替義侯 以上、

類も其通仕受取候様に御帳役幷用人等ニも可申含、 申渡候処今以吟味強く有之候様 相 聞 候、 尤切字等之

証文不及相直候事、 右之通相心得 可 申

享保十一年十二月五日

要

人

部

見

向

日 石 刑

大番頭衆

木村久馬殿

中 村 日 向

候二付、

如此

1

兵庫殿御指図之由

三而

御

牒役 相

右養子之一巻脇番

頭中

地半兵衛殿同

役中心得居候様被

渡

芦 名 刑 部

黒 沢 要 人

親類金森安右

衛門

後藤孫兵衛組森井勘兵衛次男長之助、

其節 応之養子等申合候様仕度、 菅井利助養子願候節、 願 紙 面 申 上候置候処二、 痔相煩養子申合候義罷成兼 病気本覆之段相通 病気本覆仕候間 候由孫 候 此 兵衛 末相 由

右之通 子等有之節ハ願申上侯様首尾可有之侯、 向後 我等共 方 被相 達不及候、 各之承 此段同役中へも 届 相応之養

添書ヲ以差出侯段鮎貝兵庫加番之節相達令承

知候、

扨又

享保十一年十 月

首尾可有之候、

以上、

心得居候様二可申

通候様被仰

付

右之通之訳 右 誰殿誰そ養子願申上候節 ニ付追而養子 願 申 合、 病気ニ付其段願 願 顕 候節 左之通、 紙 面 書顕

合 度旨、 上候処、 何年何月 病気本覆仕候ニ付相応之養子等御 誰御番組 二付誰 も相達置此度養子 座 候 願 申

申上侯、

以上、

方
る
御
触
頭 前之節廻 帖 ニて御 へ廻帖ニ仕相廻の一般を選出中への 触頭 閏三月相 廻候様可仕 廻シ 由 申 にて、 侯 尚 助太夫御

目庄兵衛御用 候由被申 尤兼而御悦申上候御方様 と石見殿被仰 向後御悦申上候義 元印可申事二侯、 聞候事、 前罷出 聞 候、 享保十弐年五月廿日兵 ケ [候答、 様二付先御悦申 御悦申 当番之番頭名元も へ計之義ニ 右之通被仰付、 上候義 1 一候間、 上候様 何も 書印 庫 尤同 殿御宅 其心得可被申 ニ御心得不申 同 相 役中へも = 候様 候 万城 間 名

昨日半兵衛殿御宅へ 之節御番割之砌 付無之内ハ勤番不仕筈ニ御座 候共御城当番勤番之義 其身病気ニ付子共名代 様為御心得如此御さ候 心得居候而 , 罷出 御奉公相 候処二被仰渡候 願指出親跡式被下置段被 可致首尾候由被 一候間、 出置候内親病死、 致承 知居 御番 仰渡候、 候類之者 忌明 組之内 各 有 仰 申

121

免之格

候得共、

一月よ

ハ御

免不被成下様御定二

候

番之節御門合判遠藤伊賀と相

調候而此以後御

番組

相

渡

間 御番

願

書 御

相

返申候、

以上、

8

御城当番御免被成下度由

願指

出

侯二付被相

達

候、

水損之高

本多将 洪水に付水損仕候 遠慮達 横目 勤 来相除候義無御 候義 享保十三年六月廿九日 享保十弐年閏正 監 大 御 組 ハ分地 K 鹿 町 蓬 横目 \$ 田半 御 主 配当之訳為書 座 共ニ御用引並に先年る当番相 二付相 座 太 候 計 八夫義、 月 候、 様 以 続仕 併至 Ĺ 知行高三 兼候間 入可 一 高 当 番 申 一貫文之内弐貫六文去秋 御 当二 人少之節 芦 西前 月八月両度之 Щ 名 除被 ハ当 左 刑 成方な申

> 正 月 # 四 日

申、 御 = 尚以頃日右将監組小木権之助知行水損ニ付、 付而、 免之願差出候処、 其 上縦御免之格ニ合候而も二月ゟハ御 難取 上願相返侯処に、 知行水損引高之御番御免之格 右半太夫義 報小(身) 免不被成下 当二月之当番 候間若吟 出会不 御定

無左

と相

除置

候哉

日

申

上山 相

同 役共吟

候而 来相

義と御川

7番為相

御

III

横目御

鹿

横

目

当

番

除候義、

何

方な申 味仕

除候

哉

享保八年八月十

日

御用前

城

目

庄

兵

衛

之願 免不被成下御 味も被成下義ニ可有之哉、 ハ各方ら相返候様可仕哉之段右将監相伺被申候趣令承 定二 御座 候 ハハ、 二月ゟハ惣而進退も高下 此末共二二月ゟ之御 番 御 番 御 免 御

衛

門

高下 知候、 御 正月迄格有之御番御免被成下、 番 御免不被成下 御 定二 一候間 其御心得可有之候、 二月ゟハ進退に不 以 寄

部

上

正月廿 玉 日

主

計

右 享保拾四 年 IE 月 申

御当番之節御門合判御名元御番組 置 何之誰と首 候而 相渡 尾 候処二、 口 申 由 但馬 御 奉 行衆 殿 御当 る被仰渡侯 一番之節 1 誰 御 下計 伺被 由 御さ 成候処 御首尾被成 候 御

申 申伝候様ニと伊賀殿御用人後藤儀右衛門ヲ以御帳役御用 義 二御座 一候間 左様に心得可申、 尤御帳役中間 も段

H

享保 十四 年十二月廿 前田

中

·庄之丞被仰

聞

候事

九日

私組 心橋元権 八郎義、 年数御奉公御免二而罷在候処、 願之

国

篇相応之義有之候

ハヽ可被仰

付候、

右に付同

儀候間、 篇之御奉公之義ハ為相勤候様可仕哉之段相伺 之内ニも右之類有之候 ハ、当番丼御勢子奉行其外御国 申候処無異

得相通申候段々早速被相 右之段相 通置可 通留之御方様な被相返候、 申 由 要 人殿被 仰渡候間 為御 以上、

享保拾四年 应 月 五. 日

伊

賀

様

但

馬

録抔

相記、

其外末々迄相残候義

常

唱

候義 御

御先祖様御事

何寺殿何院殿と唱書付等ニも仕

候 H

申

記

役中へも 八月十

可被相通

候

以上、

大番 頭中

心

御番組之内実名正之字忠之字を付申候者相見得申候、

刑部殿被仰候段右彦之允申聞合御首尾可被成哉と存候、(丞) 之丞刑部殿へ申達候処、 実名改者ニ而も為相 出候樣 此段は御番方格次第致可然之由 可仕哉内々承合候処、 牛越彦

几 而 月十四 廻状如此御さ候、 以上、

仍

文

九

郎

右之通伊賀被仰 伊 賀 渡候間 様 同 役中

相 伝申 候、 以 上

享保拾四年 四 月廿 八 日 片 倉 権 八 郎

奉書披露書等ニハ向後様と可仕旨被仰出 各 別 [候条、 其心得

H

人

今日葛西 伏仕候而 ハ其身ニ対御用被仰付候而も 郎 ラ以 御 意 = 御 番 相 人共 知不申 御 候 通之節 尤

候由

一刑部殿被仰

聞候、

段々同役方へも相伝可申

由申達候

正改の字共ニ改候様致可然候、

名苗字ヲ改 出為相改申

中

義

無之

可

然候

達

而触等相

儀ニハ無之候

御

帳役

ハ勤仕

候様

ニと伊賀殿被仰候

度如

此

御

座

候、

段々

御順達留御

方様と可

被相

返

以上、

世話被成置 前之御模様も不存様にて候、 候得 共 相 直 り兼申候間、 右之段同 肯 山 様 役 代る度 8

申 K

伝 向後相改候様 ニと 御意之事

享保 + 几 年 玉 月 # H

右ニ

付三郎

兵衛二

承

合申

候

処

詰

所以

上之者

御通之節居

申候様 右之通 御 二可 座 仕旨 候間 承 申 事 知 相 = 御 通 申 座 候 候 以上、 以 上

伊 賀 様

Ŧī.

月

#

H

計

主

常

御 . 牒役中之内忌中又 1 父母看 病御 暇等 = 而 当分

御

番

方御

+

月

十三日

相勤させ、 用除居候と、 神 当座代 文等ニも りニ 為仕候か本役同 御牒役申立相 前御 付候 用も 衆 為勤可 御 用 前 申

相勤 頭遠 哉 無左候 申 藤 間 伊 敷候、 賀殿 ~ 只両番 伺 本役残り 候処 頭宅ニ 候者計 当座 而之御用 代 繁々 n 御 御 牒役 取込之加 用 前当 = n 勢計 候段御 御 用 前為 仮 番

> 五年十 月十八日

其外末 と調候 之十 様ニと 相 K 私当番当 残候物二 出 向後 帳 申 小々迄相 而も苦ケ間敷哉と奉存候上被 ·候処、 ハ当八月主計 様 右之品 年 御 と可 両 座 残 別 度 侯間 仕 候義 相 不被仰出 紙写之通申 由 仕 彼是殿と相 殿ゟ御廻帖被相 廻 格 相 申 見 别 以 候 得 前之義 来候事 常 申 付、 調 候条、 一夕申唱 申 何寺 = + 候処、 候 涌 帳 之義 候処、 仰 間 様 十帳之義 四 出 冊 何院様と 御 奉 何寺殿 先頃要 -別紙之通 私方当四 書披露之処 \$ 御記録 末 何院 調申 人殿 H 迄 月 候

御 座 候間 相 通 申 候 以

伊 賀 様

弥

口 後様 要人殿御帳 尚以私 申と存候、 付相 方御 調 候 本 面 此段 様 = 帳 御 = = 番帳 御 香 応 座 曾 御 候 并 我 相 間 别 部斎義得 談御 紙 弥 尤 御 御 性院殿 記 本 帳 録 御 も得 等と 座 候 御 性院 火消 1 品品 違 と御 御 様 と為 様 間 座 相 = 候 仕 直 向 処

享保十四年之事

享保十五年正

月十

九日

出 助 太

夫

中

庄

之

万 J. 遠 城 野 目 + 庄 兵 兵 衛 衛 和 田

田

左

衛

門 丞

片 権 八 郎 松

元

兵

左

衛

門

西 Щ 仁 左 衛

北別! 紙

勿論様

付

三相調候様

役中

も可被相

通候、

渡置候通

候、

御番

帳 百

并別紙

1 御

記

録等と

ハ品違

候間

被相直候、

以上、

佐

K

弥

様

別紙之内見性院殿御先祖様之御

事か様付ニ調候品

最

手

前

組当番勤仕帳四

一冊被指出候付致一

覧相返

黒 沢 要

人

成 候、 人殿物書堀江喜左衛門ヲ以享保十五 上使之段御暇申来候 諸願不急成分ハ ハ相出不申筈物書申 尤 御参勤之節 大守様御在江戸御帰 ハ御国御 聞候、 御着城前書 以上、 発駕日迄前日数十日諸 年三月廿八 願 版取次申 国之 日被 間 敷 御 順不急 候 暇

仰聞 由

要 御

而 口

御用前 城 目 庄 兵 衛

戌

ノ三月廿八日

当番之節受取

此已後御本帳一ケ年置相仕置可 申

御本帳年々新規ニ相仕立候義当年る壱ケ年 然由伊賀殿被仰聞候二付、 中へも大方古御寺帳を相 候 ヶ年置伊賀殿御役目被相 ハ付札多く罷成末々何そ相改 尚 ご助太夫ヲ以直々申達候処ニ伊賀殿御 御上二 而 も諸敷御用薄 勤 用候番も多候間、 同 候内 欧申義ハ至而指式 三被仰 ハ仕立可 ハ至而指支も罷出候品 付事 聞 申由被仰聞 置 候、 届尤成事 K 此方二而 相 尤同 用 相 申 任 役衆 ナニハ 候間 も壱 候 立

大料紙 二十帖但御在国之節ハ三十帖

筆

墨

四 八対

挺

蠟燭

几

但シ、 御在国之節 十丁

小走相立候 受取

御在

候、

大料紙 二状

御 玉

進 =

物部屋 而御用

筆 二対

ろうそく **弐**丁

手前
る
入
次
第
渡
し 右之内ヲ一番弐番へ御用人方ゟ直々御渡可被成侯、 来り候 八人共、 向後ハ右之通可被成候、 先年 以 1

上

筀 於

大料紙 帖

右之通向後受取可申候、 只今迄ハろうそく弐丁墨

帖筆一

対其時々受取来ル処、

此度何も吟味仕相改申候

付、

一挺料紙

御帳役御用前受取物覚

ハ不時御用之節ハ受取之外ニ受取可申 ハヽ其時 々蠟燭受取 前申

御在国之節不急成諸願達ハ大番頭ゟ直々御当番 被出

= 御座候、

御在江戸之節 ハ御帳役御奉行衆 持参申筈二御

座

候、

御

番頭御在郷ニ而も右之通御さ侯

右之通私御用

前中病死跡式願御奉行衆へ持参仕候

物

書右之段申聞

此末見分書出候義大番頭御在郷之内 脇番頭御書出罷成申候、 御帳役共右御用相勤候義 ハ脇番頭 へ申 来候に 以上、

享保十六年九月二日

出

助 太

夫

E 和 田 遠 惣 野 左 隼 衛 太 門

田 中 孫 庄 之 允

松 南 元 兵 左 太 衛 門 夫

倉 権 八 郎

片

仁左 衛 門

西 Щ

脇番頭宅成共大番頭宅成共勝次第之事、(手脱カ)

○大番頭御在府之節ハ大番頭御書出被成筈御座 候 大番

第二御座候

御書出罷成大番頭宅ニ而

相勤候共、

脇番頭御目懸相出

申 頭

右之通半兵衛殿被仰聞候事、

享保十七年閏五 月二日

享保拾八年七月御帳役七人風邪ニ而平臥、

岡助太夫一人

御用前

田 惣 左 衛門

> 御出駕之節 ハ前々ゟ御番衆被指置筈ニ被仰渡候間

表御番衆昼夜両人相詰申候様御首尾可被成下度候、(ママ)

昼之内ハ御用有之拙者共毎日出勤仕候間、 相詰罷 能在候内

如斯 在 H

相詰候様二被成下度、 以上、 ハ御番衆申合表御番方相勤、

拙者共下宿仕候節

ハ御納戸

正月廿四 H

如此 御座 候

坂 元 七 之 允

窪 田

善左

衛

門

血荒夫七日 婦十日右之通御座候、 以上、

書付達書出等之義申渡候付委細吟味可申聞候、

左之通可然

と致吟味候、

後

前も

相勤候等二相済候

享保十八年七月廿 ハ仮り御帳役御用

日

有之、只御番頭宅御用手伝ニ申渡候節も有之候

共、

向 8

仮り御帳役被仰渡、

前々ハ不同ニ而御用前為相勤候義

にて御用前相勤候ニ付、

其段杢殿半兵衛殿へ

相達候処

流産夫五日

婦十日形体有之ハ可為流産、

形体無之ハ可為血荒、

一季書出

御役料被下幷在郷屋布御町入知行高被結下侯達、(敷) 実名改并名改

屋布替之讓得共願之通相済候達

他番 連判養子縁組 願指出候付誰方へ養子縁組申合願差

月廿

写

左之通御納戸役人申聞候条首尾可被成候、 以上、

正 四 H

明廿 五日奥筋 へ被遊 御出駕侯二付、

> 出 候由之達之類

御留主中御納戸へ

右五ケ条半切印 江戸他国

判計

其儘にて受取

和 西

田

惣

左

衛

門殿

乱心出奔横死等之達物、

江戸他国御国定役人被仰付侯達

右七ケ条之類横折重判ニ而為差出受取可申候事

但、 右之内乱心出奔横死等之類至而難差延品

嫡子嗣子名相附候達

右品々申達相達可申事、

延引罷成候訳候

ハ、受取可申候、

~ 相達候

1 ね 1

享保十七年九月

杢

助

太

夫殿

負等にて死亡速重判成達

ハ縦無判に候共早速重判 当番加番

成 或

カン ハ手

ケ条ニ順首尾可有之候、

以上、

右之通大体被相心得首尾可有之候、

右ケ条之末々達夫々之

右六ケ条半切紙無判、 慎蟄居閉門遠慮、 見分罷成候者達

但、

判突ニ而も相出次第受取可申事

々、

御役目御免之達 定仙之者在郷住居仕候達 御村当座御用

宿替并御触受合所相替候達

出候共相返候義ニハ無之候間但、達候方ゟ重判折紙にて相

置可申、

^ 罷

登之者達

忌中達、 病気達、

血荒侯達

松

元兵

左衛

門殿

片 南 倉 孫 権 太 八 郎 夫殿 殿

Щ 仁 左 衛 門殿

中 庄 之 丞殿

上

右之通此度諸事御用 遠野十兵 衛殿 安二可 仕 御

触 相 通

候 = 付

右之通·

享保十七年十月十八日 候間 如 此 写 置 也

る同役中被相通

御用前和前 田 惣 左 衛 門

御 後何そ急達、 用 前之者両御 其 外御 番 頭宅へ 用 = 而 御 用 御城当 相 勤 可 申 番 由 罷 候 出 一候義 指 紙受候以 有之候

其段右御番頭何之品ニ而 罷出 一候段相 断可申 由半兵

右之通御格式相極り申

田

杢

殿

元文元年

七

黒

沢

要

人

御宅御 衛殿今日被仰聞候間致御 用 御触 幷 御折紙 来ル時分致他出 伝候 [候共、 名元二致判

相

原源右衛門五十歳以

上三

而病気ニ而

申

上候処二、

願相済不申内源右衛門病死致候二付、

源右 養子願

衛門親

申

侯

右二ケ条致御伝候、 享保十七年十 以上、 月 晦

形他出之品

可 申達事

御 同 役様中

常

松 元 兵 左 衛

門

度由

親類

申

聞

候間、 申

同

役田 御座

庄

之丞 相

相頼 候間

御

奉

行

何等ニ而も

相出

侯義

=

侯哉 中

伺

申

右之段 類

得之ため留置 申 候

明候

ハハ

則跡

目相

申

候様格二御座候、

右之段各様御心

物 承 1

書

武 田 右

四 郎

兵衛二手

配候所二、

只今ハ同ニ不及養子忌

元文弐年十一 月

和 田 惣 左 衛

記義 詰計勤仕、 布施孫右 円病気にて両度之当番ニ半日之勤仕 三可有之哉、 衛門 春出 組飯塚十 ゟ病気ニ而半月計相勤、 前例も無之以後之義共 右 衛門義、 当春之当番廿日之内 其上去 候間、 二難 相 長病 秋当番 極 候 間 -昼 相 相

長病 ふれ

二相

記

三日勤仕之者ハ長病ニ申渡侯

二及申間敷候

侯段孫右衛門被申聞

候両度之当番二二日

勤仕之者

間、

其御心得同役中

へも可被相通候事

江戸御帳付高橋悦之丞、 候付、 願 丽 上候桂島庄六郎次男庄左衛門聞忌る五十 納り翌廿三日病死仕ニ 指 親類遠藤角太夫方ゟ病死仕候段達 重り候ニ付、 末期 付 願江 元文五年 同役深山弥右衛門 戸 = 七月内 而 同 月廿二日 疫之症 ·日忌中之達相 通 末期 方な申 指 相 煩江 右 戸 来

通 達 戸 申 = 候 侯 而 処、 病死 1 此 以前 同 方 役深 = 養子 而 Щ 1 届 弥右衛門 願 相 篇 出 候義 = 方と申 候、 = 候間、 尤忌中之義. 来 世二 江 戸 日 = 如 末期 何 而 訳 始 願 末

出

候

=

付

閨

七月三

日

御当番主計

殿へ持参

相

出

申

候

処

已後

1

心

7

相

付

相

出

可

申

由

服

部

兵太郎

申

候

無申迄

申

義 候、

=

四

月

+

日

和

田

惣

左

衛

門

n 申 相

由 候 申 遣侯、 右 願 相 納居、 分り不申 廿三日悦之允病死、 聞 候間、 は きと申 達兼 廿 四 候と申 日 取 置 達之 申 候

趣意ニ

而

服忌之義高

与右

承合候処、

願

納

n

候

御

覚

定式服忌受候

由

申

聞 橋

候二

付、 衛門

右角太夫忌中達

指出

御

出

川新 当番 殿 主計 相 兵衛ヲ以被御 出 殿 ス 御受取 持参指出 申 聞 被 成成候 御 候事、 済達 由 右之通私 物書大石 共 二三通受取、 清左 御 用 衛門、 前 月番 相 勤 孫兵 取 申 次及 候 衛

記置 服忌之義尤江 申 候、 以上、 戸 詰合 = 而 病死之者 例 = 可 罷 成 哉と 如 此

相

但、

幷

目

元文五 御 同 役様 年閏 七月 五. 日

> 伊 藤 源 之 丞

私 共 御 用 右之願内日付追而 前 中 石 見 殿 願 相印候付 通 持 参 別手 申 候 跡 処 = 相得用力 御受取 候 被 願 成 在之

> 候得 共 為念申 達 候、 段 H 御 順 被下 候

達可

御 役 様

中

外之親類軽 番組 有之此度 候義 之内 勿論、 + 者ヲ以相 病気指合等之節、 番 達名元ハ侍分之者ニ仕 様 達 = 申 候義向後指支候条、 合 候 侍分ゟ外之親 E 如 斯 候 事 相 達 類 各ニも其心 候 共 而 侍分な 諸 達 相

寬保元年八月十 H

可

宜 = る吟味も 急病養子 可 有之事 乱 心跡 = 願 而 候条、 或 横死半途之達等 万 軽 ニキ者に T 時 相

右之通泉田 達候 | 李殿 共 (先以 る右 指出 年 月 可 被申 = 御 用 候 前 出 助 太夫ニ

御

帳役同

口

申

通

由

被仰

渡

候事

覚

相納 享 保二十 改 候様 所御役人庄子 年分合先切支丹 申 聞 伊左 候 衛門 勿論 左之通切 申 証文并寺受証 聞 候、 紙達相 向 後 毎年 文相 添相 納 ケ年 候様 出 分充 申 = 候 7

享保 何年分泉田 杢 王組支丹証· (切脱力) 文何百 通

由

= 2

口

之候哉と相談仕

候処二

付寄合申

候

事、

御小

有

同 年分寺 請 証 文何百通、 右之通. 相 納申 候、 以上、

右相

何 出

月 候

何

日

御

てうやく名元

別紙横

牒

此

方御

用

人

~

相 渡

差置

申

候

間

諸

御

用

前之

役 人人衆

寬保弐年 Ħ. 月廿 七 日 大川 市 郎 兵衛御 用 前 = 而 鉄 砲 御

帳

切

右之通:

此度同

役共

八吟味仕

候、

以

支丹御改 人 数 紙 帳 右 両 1 持 参申 候節、 右之通 御 やく 中

聞 候間 如 此 御 伝仕 候

御 在 国 之節 無落御 記 録 書 L 田 村隠岐守様 書加差出 る御 [候筈ニ 使者 寛保年 御 進 物 在

御他番 る申 来候 為御 心得書印 置 候事 之候

記

録

書

出

2 8

中

源 太左

衛門殿

8

申

-達候趣、

御同

人被仰

聞

候趣

P

品

H

#

見分方御 諸 御 用 用 前仕切之者 前之者両 人ツ 出会候間、 1 見分方為御 見分方へ ノ月ハ サカリ はシ、十日日 用之壱ケ月三 書出 日各三日四日 一候者も 一度ツ

御 同宅 番御 役共吟味仕候事、 代り人被 相定見分書出

L

1

其時

H

見

分

方

御

用

前

之者方へ 御差紙可被遣 候 事

諸 願 持 参仕 候節其 時 = 右 帳 ~ 相 候 様 右御 用 前之者

右帳差出 候樣可 被 成候

寬保弐年六月 世 H

用 虎前 岩 吉 太 夫

異義 右書付同日源太左衛門殿 我相済申 候 此以後壱ケ月三度ツト寄合申 持 参、 品 H 直 K 申 候等 達候処二 御 座 無御 候

座候、 二月 **本殿御宅** 廿但四シ、 日忌明御達李殿 而皆 様 御宅ニ而右之品々申達侯、 も申 達候得 共、 以 後 為見合如 此

VI ぬ六月廿 五. H

御同

役様中

虎 岩 吉 太 夫

覚

虎岩林平義当三拾六歳二

罷成候処二、

妾腹之子同

氏八右

寬 願

保三年六月十

五日

奉

候

御

憐愍ヲ以如

願被

成

下度奉存

以上、

達一 出 候 何も連名ヲ以杢殿 之御用支罷成、 付、 共今更一 同 御用 = 無之候 前仕切 同不仕候間、 且 腸番頭-此以後 へ申 ハ差支申候ニ付、

寬保弐年六月廿 四 日

達

候処、

無御異義由

付御触

被相

御本丸

=

御番代り合之時分御兵具役人罷出相渡候様申

渡候処、

#

挺

此度又以御触被相出被下度旨

先年も此段御触

被成

戌 ノ六月廿 四 日

右之通此以後為見合如此

御

座

候

以

虎前

岩 吉 太 夫

先年妻離別仕妻腹之男子無御座 五. 門当四 貫三拾五文之所右八右衛門二被下置度奉 歳 = 罷 成候嫡子 被 成下、 候 = 付、 末々林平 親 類以 願候、 御 連 知 右林 判 行 高拾 如 斯 平

虎 岩 林 平 重判

杢

御番組

中諸達大番

頭

へ計

祖達、 ハ脇番

脇番

頭

~

ハ不相達者も

有

頭御宅ニて寄合も有之候

方
る
不
仕
候

ヘハ不罷成侯

所

諸

殿

虎

岩

勘

助

判

布 施孫右衛門殿

遠 藤 放 馬

大

条

監

物

沢 要

懸置候御鑓御番代り之節改受取 渡仕 黒 候 付 此次

相減候ニ付数も少キ 事二 御 座候間 向後 御役人罷 出

且又右御鑓懸下り等之義 二不及候条、 御番人之者計 = 御本丸附坊主弐 而受取渡仕候様 人有之事 三可被申渡 =

之候、 以上、

間、

此者相

勤

酸様

可申

渡 以由若老

申渡侯条、

其御心得可有

寬保三年亥 ノ閨四 月廿 九 H

奥山 出 付、 生之達山 勘 解由 自分遠慮仕居侯段親類相 組御 崎 源太左衛門 帳役井上九郎兵衛義、 用 人方な請 達候紙 取 御 高橋仲右 面 本 Ш 帳 崎 不 衛門嫡 源太左衛 相 直

門殿 由 在之候、 ハ番方御用相勤節右達源太左衛門殿御用人る受取 各 同 やく中 نے ハ違脇番頭之義各 相 達 候節 殿 候

義 抔 ハ各も 2 1 調 脇番 申 間 頭も同 敷事 候、 様ニ 成至 況源太 而 不取 左衛門殿御用 合事二 候、 人抔 大番 と調 組 6 候

此通 調候共ケ様之義 1 不取合事 二候間、 各二も 可被相

て段 心得 義 々仕来り 候 共 成候事ト 畢 一竟押 奉存候、 付指図も取 若又ケ様之文言有之候 仕悪く 、候故、 其通に

直 6 達脇 各 ハ右之通 番頭 様 = 調相 取次各 ハ不仕候様 出 へ相 候 共 出 = 口 候 源太左衛門方用人抔と申 被申 ハ、不心得成事ニ候、 渡候、 尤右之趣 同 -様為相 役 向後下 8

之、 被相 達出 通置 候時 候、 女 吟 勿論 味在之可 前 廉大番組中 然候、 以上、 も被相 触置 候義

無

寛保四 年 十二 月八日

尚

々右之達脇番頭 る取 次各 指出 候 1 1 前書之趣 脇番

頭

8 可 相 古 通置 内 新 口 然候、 + 郎 様 以 上

遠 藤 対 馬

> 卯昨日カ 6 相除 御 来候 祝義之節御給仕 由 = 候処、 近年服 罷 穢之輩 [候大番 組 へも 服 版穢之者 御具足餅 頂 先年 戴被

仰 付 尤 御 奥於御 拝 所ニ 御 神拝 被遊 候節 并 幡宮

穢

7 愛

輩右御 之大番組 岩社御名代帰於御座之間 座 服 敷 穢 ~ 罷出候義指支候迄 は 不指支事 候 御 間 目 見被 其御心得 ニ御さ候条、 可 付候節計 有之候、 旁以 御給 服

右之趣 延享三 1 同 年 役中 月 8 + 可 被 日 相 通 候 以上、

後

藤

孫

兵

衛

泉

H 杢 様

遠

藤

伊

賀

様

遠 藤 対 馬

後 藤 孫 兵 衛

松 前 釆 女

泉 申 処 -渡侯哉、 二子 田 杢組須田善兵衛義, 共名 乍 代願 去 去月当番之内名 指 出 候 仍右 去秋と当月両度之当番令懈 願 代願 相 申 返 族得 格之通 共 長病 直 n 在之 怠候 = 口

相伺候 番明以後指出 由 杢 申 候間 聞 候 力 御番両度令懈怠候事 様之前例等不 相 知名代願 = 一候間 格之通 以 添 書 前書之通

申

来候間、

各承.

知在之首尾可有之候、

以上、

Ш

崎

源太左

衛

門

様

延享一

一年二月廿

兀

H

子共 長病ニ 有之名代願申 申渡候義無異義 上候義勿論成事候条右願留置 候、 扨又右善兵衛義十七 申候、 才以

此

之通人数 延享弐年五

大屋形様相付候

処二

相

除候間

相

由

月

御

上使

并

御参府御悦在府之大番

組 申

幷

段杢 可 御申 通候、 以上、

几

月十

五

日

申来候、

仍大立目登殿御名元二而被相出

帳 相 出

登

殿 由 御 左

奉行衆ゟ申来候、

此末御付之者心ヲ相附

候間 候御

> 即 口

可

申

る右之訳被仰渡侯?

延享元年 同

月同 日 御 奉行衆合申参侯、 右善兵衛長病 =

被仰

義候、 御守殿女中 向後之義各様ニも申達候様ニと頃日大波太兵衛 御 進 物等 1 他 所御 進 物同 前其 時 A 書 出 口 申

ゟ申越候間 如 此御座! 候、 以上、

延享二年二月十

九

H

泉田杢御番方

大 内 帯

刀

山

田 中 庄 之 丞 殿

御 同役衆中

崎源太左衛門

右 五. 人 相 除 相 出 院事、

五月十三日、

相出 泉田杢組跡組 上候様首尾可被成候、 相 附江 候ニ 戸 付被指越候処、 為相 高橋彦市郎嫡子彦之允御用為見習佐伯豊 ·登度· 且右 典 伺 彦市郎 書二 伺 書 而 ハ杢元組 親類守 ハ不罷 有之候跡 成候間 屋 JU 郎 兵衛 御 組 暇 1 願 伺 書 申 書 前

仍而 別紙致返進候、 以上、

候等

二年中相済居

候間、

是又相

直候様首尾可被成候

御 小性組 布 施 清 五.

郎

游 佐 喜 助

御年

男

今

泉

孫

兀

郎

佐 K 布 新 蔵

遊 佐 半 左 衛

氏

家

延享弐年九月二日 小

又 太 郎 様

上遠野十兵衛嫡子同氏隼太二名代御奉公被仰付被下度願 差出候間、 蔵人殿る御奉行衆 持参可仕由被相渡候間

ハ右十兵衛願文言初ニ泉田杢跡組上遠野隼太と在之候間

無然之間、

監物殿

へ持参差出申候処ニ、

物書井上八郎右衛門申

聞

候

通

諸事心ヲ付御番人江も委曲申含急度相勤候様可在之事

候都ニ此已後共ニ初へハ書不申、(ママ) ハ書入相出可申 末へ右文言書入調直し差出可申由ニ而被相返 由右八郎右衛門申聞候間 末 へ泉田杢跡組と申義 為御心得御伝

仕候、 以上、 石

延享弐年九月十 四 日

大

七

御目見奉願侯

ハ

可被仰付候由此度被仰出

候

併勝手次

御同 役様中

脇番頭

当七月大内帯刀当番之節

御本丸二被懸置候御鑓之玉縁

不相見得候段同所御番人申出候由右帯刀相達候、

大番頭

梁 JII 右

膳

候義ニ在之、 丸之義ハ各預之所にハ無之候 且最前も同所ニ被懸置候御鑓の甫不 共御番人ハ大番組

相見得 る相

勤

義ニ付、 自今受取渡等其外念を入候様御番人へも可申含

申至而不可然事二候、 各先同役へ被仰付候処又以ケ様之義在之御折柄事と 仍而向後 ハ猶更最前も被仰付置候

候、

同 役中 へも 可被相 通候事、

延享弐年十月十 七日

但馬殿於御宅被仰渡候事、

嫡孫始而之 御目見只今迄大番頭以上計被仰付候処、 自

今ハ大番頭下大番組以上之嫡孫十五才以上計勝手次第

第之事ニ候条病気等にて不奉願候共其品組之頭支配

届置候二不及候事、

通 石之通各其御心得同役丼支配之内大番頭下大番組迄 以上、 可

被相

黒

延享弐年十月廿五日

御本

沢 要 人 用等ニ

而罷登候

ハ

勿論、

縦自分ニ

罷登候共右日

限

H 御

直判之節右日限へ出会候様罷登罷出可被申候、

外二も

右之通各其心得如兼而之御

·触組·

中

へも

相

通

可被申

以上、

出

i侯事、

時但、 候、

、相断候ニ不及事、病気指合之者ハ其

在郷住居之者も有役無役共墨

出可被申

左之通日限之内壱ヶ月壱度充我等宅へ有役無役共自今罷

且又部や住の者も十才なハ右日限折

H 口

罷

右之通何も

向後 罷出

可

相

心得、

且其番頭

指支御

用

除居 相

候

当

対客二

候との義面

日々其時

々我等宅

断

可

申

へ断候義指支候条、

何

方

監

物

延享三年寅二月

右之通十番大番頭石母田但馬殿ゟ被仰付候事、

右御触但馬殿 る申来候、 写置 申

片

平

助

右

殿

丑:

ノ十

月二

泉田

右御代り大番頭石母田但馬殿延享

九月十五

一日被

仰

付候事、

御用前 江 孫

Ξ 郎

写

大番 組無役之輩 ハ御奉行衆若老宅

ケ年両度之当番之節 何方へ 誰

K

何

ケ度罷出

候との義当

対

客

罷

出

候義、

之節御帳役 相 断可 申 事

有役之者 ハ御城当番無之御帳役

番加番之我等共宅 へ罷出 相 断可 申 事

延享三年二月十 日

石 母 田 但 馬

右之通被仰付候事

覚

御

候節

ハ当番加

直々持参不申親類ニ 帳役共諸願受取 候義、 而 相 出 五十才以上之者養子 「侯へと只今迄受取不申候処 願 相 候節

罷出 院事、 会月毎月八 日 廿 Ŧi. 日 刻限

会候節 時ゟ九つ時迄、 1 可 但当番之節 ハ相 扣可申事、 右之通 向後 五 可 0

之我等共宅 心得候、 其番 へ可 罷 頭御 出 候事、 用引并宅御用共相除 候間、八つ時揃ニ可但当番加番ニ而右刻 が被罷出 事指

135

右之通各其心得可被申侯、

以上、

左候

向後五十才以上願も常式願之通親類持参致候而も受取 無 可

被申候、 且 何か御番方格も候ハ、別段之義相達 候様、

殿台先頃被仰越候義、 頃日他番御帳役も聞届候処格も無

ハ、五十才以上ニなづミ不申常式之通受取候様対馬

二付、 之其上一番八番十番計右之通二而、 向後ハ十番共に一致ニ五十五歳以上ニなつミ不申 外ハ右之品も無之候

受取候樣此度令吟味申渡候条、 其心得可被申侯、 以上、

延享三年寅二月十七

石母田但馬殿ゟ御書付ヲ以被相渡候条、 御本紙ハ御用櫃

入置 写如 斯 = 候

延享三年四月五日御番割御触相出申侯、 但馬殿助太夫ニ

被仰渡候御番

照相

出承

知仕候、

以後当·

座 一御用

而

御村

罷下り 申 侯義不被相下侯由被仰渡侯、 御村等 罷 下り 申

度達等相出申候 ハ、御吟味可被成侯、 以上、

御番

組面

々令在郷之義、

只今迄十番共其身勝手ヲ

以致

在

郷相 書顕重判ニ 達 届 而段々ヲ以相出可得指図候事 通 = 而引移 候処、 向後諸 願 同 様 品 日々達書

> 同 年三月十九日

御仕置被仰付候者之親類遠慮向後左之通

御仕置場 ニ而斬罪

牢前 三而 斬

牢朽 切腹

永牢

遠島

右遠島以

上之御仕置被

壻舅小舅姉妹壻本家并分地致侯者分知受侯者家分之者迄! 仰付候者之忌懸リ之親類ハ不及申、

他人預 'n

他国御

追放

御城 下御追放

Ξ

郡

御追

放

親類 御 預 n

御改易

右

ハ御改易以上之御仕置也、 忌懸り之親類ハ不及申本家幷 B

娘ニ年頃相応之者無之族ハト他人ニ

而娘二取合壻養

致分知候者分知受候者家分り者迄

閉門

遠慮付り塞逼ハ罪之軽重ニゟ前後在之事、

右 ハ閉門以上御仕置ハ父子兄弟遠慮相伺可申事、

出奔之親

類遠慮伺 ハ諸道具欠所被 仰付候節、 御改易以上之御仕置

被仰付候格首尾可申事

享保三年五月被 仰 出 候

一凡下之義ニ付達出候 出 助太夫御用前之節 但 ハ、大番頭へ持参御 馬殿 伺 超差図 御 末書出申侯由 座

遠田

郡中津山村大立目下野知行百姓共古来る勤来候夫

延享三年八月

者又 同 性 ハ他人を実娘ニ取合壻養子ヲ願御取上い 一廻り之従弟又ハ他性指渡之従弟を指置、 たし候事 遠キ 続之

同 立 性 親類之内ニ而 一廻り従弟又ハ他性指渡従弟無之者 娘へ取合壻養子願可申 上候、 ハ兼 而 養子可 右親類 申

> 子二仕· 度願候者 ハ願之通 可被仰付候事、

徳 元年二月

正

奉行衆御名元

実娘有之輩養子之義右之通

延享五年三月十五日松前釆女被仰付候、

十番大番頭

仙台藩評定所記

御郡 馬 行評定所御役人申渡於評定所相糺候趣 江申遣侯品々下 煎吉十郎儀地肝入役差除候様仕度趣再応下野家老用· 人足等不相務用事も指支催合穀等上納不仕、 奉行等相達出入司申 野 嫡子同氏掃 遠田郡中津山村大立目下野知行所地 達 候 部 = 付 御郡 可 奉行江 遂愈議旨 申 庙 衛門 御 侯旨、 且 対肝 町 奉

候、 右惣左衛門相糺候処、 御同 人様御知行中 津山村去々年不作二 拙者儀大立目 下野 様 一付御地 地 肝 入相 頭 様御 勤 申

含候通 銘下 捨願 者罷 願持参仕候二付右之品々為申 高之内半毛以上二引候間 彼是両通 御代にも下ケ被下候処、 通 仕相心得居 候所存 役人衆御 其 - 候儀 越御用 打過候者も御 一御百 無是非 、段申談願相 一両通: 式合付之所半毛之御引 右 江 候 共 田 無之故不都合之願ニ 共 捨願 候処、 付御 如 地見之上相 願不被 取次御 願 共連判二相見得 二不都合之願御吟 七甚 百姓 弐合付之所半毛ニ被立下と申文言為相 相 并 一銘下願 渡 控 同年 座 即候処、 成下候 一候得 地 口 共御引方承 然趣右 郎 頭 九 応ニ御引方被立下御 権 又以銘下 指出 月御 共 御 役 七 ハ 右之者共 一有之、 人衆 候処、 方二罷 銘 聞相返申 又以平四 久八甚助皆 両人江申含候得共承引不仕 候 百姓之内市之丞千太郎と申 味難被 上地二仕外無之由 い二付、 以一下札 = 罷越候者も 江 相願候儀是又不都 相 銘下之儀当御 弐合付之所半毛 ハ名元相 成迷惑之品 候、 郎 成 相 出 覧仕候得は 無 候 申 渡取立之首尾 小 然に追々平 候処、 四 田地見牒被相 郎 相立又 有之、 併 除候様被 右 強 拙 地 書 認 両 而 通之 又無 者 御 相 頭 顕 少 被 九 除 申 様 両 用 出 可

> 右願 さま 方江 限而 之所半毛之御引方と申 指出申 談願相 除 小 参候様 候 取次間敷由被申 四 ハ相控可申候条銘下 而 郎今之丞市之丞右 返候得 候 申含候処、 は趣意なし 申付候二 仍不都 付、 -渡侯間、 罷 新内久右衛門 合之願 訳相 成候、 円承引不仕候故不得 平. 願も相返候得 願持参、 除候而 四 其趣 候間相返し 此通 郎 小 式合付之所半毛. 市 四 口 郎 趣意無之事 郎 申 而 ·談御百 由 左 相 相 縦押 越 田 申 衛門罷 候間· 止 呉候得 聞 1姓之内 事 候 而 石之品 越弐合付 相 御 役 と申文 付 候 由 拙 人衆 間 候 申 御 共 聞 H

江

郎

申

久 右 衛 門 役人衆指図不 地 百姓共 朝惣御百姓参候様ニと申 .敷仕形不都合之旨申含候処承引不仕 頭夫馬等も相務候儀不罷 市郎 相 越右 相用 左衛門新内今之丞津右衛門勘之丞市之丞 願於不取次は向後 応相出 談相 |侯願 成 由 帰 自分二相 . 甚四 申候、 御 手 候二付、 郎発言仕 前差引不 翌朝七· 控 印 申 候得 相受、 十人余之 左 由 自 由 尤 加

明 間

御 御

支候

何分勝手

可

仕旨

は

大勢之者

共

同

帰

候

仍早速右之趣御役人衆江申達候处、

御百姓共

兵衛

八郎兵衛等も

同

断

申

断

侯間、 申談候得

所存有之支配請候儀

指

きか

相

百

之御 被相 申者 此 申 とか 者扱 将又右 百 慥 相 知 段 成 気之儀 共 印 姓 成 連 而 越 引 3 除 < 段 申 中 儀 服 候 付 申 御 候儀 兼 方ニ 拙 儀 気遣第壱 心当も A 江 願 不 もさ 者 田 疎 心 付其 而 腰 誰 致 候 申 御 地 有之弐合付之所半 と奉存 吉十 遠 本 押 付 縣 重 由 品 百 見 ま 復 無御 無御 候覚 願 立 、段共 = 姓 H 牒 < 吟 相 郎 罷 御 ケ条書を以御百 下 共 候 拙 書等も 味仕 無御 勤 别 成 座 座 座 二御 拙 明 候処、 候 而 者 候 者 候 白 申 様 且 懇 病 其 処 候 処、 役 座 宅 意 気中 哉 = 去 立 上拙 書与 御 追 人衆 候 江 候間 役 拙者年若之節 存当 身分 H 剰 -× 処右之次第 罷 毛 年 仕、 地 者儀 行跡之儀迄取 人 承 江 越 只 抔 衆 御 候得 肝 候 候 姓 申 候 今二而 る被 喜 田 入仮 は 由 取 中 達 様 1 相 地 八郎 及承 は右 連判 御 1 何 候 相 見引 家中 1/ 申 役 無拠 可 = 触 候 渡 8 吉 儀 相 申 申 而 候得 肝 且 被御 方之儀 繕 懇意 候 勤 候、 + 上由 又御 勤 江 仕 も御 方不宜 候喜 挾り 一十十 は あ 郎 合 共壱人も 覧 曾 付 L 百姓 同 事 奉 百 さ 届 而 居 奉 八 出 を 承 姓 人 郎 相 相 ま 拙 郎 会候 仮 候 = 取 存 中 中 知 末 分 役 被 応 لح 故 御 候 候 江 書 拙 不

趣右

津 儀 白 聞

山 は 地 之所

存

=

而

拙

者

扱

不

相

請

2

0

訳

承

届

口

申

達

由

御

役

人

候

由

付余

出

之挨拶 人有之畢竟其 合付之所半 人も 候儀 無之 セ 市之丞 村 口 = 申 候事 有之畢 も儘 百 申 は 迷惑之品無之候処、 口 姓 油 肝 出 = 三不 毛 有之由 付、 = 由 旨 入 市 一竟其 一十 身 相 之丞不作 出 再三 三立 一种中 -為言 聞 候 一申含相 (身酔 得 審仕 郎 = 候 申 木 聞 付 由 私 出 -図弐合: を以申 右故百姓とも疑心も 由 中 候 田 市 候 其 之丞 申 弐合付之所半 糺 妄 、惣百 八身事 出 候得 常 = 且. る之処、 文百 付之所半 申 な = H 地 とも 3 申 L 酒を好給 姓共: 頭 聞 候 姓 カン 大立目 (被相 事 曾 セ 候 共 -毛之引 毛 市 其 而 候 由 = 之丞 三立 右之 身 事 相 酔 糺 1 起り不 扱 同 下 = 聞 候得 候 幷 方 野 候 通 相 人 得 如 不 外 其 由 知 為 申 = 聞 候 服 は 庙 妄 相 行 申 得 出 処 身 = 不 品 8 立 聞 候 所 H 都 扱 申 弐 聞 候 候 申 合

私 候 処 申 同 同 同 晴 無御 孫 津組 頭 郎 右死 左 座 衛 衛 兵 候 門 衛 門 七 事

同 同 同 平 庄 加姓 右 兵 衛 蔵 門 八 助 衛

市

同 同 同 同 同 同 同 同 同 Fi 百 同 戸 平 喜 武 次 彦 仲 長 六 平 平 伝 与頭三 甚 右 左 左 八 匹 几 玉 Ŧi. 九 几 五. 衛 衛 衛 郎 門 門 門 郎 内 郎 郎 郎 郎 助 七 郎 内 六 内 郎 郎

同四四 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 百 同 吉郎喜 万 喜惣右衛門 弥 物姓源 太 喜 権 太 八 新 孫 Ŧī. 石岩衛門 惣 左 右 郎 几 兀 五. + 几 衛 衛 兵 郎 郎 亚 門 八 門 郎 郎 七 衛 作 郎 郎 郎

故右 願幷 入惣左 右之者共相糺候処、 右之通之御引方ニ罷成候得は甚相痛候事故御 御知行御田 含相糺候得は、 度 毛二相立候 座 罷 区何も 候段申出候も有之、又ハ文言共ニ書人認候事と存居候 成候以後承 銘下 願之文言何と調侯哉も不相心得連判仕侯、 衛 同 門所江. -願為相 之吟味二而、 、由惣左衛門申聞候段拙者共段々承知仕、 地見御引方相済候以後、 候得は右 参り 追々申出 調指出申侯、 候得は、 初 助 1 ハ肝入吉十郎ニ文言承調 一候は 互 今之丞市郎左衛門 ニ言を遜合多 其元不作田弐合付程之処半 去々年御地頭大立目 併拙者共多分無筆 御百 姓市之丞儀 ハ黙居 = 用捨願. 相 御沙汰 候 候 = 頼 御 御 下 由 凡 野 付 地 座 用 相 = 肝 様 申 而 御 候 捨

同瀬左衛 同 同 同 同 百 文 利 Ŧi. 折 右 右 兵 五. 兵 事 衛 衛 門 門 郎 郎 衛 衛

> 同 同 同 和 亚 清 安 才 助 右 兵 之 之 衛 門 丞 平 丞 八 衛

日 序其 極之儀

然品

H

由 候得

開

候

12

付 そ

何 は

も同 痛 肝

意

存吟 方 郎

味

仕

事 御 用 可 座 = 候

御

座 願

候 相

姓

段

咄 と相

n

入候引

候

間 御

用 12

捨 而 兼

出 候 至 江

之御引

方市之丞

一候得

何様

上納 無御

仕

米迷惑

心得

居 同 立 相 由

候砌、 然

入

一十

方江 \$

被呼

一候処、

曾

而

主

を

用 白 合 訳

N 不 = =

陳

候

訳

候

何 詰 可

\$

体 5

可 b

曲 す

申

都 申

合之者

牢

大 出

取

私

問

ま

き 厳

之申 糺 人

而

申

事

有之、 人を

連判をす

8

願

相

出 左 頼

候

1

無之候哉 前条之通

> 何 相

主立

市

郎 相

衛門吟

味を発

L

願 儀 前 願

書 1 廉 F

調 口 合 出

其 =

身とも

江

儀 何 由

無余儀

候

乍

去大勢之百姓

とも 崩 候

申 相

無之何も

不 H

都

合

引

方相

立

候

事

子と存 審仕

捨

一个吟

味

候

[候者共

\$

有之ニ

付不

右

市之丞引方之通

同 は \$ 申

今之丞 若今之丞

等

願

書為調

候との

申

甚 \$ 由

不

都

合に

集り 之丞なと 1 右 在 四 願 連判 候 郎 調候節 右 其 斎右 仕 覚罷 後 候 ハ斎右 衛門子 右 在候、 右 願 被 衛門 願 相 相 助 連判 方江 返 出 74 追 一候は 郎 迎 寄合居 而 仕 相 市 = 候得共 之丞千 参 出 候節 候二 候間 八願之 太郎 は 付 何 V/ \$ 趣 DU 持 承 参 意も 郎 参 付次第 候 什 様 11 不 几 候 御 郎 لح 相 段 百 覚 今

11)

繕

徒

K

申

候

事

無御

座白

地

申

上候

由

同

之申

口

=

付

之 背も 無御 品 仕 調 相 申 之通 b 訳 而 座哉と奉 申 兼 丞 候 連判 不図 X 候 = 無御 侯哉 直 候 相 体之拙者 外 = 仕 座 1 無 惣左衛門 由 兼 拙 カン 候 相 指 其 御 申 座 も承 申 候 悪 処 節 7 者 存候、 出 出 座 以 断 共 セ 形 吉 候間 敷 申 候 畢 候者 共故押 L 留 後 申 儀 同 候 得 + 候 竟 不 地 候 仕 無御 向 人酒 由 郎 右之通 事 地 申 F 肝 候 覚 且 申 此 申 申 故 肝 候、 有之候 返 入 御 無御 を好給 座 地 聞 段 断 聞 入惣 扱を受不 願 覧之 右ケ 候 肝 候得 候 候 御 定而 何 申 相 座 入物左 地 は 左衛門 = も直 断 条 候処、 多分給 通 且 付、 とも、 銘 共 頭 候儀 此 候 惣左 拙 様 下 K 段 申 訳 吉十 者 衛門扱を受余 同 願 御 肝 勿論 御 願 御 地 等 共 衛門不 酔其 肝 人文言 役 計 地 入 取 地 肝 大勢之事 郎文言 何 人 人江 古 相 頭 次 頭 入 御 相 節 \$ 様 申 + 不 様 地 心得 行跡 K 口 申 御 上候 郎 申 江 頭 て久右 DU を 郎 不 然候 御怨 達 用 方江 夫馬 度 申 ケ条 都合之 少も 申 預 時 通 候 申 於条文言 計 迷惑之品 同 渡 度旨 之残 等も 参 有之事 得 候 生 候 衛門 人 指支候 ŋ 口 は 挨拶 付 甥 故 举 相 前 念 有 誰 相 右 取 勘 違 候 相 を 頼 段 御 勤 願 X

得候処、 方ニ 其 年 成 村肝 村肝入方迄早 左 ーすへ 候由 八身共同 衛門 願之上既 一存候 指出 入吉十郎 き処押 地 扱不 百 候儀 弐合付之所半毛 肝 入惣左 姓市之丞不作田弐合付之所半毛之田 相 = 不叶迄も是 相 は 受地 速 儀右惣左衛門御法令違犯之事 而 無余 市 再三 下候条吟 衛門酒 頭 聞 儀 相 方夫伝馬 由 = 願 味難 銘 = 亦 = 相 相 酔妄言する由 候得とも、 且 下 願 追 立 願 成 相 候 8 候儀無之、 而 由 勤 役 高 1 間 敢 銘 地 人中 敷 甚 頭 而 = 旨 大夫伝馬 = 渡 非 而 申 几 候 銘下之儀も 理 候 郎 百 等数条虚 払 三七 姓 候 発言 間 地 相 口 江 見引 不 用 相 続 同 向 其分 後惣 捨 相 難 事 意 勤 旨 先 聞 成 願 書 L

同 今四 市 郎子 郎左 衛門 丞

石九斗之所五

石

=

新

田

五石弐斗之所三石八斗

=

被

成

下

度

事

綴

b

訴

候

江

連判し

重畳不届之旨

相紀

候処申

晴

無御

座

候

市

相

右 お 诵 之願 る 付 面 人相 7 御 用 被 向後扱を不相受御地頭様夫馬等も 捨 私 候 返 願 一候節 銘下 処、 御 願 指 地 地 肝 上候処、 頭 入惣左 大立 目 御 衛門 下 野 吟 味難 様 江 対 去 し右 被 H 成下 年 不 相 御 願 務 不 知 由 行 由 取 次に 不 申 而 作 切 両

姓

被賴侯由申

陳侯

訳

無御

座

候

山中

出

候

二付、

不審仕

支候訳 候儀、 下知 連判仕 達候 会候 衛門扱を受相 之御引方に 方江参り 竟市之丞御引方之通ニ 迷惑之品々 郎左衛門認申 叶 事 候 毎 = 従 候儀も 共 = 并 = 分故何もニ 右帰路直々肝入吉十 無之候条、 = 承合候 夫のミ噺願 U 惣御 候儀 相 而 何も 相 痛候品も 調可 百姓 処、 候、 痛 = 被 候 有之外 御百 申、 此段 中 相 指 訳 御 両通共ニ文言不案内ニ 共ニ 無御 由 頼御 而 姓 銘下 用 上候、 二可申 共 御 E 捨 1 申上 無御 座 候 地 迷惑ニ存候方より 願 願 通 頭 郎方江参り 吟味ニ至り拙者共 ハ弐合付之処半毛 ハ御知行高銘ニ 座、 惣左 候通に 上品 御 役 御 ハ今之丞相 人人衆 尤主立 衛門 座 無御 候 而 御 座 不 江 村肝 尤 申 地 一付肝 人迚 行跡ケ条 御百 地 達 頭 勿論去 候 調銘 様 八少も手 入吉 預 肝 入吉十 間 = 度旨 入惣左 御 被 下 姓 本 上郎 用 中 K 書 地 相 願 年 指 申 H 郎 寸

候、 旨文言 門 所 若銘下 申 而 候 相 謂 通 難被 申 = 候 相 成下 調 右之通 申 候 候 1 右 沙 願 上地三仕外無之趣 ^ 外二 幷 惣 重立 御 百 一人を掩 姓 連判 ハ斎 相 U 物 認 右 御 口 伙

通 以 右

而

外

_ 願

口

申 用 処

品 願 中

後

銘

F

御 候

捨

両

相

糺

津

Ш

候 右之外 被呼 申状 相 候 丞 候 出 不 申 様 置 御 事 候 頼 = 申 H 役人指図之趣、 用 候序 付 右 引 「る之処、 をも承 重 候 = 捨 方同 相 \$ 口 無相 順召 候 立 何 願之内弐合付之所半毛之引方ニ 人 七 在 知 口 \$ 1 有之候 太郎 之旨 引 口 H 同 右之段咄 然と心得 上見 違 申 相 意之吟 上地 追々 相 セ 儀 聞得 す、 頼 牢 五. 届 、吉十 少 候 大ニ 郎 1: 惣左衛門儀新 候 \$ 味 勿 1 故 兵 候 如 候 迷惑存居 候 無相 掩 得 仕 其 外 誰 衛 = 郎 論 段 畢 無之 CN H 助 而 方 右 厳 罷 一竟其 地 重 達吉十 八 願 問 江 願 在 肝 寸. 平 指 御 候 詰 由 文言 事 (身共 入惣左 折節 内久右 相 出 几 用 候 之文言 上申 = 捨 処、 郎 頼 郎 候銘 1 無之由 右 文言 肝 候 候 願 肝 1 為 成 衛 7 四 前 差 入 下 入 衛 一十十 段之通 件之主立 候訳 門 0 郎 右 上一 指 除 古 門 願 申 訳 等 願 候 + 市 1 出 然品 願 相 御 調 郎 せ 由 郎 郎 误候 ささる 候 無 吉十 之通 除指 尋 御 方 指 何 左 令吟 被 御 = 座 H 江 \$ 図 衛 得 開 付 成 巫 候 申 之 何 市 由 郎 銘 出 味 由 候 処 由 聞 之 申 申 \$ 候

> 扱不 方ニ 入方迄早 共 肝入 き処押 之上既 応指 八身共 候 ŋ 候 相受 処、 存 = 訴 由 古 認 出 候 同 H 地 地 速 弐合付之所半 候 候 + 百 候 肝 相下 事 江 郎 頭 申 再 1 儀 入惣左 姓 状 妄 儀 方夫伝 不 聞 市 は -候条吟 右惣左 叶 相 無 由 之丞不作 で迄も是 候 連 余 衛門 = 願 郸 を 馬 儀 1 右 候得 衛門 毛 相 且. 味 酒 吉十 難 又 銘 勤 追 田 = -右 相 相 御 共 間 而 成 下 酔妄言す 弐合付之所半 法令違 郎 用 敷 立 願 願 由 案文 一候儀 甚 地 捨 旨 役 候 \$ 頭 は 願 申 几 人 高 夫伝 る由 申 敢 = 幷 犯 払 郎 無之銘下 銘 之事 銘 発 渡 候 而 而 = 調 下 江 言 馬 候 非 毛之 而 等数 願 候 同 向 理 可 1 百 之儀 由 意 後 相 1 = 姓 間 田 其 条 し、 物 務旨村 8 申 相 地 、身共 其 も先 左 用 出 虚 不 続 見 事 其 分 引 相 難 捨 菛 彼 書 肝 年 聞 成 願

願

12

什 同 は

地

頭 申

役

人吟 頼 共

、味之上相返さ

せ、

銘 其 訳

下

願

地 通

肝 不

入 都

方

_

留

候

惣百

姓

八之内

K

申

聞

候との

B

無之大勢之百

其

候

由

不 誰

都合之申状、

上右

両

合

7 姓

願 共

成

是不 届 至 極之旨 相 糺 候 処 申 晴 無 御 座 候 事

言 綴 村

無御 等指 上候儀 座 村 大立 由 申 目 $\dot{\Box}$ は 委 下 = 細 付、 野 惣御 様 不 去 審仕 H 年 姓 候 共 御 郎 は 申 田 門見 右 上候 地 内 両 見

成候由 新内儀 甚四 共并市 伝馬 候様 銘下願 其身共同百姓市之丞不作田弐合付之所半毛之田 重立ニ可有之実情 二申 年願之上既相下候条吟味難 通不都合之願 応差出 相立候との文言相除 下含候 4 郎 惣左衛門申 発言右 がは地 郎 相 圳 弐合付之所半毛 候儀 前条之通甚四 左 由 勤 ハ、不叶迄も是亦相 肝入惣左衛門 惣御百姓共申 甚四 衛門二 肝 敷 は 願 入方ニ留置 無余儀、 郎 由 於不取次は向後地肝入指図を不請地頭 談由には候得共、 付難吟味 司 申 申 申出聞人も有之候、 申 訇 渡之処承引せさる二付、 -出旨牢入二仕厳相 酒 郎二申含候儀曾而無之由 ル 口 指出旨 旧 用 捨 願 上候通 成品 由 = 銘下願も高銘に ニ酔妄言する由 成 相 -候処、 順候 由 立 × 段人申 一候儀無之銘下之之儀(ママ) 地頭役人再応申渡 ハ弐合付之所半毛之引方 翌日七十人余 御 地肝入惣左衛門 ハ敢 畢竟新内儀右甚四 座 渡候 彼是其身共右 候 而 非理 て百 由 糺 候処、 候 姓 間 同 惣百姓 ニーも不 相 地 申 右重立 見引 募候 儀其 候故、 其 続難 用 申 同 も先 分 相 捨 出 相 相 件 付 郎 夫 越 越 身 聞 成 願

> 門扱不相受地頭方夫伝馬 も前条之通 書綴り訴出 肝入方迄早 上村肝入吉十 人申出、 其節聞人も有之無相違侯を彼是と申紛 速申 地 候江安二 肝入扱を不請 郎儀右惣左 聞 由 連判 ニニハ候 相 し、 衛門御法令違 由 勤 ~ 其上新· 間 共 申 払 敷旨 甚四 候様甚四 内儀 申 犯之事等数条虚 払 郎 候江同 は 発言向後惣左 郎 申 募とい 二申含候段 意 へと 其

同 太 郎

届

至

極

之旨相糺

候

処

申

晴

無御

座

侯

事

同

同八平子 助 几 郎

> 平 五. 郎 兵 郎 衛

姓中 右五 相受、 百姓共 惣左衛門儀市之丞 候 済候以後御用捨願銘下願指上候始終之儀は、 人相紀 市之丞不作田 申 (連判) 猶折入地肝入方江相 上候 地頭夫馬等も不勤品々惣左衛門 通二 候処、 不都合之願 而 外二 弐合付之所半毛之引方ニ 大立目下野様御 二咄候由を承銘々右 可 相 田 申 上品 越引方可承合之処、 剰右願: 無之由 知行去々年 於不取次 申 二准候引方と存候 口 成 K 委細 付、 御 候 無其 田 候次第百 指引を不 由 不審仕 惣御 地 地 見 肝 入 相

へき処押

,而再三

相

願

H.

追

而は地頭夫伝馬可相勤旨村

且

二申

断

处处、

式合付之所半毛ニ相立

候儀

無之銘下之儀も先年

願 聞

=

方ニ

存

候

不

叶

迄も

是

亦

相

願

候

は

敢

而

非

理

=

も不

相

重

立 を

細

申 ひ其

何

\$

江

相 江

通

L

寄合候との

訳可

相 は

心得

事 相

候、 何

畢

竟

違

、身所

何も

寄合候

上

は

先

=

誰

H

越

様

之子

度計者共大勢ニ先立 重立人ニ 右 之、 有之実情 顧 二共堅 被賴侯由今之丞市 応被相 朝 一申合、 可申出旨 可有之、 夕之吟 返候以後 地 頭 無左 厳 味二 并 相 地 糺 一両度迄 候 郎 不 肝 候処、 左 相 入 1 衛門 聞得勿論右 江 願 地 事 対 拙者 肝入 申 調候者とも し手をとら 無御 出 共 江 御 差 亚 願 覧 出 应 調 之 [候次第 呉侯様 重 郎 す 通 立候 11 何 き 几 右吟 8 訳 郎 其 所 無 身 = 儀 為 様 味 几 口 は 有

を噺 之丞 御 ハ 地 有体申上時 候 頭 御引方之通 上願. 様 勿論 相 出 節 と相 候 地 肝 柄 尤拙者共 木 疑 入 江対 第 候 御百 方
る
御
百 L 姓共度々 身分之儀と違 怨上候儀 姓 共 御 出 曾 糺 一会候每 而 書 無之、 不 重 罷 = 右 畢 成様 立 之儀 竟 = 候

候儀

1

拙者共

も申

談候得共

残之者共も

口

×

相

頼 呉

曲

候

市

発

端

可

仕

=

座

右

願

調

候

御

巫 ŋ

候

綴 肝

成候 仕処、 其 人身共 応 指出 曲 同 是 地 百姓. 肝 亦 候 儀 入惣左 重 は 市之丞不作 立 無余 = 一無之外 衛門 儀 酒 銘 = 田 = 可 下願 酔妄言する由 弐合付之所半 申 上様 8 高 銘 無御 = -毛之田 而 = 座 候間 百 由 姓 申 相 地 П 用 続難 見引 = 捨 付 成 願

> 方迄早 之上既 入吉十 訴 請 押 出 地 速申 相 而 郎 候 頭 再 下 -候条吟 江 儀右惣左衛門御法令違犯之事等数条虚 方夫伝馬 聞 妄 由 相 = 願 連判 味 1 候得 相勤 且. 難 追 成 共 間 而 由 重 敷 役 - 一 旨 甚 地 人 申 四 頭 申 届之旨. 払 夫伝馬 郎 渡 発言 候 候 江 相 同 向後惣左 口 糺 意 相 一勤旨村 候 其 処 分にす 事を 其 衛門 申 晴 上村 肝 書 無 扱

不

相

如

事

同

斎

右

衛

門

奉存 何も 之丞 隣 右斎右 B 申 = 上候 候、 惣御百 而 市 其 郎 衛門 辺 通 右 左 姓 御 = 衛 相 願 座 吟 而 申 門 彩 味 上候通 候処、 候 は 相 家も 調物御 由 重 立 申 人別 広く 口 拙 御 = 座 百 者 付 御 姓 宅 候、 而 有之訳 連判を 座 = 不審仕 おゐ 侯 拙 方より 者 儀 VI 7 たさ 御 候 \$ は 何も 無 地 用 脇 御 肝 世 捨 入惣左 集り 5 座 相 願 喪共 銘 相 候 越 候 下 候者 儀 衛 儀 = 願 何 門 今

=

口

仕厳 一人不申 出筈 最 初堅く申合 申 陳 侯 事 三可 有之旨 牢入 候

相 糾 候処、 重立人無之儀 は 何も申 上候 通 御 座

候、 数十人参り居今之丞市郎 寄合之日 候 聞候 不図寄合候事故不罷 所江 B 二付子 何も参り候段罷 拙 者儀父子 共助四 郎 共 越者 帰 指遣申侯、 左衛門両人二 = 承 野 江江は 知仕 江 罷 拙 候 出 其外 者子 至 拙者帰 而 而 小四 共迎 右 極 顧 老之父計 郎 宅仕 江 が杯も迎 遣 連判為仕 候様 候節 宿

何

も申

農業 心得不 上二 参候様ニ覚罷在 合付之所半毛之田 上処 八二罷出 而 老衰仕 申 前 候 条之通 候留 由 申 誰々先江 宝主中 定に而 候 出 地見引 候 厳御 重立 何も = 一付、 相 料之儀 押 越候段も不相心得、 一候者無之、 -一成候由 其 懸参り 八身事 重立人有之候 地 同 候故猶更委細之儀 勿論拙者父七拾歳 百 肝入惣左衛門酒 姓 市之丞 拙 1 宋作 者父子 早 速 田 は 酔 相 以 弐

役人申 願候 立 願 妄言する由 立候儀 も高 ハ敢 F渡候 銘 無之銘 而 = 非 而 候間 百姓 下之儀も先年 理ニも不相聞得候処、 相 其分ニすへ 記続難成 用 捨 願 方ニ 願之上既相 き処押 応指出2 存候 弐合付之所半毛 候儀は無余儀 而 ハ 再三 下候条吟味難 不 叶 相 迄も是 願 且 文相 銘 成 追 相 下 由 而

申

も大勢集候宿 且其身留主中 法令違 敷旨 申 一犯之事等数条虚事を書綴り 払 候 相越寄合候事 江 セ 同 L 意し、 め、 彼是不 其 ニハ 上村肝 庙 候得共右願 至 入吉十 極之旨 訴出候 郎 相 儀右 糺 調 江 安二 候節 候 処 惣左衛門 連判 無憚 申 晴 無 n

御 間

右斎右衛門子 四

郎

御

座

候

右

下

勢参り 何も不 ケ所江参り申 迎ニ参り呉侯様何も申聞、 大勢参り 助 口 願 同 四 = 図相 百姓 居惣連判之願指出 付、 郎 居 相 其身事 物連判 共 糺 越候訳共二相 、指上候吟味も 候処、 候、 父子共 委細ハ父斎右衛門申 = 拙 而 指出 者儀 心得不 由 ニ農業江 辞退も仕兼無是 候願 承 相心得不申、 は 候 部 有之候条、 申、 屋 出 住 候留 農業より罷帰 2 上候 申 願之趣意も承妄 父斎右衛門方 主中 猶 更御 未参者 通 非 呼 = 用 百 御 使 E BY 姓 候得 捨 座 共 候 四 候 願 間 銘 大 Ŧi. は 由

御 陸候事 之願

指出

候寄合人数江迎二

相 処

越不

届之旨相

糺

候

処 セ

申 不

晴

無

呼

使等ニ

1

相

越

間

敷儀

=

候

何

\$

相

頼

侯

=

任

都

共

甚四

郎

発言向後惣左衛門扱不相受地頭方夫伝馬

相

地

頭

夫伝

馬

可

相

勤旨

村

肝入

大方迄早

速

由

聞

候

由

は

候

得

市 之 丞 参仕

候

様被

申

·付無是

非

持参

肝

入

江

相

申

候

申

口

12

付

=

両

之 地

成 出

品

H

地 由

役

人

申

右

百

姓

共

相

続難

成

方

1

市之丞 候 趣 地 不 肝 入惣左 審仕 候 衛門申 右 通 談 願 願 相 返 吟 味難 候以後、 其身も 加 ŋ

参仕 答罷 勤 之持参仕 拙 出 咄 間 田 候 相 右 市之丞申 弐 根 儀 出 両 申 合 加 候 人 候 帰 元 は 候 至 程 様 太郎 御 訳 相 ŋ 候 而 無理 右 処 拙 糺 何 糺 連 相 = F 候 千太 者 之上惣御 無 候 事 候 判 申 付 \$ 付 迷惑之 候 儀 申 御 処、 仕 成 通 = 郎 聞 座 候故 候は 何も 御引 \$ 所 地 最 大勢 市之丞 候 江 肝 無 初 方左 半 百 拙 父新 あ 御 新 同 入 拙 ま 惣 付 罷 者 様之御引方と相心得 毛之御引 姓 座 左 指出 者 衛門 左衛門 左 共 越 申 ŋ 様 = 候事 衛 申 御 出 其 \$ 何 = +4 座 趣 而 門 E 申 候 加 儀 儀 侯 候 方 候 = は 方 1 申 ŋ は 段 8 御 成は老 通 願 始 御 江 聞 H 無之 用 御 年 相 罷 御 余 持 末 候 -貢皆 参仕 病右 御 地 捨 百 寸 越 = 年 候 品 候 向 姓 候 座 頭 願 候、 -若者 済可 節 候 有之拙 銘 願 由 様 相 江 願 心心吟 夫伝 差上候 下 心 \$ 同 拙者 余 得 仕 右 拙 願 太 出 人 = 候間 馬 者 者 味 申 = 不 合 兼 願 最 品 不 指 不 持 共 郎 申 由 候 由 聞 初 江 持 申 節 相 候 作 相 参 持 候 上 有 1

> 若又其 所ニ 付 = 而 主 共 候 相 相 是 处処、 連 立 承 非 聞 糺 相 痛 一集候処、 、身主立 御百 判 人 候 取 痛 知 候 候 处处、 仕居候 8 候儀、 通 方よ 次 取 左 無御 候 姓 揃 実 相 事 拙者儀 共 候節 = 何 出 ハ 何も لح 無之 具候 斎 全 座 \$ 付右 承 御 候、 右衛門居 重立人有之候 江 ハ斎右衛門方江 御百 用 候 罷 申 様 地 大勢困 肝 願 捨 帰 す 強 1 1姓をす 指 肝 入 願 7 而 方江 家は 别 8 指 入 申 E 一吉十 葔 談候 窮 人 吟 上 右惣 味を 参 御 可 7 = 1 候 百 然 口 寄合其以後 吟 郎 8 由 1 様被 起 左 味 可 姓 段 江 候 有之候条有体 儀 掩 共 \$ 畢 申 L 衛 門隣 居 御 相 聞 右 候 竟右引方其 相 無御 事 事 詮 成 候 御 触 順被 候節 を 引 家之儀 議 申 = 方之 無御 座 -候 何 惣左 相 被 口 有 共 \$ 儀 申 召 仍 御 = 返 同 儀 登 别 咄 衛 人

姓 申

别

=

殊

門

申

旨

願

而

之田 申 同 候 とか 人被 間 出 地 候 べく容子・ 相 用 見 = 引 付、 捨 糺 願 候 其 而 8 成 身共 応 承 8 候 相 由 重 口 存候 同 罷 立 出 地 百 人 在 候儀 肝 無之段 候条掩 入惣左 姓 市 は 不叶迄も是又相 無余 之丞 衛門 Ch 儀 相 居 不 作 分 酒 口 銘 田 口 申 事 酔 申 F 弐合付之 ・儀と奉 願 妄言する 無御 願 8 高 候 所 存 座 曲 半 敢 候 毛 而 而 由

理ニも不

相

聞

候処、

弐合付之所半毛

=

相

立

一候儀

無之銘

候 百

意し、 数条虚事 向後惣左 H 相 之儀も先年願之上既 処 勤旨村肝入方迄早 其分にすへき処押 其上村 申 書綴 衛門扱 晴 無御 b 肝入吉十 訴 座 不相受地頭夫伝馬 出 候 候 郎 速 而 相下候条吟味難成 安り 再三 儀右惣左衛門御法令違 申 聞 = 相 由 連判 = 願 相 は 候得 勤 且 間敷旨申払 追 重畳不届之旨 共 由 而 役人申 は 甚四 地 犯之事 大大伝馬 候 郎 渡候 江 発 同 言 相 等

同 甚 几 郎

由

申

Ш

付、

右加兵:

衛等承届

無相

申

出

候、 罷

等も

在

申

右甚四 付吟味難成 上品無御 指 候節、 郎 上候始終之儀は惣御 座 相 品 候 糺 其 候処、 由 X 地 申 身発言ニ 一口二付、 頭 役 中 人中 津 而右願不取次上は其元扱向後不 山村 百姓中 不審仕侯 渡候趣地 御 百 申 姓 上候通 肝 共 右 入惣左 去々 ハ不 年御 = 衛門申 而 都合之願 用 别 而 捨 伝 可 申 銘 願

之訳を申候哉も

覚不申

候

時

H 御愈議 共口 候処

被召

登

木

「窮之御

几

郎右

発言仕 候二

候以後は大勢之者

H

=

申 違由

一割り

候故

何

様 甚

も不 惣左 腹之あまり悪言仕 共ニー 候様新内申含候、 聞 ハ惣左衛門申 姓 候を幸ニ 相用今更可相控 衛門儀 共 向可 申 相扣 族 仕 応ならす 通 由 上候通拙者 此段 候、 新 御 此以後其元指引を請 由 内久右衛門等惣左衛門ニ 座 自由 相 仍残念ニ 候、 加兵衛勘之丞 出 ケ間 候 地 願 相 肝 敷仕形 候間惣百姓参り候様 違無御 御 入指引を不相 地 頭 兼候由 役 不 座 都合之由 人品 候、 相 拙 申 心得 請旨 右両通之 X 者 申 発言 を申 渡候 発言仕 = 候 仕

応指出 候 身事 願書認 申 人に無之段 百姓共身上粉 由 訳少も無御 一同 地 肝 候得共是又主立人ニは 候儀は無余儀、 百姓市之丞不作 入惣左衛門 相 二罷 座 分候儀と奉存候、 残り之御 成候事ニ候間 酒 銘下願も高銘ニ而 = 田弐合付之所半毛之田 酔妄言する由 百姓: 無御 共被相糺 身分ニ換へ 今之丞 座 候 = 由 百 候 申 市 候 1姓相 重立人を構 間 出 ハ 郎 左衛門 地 候 見引 拙者 用 続難成方 付 捨 儀 重 願 成 其 立

候 相

出

候

然は其身右

願吟味

取

発し

是非

願

泛通

口

遂

所

地

頭

夫馬等も不

相務由申

切候段惣左衛門

承

留

仕候処白状之由

=

而申出

候

右願主立人無之儀は

惣御

候事

相

聞

得

候、

実情可申

出旨

牢入

=

仕

糺

問

右

不申

乍然地

肝

入惣左衛門

不

行

跡

之

品

H

ケ条書

相

候

由

而

厳 御

糺 候 郎

=

付白

地

申 陳 拙

上候、 候

惣左 惣御

衛

門不

行

跡

仕 右三

御

拙者

伯

父 は

座 御

> 最 义

初

申 =

処

百

姓

共

有体

由 1

調

候儀

右吉

+

指 故

次第

=

者

相

調

申

候

吉十

郎

儀

身発言 勤旨 願之上既 方迄早 き処押 候処、 申 向 訇 後 条 り 速 相 而 弐合付之所半毛 物左 申 再三 虚 下候条吟 其 聞 事 上村 衛 由 相 綴 開 = 願 味難 n 肝 扱 入 候得 訴 不 H. 吉 出 相 成 追 = 候 + 請 共 由 相 而 は 郎 役 江 由 立 妄 儀 申 同 地 人 候 右 切 百 申 儀 頭 連判 夫伝 物左 無之 姓 渡 或 新 候 銘 地 内 馬 衛 1 門 頭 申 可 下之儀 夫伝 御 含 相 重 法 勤旨 畳 其 = 不 令 馬 従 分 8 先年 違 村 届 不 U = 其 犯 相 肝 す

存候

1

不叶

迄

も是

又

相

願

候

儀

は

敢

而

非

理

=

\$

不

相

聞

儀

L

得

候

=

1

無御

座

候

申

候

=

付

由 事 品

地 同 H

肝 百 拙

入惣左

衛

門酒

= 田 訳

酔妄言

一する由

= 毛 由

候

間

用 見

捨

願

応

姓 者

市之丞

不 居

作

弐合付之所半

之

田 出

地

引

成 其

候

相 私 候 処 申 晴 無 御 座 候 事

庄 勘部子 丞

右勘之了 御用 一両通· 通 捨 = 之願 丞 而 願 銘 相 外 肝 下 私 入 = 願 俠 等指 処、 吉 重 + 立 郎 人 上候 去 案文に \$ × 無御 不 年 届 不 之 作 7 座 調 儀 御 何 は 田 候 8 委細 由 地 見 之 同 惣御 儀 以 = 存 後 拙 心得 寄 百 者 相 姓 中 違 儀 願 を 相 申 申 侯 以 心 上

出

候

共物 入吉 相受 迄早 上既 存候 指出 7 地 速 相 弐合付之所半毛 候 江 左 而 妄 1 衛門 再三 儀 下 郎 頭 申 候条吟 方夫伝 不 儀右惣 聞 は 無余 連判 叶 由 相 虚 迄も 事 -願 吉 左 馬 は 味難 儀 候得 是 且. + 衛 相 銘下 剰右吉· 郎 門 勤 追 成 = 又 文言之 御 共 相 相 間 而 由 法令 役人 敷 寸 願 は 願 甚 地 候儀無之銘下之儀も先年 候 8 + 旨 申 高銘 郎 違 申 四 頭 涌 渡候 敢 指図 犯之事 夫伝 書 払 郎 発 調 候 而 = = 江 馬 1 非 等数条 彼 従 同 理 百 向 口 是不 U 意 後 相 = 姓 勤旨 其 8 物 相 候 L 虚 分 左 不 届 事 続 村 其 相 兼 ニす 至 = 事 門 肝 聞 候 極 書 上村 得 候 扱 方 願 去 得 肝 不 方 候

処

押

相 糺 候 処 申 晴 無御 座 候 事

目同 下野地! 肝幷 煎大 仮立 助

恩 助 相 を 得 糾 候 候 処、 故 猶 拙 者 更 儀 御 地 御 頭 地 様を奉 頭 様 御 林 憚 之内 御 用 本 捨 拝 願 銘 借 家 下 願 作

数条虚事 肝入吉十 仕候様右吉十郎申含二従 共 上候惣御百姓吟味江は相加不申、 連判仕候事 肝入惣左 書綴 郎申含に従ひ地肝入惣左衛門御法令違犯之事 衛門不行 n = 候 候間 訴 跡之儀 江 加判 肝入吉十 ひ加判仕 セし 向 め不届之旨相糺 郎 心付無御 候 尤連判も 同 由 申 右 口 訴 座候得共 不住 書 付 未書 候処 候 其 物百 江 分身事 申 然処 加 晴 等 判 姓

同村 吉前 + 郎

> 故、 相

銘下願之内

上地仕外無之と申儀甚御

地

頭

様

江

あ

候文言ニ有之、

其外耳立相

聞得候所

ハ為相

除申

候

扨又 たり

無御

座

候

事

処、 候留 右吉十 地 御同 然ニ右御用捨願之内 肝入惣左衛門申 郎相 人樣御分御田地見引方式合付之所半毛 下 糺 候処、 ·野様御 聞 百 去々年十月始拙者儀御役人様 候 姓とも大勢参り . 弐合付之所半毛と申 三付、 御用捨 居 願弁銘下 候間 所 品 指除 ·願指出 々 相 承 江 立候 罷 相 届 置 候

由

併弥以是非右願 門過言有之共其段 に付拙者申含候 伝馬等も相 談旨申含候処、 分取次人二 勤侯儀指支候由申切罷帰 熟談機 相 ハ夫ハ以之外成挨拶凡而 用捨願 出訳に侯 ハ堪忍可仕 嫌を取 は 相 ハー 控銘 相 処口論ケ間敷 頼 応御用人衆迄我等可致 下 き事 願 候段何も 計 相 諸 挨拶不 候、 願 出 等相 中聞 度 縦惣左 由 届 申 出 候、 聞 候 右 候

随

料等取 シ不申扱を請 肝入惣左衛門儀病人のミならす行跡不宜 入役之儀は御本石 上度段申 全体御吟味難被成下願とハ奉存候 惣左衛門 立 聞 其外御]病体表 . 候故無是非取次御用人中迄相 候儀 迷惑ニ 田 方御前金催合上納、 向 地 江 罷 見等之節は御役人様御 存候 出 御 由 用 「も申 可相 務容子 聞 共 或御普 勿論 方る御 御 出 = 申 百 ケ候、 請 無之、 拙者見 案内抔も仕 姓 方万御 百姓 共 H. 強 地肝 分 共 而 又 腹服地 入 指

無之病気之節は名代ニ而も事済候由不都合之御挨拶故其 達 別人可 然旨 追 而 は 御家老衆迄も 得御意候 御 承引

間敷

儀

而 は

不

罷

成

品 相

×

以之外立

遊過言

よ

CN 出

候 由 相

申

申談候得

応

出

候

願

指

扣

銘

下願

相

自 出

由

力

候故至而

見苦

敗病体

=

而

ハ不

罷

成

其段数度御役.

人

衆

意不相立

一候条、

左候

ハヽ右

願は相控銘下

願計

度段

地

肝入申渡侯、

仍何も致吟味右之訳相

除候而は願之

8

付此末其元扱を請不申勿論其元触流し

= = 計

一而は御 お H

地頭

方夫 右 地

肝

入二

相

立置不指支品々挨拶ニ及とい

とも

強

而

除

候

十二三ケ年以前

三高野:

村

弥五右

衛門植立

御

帳

付棋

木

惣

出

御

代官品 敷

H

中含達書相返すとい

、共猶押工 不止

而

申

出 江

之由

等甚

申

立

用

人等不肯

ニ至り猶

\$

大肝

人

申

段大肝入江 御 座 8 候哉 相 達候処、 行跡并 病体共 右故と相 ハニ申 上候様 見得惣左衛門如 御 代官 様 御 何 様之 指 図

之由 を卒 跡承 ケ条之儀は大勢之御 条書之内惣左衛門博奕仕由之儀は拙者心得違を以無之儀 爾二 届 大肝入より被申 何も 申 上候 申 出 候趣ケ条書を以大肝入江指出申 付追々不念之段御 百 渡 候間、 姓 共 同 右御 二申 百 聞 郡 姓 共召寄惣左 候 江 故 申 上候、 何 候、 々之ケ条 扨亦 衛門 右ケ 右 行

仕 誰 趣左之通 H 申 出 候と 0 儀 只今可申上 様無之由申 口 = 付 不 審

地

地 候 肝入役申 渡候 儀

は 全地

頭 方吟味

= 預

n

曾

而

其

方可

携

儀

付御

代官

応

相

返由之処、

不肯押

而

相

調

百

共

強

地 姓

除 而

たさせ

申

出

以 二百姓も 無之候、 一二応は 相 用 痛 併其身も下野百姓之儀惣左衛門地 不服 人等 品 江 其段申出 々於有之ハ、 [候儀無余儀 地 頭之為ニ不 **院**候処、 肝 家老 罷 入相 成 用 訳 勤 実 人 を

様 る 申遣 病 身二 一一 しも不 ならす、 ·相見得 を癩 其文体甚不都合勿論 疾 而 表 向 用 事 惣左 可 相 衛門儀 勤 面 体 指 _ 無 た

> 指 除所存 無紛 候

畢

一竟地

頭之為を申出

院儀

ニハ

無之私を以右惣左衛門

地

入役可 惣左衛門 不行跡之品 × ケ条書 を以申 出

由

大肝入申

-渡候二付、

百姓とも承届

申出

二二従

ひケ 代官指

条二

認

候様

御

指出 出候様申 より 肝 候 は畢 入可 [其身所存を以 = 付 渡候 相 竟其身段々 同 勤 訳 者 人病体人品承候様大肝入江 曾 二候哉否之儀承迄之事 調候 耑 物左 無之処、 訳 衛門 = 無之由 儀地 行跡不宜 肝 申 出 入難 る之処、 品 = 申 相 丁 加 条 渡 旧 成 候 = 悪 人柄之由 御代官· 挙指 等計 由 有之、 出 き 申 候 申 方

度私有之故人品被問 連判い 候儀、 候を幸とし 畢 一竟惣左 行 跡 衛門を是 不宜 品 非 H 4 条 肝 入指

事を書綴り 申 出 候 一無紛、 右ケ条左之通

負候 左衛門 節惣左衛門儀 右之者ニ手を為 付 機脇指を 一高 療治金相 **%**負弥 以以切 野 村る大肝 候を 五 右 出入寺 衛門翔 弥 五右 入 江 = 而 着 申 衛門内之者見咎候得 候得 相 済 申 村 は 同 相 噪 人 申 8 候 為 其 手

右盗人之口ゟ惣左衛門儀路銭与へ候由露顕仕、畢竟盗一四五ケ年以前同百姓喜八郎方江盗人相入候を召捕候処、

人に荷担仕候と奉存候

右孫肝入方江押込居組合一村噪申候事、一此以前も志田八瀬沼孫と申者と博奕を犯し出入ニ罷成一此以前も志田八瀬沼孫と申者と博奕を犯し出入ニ罷成

出 留 此以前惣御百姓銘下願指上候ニ付惣左衛門方江何も罷 願埒明申事ニ無之と存願も相 を尋あるき不届ニ侯、 出 一候二付、 一候様 主ニ付五郎八儀相尋候得は、 相触候故 右両人逃去申 五郎八久八と申者先江相越 なて切二いたし候迚小脇指を持 候、 御百姓 止申候事 公用ニ而出行い 何も見申 候而 惣左 たし 中 衛門 候 H

常々父子兄弟喧喖仕御百姓中 惣左衛門儀同村八郎太方ニ而父喜内と口論仕候を同 罷 取合喧喖仕候、 成候而 も当村彦市 漸取 鎮凶 所ニ 事二 而 下野様御家中 到り不申由 間江も口論仕 及承申 梅津 候、 寛治 当年 一候事、 江 -

挨拶仕、其後久右衛門一郎左衛門新内罷越銘下願計相初ニ市之丞千太郎惣代ニ願持参之節頭巾をかむり臥居

衛門取

鎮申

候

事

惣左衛門病症癩疾之様ニ相見得申候、尤翔走御用等相出度旨申候得ハ甚悪言仕候方ゟ事起り申候事、

勤

可

申体

二無御座候

間、同人喧喖を相求候気色之節は退申儀ニ御座候右之通大円申上候、御百姓中間右惣左衛門不宜者

候

七十人余之百姓

々之口論は覚たても無御座侯、

以上、

中も 募候様二御座 聞候ニ付相越 渡侯二付承届如此御 当不宜儀 御百姓取扱申者二相見得不申侯、 而 申度由二付惣左衛門所江寄合、 右之通承届申上候、 書事手伝仕候者共 御檢地帳引合之節書事仕候者共骨折候二付酒 ニ奉存候、 侯、 候得は、 惣左衛門儀兼日強気之者ニ而大勢之 右之者共申上候通二御 座候、 江悪口 惣左衛門平日之人柄可申 品も無之盃之取遣不都合之由 以上、 仕、 吉十郎儀も参り候様申 肝入吉十郎 御百姓中申 ニも 座 上由被仰 上候通手 取 去年 向 申

H

被

聞済事ニ無之処、

御

用支之所江

は御吟味も無之様

L

役指除

候 立 目

格

置 下

野 候

知

行遠

田

郡

中

津

Ш

村

地

肝

入惣左衛門を

地

肝

入

=

相

折入 居 仲 五 郎 殿

> 同村与頭幷仮地肝入 同村肝煎 +

郎

最

右数 出 出 之所為ニ無紛 丞書 事 由 一ケ条も一 条何も = 不 無之、 都合之申状、 候 由惣百姓申 不 不 況百 候 相 軽 心得、 儀 尤縦百 姓 = とも 相見 彼 出 其身申 是其身事 姓 口 勿論勘之丞儀も及白状其 得 共 K 候 申 申 付 処 ずを執り 聞 聞 候共 従 百姓 誰 ひ不得 A 虚難 申 実 共壱人として 跡 出 無之儀 止 候と 申 懸 其 身甥 候 0 身壱 事 儀 ハ可 勘之 右之 状 難 明 申 申

白二候

右之通 別人被仰 訳にて、 有之人頭 前 而 段申 相 不 勤 渡候様 審仕 候 全以私意をさし 役さ 無病之者 候 通 厳 御 畢 相 相 用 竟病身御 糺 勤 \$ 人 候 处处、 兼 衆 病気之節名代 候、 はさミ申 江 惣左 申 用 惣左 支ニ 達 衛門地 候 衛門 罷 而 達 = \$ 候 成 候儀 事 肝 縦 而 病 気ニ 入勤 本 為 = 無御 復申 故 相 殺指 候得 勤 再 候 本 応 候とて ハ名代 候 申 支 由 達 候 御 併 挨 候 儀

> 侯品 是非 意も不相見得旁相 為相 処、 竟惣左 初之願 相 取次 H 直 此 心得 申 段 日 一聞候故、 申 申 衛門扱を受候事 両通 ハー 実 一候、 事 ハカ右 拙 ニも 向無之儀 勿論 者案文を 控候様 一付ひ 無御 別人被仰 御 地 座 = カン 候、 迷 御 るみ心 頭 再 申 渡候 様 応 惑 座 候 右銘 も出 江 申含候得 候、 由 通 対 1 書 下願 1 ŋ L 拙 再三 人 少も 共 口 = 者指 然品 御吟 而 御 共 申 夫馬 承 怨上侯儀 図 Ė 取合も仕 引不仕 味可 仕 葔 H 追 等も差支居 候 由 被 而 1 一候、 候故 成 8 御 御 下 追 座 右 用 趣 候 而

者壱人之所為 人衆迄申 -達候、 = 候旨何も申 惣左衛門行 跡惣御 上 侯段 厳 百 姓 御 私 共 は = 御 _ 向不 座 候 得 申 共 H 拙

曾而 通 代官様な被仰 を為調 左様ニ 相 一無御 出 候 渡候訳を以惣御 由 座 拙者壱· 不 都 合 人江 三申 募 罪 百 候 1姓中 を譲り = 付 江 候 \$ 其 儀 申 、身事 談何 = 奉 も申 存候、 地 頭 大 出 立 御 候

候様役 别 而 は 候 地 人方江 処、 頭た 其 8 不宜 数度 身敢 強 心 而 付候 而 持 申 前 遣及不被肯御 ハハ、一 8 無之ニ 応役人方迄 甚 代官江 病 身 言 申 達 立 遣

候次第、 畢 竟私を以役可指除とし 候 無紛、 A. 去 H 年

Ł 地 見引 右 願 惣左衛門於不取 方并銘下之儀 二付百姓共数 次 は 向後同 数度不都: 人扱 相 受間 合 = 願 鋪 指 地 頭 候

不軽 速役人 儀却 夫伝 可 相 応 而右百 馬勤 勤 ハ申 儀 方江 此旨役人 = 断候得 候条、 候儀 可 姓 申 指 共物左衛門 其 方江申 共 通処打捨置、 支候趣百姓共申切、 、身村肝入と言急度申 地頭方夫伝馬 通吳候得 所る直 右之儀 由 々其身所江 相 指支候儀 地 頼 ニ付役人より 諭す 頭を 由 = 無拠 往 軽 候 き処、 き前 間 2 L 候条無滞 申 其 書之通 無憚 品 無其 遣 状 候 早

畳之旨 一連判 せ 相 紀候 8 処申 訴 出 晴 無御 凡 而 座候事 村肝入として奸偽之仕 法令違犯之事

等数条甥

勘之丞ニ

虚

事

書ツヽ

6

世、

百

姓 人御

形

罪

科

重 共 節も否不申遣、

且御代官る惣左衛門人品尋

問候節

同

善 太 郎

同

右善太郎 私 儀 願 江 連判 仕 一候得 共 死亡に 付於 御 郡 方も 不

相

百 長

同 伝 左 衛 甲甲 郎

右

面

人願

江 連判

仕於御

郡

方

応相糺死亡於評定所不相

申 届

聞

様

糺 候 事

弐合付之所半毛之引方ニ相 之格を以引方相立尤年 仍 大立 知行所中 目下野家中用人役芳我庄右 津 Щ 村 去々年不作田地見引方之儀 貢皆済為仕候、 立 無拠奉存候条用 衛門承 然処同 届 候処、 捨仕 年之引 は 前 真候 なる 主人

方

成事 銘下之儀 聞 = 候 御 = 付、 座 は 下 一候条、 野代 弐合付之所半 両通共ニ 相 成候 相 而 毛之引方二 も銘相 返可申旨委細 下 一候間 相 立 候儀 是以吟味 ハ右惣左 衛

申

様相願候外、

銘下願壱通取

合両通地

肝

入惣左

衛門取

次

門 百姓: 申 共 上候 承引 通 不 申 ·付願 仕 強 而相 相 渡 順度 申 候、 所存之由 然処惣左衛門 猶不都合 申 渡 付、 候 趣 弐 物

相務兼候 右願於不 取次 由 申 掛 1 侯 惣左衛門 由同 人申 指引を不 聞 候、 仍 相 何様之訳 請 地 頭夫馬等も 而 X

合付之所半毛と申文言相

除候様為申

渡候処、

其以後

る勤 二申 来候歩夫等も不 F渡候処、 惣百 姓 相勤侯段委細承届申 召 呼 候 而も 壱人も罷 出 越不 候様 申 惣 口 左 承 衛

候様 無之 段 申 遣候得共其段 申 聞 候 右 付村 ハ挨拶も不仕、 肝 入吉十郎 別人地 方江 其 肝 段 入二 承 届

候事 御 立 間 夫伝 処、 而 候 江 拶 肝 一十十 尋 吟 は 惣左 更 処 仕 相 申 入物 、味仕 家中 家老方 馬 御 可 出 聞 郎 座 相 指 衛 右 指 御 左 一候と 之内 門 内 候 勤 用 除 而 願 銘 心処、 開扱 H 兼 江 品 難 8 口 F 吟 0 召 8 無御 候 而 為 為 相 願 、味仕 其段 儀及承 任 由 は 相 前 相 返 を受 指 指支 渇 申 条之品 座 勤 勤 申 越 候 候故別 切 ハ聢と仕 H 面 面 候、 候 候 用 候 由 候 候 体 処 而 体 風 事 趣 既 K 1 且. は 説 相 付 1 無之訳 申 \$ 又右 強 人 Ŀ 迷惑之品 有之段 候儀承 縦 弁 聞 不 無之、 而 江 唱 主人方用 申 物 申 申 相 候、 聞 __ 剰大肝 渡 再 左 達 ハ承 通 本復 応吉十 知 候 品 衛門 候間 K 将又右 不 物百 = H B 病 知 仕 事 再 而 扨 人 不及吟味段 仕 候得 又惣百 \$ 至 江 申 郎 身 姓 一挨拶 候 聞 H 而 \$ 方 申 由 共 申 件 指 付 申 候 6 出 申 [姓共 支其 誰 達 仕 申 上 表 候 肝 由 主 決 挨 聞 向 趣

申

渡

候

1

可

然

品

X

且

銘

下

願

肝入

方江

指出

候

節

病

身

地

品

F

野

殿

用

人

江

遣

而

\$

承

引不

仕

候

付

村

肝

+ ×

郎

儀其段

申

出

候 申

段

大肝 候

入折

居

仲

五

郎

申 =

聞

候

地

肝 入

門儀 其 御 申 品 之通 衛 遠 申 返 候 之者 出度 入之儀 段 代官様被仰 門儀 ②候様! 談 篇之御 田 処、 H 出 共 達 同 地 を以 郡 由 候 共 跡 書 村 病 肝 大肝 由 地 申 吉十 是又右仲 1 御 ケ条 吟 人 相 肝 身 肝 達 御 同 口之外 代官 味 入役 代官吟 相 返 入 入折居 人 書 郎 付御 古 渡 勤 候 申 申 1 様 挙 候に 処 候処 兼 + 聞 江 地 相 出 五. 申 江 仲 候 郎 用 候 郎 不 肝 侯段又以大肝 返 味 体之者 相 出 付 肝 強 申 相 相 入 申 可 Ŧ. = = 響儀迄 達 入携 而 聞 勤 郎 付 申 候、 -申 是又押 其 候 候 申 兼 難 品 承 渡 由 段 上度 候条別 = 御 処、 取 候 為 且 届 8 吉 村 申 御 候 揃 処、 力 相 右 無御 出 座 由 地 処 条 而 江 相 勤 入 候事 候 郎 申 相 可 肝 人 件 申 達 強 = 訳 座 被仰 哉否之段 入之儀 举 出 申 下 候 而 拙 聞 相 8 度旨 申 候 出 野 由 者 相 申 御 候 返 渡 渡 趣 様 由 出 座 相 候 候 申 意 且 は 候 地 出 度 付 候 候 私 処 聞 処 承 様 又 御 哉と 由 = 肝 候 候 候故、 無之 物 物 入物 届 地 事 吉 付 節 押 猶 左 左 仕 候 頭 承 引 前 而 様 段 様 度 左 郎 相 届 張 条 相

古内治 肝 中 入 津 御 Ш 用 村大立 太夫組 可 相 勤 目 御 体 下 代官菅井 無之病 野 殿 地 身 肝 武 入物 内承 候 間 左 届 衛 候 門儀 别 処 人 申 表 拙 渡 向 者 候様 江 扱 相 遠 仕 出 田 度 地 郡

一押込十五日	一押込十五日	一押込十五日	一押込十五日	一戸結二十日	一戸結三十日	一弐ケ年奴	一島奴財闕所		源治、同仮役五島十太夫遂相談、御仕置左之通被仰	奉行姉歯八郎右衛門、評定所御役人藤村平治、	定之丞并御町奉行髙橋丈太夫、	右僉議之趣を以罪付吟味評定役松岡新左衛門、
同村組頭彦	市郎左衛門同村百姓	同百姓庄七郎子 四拾三歳	同組頭与四郎子 三十壱歳	同村百姓	同村組頭 新 二	野知行所仮地肝入 二 二 五 十 5	古ります。四十六歳	遠田郡中津山村田	、御仕置左之	役人藤村平治	荒井加右衛門、	松岡新左衛門
二十七歳市	十八 歳 門	岩三歳丞	市市市	五一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	二十九歲內	五 肝立十	· 一六 歳即	"关 S	通被仰	斎藤	御郡	石田
一押込十日	一押込十日	一押込十日	一押込十日	一押込十日	一押込十日	一押込十日	一押込十日	一押込十日	一押込十日	担记十日	月之二	一押込十五日

157 11 仙台藩評定所記録 (宝暦 11年)

同同同同同村 同同 同 四 郎 平 万 久 久 平 孫 権 庄 四十七歳平 三十七歳 門 四五事 三四 三十七歳助 六十八歳八 二十六歳助 四十五歳 三十 + + 歳郎 歳郎 押込十日 押込十日 押込十 押込十 押込十 押込十 押込十日 押込十日 押込十二 押込十日 押込十 押込十 H H 日 H

同儀右衛門 同 同 司 同百姓 同 同 同 同 同 同 百姓 喜惣右衛門 伝 孫 平 彦 長 四十三歳内 四十六歳郎 十之七 四四十 歳助 歳郎 歳郎

| 一押込十日 |
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

無御

構

押込五

日

159

磨十

年十二月七

右之通

依死亡無御 依死亡無御 依死亡無御 依死亡無御

構

押込十 押込十 白 白

押込五 H

押込十

白

押 込五 日

押込五

H

同百姓瀬左衛門事 本

DU

十六歳助

知行所地肝入 宏 衛

四左 十衛 一十九歳

同百姓

二十七歳内

同

折

右衛門

利 四兵 歳衛

同

同村組頭死亡 同斉右衛門子 几 郎

同村百姓死亡 同死亡 長 太 郎 郎

衛

門

同死亡

伝

左

衛

門

四

年二月六日不図存立罷出

候処、

旅中岩城領おなの

浜

座候故、

寛延

候処、

右悦之丞相糺候処、

御町奉行評定所御役人申渡之壱巻評定所 貝 志 二納置者 摩印 也

同年十二月十八日御仕

松

前

主

水印

新内以下之者共 右御町奉行御目 ハ於御村御代官申渡侯様同十二年二月廿 付評定所御役人列座 置済 申

八日令首尾候事、

議旨御 加於評定所相糾候趣、 仕候処、今度伊具郡藤田村住居仕候親類岡部助之進方 古内治太夫組 江立帰候品々右喜膳相 町奉行評定所御役人申渡、 石田喜膳叔父無足石田悦之丞儀先年 達 大番頭申達 御目付米倉清太夫指 一候に付、 可 遂愈 出 奔

石田悦之丞 水父無足出奔立帰類族

而紀州高野江罷登出家仕度志願御· 拙者儀石田喜膳叔 父二而無足 二罷在

無然久々逗留仕漸快方仕候得共跡 申 所喜兵衛と申者 所ニ 止 宿仕居 候内食傷仕 ハ息切之症ニ罷成、 相 煩申 候処、 遠

同

久

四五十三十二

歳郎

同

助

五之

歳丞

+

貯

人

=

登

兼 七

越

路旅 懇意も 無間 公罷 不罷 候故、 に不 無足之儀最初喜膳 方 罷 是又所々滯留忰 候 江 両 成 在事 行も も立 罷 成 有之持参仕 相聞得候、 ハ行跡等放埒 罷出 右之品 Ĺ 帰 七年 仕 帰り御答を蒙其品御 = 申 御 兼岩 可 爰かしこ二十 候 右 有之、 元第 由 K 共 同 候処、 志願之趣も咄侯処、 有体 城 申 方江 領 П 所 小謡等指南仕罷在候得 可 1 而 数 先年 懐ケ敷、 罷 申 申 付 前 御 書之通 自三十 H 出 玉 聞 有 旨 不審仕 夫ゟ伊 罷 願 \$ 元 有 彩 留 出 K 候 難 此度立帰 K 日充罷有 候 問 而 ニ有之出家を志し 走 内 達之内飯坂村 而 仕 居 相 候 L 奇特 遣詰尚 品 成 候処、 ハ出 近辺之寺 候事 有之出奔 家之望 成事 縁 候 御 前 領 = 類 共 更 内 候処、 岡 遠 路用 と被 院 H 共 他 部 相 所 候 続 罷 罷 金 賞 知 候 H 所 助 段

之

進

\$

1

懲改

亦以出

一奔拾ケ年余他領

徘

徊

此

度立

帰

重

畳

不

至

之旨相

糺

候処

申

晴 石

無御

小 膳

候

仍古内治太夫組

田

喜

承

届 事

候処、

拙者叔父無足

而

将又旅装東ニ

而

刀脇指も帯し外ニ

柳こり壱ツ持参立

由 品

申

П

付 候

其 実ニ

、方事先

年

出

走

立

御答を蒙

る之処、

不

無御

座 12

出

家之志

K

而

田 帰

走

仕

候

儀

相

違

無御

座

余

事

状

徘

徊

具郡 参仕 尋候得 帰不 始 叔父同 申 早 申 口 罷 延引不 候、 出 刀 父之儀 宋可 脇 罷 候、 速 聞 = 有 一会品 L 候同 读品 一候得共、 指 申 出 悦 藤 心付 共 候 二 た 仕由 候哉 尤其節申 仕 氏悦之丞 田 并 三面 之丞ニ出 H 兼 相 氏悦之丞 承 村 1 様早 相 付 8 見得 候処、 申 = 而 八不相心得候得共、 見得不申 \$ 兎 住居 :着用之袴等不相見得、 無之 兼 仕候故部 角委キ 所々心当り 聞 力 達 会仙 而 同 候 1 不 儀 外 間 帰 任 申 置候通外 何 用 道 -候条親 方江 事 候岡 候、 品 候 罷 台 寬 有之候得 屋 登申 品品 即 江 延 刻出 付 部 然処当八月十八日 承 か 江 承 \$ 何之品 候処 申 無之尤 助之進 類共方江 参候儀と存居 几 一度達て 道仕 n × n 年二月六日 7 遣 兼 罷 は朝より 候得 仕 兼 罷 越不 而之居 委牛 登候、 置 方な飛脚を以、 \$ 静 所 無御 候条、 右之外持道 も為知吟 は 論 K 江 申 居 罷 品品 候処、 8 合 朝 所見届 座 由 刻 罷 F も承 且 並悦之丞 何様 右 早 拙 罷 不 飯 8 在 味仕 翌 由 頃 速罷 者親 H 候 助 届 相 具等持 之体 終日 之 候得 日 候 兼 由 不 幸 由 迄 条 召 拙者 相 而 申 申 進 F 類 候 伊 罷 使 叔 聞 n 達 候 方 =

出

走

奉

如

元之親類

預

方儀

先年

出 御

奔立

帰

御

候 由 申 出 候事

住居 梁川 仕 雅 楽組 候、 然処 岡 部 拙 助之進承届侯 者 親 類 石 田 喜膳 処、 拙者儀 無足 叔 父同 伊具 不那 氏

悦 藤

江 丞 立帰右之段喜膳方江 儀先年出 奔仕 候処、 当八月十 通呉 七日 昼 候条、 八ツ * 頃 拙 者 方

尤悦之丞ニ 九日 夜中 同 為出会候 人罷 下り 上喜 拙者 膳 -出 直 一会品 H 同 道 X 承 罷 登 候 間 申 右之 候 拙 趣 者 申 方 談

候

上為

×

り之家来相

付置

飛脚

を以 候

喜

膳 聞

方

江

申

遣 早

同

+ 会

申

様

申

速出

江

立

帰

候節

1 様子

無

別

条、

尤

刀

脇

指

\$

带

L

浅

黄

之ゆ

カン

た着し 曹笠井 草鞋 懸 等仕 旅 体 而 罷 帰 候 由 申 H 候 事 仰

付 右僉議之趣を以及披露候 処 御 仕 置 左之 通

出喜古 奔膳内 石立叔太太田類無夫 族足組 石

咎を蒙る之処、 不 懲改又以出奔拾 四十六歳

年 余他領 = 徘 徊 此 度 立 帰 不 庙 至 極 K よ 0 て右之通 被

> 宝 暦 + 年 十二 月 + 日

鮎 貝 志 摩

(FI)

条 監

大 物

大 立 目 下 野 (FI)

松

前

主

水印

司 月 廿 日 御 置

郎 右 兵 御 衛 町 奉 行高橋丈太夫、 御 武 頭若林 + 蔵、 荒 井 評 定 加 右 所 御 衛 役 門、 人 藤 御 村 目 平 付 治 Щ 本三

源 治、 同 仮役五· 島 + 太夫列 座 申 ·渡之、

藤

大番 始末預 申 達 承 御 渡、 候旨 配 名 頭 候 懸 置 組 御 申 御 = 候杉 渡辺 達 付 目 名 懸 付米倉清太夫指加於評 候 右林之助 又 = 頭 田 林之助 左 付、 相 達 衛 門儀、 可 若年 遂 御 相 扶 愈 達 議 持 宇 寄 候 旨 申 由 方焼印 津 志 御 達 申 定所相糺 八 町 断 奉 右 候 右 他 行評 林 品 江 衛 之 質 門 H 定 又 物 候 助 方 左 儀 趣 所 御 衛門 遣借 貸 B 役 金 相 達 相 金

実弟宇 津 志 八 杉備 右 衛 田組 菛 儀 林 渡辺 之 又 助 左

天童

後

也、 右林 之助 承 届 候処、 為始末拙者御扶 拙 者 持 方焼印 相 渡置 候

処

仰 付候

右之通御 町奉行評定所御役人申渡之壱巻評定所ニ

納置

者

も同 申謝 右又左 も申 合ニ奉存内分ニ 且 も無之候故其段不申聞 幸助と申者 仍又以六郎左衛門方問 配候哉之旨紙 付、 坊主 向覚無之由申 者方江 猶更六郎 聞 候訳も無御 衛門儀 一春朔を以二瓶六郎左衛門 趣意、 此段も 助 間 慮を以 違 応之断も 面を以承 左衛門江も承合候上何様之訳ニ 而 聞 向 座 難承捨往復之紙面 H. 二候条可相達筋ニ無之趣之挨拶ニ 難相 達 取 其 春 畢 合も無之右 = 、上同 合同 竟間 候処、 候 朔 VI 済旨申遣候而 無之他江質物二可 た 二付行違候段前後不都合之挨拶、 = 人同 頼 違 人
る
之
紙
面
写 L 候儀 承 = 春朔弁幸 焼印 . 役相原文治取 配候処、 可有之旨挨拶 方江申入侯 取 もくさんら を以 揃 P 相達候 ・助と申 指 金子 借 他 指置との 金埒 添申 品 於持申 借 相 而 しく 者承候得 由 H 及承 渡候事 -遺候得 右之通 申 明 御 用 存候 而 儀 候事 座 仕 聞 不都 候 指 候 度 候 候 かは、 共 由 由 = 承 而

> 侯儀 申 畢 由 助 時ニ而も請返候 此 訳ニ而林之助江吟味も不仕焼印相渡借金可 渡借金之儀二 右幸助を以御坊主春朔を 才覚仕吳侯様申付、 返済段々指滯少録者行当 聞候、 竟右八右衛門方ゟ之返済指滞行当 六郎左衛門紙面 儀右六郎左衛門 段承度との ニ無之、 然処当正 趣故、 瓶六郎左衛門 勿論右焼印 ハ、可相渡旨挨拶仕 写指添申 方承合候処、 月右林之助 右之通 同 人色 他江 頼 侯 聞候 拙者儀申 方江申入候段及承 林之助御扶持 × = 遣不申 紙 承 付、 配候得共貸人無之由 前段之通 面を以申 去暮! 付 候処、 一付六郎 一候品心得居 拙者方ニ有之候 右幸助 旧 申入 聞候 方焼 召使幸助 仕と申 其後又以林之 左 印質 承 候儀無相 衛 候間、 門方為 候処、 入 物 拙 = 何 候哉 様之 間 追 儀 幸 何 承 相 Thi 違

左 衛 門

助

慮二

而春

=

左衛門

方承

候処貸金指支候

由

付、

右承

配

候品 朔

K 相

ハ拙 頼六郎

者江

不

申聞旨申

聞

右之通

而

内

々二

而其分

= 難仕

由

拙者儀字津志 海名懸組 性善院様御寄附悉 八 右衛門 方江 金子 用 儀恐多. 最初之挨拶行違侯段申遣侯処、 面を以申

右又左衛門 立為始末同

相

紀候処、

人親類杉田林之助御扶持方焼印預置候処、

右

控候様申遣候得共承引不仕候二付、

不及是非相達候由

申 相 候 紙

何

とそ内

H K

而

相

済申度同役相

原文治

を以達

は

聞

候、

是体之儀

=

而

上之御

世

話

相

懸り

糺 申

候 出

処

幸

助 違

不

都

合之

儀

申

E

無

拠 此

仕 F

合

奉

存 二可

候

時

節

押 相

候

通

相

無之由

及白

状候、

は

白

地

由

応白状之趣

無

相

違

相

得其

方申

П

不

相

立

候

八

右

江

金

始

末之た

同

人

親

類

杉

助

御

扶 字

方 志

焼

預

n

置

之処、 貸

右

両

人

江 8 聞

応之吟

味も

なく 林之

、右焼

を 持 津

質とし

承

候

而

もくさ

んら

可存旨

兼

而

懇

意之

儀

咄

帰

宅

右焼印 詰 処、 配 候段 候 吳 得 (候得 其 方江 其 質物之儀 方申 由 実 戸 申 状 6 付 1 其 申 罷 候 故、 方江 符 入 F 合 候 被 戸 相 其 17 台下 其 前 趣 糺 方申 後 候 春 不 候 日 朔 以 都 付 = = 後 合 至 申 = 無之幸 被 幸 談 申 申 助 候 出 儀 由 申 助 候 右 幸 心付 変 = 申 助 付 候 口 申 加 厳 本 本 H 以 変、 最 居 -初 問 承

> 私 助 n 答

候

加

申

晴

無御

座

候

口

一付、

不

審

1

右

幸

助

承

届

処

可

候

間

右

六郎

左 仕

衛 候

門

方

6

金子

借

用 候

之

儀 杉

申 田

入 林

候 之

様 助

春 焼

朔 印

候 相 相

奉存 趣 を 候 付 以借 処 候 取 覚 申 候 込 之 金才 無 由 拙 砌 申 候 者 御 党性 座 事 江 故 紛 لح 戸 幸 候 存 呉侯 6 H 助 付 下 候 拙 承 様 者 着 違 由 其 申 以 罷 候 = 筋 2 方 後 談 下 儀 候 幸 n = 間 不 É 8 申 助 見 後 紛 申 口 付 有 す 此 廻 口 を合 儀 候 候 御 間 VI 座 を 間 御 候 歟 لح 違 尋 拙 訳 曾 8 者 申 = = mi 幸 8 儀 1 拙 者 無 助 候 定 右 御 儀 儀 事 而 焼 FIJ 2 其 座 申

> 金子 金之儀 = 口 門 申 曲 借 江 受度 含 謝 申 処 入 口 先以 を 申 由 合 右始 入旨 旧 堅 不 召 挨 < 末 都 使 拶 申 幸 合、 幸 募 助 助 L 朋 且. を 石始 申 以 辈 坊 付 本 元末林· を 欺 な 主 不 カン 春 之 恐 剰 5 朔 六 憚 御 助 12 重 郎 問 頼 私 畳 明 左 不 衛 候 お 門 届 上 瓶 之旨 よ 方 六 以 N 郎 幸 相 カン 実 左

相御院 名様 原組寄 附 文 治

之助 仕為 以二 又 者 達 右 文治 衛 取 = 由 左 門 持 瓶 始 相 承 申 衛 六郎 門儀右 宋之同 懸候儀 引 を 遣 相 不 百 以 糺 候 仕 役 最 段 左 候 衛門 人実兄 可 2 初 不 承 焼 処、 可 訶 申 取 相 知 然、 方江 達 彼 合 仕 を 渡 候、 質 杉 辺 是 4 由 之 無 間 且 申 2 田 又 事 林之 左 然 L 口 敷 八 入 右 侯品 儀 金 衛 上 門 是 助 相 衛門借 子 12 8 付 体之 方と字 済 熟 K 借 御 談 林之 扶 候 用 金之儀 持 右 様 為 儀 仕 達之 相 度旨 方焼印 津 助 仕 申 及 志 度 済 幸 趣 取 候 承 御 八 意 坊 就頻 持 上之儀、 付 相 右 其 上之 世 候 候 主 渡 衛 処、 旨 置 甲甲 春 上 而 = 御 口 朔 借 は 候 而 林 又 拙 世 相 処 金

何分 并宇 趣 よ L 談 而 不 候 御 15 もくさんら 候段承 都合 拙 取 番 由 由 持様 衛門 者存 申 志 申 組 出 口 儀杉 候訳 右 対 知 候 付、 衛門申 口 其 方儀 実情 < 妄言を発 有之ニ 上之御 H = 可 林 1 不 不 存 審 口 \$ F 及達 世 助 申 申 最 候 旨 仕 ĩ 話 御扶 談 出 初 就頻 候 其 候儀 = 猶 を 候 持 其 右 不都合之旨 憚 相 咄 由 方もくさ (趣意二 方焼 n 申 糺 達 候 もくさ 携 陳 候 由 处处、 **加印之儀** お 取 候 申 持候段 申 N 出 よ 相 N 付 曾 出 6 U ル 之 候 糺 カン 而 候 L 候処 ま 付 其 処 1 処 而 もくさ 無余 方同 存 L 取 追 は 林之 < 合 候 申 而 世 晴 存 儀 役 N 申 趣 E = 渡 助 候 無 お 6 紛

> 通 初

申 申

F

候

而

又左衛

門

為不宜

追

而

申

上候

通

口

申

新車 五地幸郎蔵 屋野 屋 座

助

焼印 様御 右幸 有合金無之由 候 扶 助 質 一付御 物 持 相 方 糺 坊 差置 焼 候 印 = 主 而 金子 春 預 拙 是 朔 n ,才覚仕 置 亦埒明不 者 江 候処、 頼 旧 主人 候様 瓶 渡辺 申 六郎 急ニ金子 去暮 候故其段又左 又 左 左 被 衛 用用 申 入 衛 門儀杉 様 付 用 候処、 方承 御 衛門江 本 H 候 候 如 才覚 = 林 一之助 付 為 右 申 御

> を以 状 才 Ė 由 候 焼 覚 江 申 通 引合 印 VI 出 一之儀 たし 相 候様申 違 追 無御 候様 而 を 申 1 又 座 紛 承 = 2 候、 候 西己 左衛門申 事 候 1 又左 同 状 由 一候条、 K 人不 申 衛門 候旨 一変し 口 申 江 符合 取 付 候 戸 詰 = 候 以処、 る罷 相 付 糺 下以 候得 畢 右 其 一竟又左 、身心付 には、 後 右之 を以 最 衛

門申

慮 金子 聞

候

之助 仕厳 身事 由 上旨 白 状 焼 旧 同 主 印 相 仕、 人二 質とし 人渡辺又左衛門 私 其 候 被申含、 〈後度 処、 借 金之儀 最 H 申 初 旧 申 口 主 承 上候通 人之儀 変動さま 一被申 配 侯儀実情之由 付 又 故 無心 左 同 人預 衛門 許 申 9 = 紛 存 居 被 申 候 候杉 申 応 口 付 付 付 杉 申 田 牢 林 田 入 変 之 其 林 候

又 助 左 焼 衛門 FD を質とし借 被 申 含申 金之儀 変し 追 承 配 而 候 8 度 由 白 H 申 状 変 L L な 御 カン 所 5 柄 を不 追 而 悝

不 庙 之旨 相 糺 候処 申 晴 無御 座 候 事

仍 瓶 殿 由 御 御 = 扶 īfīi 本 左衛門殿方承配 持 車 村 方焼 附 地 蔵 坊 印 主 居 春 而 候 朔 幸 金子 承 候処、 助と 才覚仕 候 申 処、 金子御 者 渡 上候 去 辺 様 年 又 有合無之被御 押 左 申 衛門殿 聞 杉 H 被仰 仍 林 用 之 而 助 候

二六郎

兼 候 由 御 挨拶 御 座 候 間 其 段 幸 助二 申 談 候 由 申 H

事、

大町 子借 付同 幸 助を以坊主 人江 用 Ш 城組 仕 度旨 挨拶仕候 申 春 瓶 六郎 朔を 聞 品 賴杉田 且 左衛門承届 H 共 古之品 = 右林之助 林之助御扶 々右林之助 候処、 申 渡辺又 出 持 方と承 候 方 通 焼 印 左 合候 衛門 御 = 而 座 候 金 儀

上遠野 末之渡辺又左 伊 豆 組 衛門 宇津 方江 志 八 実兄杉 右 衛 門承 田 林之助 届 候 処、 御 扶 拙 者借 持 方焼 金為 始 相

欺

事

達 候に付い 候儀 は 林之助 委細林之助 儀 品品 申 H 聞 承 承 度 知 由 罷 又 左 在 侯 衛 由 門 方 申 出 江 申 候 遣 候 E

渡置候処、

林之助幷拙者

江

8

無断

右焼

印

を

以借金為承

右愈議之趣 石 田定之丞 御役 を以凡 并 八粟野平 御 町 奉 下 -左衛門、 行高 罪付吟味評定役松 橋 丈太夫、 藤村平 荒 治 岡 井 新 加 斎 左 右 藤 衛門 衛 源 門

被 仰付

評

定所 仮役五

X

同

島十

太夫遂相談及披露候処、

御

仕

置

匠左之通

之挨拶猶

不敬不届之至

依て

、右之通

被

仰

付

候

事

閉 門百 日

其

候

恋組 院様御寄附番 に

又左 十衛五明 歲門

之助 再応問 坊主 なく右焼 、方儀宇津志八右衛門江貸金始末之ため同 状 御扶 彼是不届 且. 春 朔二 合 御 糺 候 印 持方焼印 頼、 他江 明に = 至 至極によって右之通 質物とし およひ ŋ 右之品 を預置 瓶 六郎 右 幸 H 左衛門江 金子借受度由 由 無之趣 之処、 一助ニ 口を合堅く申募、 右両 被 不 申入而已なら 都 仰付 合之挨拶 İH 人 召 江 候 使幸助を以 人親類杉 __ 応之吟 す L 林之助 朋 輩 田 林 を

蟄 居 五. + 日

申

主立役御名懸組 京 相 原

四

とし 之ため 話 其 さ (方同 N を 惲 借 かまし 預り置 役渡辺又左 金承 n 其 方携取 < 配 候同 候 存候趣右林之助江妄言 一付、 衛門 持候 人親類杉 儀 林之助等及取 ハ無余儀候処、 宇津 田 林之助御扶 法八右 L 合 及告 候節 衛門方合借金始 持 御 方焼 番 達 組 候 儀 上之御 印 江 対 他 四 歲治 もく 江 L 質 右 #

押

右之通 込三 御 町 奉 一行評 定 所 御 一役人申渡之壱巻評定所ニ

宋

暦

+

年十二月十

H

鮎

貝

志

摩印

町

新五郎 幸 幸 世屋 屋

三十六歳助

納置者也、

大

条 監 物

松 前 主 水印

右久之丞相糺候処、

候間為給

口

野江罷出候処、右義四、「(儀) 「・(儀)」

几

郎 傍輩

儀

1

二痛 郎

有之歩行

儀四

同

道去月

廿

立 目 下 野 FI

大

同月廿一

日

L士御

仕置

洛

奉 行高橋丈太夫、 武 頭若林十蔵、 荒 井 評定所御役 加右 衛門、 人 藤 御 料平 目付 治 Ш 本三 斎

埒明不申、

且明 野

野

二鳥無之侯間不図御留

野迄 足

相

入申

侯

几 座

日

暮

方明

同 日 凡下 仕 置

藤 郎 右

源消治、

同

仮役五島十

太夫列座申渡之、

兵 御

衛 町

右 御 町 奉行御目 付評 定 所御役人列 座 申 F渡之、

人召捕承届 相見得候 深谷須郷村御留 候処、 付 同 野之内に 村御 同 所給 鳥見横 八高橋喜三 目 一十四 共 能 郎 日 家中 で夜さか 網 を持居 久之丞と申 鳥 候者壱 討大勢

而

可

類等も有之由ニ付向々江申

-遣どり為仕候上、

候 留

儀

ニも候哉委曲有体可申

出旨厳糺問仕

候処、

母兼

K H K

鳥

野

を

犯

L

候儀

可

有之、

勿論

老母

鳥

を食

度旨

平 度

願

郎親 右御鳥見横目 奉行評定所御役人申渡於評定所相 類方なも 共申 相 達 出 大番 御 鷹匠 頭 中達候 頭 相 達、 糺 付 若老申 候趣 可 遂 達 一会議旨 右喜三

二郎

拙者儀当拾三 一歳二 罷 成候 処、 之 老母 水 御

旨 同村百姓源之丞借屋今三郎子長松と申者見懸候趣 承 鳥見横目其 相入とハ義四 尤鳥等獲 元御尋被成侯ニ付主人名前共 相 届 達候、 候節 \$ 然は 身を追懸召捕 無御 傍輩義四郎 郎 同 = 座候得共御鳥見様御大勢に 類申合罷 ハ不申合侯旨申口ニ 并須郷 さか 越候 村百 鳥討大勢相 = 儀 申 上候、 姓七 而 此度二 付 右衛門孫卯之七 勿論御 見得候二付名 不審仕 而 不限 御 留 取 申 候 野迄 抑 出 ハ御 名 御 元 日

は

見留不申

一候得共、

申 出

口

8

御

座候故其

向 候

H 江

申 共

遣

松と申者外覚無之由 姓七右衛門孫卯之七、

申

遠

御

座

故忰 今三

宝

+

同

村百姓 候に付い

源之丞借

屋

郎

子長

也

を好被下 様 江 申 度由 上候 儀 申 聞 は 誰 候 H 儀 = = 8 候 哉不相心得 無 御 座 候、 候得 3 カン 鳥討 共 拙者を 名 元 御 御 鳥

取 抑 新細引 を 御 はまとひ 被成御 尋 ニ付驚キ入恐敷間 二合 申 上

候 等 儀 儀 無之訳共 = 御 座 而 侯 前条申 一合候儀 勿論 御 -上候通之旨 留 ハ不及申 野 江 相 入申 其 場 申 出 候 = 候 儀 而右之者共見懸不 = 其 付、 日 其 初 身事 而 之儀 幼 小 獲 申

申

候 処 申 晴 無御 座 侯

候得共さ

カン

為可

討と

網を

持御留

野江

入不

一届之旨

相

私

仍同

村御

鳥見横目

小

梁川

雅楽組千

葉利右衛門承

届

候

処

候事

去月 カン 鳥 討 # 大勢罷 四 日同 役とも 有候 様 相 見得 同 須郷村御 候得とも暮 留野夜廻仕候 方之儀 殊二 处处、 谏 さ 力

見懸候 懸拙者壱人召捕 間 爾色等 候 ハ見留不申 処、 網も 有之候 候、 同役共手分仕所 ニ付夜中之儀取 × 江 逃 追

鳥討 不申 名 様細引をまとひ 元 承 届候処、 高橋喜三 同 役 方江召連近 一郎内之者 所ニ 義 四 相 見得 郎 候さ 同 村

> 為仕 置 同 役 共 連名 相 達候旨 申 出 候

罷 高 痛 成 橋 候処、 喜三 有之歩行仕兼途中な後れ、 郎 同 内之者義 日久之丞と申合 兀 郎 承 届 同 候 処处、 久之丞 村明 野 拙 者 ハ翔抜参候 江 罷 儀当 出 沿拾

候

処、

八

歳

合候 儀無御 座 侯旨 申 出 候 事 御留

野

迄

相

入候儀不相

心得、

勿

論

御

留

野

犯

L

可

申

由 =

申 付 足

須郷. 長松事 村百姓七 長助承 届候処、 右衛門孫卯之七、 卯之七 ハ十三歳、 同源之丞借

屋今三

郎

子

罷 成 候 処、 拙者共御 留 野 江 相 入候儀 無御 長 助 座 一候旨 ハ拾弐歳 申

右 置 左之通 愈 **(議之趣** 被 を 以 仰付候 御 町 奉行評 定 所 御 遂

相

談

可申含事

右之通 御 町 奉

行、 評 定 所御役人申渡之壱巻評 定 所 納 置歲丞

年十二月十二

鮎 大 貝 志 FI

物

条 監

同 月 +

右

御

町

奉

付

評

定

所

御

役

X

列

座

申

渡

何

望

月

郎

兵

衛

組

御

足

軽

市

兵

衛

聟

家

督

番

代

相

勤

候

蔵

儀

不

見得無心

=

候

聞

候

間

品

候

得

左

候 8

1 相

此

所

6

H 許

口 様

罷 子

候

懇 申

間

段 H

罷

帰

至

而 1

空腹

成

得

銭 帰

貯

8 由 由

行当 教呉侯

故古

鉄 H 咄

大 立 目 下 野 FD

相 帰

松

主

水

FD

日 行御 仰 渡

当十 度 相 相 達 F 若 月 候 老申 八 付 日 於江 達 可 於江 遂 百 出 愈 奔、 議 戸 旨 応 御 同 町 御 + 奉 徒 几 行評 目 日 付 立 帰 定 を 以 所御 候 相 品 役 私 H 人 御 候 申 E 武 渡 此 頭

奔督足月 円立番軽 帰代市郎相兵兵 動衛衛 候聟組

申

中 脇 候 は 体

寓

指

身計

弐

百

五

拾

銭 候 早

売 共路

払

跡

1

木 無之

ヲ

拵

用

帯 候

候

尤

夜

於評

定

所

相

糺

候

趣

蔵

旅

中 \$ 候

番代 钱 n 登 相 急 請 1) 糸 n 增 候 取 発 罷 処 候 足 分 F 火之御 相 日 候 拙 被 答 者 納 候 相 儀 -番 御 御 留 市 書付 座 方 兵 行当 衛 候 江 罷 処 被 松 番 崎 在、 相 代 仲 登 硘 相 且. 御 相 太 当 夫 右 足 勤 殿 に付け 軽 罷 之内 御 御 有 判 仲 候 参 処 突受 間 勤 病 人 御 取 同 有 当 供

之右

月

御

罷

処 御

H

洗

湯

江

相

越

候

節

右

御

書付

相

入

候

鼻

紙

袋

取

落罷

取 中 難 御 在

落

動

転

仕

候 儀 所 口

方
る
気
持

無十

方罷

成

何方となく

罷

H

与

風 突 旅 而

-

Th. 品品 候

売払

候 他

相

違

無御

座

候

前 曾

条 而

由 無 而

候

通

支 脇 行

配

頭

判

居 座

X

幷 有

奉

公

等心

懸

申

儀 候

御

座

指 跡

身計

体

申

上旨被

相

糺

処

兼

身

持

不

等

路

右

円

蔵

なく 日 見 見 候哉 之頃 無十 得不 候得 ٤ カン 方 申 は 無之 承 正 所 気罷 候 罷 X 得 心 候 出 欠行 当り = 大誠 付、 与 候 風 尋 心付其 候得 動 2 所 申 転 K 何 共 仕 所 方と 相 湯 所 候、 見 屋 得 申 而 江 何 通 儀 尋 不 申、 方 n = 1 之者 聢 罷 江 2 罷 夫な 越 覚 見 通 = 候 此 不 何 候 哉 方共 得 所 申 共 旅 何 候

之、 所 1 = 其 掛 将 \$ 而 5 亦 無之堂宮 E 売 罷 数 払 拙 出 日 候 H 事 口 行 走之間 跡 抔 申 \$ 処 兼 計 路 有 而 空腹 之間 無然 臥 銭 由 行当立 敷 何 様 = 敷難 而 身 持 仕 帰 居 居 不 獑 都 品 + 申 H 有之: 間 合 申 几 候、 敷 日 元 来る 旁 他 江 御 脇 戸 所 迄 不 左 指 奉 立 審 身計 様 公 口 帰

捕

申

出

応

相

糺

候

F.

御

目

付

申

達

候

=

付、

口

遂

誈

議 召

頃 名

迄

石新

七

郎 由

所 -

=

罷 座

有候 候、

処、

疝

積之

様

相 座

煩 候

本症

なく

寵

見

当

前

江

突

候

御

其

段

は

不

束

=

御

仍三

月

之

右之外 口 申 1 品 無 御 座 候 由 申 口 御 町 奉 行

ŋ

不

届

之

旨

相

IF

気

相

成

驚

入

立

帰

候、

糺 付、 候 処 申 其 、身事 晴 無御 江 座 戸 在 候 事 番 中 出 走 数 日 を 経 立 帰

右 僉 一議之 趣 を 以 御 町 奉 行 評 定 所 御 役 人 遂 相 談 御 仕

置 左 之 通 被被 仰 付 候

牢家舎督 十被五石 日放

御

町

奉

行、

評

定

所

御

役

人

申

渡之

壱

野 疵 中 相 右

增

沢 幷

百

姓

=

有之

候

処 仕

X 候 御

年

之節

相 相

続

罷

成

兼

無宿

2 儀 は

成 南 至

御 部 頃

当

所 江

気分共

= <

一本腹 候故、

段

申 師

出 相

糺

候 用

処、

拙 候

者

遠 日

入甚気荒

矢

懸薬

為仕

得

也、 右之通

宝

唇

+

年

月

+

八

日

鮎

貝

志

(II)

= 江 出家御望 奔督足月 円立番軽三 帰代市郎 相兵兵 勤衛衛 侯聟組

卷 評 定 所 納 置歳蔵

松 大 条 前 主 監 水 物 FD

> 家 村

大 立 目 下 野 FD

=

申

合

有候、

取

替

金受

取

候

内弐朱最

初

6

申合智

観

坊

同 月 廿 日 御 仕 置 済

右

御

町

奉

行

御

目

付

評

定

所御

役

人

列

座

申

渡之、

七 月 # 日 廻 番 御 小 人 於 中 瀬 原 怪 敷 体

> 評 定 所 御 役 人 申 渡於評 定 所 相 糺 候 趣

之南由部 久藤東遠 七野 事增 無沢 宿出 助

人 見 得 助 候 相 糺 付、 候 処、 入 牢 申 為 口 仕 不 置 都 合 候 処 衣 等 類 = 疵 を 引 8 裂 有之 屎を 乱 擲 心之 又 様 1 口

手 相 間 入 取 筑 罷 館 有候、 村双 林 寺先 / 樟村 住之代二三 1 近 所 = 一ケ年 付 西大条右 奉 公仕、 兵 其 衛 外 様 近

右智 中 翻 Щ 坊 伏智 人 主 観 坊 = 而 并 同 可 村 御 家中 御 百 姓 御 新 足 七 軽 宅右 郎 方 江 衛 当 門 正 江 8 月 # 懇 意 日 6 = 成

江 季 同 酒 人 道 を 主 仕 振 相 兼其 罷 廻 頼 口 候 品 入 礼 智 = 観 相 遣 坊 頼 申 置 候、 江 咄 候 処、 右 候 得 証 は、 文之 不居合候 其 節 身裏判を は 前 付 K 右 新 宅右 宅右 七 郎 衛 所 衛 甲甲 江 胛

御足軽 蒲団 と覚不 成 所 衣 A 中候、 類 長十郎ニ被打疵付候と覚候処、 走行候処、 等も 被背負銭も三百文程被渡侯 宅右衛門 右右 等 兵衛様御 被誘あくと川 屋 敷 駆入候迚 何 之辺江 様 方ニ 覚候得 御 一被送候 座 御 共 候 同 人様 哉 右 然

成無拠 相入数年 候儀無之候処、 有仕 義 右 所之山助と申者ニ木を以被打候と覚申 申 上候 而 闹 ハ何様ニ 合ニ 御 人に被打候故 奉存候 療治 通本性無之夫ゟ狂廻り 所 奉存候、 仕 A 被成下右 住 何方ニ 由 居 申 病気ニ被犯狂行 出 三可 拙 L 者儀 不都合之旨. 候 疵 而 有之候、 = 所弁病気も 被召捕侯哉も不相 盗等 付、 其 双林寺江 ハ勿論 相糺 (身事 勿論 き 平 平愈不具ニもて(癒) 候処 始末もなく御領内 何 御 候、 相 上之御 而も 不 心得候、 御 越 調法至 城下迄 疵 鐘 不宜 を撞 所 世 有之候 不 麗越 候迚 極之由 話 行 龍 御 牢 = 跡 成 江 罷 内 候

其 中 仍 、上頭 瀬 右久助 橋 并 罷 召 脚 通 候 捕 = 節 疵 候廻番御 8 長髪、 有之疑敷候 至 小人共御目 而 破 候 付召捕 単 物着 付 江 申 候 L 遣承 由 河 申 原 出 届 候段 臥 候 処 居 申

聞

候事

申出

候

助持道 季二 人様御 申 二手前 之外熱有之、 奉公も能仕候処、 得 観坊久助 候、 兵 壱廻八樟村百姓 共証 候 衛様御家中山 申合、 用 取 具衣類蒲団 文 文 ニ而永く保養も為仕 替金相 同 = = 印 而 智 口入 道 夫ゟ気不同之様 鼠坊手 不罷 形有之候間 参候間印 渡候、 新 ハ同 伏智観坊添人久助当十二月廿 越候処、 帷子股引木綿 三月二 七 御家中 郎 跡 無然 承 日勘定之上返 判為仕候、 一至り 無相 届 兼暇 誰印 由 御足軽宅右衛門 候 疝気之由 違見届 二罷成召使候日 申 処 聞 わた入給等迄一 相 形仕候哉然と覚不 候間 当正 出 宅右衛門 金銭 智観坊 指 月廿 置 = 拙 而 者 も有之候 申 候、 江 相 相 相 日 ハ其節御 数 相 煩 認 西 立 五 式指 右久 渡、 \$ 候 候、 一指置 日迄 大条右 無之 処 由 久 殊 候 遣 助 主 智 申 壱

山伏条 智山汽 派兵

智

観坊

る遺不

申

候

由

申

出

候

観

付申 南部 右智 観相 領る参居候久助儀同 出 候 紀候 は、 拙 処、 僧 最 儀 初 八樟 村主 彼是と申 村 二前 人 家中 々手間ニ 紛 屋 L 敷 追 罷 X 住 厳 有見覚心易仕 = 仕 相 候 私 処 候

候間

途中迄

附

人借

ŋ

・申度由専右衛門ニ申談足軽長

助

之上は、

右新

七

郎

方江 銭 候

久助給金之返り早速

可

相弁を今ニ

剰久助

方よ

預置 N

候

及同

人

衣

類 修

相払候 験之

代共

八百文余有

城

下迄

狂

登り

=

至ら

せ

身とし

7

猶

不慈之至、

申候、 敷 衛 所 相 候 成申候 高 前 置 節 門と一 る血 一中郎 故暇 6 渡吳侯 守 故 不罷 声 江 一突申 貰 段 五 渡 預 翌廿 六 も出 等を 相 置 久助 歌 候 礼 越 様 拙 故受取 同 侯 出 候 候 申談引 呼候 衣類 一候旨 九日又以送出 計 候 僧 或 受用仕 申 義 得 方江 海道 扨又右 取 聞 等 踏 主 共 而 候 新 候間 替 江 并 本 立 参 為 は 処、 候 人 七 金三 送り 国 一参候 候 取 銭 郎 指支申 用 人 ね 訳 抑候 翌廿 一歩受取! 五. 江 者 候 申 助 事 = 参候 L 百 口 処、 二付、 聞 病気ニ は = 候節. 文預 無之、 罷 所 而 有之候、 八 間 処無間 三月廿 帰 長 日 敷と拙 候 江 罷 一拙僧 久助 よし 大所 丸裸 内 出 置 + 而 候 郎 夏 狐 弐 不 上江 特富田 七日 付之 朱 本 \$ 内 人 \$ 参 = 僧裏判を = 候、 宅右衛 5 助 其節被打候 翔付、 至 所 而 預 持道 申 相 主 様 帷 候 江 専 罷 百 聞 儀 兼 達 人 子 文相 右衛門 大所 宅右 門 候間 右気不同 帰 候 具共 相 求 而 1 人主 候 義 呉候 受合 方 成 頭之 由 江 渡 衛 江 騒 立 申 宅右 指 同 足 翔 拙 門 力 様 = 聞 疵 者 敷 罷 名 頼 帰 屋 控 軽 入 僧 申

候

同

村御

百

姓

新

七郎

方

江壱季

居候

節

拙

僧

儀

道

宅右

衛門

等と

此節

\$

衣

類ふとんなと為背負候

而

越 故

添

八之由

を以

証

文始末

仕

指置

申

候、

П

入宅右

衛 B

門 同

其

方な暇 家中 を添 類売 帷子 壱人ニ 然に 三度迄海道江 拾文江取合候 JII 連 名 遣不 仕 を越 立 定 指置 立 侯 一参候 前 人と偽八樟村百 兀 出 軽宅右 申 哉 し、 江 口 而 Ŧi. 受取 侯旨 候義 人者候 其 相 日 此 あくと 分裏判 返と弐色ニ 砌 向 過又以右 送捨 候 衛門を 而 申 由 右新 見懸不申 川迄 南 上 出 も不足故今ニ 申 候故久助 を後付 候 聞 部 丁 頼 姓新 七郎 人助 = 相 海 寧 置 付 送り 而六百 拙 道二 近村徘 方 候 = 由 七 僧 = 一付自是! 食 薬用等 申 突右久助 其 人 郎 江 始 方江 八身事 文ニ 助 拙 返 将 候 末 飢 金壱切 文拙 申 僧 刊 徊 南部 方ニ 衣 可 相 帰 聞 奉公二置 蒲 仕 仕 類等も 為仕処、 気不同 候 候得 払 僧 由 候 る相 指 由 余有之候 等も 方 申 由 = 置 預置 江 候 由 = 失ひ 間 申含罷 7 は 越 人 途 而 無其 なり 候得 候 右 新 候 助 中 此 新 遂 無宿 七 銭 間 口 わ 節 七 儀 新 入 弐百 共 郎 た 而 郎 入短 方 右 拙 七 久 方 候 何 助 同 同 而 郎 江 五. 衣 僧 江

畳不届至極之旨相糾侯処申晴無御座候事 不足之由を以其身方ニ留置候状勝手とすへきニ無紛、

富田 専右 富田 専右 衛 門

中山 払候様申付候処、 申渡川向迄連参候得と差図仕候由申口ニ付、 故遺候間、 観二相渡申候、 一智観申 . 伏智観方江参侯者気不同と成侯間 聞 主人江不申聞內々二而相渡吳侯様申侘侯間 一候故相渡侯由申出る之処、 途中迄附 翌廿九日右気不同者本所江罷 同家中山伏智観相越右之者ハ守貰ニ参 人借申度由智観申聞候間足軽長 最初な其身も気不 内々二而相 其身事同 帰 度由 渡候様 助 申候 家

> 旨相糺侯処申晴 無御 座候事、

重

長 十

付、 候間屋敷遠門迄引立参候処、 頭江当り出血仕候、 両人ニ而取抑候、 気不同者相入候間、 右長十郎相糺候処、 候事ニ不相聞得候処、妄りに木太刀ニ而頭を打疵付不届 人ニ障候事も無之上は傍輩共も両人迄立合候儀手ニ余り 人ニ相渡拙者ハ夫ゟ罷帰候間跡之儀ハ不相心得 屋敷門を出申間敷と致候間おとしニ木太刀ニ而少打候処 其身事主人屋敷江裸二而翔入候者気不同 別而人ニ構候様之義は無之候得共大所 主人在郷屋敷江三月廿八日丸裸 木太刀を持翔寄傍輩宅右 屋敷払候様大所持富田専右 宅右衛門智観も相越候間 と見届 衛門も罷 由申口 衛門申付 = 且. 両 而

江相入踏行キ申候故、

足軽長十郎宅右衛門ニ

取

抑屋

敷を 屋

有候処、

当三月廿八日気不同者と見得候男丸裸

而

敷

右專右衛門相糺候処、

拙者儀主人在郷屋敷留主居相兼罷

長一一一長

之旨相糺候処申晴無御座候事

助

専右 様申付候故罷越候処、 右長助相糺候処、 江 は 相隔居委細之儀は不相心得候処、 衛門気不同者智観方る引立海道迄送り遣候間 拙者儀主人在郷ニ罷有候得共大所屋 もはや宅右衛門等附罷出候故跡な 右屋敷留主居富 附 参侯 田

申ニまかせ気不同者途中迄送候様申付忽之始末不都合之

於承は本所等も承宜始末

し候様可申付候処、

無其儀智観

曲

始末すへき之処、屋敷を払候得よし指図し翌日立帰候 同者と見受長十郎等ニ取抑させ候節何方之者ニ候哉留置 相

聞得、

其

身義

智

観と傍輩と言

居

所も向之由

旁

暇

相

出

何

方ニ

罷

有候

哉不

相

知侯旨

申

出

一候段申

聞

候

き事 \$ 不 衛門指 承 6 あくと 途中 無之 JII 6 义 静 、
迄
召 和 す -放候 る 而 由 罷 連 而 = 越 相 は 候 放 1 行先 候得 由 L 罷 申 無心 共気不 П 帰 = 候、 一付、 許 事 同 右気不同 其身事 者と承 = 候 条 上は 者 留 H 承 主 途 之処 本 中 所 富 気荒 本 田

無其 儀 JII 向 捨置 帰 b 不 念之旨 相 糺 候 処 同 中晴 無御 座 候 事

大家中足 衛軽 門

候

儀

相

聞

得

何

カン

勝

手

有之故

候

哉

(実情)

申

出

旨

相

右宅 候 十郎と共 右 は 衛 門 申 出 相 取 候 糺 抑 は、 候 申 処、 好候、 拙 者 彼是と申 遠門迄 儀久助主人大 召 陳 連 候 若 = 所 久 付 助 屋 牢 = 敷 入 智 江 = 観と 翔 仕 入候 厳 = 節 同 相

傍輩 助儀拙 此 衣 飾 類 は 長助と共 等為背 者 人 八助気持 所 負 江 立 = 四 あ 帰 五 8 くと川 静 候 T 故智 海 = 相 道 観ニ まて 成 江 .送り 申 候 召 8 為知翌 連同 相放 扨 又右 所 罷 日 = 帰 ラ以 人 而 候 助 放 処 罷 衣類 奉 公公 無間 帰 = 申 等背負 住 候 \$ 候 久

郎方江 挨拶 節 = 御 拙 仕 座 右 口 候 人助 入 処、 酒 = を 奉 は 振 成 公口 程 相 廻 左様之 立 口 人に 入 不 二其 申 儀 立 候 身を 候 由 咄 申 様 候 頼 事 口 頼 候 候 = 覚候 付 段同 由 久 助 得 猶 人 申 相 申 とも指支 状 糺 一候 都 候 合 は 由 L無相 新 候 御 七 由 尋

仍

御

郡

奉

行

申

遣

筑

舘

村双

林

寺承

届

候

処、

右

助

召

使

候、 助 其 第 身 日 所 申 御 江 事 立 詮 = 議之最. 帰 無之 候 儀 候 初右 等 兼 追 久 而 而 助 久助 懇 奉 -気不同 公受合 無之候 等之儀 と成 而 1 可 候節 立 堅 送 < 戻 不 事 無之 承 候

旨

は 久 不

相

頼

儀を偽候得

は

後

H

=

相

顕

候

事

=

有之不

実

を智

観

得

候状、 申払 証 追 文始 K 厳 末之 候、 相 節 私 候 他 行 = 印 及 形 N 世 す 応 とい は 咄 承 とも 候 由 申 П 請 相 合居 変

糺 無宿 候 処前条之通 人 助 口 入に被頼 反復 申 相 出 諾 候 候義 一村、 其 相 聞得、 、身事 申 且. 紛 右 す 人 助 VI 気不 لح

8

と成候

上は

行先

無心

許

儀

=

候

条、

智

観

人

主

8

成

候

談し と言保養をも 一両度迄 海 道 加 江 送り 候様心 捨 食 を 可 添之処 飢 衣 類を失ひ 一無其 遂 剰同 御 人 城 ٢

相 事 同

下 御 座 迄 候 狂 事 N 登 候 至ら 世 不 慈之 至不 届之旨 相 糺 候 処 申 晴

無

尤同 候 儀 寺召使之下 は 先 住 代之儀 人 Ш 有之候 助 儀 8 手 処、 間 先 取 12 住 有 病 之候 死 始 処 末 不 当 相 時 知 は

右詮

大 立 目 下 野印

|議之趣を以罪付吟味評定役松岡新左衛門幷御 評定所御役人藤村 御

町

平治、 奉行高橋丈太夫、 斎藤源治、 荒井加右衛門、 同 仮役五島十 太夫遂相談御 仕置

之通被 仰付候

主人知行所之外二可罷有事 山伏 本山派 智

弐拾五 **流観**

事無生之 由藤七 下 東野増沢 三十五歳助

御領被相払

足軽不兵衛家中 長 弐拾六歳郎

同人家中足軽 四 拾 三 歳 門

候は、

拙者儀伊具郡金山

御足

軽与次郎次男二御

座候

押込拾日

戸

結

玉

日

富田専右衛屋財 東右衛 五拾四歳

人家中足

同

評定所御役人申渡之壱巻評定所ニ 六拾六歳助 納置者也、

右之通

御

町

奉行

宝曆十一年十二月十九日

無御

押込五

同月廿三 右御 町 日 奉 行 仕 御 目付評定所御役人列座申渡之、 置 済

取候二付、 南材木町菅井屋平左衛門店ニおゐて何者ニ候哉木綿盗 召捕 明 方江 申 通 町 横 目 共承 届 申 出

行評定所御役人申渡於評定所相糺 応御町奉行相糺候品々申達候二付、 候 可遂愈議旨御 趣

町

奉

無信是金山 出生之由

業とし 右喜八相糺候処、 候者二疑敷候二付拷問 彼是と申紛不都合之申状同類有之盗を 相懸候処白状之由 K 而 **炒**処、 申 出

仕、 幼少之砌父母病死、 其後家なしと罷成手間取ニ相 其後外祖母等世話を得候処是以病 成伊 達領江参り 酒屋 死

罷越候砌、 働 候処、 成露命相続罷有候処、 右之者小盗仕候事有之由を咄拙者をすゝめ 於具田之辺御国生之由伝八と申者ニ道 国 元懐ケ敷当十月出 連仕 申 参

御

立

貝 志 摩印

n

鮎

候事 弐ツ其

外

小物数

品

盗

取

不

軽犯

科之旨

相

糺

候

処

申

晴

無御

座

処、 処其 折節 方 2 = カン 日 うか 江 お カン る 可 日 口 逃 於河 類 出 木 て VI 路 有之白 一去候 綿 不存者二 弐三本三 4 銭 原 調 世 8 由 候 町 詰 = 体 石 申 目 而 ŋ 町 明 相 一徳衣紋 口 申 木 南材 衆下 11: 綿 = 払 侯 付、 木 申 弐 役 綿 候、 盗取 木 反木 付 其 町 同 壱反盗取 被召 、身事 等 南 綿 人と申合白 両三 材 右木 き 盗渡 捕 木 れ 伝八 所 申 町 綿 JU 世之事 候 木 = 并 五. 而 羽 尺羽 石大 綿 其 木 相 店 織 綿 節 壱 河 ハ不分明 渡 = 織 伝八 申 而 党き 原 反 岩 候、 右 = 羽 伝 沼 世 而 然 何 町 市

候

事

儀 仍 而 左 南村 先 衛 店 月 押 明 -見当 咄 而 方 木 為 木 町 候 聞 綿壱反被盗 相 高 故召 置 付 田 候 御 屋 捕 用 -吉 付 右 承 相 心を付 取 衛 届 勤 震処、 候処喜 門借 候 由 罷 屋 右盗· 南材木 有候 処 人 助 X 町 承 青井! 像等委ク右平 河 届 原 候 町 屋 処、 朝 17 拙 市 左 衛 者

とも 右 付 木 喜 逃去 綿 八を批 盗取 侯 同 者 相 類 見得 宿 相 元 渡置 心を 江 召 連置 付 候 段 相 段 申 尋 候 聞 八と申 K 申 得 候 達 共 見当 候 仍 無 同 宿 由 不 申 類 出 申 相 御 候、 候 尋 座 事 候 候 右 得

> 候 南 木 候 処処、 綿壱 御 相 材 目 見得! 木 反不 明 右 町 一营井 方 候者 11 F 足 切 役 屋平 = 計 両 罷 同 人参、 調 前之御 左衛門 成 両 候 人 共 壱人 付 承 用 = 相 被盗 罷 届 11 勤 帰 候 候 取 切 処、 候 七之 候 跡 調 壱人 拙者 儀 = 助 2 而 店 = 咄 反 同 5 = 置 町 木 而 候 候 綿 在 得 郷者 由 罷 見 申 在 は 申

平 奉 右僉議之趣を以罪 治 行 高 斎 橋 藤源治、 丈太. 夫 荒井 付吟 口 仮役五 加右 味評 島十 衛門、 定役 松岡 太夫遂 評 定 新 相 所 左 御 談 衛 門弁 御 役 仕 人 置 藤 御 村 左 町

出伊

由金無山

生具喜之郡

#

七

歳八

之通被仰付

近流

持道 具 闕

右之通

宝

曆 御 + 町 奉 年 行 + 評 定 月十 所 御役 九 人人申 渡之壱巻評 鮎 定 所 納 置 者 也

貝 志 FI

H

大 立 目 下 野 FD

同 月 # 日 御 仕 置 済

右

御

町

奉

行御

目付

評

定

所

御役

人列

座

渡之、

渡置 評定 名取 郎八等召 所御役 郡植松村弘誓寺盗二会候段唱有之、 処、 捕 無宿茂八と申者岩 人申渡相糺侯 御 町 奉 行申 達候ニ 内 右引 付、 沼 町 可 K 張 遂詮 而 = 召 而 同郡 議 捕 心 目 を 旨 L明等申 増田田 附 御 候様 町 奉 町 申 行 四

二付、

取合於評定所相糾侯

趣

承 風

出生之由 茂 大 大 大 由 無 宿 八

申

-聞候故金壱両壱歩ニ 処払申度と頼候得

相払候等申合、

其所ニ待居

は、

直

設下

直

候

1

相

調

口

申

候

由

郎金子持参仕侯間直々立去奥之方江罷

越、

又

々罷 無間

登

夜止 廻り 右茂八相糺候処、 子を披キ 南方る罷 候儀 無之候 而 囲 候得 宿 塀之半戸 商 相違 売人ニ 口 仕と上り見候処、 通候節植松弘誓寺様江盗 は脇ニ大キ成御寺有之、 相入簞笥之引 無 及暮罷 御 有之段々 口 座候、 板戸 最初· × 通 尤右 所 出シ 候得 n 申 出 K 不申候間 欠行 空腹二 御寺 候 明 は 高 ケ見候得 ハ拙者儀岩城領出生 牛 江敢而盗二可相入所存 丰 立寄 罷 御 所 二相入衣類等拾八品盗 披キ 領内 成候条給物を求度見 二御 共食物も 所 堂相 内 江 X 相 当八月 江 見得 尋 入 無之、 座 候 候間 一無宿者 敷之障 相 1 人、 路 段

取

次

見候得は衣類等有之候間拾八品盗取逃去申候、

尤其節

不作等二而

相

続仕

兼家内引離、

拙者儀も拾壱歳之頃仙

台

浪致居候、 拙者も御 所鳥井前茶 被見咎候事 出 候故段々小芝居等 一会久 々迚 屋 一敷御 無御 幸此色品 屋 会候段 座候、 近 罷 所 越候得は、 五 江 二居候故心安仕候八三 右 はまり 直 咄 々道祖神と申 小芝居抔 候処、 行キ 前々 御 候得共相 何故当 買夫取 而 所江 相 用 所 一郎と申 続成 罷 侯品 江 組 越暫 罷 江 兼 越 戸 X 者 休 = 候 所 江 有之 々流 哉と 居同 罷 = 与 登

不審 可申 申変候 共違刀一 之外御領内ニ 羽 胆 行キ候者為用心之誰々もさしそへと名付刀ヲ帯し 織は 沢 南 郡 以は岩 奥江 御 方江罷 六原出 座候 腰帯候儀不都合勿論衣類共 城 参候節古河町三 出 処、 而盗等仕侯儀無御座侯、 通候節岩沼町 生二 生と申 而御 刀 ハ岩城領 上候 百 姓 茶屋 庄三 1 而 買求候 偽 = 一郎子 而 9 二而乞食頭 金 弐切 二盗物 共 由 御 申 将又拙者指料 二候 座 侯 処、 居 相 二可 実は 候 調 処、 有之 捕 他 連 所ヲ欠 々 御 居 候、 由 脇 候 木 領 追 銷 内 H 御 指 右

村

指置

候 拙

を

候

少処、 敷

物音

に被聞答

候 入

去

申

- 候節

拙

は、

障子之立合

を

繩

K 追

而 K

結付置:

其

身逃

去

候

所 跡

ケ 見

置 候 申 我 入候

追

風呂

江

包候

品 取 風

H

相捨、

脇指

堀

江

取 故逃

松落し

刀羽

計

漸

候

迷ひ候ため右之通

致置

候

事に相見得、

其

身人品

等取

出

L

者

沼

江

包

大小

并綿

羽

亭

主

臥

所 類

沂

敷と強勢之挨拶

Y

八噪立

侯故

逃 我 候と其

去其 等に

K 間

而 騒

得 間

候

得

は

障子

立居

候

間

表座

敷之方な物置

之内江 織

相

入

衣

とわ

誰

K

候

哉と重 武哉と声

而亭 懸

主声

懸候得は

候

丰

候

かケ候

得

我等

=

自身申

故

類

8 事 由

可

有之、 は

且

針生玄悦方江

忍

12

可 出

有之、

勿論右

八三

郎

所計 郎

申 所

候者も有之、

旁八三

所

も承 越不 食 禅寺家中 江 横目 死仕 申 事 E 罷 と成 亦 届 動 可乞求 登 等心を付 女 候 候 堂と申 罷 小 处处、 以段 承、 医 南 梁 相 登 続仕 師 相 方 直 JII 入与 父母、 所ニ 針 江 H 権 江戸 候 生玄悦 扂 可 本所之所縁 8 姉 様 風 相 候 郎 盗仕 相果持 処、 御 越 聟 江 様 も参り 町 盗 立 有之候故右之近 抔 奉 古 無 戻 = 会候 一行等江 拠 来之田 も無之罷 n 郷 少 炎奉存候 候処、 亦 之間 懐 段同 ケ敷 ハ岩城 被相 地 御 成候故 寺 前 8 此 奉 由 被申 度立 領之内 公仕、 渡置! 書之通 申 他 辺 出 江 = 候 達 候 何 相 而 帰 弘誓寺 方江 書 処 夫ゟ伊 遜 本 奥之方 右 一所之様 而 ŋ 盗 此 8 Ħ. 染 姉 勢 江 師

を以茂八相糺候 茂八着用之綿 海道 は 相 違 際之家江 無之由申 入羽 盗 処、 出 織 12 八月十 候付、 相 刀似寄候条、 入申 侯 兀 盗に会候節之様子 日 門 奥る 右玄悦召出 1 南 有之候得 方江 罷 共犀 ,共承 通 為見 立之内 候 節 無之 届 届 物 節 様 立 伊 置 右 臨 寄 在 右 候 御 定 江 故盜渡 渡世 節 身両 売渡事: 売払 疑候、 8 とし申合盗之所行致候 何者に 無之外ニも宿弁同 候 任 度迄居合候を見候 状 由 弘誓寺る盗取 世之事 居

い無之、

尤八三郎

而

小裂代三

拾 途中

六銭

に

買

取 会可 歩 旁無 出

其

に候処、

知

人一

通

り之者に与

風 郎

K 壱

出

持参仕 有之を以糺 内 不 候 K 審仕候 而 盗 盗 等不 不 候 仕 弘誓寺 得 仕、 由 は 申 是 出 其 亦盗取 候処、 江 外 与. 前 風 条 通之節 針 候 申 由 生 上候 自出状し 玄悦 種 通 方江 物 候、 求 御 候 相 座 節 数 人 候 年 候 盗 由 流 儀 候 申 外 浪 口

罷

付、

参

子

拠

居 証 御

所も聢と不

相

知外渡

世

b

相

得

候

手合も

有

候事

可

有之、

初 不

相

候節

商 上

候

に K

候哉と承

候得 最

は

成 私 聞

程

左

様

候 人之由

由

申

出 申

候色

品笠島村

八三

12 12 売

金

両

壱

明白に可

申

出

旨

厳

糺問

世候処、

八三

郎

義

1

前

条

に

申

上候

御

座候、

然処当八月始弘誓寺

様

而

盗に御会被

成

候

段

承

議中 申 同 上様共に恐憚候 類も有之在 所辺抔に 体 無之申 而 一口変動 強盗も致 L 非常之徒者に 候 事 可 有之

知 事 人故払 P 無之候、 物 相頼候ちよと立寄候迄ニ而、 其節不存者に小裂相払候義 同 1 人所ニ止宿仕 有之候 所

最 其外に宿等も無之手合は勿論盗渡世仕候義は 弘誓寺様合盜取 初商売人と申上候義 候色品金五切に八三 ハ其節動妄に申 郎 方江 上候 一売渡段 由 曾 申 払 而 無之、 其上

申

上置

言

其方才覚を以御買返可被

成候間求

上候

様被

仰

候

処

候処、 甚強気拷 申 同 人 八方江 弘誓寺様御衣類之由八三郎申 問 相返 堪 候 向落口 由申 中変候付、 無之強 拷問 而前条之通 聞 を以 候間 厳 申募候 K 右金子受取 問詰 に付、 候得共 不

之候間

内

々に

而御

才覚申

上候様被仰候条、

無御

余義

奉

其身事盗渡世丼宿同類等之義は分明ならすとい

へとも

其外拾八品盗取 数年流浪無宿と成所 わた入羽 織等盗取被見咎主しを脅し 伊 在村針生玄悦方江も夜中忍入刀脇 A 徘 徊 L 植松弘誓寺 強勢之挨拶し、 江 夜中忍入衣類 又 指

都合申変し彼是 障子を外より

重

畳不軽科之旨相糺候 「非常之巧をなし、

処

申

晴

無御

座

は

結

置

御僉議中も色々不

仍名取郡

小豆島村百姓兵三郎添人幸七承届侯处、

拙者 候事

平

唐 杯 仕 最病身に 居 而 候、 働も不能 右光円寺様 成同村 光円寺様江 ハ弘誓寺様之御弟子之由 罷 御

手伝御

留

儀

候由光円寺様何方ゟか被及御 兵三郎甥 知仕居 候折柄、 同 村孫作子 拙者人頭 運四]郎と申 兵三郎· 聞、 者方に而才覚払候様 兵三郎 方二払 小袖有之候処、 1 人頭之事

拠候由 元 々 ハ不相心得候得共若拙 申 上候処、 御寺之事中々御達等に被 者 手 る科 人出 候 成候 事 K 事 而 K 1 無 無

郎方に有之由に付 存承配候処 兵三郎· 同 方に有之事 人方江参候処留主に付同 12 無之候、 笠 島 人合聟平 村八三

何之由 四郎方江参相 不 相 斟酌 知候得: 仕候 :共若追 ·尋候処、 故、 弘誓寺様 ~御 平四 詮 議 郎 等に 申 候 而 成 ハ中 候事 如 × 何様之訳に 御 に 達等 8 候 = 而 候哉 被 成 如

候思召に無之由 一四郎も参合せ色数拾品相返申 日過 候 二候間 而 参可 申 由 郎 申 聞 方合為相 侯間則光円寺様指 候故 重 而 候様 罷 越 候 得 -談候得 上申 は

八三

出

申

八三

郎

隣に

罷

在

候

由

申

拙

儀

8

不

審

K

奉存候

故其

段

承

処

色品

由

風

聞

承

以之外

成物買

求

事

甚

12

奉

候得 節

夫迄之儀其

元承候に不及事

K 候

候と不機

嫌 さ

而 返

、気持ミたれ、

宿

元罷

出

所 K 候

欠行キ

埒 退

\$ 屈

なき

事 存

申 何

候

寺様 候故相 知不仕 仕 右 内 得 候哉及承 江 X 和紀不申、 共 盗 候 K 郎 方ニ 而 是以 入候とミつ 増 取 盗物 候義 田 迈 は 候義を専に仕候 町 勿論弘誓寺様江 きと仕 四 8 有之候義 郎 候哉と御 カン 八気不同 5 候 義 申 候 何 事 行 尋 1 之様 相 丰 盗人相入侯 方な 方な参居 = 候 御 心得 7 12 座 元 罷 申 候 々 不 処 可 候哉 由 成 事 承 右平 欠行 義 風 共不 相 向 唱 何 四 聞 丰 心 弘 方之 奉存 得 郎 承 \$ 儀 知 承 不

行衛罷

成

候

由

申

候

事

B

候、

其

後

平

兀

郎

方よ

五.

品

受取

是

文御

同

寺

江

指

1

申

候

由

聞

弘誓寺 12 候 所 郎 同 処 と申者 郡 而 郎 拙 笠 沼呼 様 島 御 者 郎手 隣に 買 村 同 承 返 而 古 村 元に 盗に御 罷 候 被 御 姓 在候、 成 平 而 百 有之候 幸 候 姓 刀 七 間 会被成候 郎 権太夫と申者之子に 然所当八月末小 承 12 相 哉 色品 出 届 相 候 候 色品 心得 為 様 相 世 拙 不 八二 渡 話 申、 申 司 者 侯 郎 仕 豆 義 幸 有之候 妻之妹 方ニ 島 由 併 村幸 七 由 有 聞 方 何 様之訳 之 t 処 智 江 候 由 八三 相 間 罷 迈 越 住

> 有之候 無之由夫婦 異見仕、 も宜 相 押 出 候 而 無之盜人宿仕侯 而 処 は以之外之義と急度申含候処、 口 其後 九 共 承 月九 K 様 申 ハ八三 B 払居 日之頃 無之夫迄 郎 杯と風 候 人合八三 夫婦 処 = 共 聞 仕 此度ケ様之色品 郎 = 有之以之外成義と 居 義 拙者宅 候、 何 方 曾 江 江 郎 罷 而 呼 越 手 左 左 候 様 兼 元 様 之事 哉 より 之事 両 而 無

カン 柄

得は旅 布仕立 に可 成候 様 島村八三 申 一触行キ 相 12 郡 間 罷 渡 仕と黒ち 增 候得 懐中 人之体之者居合 成 田 折節 郎 勿論唱 熊 町 ·仕居 K 野 甚 は 直 b 堂村 同 1 左 候処 道祖神 衛門 人所 相 8 一右旅 聞 N 辺 得 追 0 12 江 弟 - 祭之節 候に付 罷 切壱尺弐寸 K 人江八三 小裂を相 \$ 龍越 越弘 右裂は弘 郎 八、 誓寺江 候 折入相 小芝居 郎 八 払 処 誓寺 右 度 月廿 程 当 K 其 価 相 由 私 八 而 候処、 身盗 日過る 申 様 相 求 渡 候 月 出 I 会懇意 間 + 申 価 而 拙者 気不 盗候 相 候 日 八三 入候 頃 金 裂之 財 参 儀 同 金 候 罷 郎 財 由

追

而宿

元江罷帰正気付候以後承驚入申候、

尤右裂は

御

承面 之、 少之間咄帰候者抔 覚男に有之候、 宿 三郎儀九月九日何方江参侯か与風罷出侯処不罷帰無行 三郎方江出入仕候者も有之候得共止 居合候由同人申上御尋に御座候処、 相心得不申候、 も茂八参居候節勝手に子共を懐き居合候由申出 違無之候、八三郎所に而両度見懸、 合不申候間 八三郎義弘誓寺様に而盗に御会被成侯色品所持仕 義 一郡笠島村百姓権太夫子八三郎妻あき承届候処、 可仕茂八両度まて居侯義四郎八等見当、 所持不仕候、 様御所持之物定而尊キ御裂ニ可有之と川江相流当時 名元不相心得候哉之由御尋 勿論私義昼 体ハ覚居申候処此度御詮議罷成居候無宿茂八に相 留 若ちよと参候儀も有之候哉凡而折 将又常々盗人等宿仕又ハ無宿茂八をも 将又右八三郎所二 主之内参候者 × ハ心を留不申候得は 為相続之所々に手 ハ猶又相 三御座候処、 而裂求候旅人と有之 宿仕候事 右茂八義面体も不 壱度ハ八三郎女房 心得不申 間手伝に罷出 面体等見覚も 壱度 抔 名元ハ不 候 八私も ハ無之、 候 私夫 節八 候義 事 八 居

候義

向心当無之候由申

出候事

候、 人と相見得候処此辺之者と兼而見覚候故連参候由申 村勘作彦市と申者送届候、 成候抔と妄言仕居候処、 ケ様之所江置不都合に候、 候得は如 同 衛罷 もなき雑言仕表屋に置候而 作仕罷有候処、 郡 廿九日之頃ゟ正気に罷成居申侯、 增 成候、 何と為引込庭江指置 町 甚左衛門 何にても 八月廿日過与風狐付之様に罷 承 無行衛可罷成存当無之由申出 小届候処、 同 尤行先に而品も 廿 弘誓寺江盗に入侯故明神に ハ御役人様方御 候処、 五日明方翔出 拙者弟四郎八義別に家 我等は明神ニ候処 同人義余に品 候処熊 無之候処病 通にも有之 成色々埒 野堂 候事、 有 聞

得は、 名取郡植松弘誓寺役僧国分寺吉窪坊承届候处、 朔日夜中当寺江盗人相入衣類丼法具共十八色被盗取侯 罷成用事有之方丈居間ゟ少し廊下有之物置 等に而以之外日々取込朔日夜も寺中之者共何も草臥 可 入候故、 月三日 同所

江指置

候衣類等

座敷ニ

取ちらし

置候

故不審 何時頃何様二相入盜取候哉不相心得、 = ハ御巡見衆弘誓寺江も御立寄之筈に付掃 江 相 越見候 翌朝 当八月 臥

等

取

出

見

知不

申 は、

風呂敷に

包

別

座

捨置、

外に 持る

立帰

跡

を見候得

拙者

臥居

候

座

敷押 敷

込之長

村光円 残三品 損等 之取 8 無 込 カン 寺 き 御 御 12 今以取 上之 12 座 而 カン 而 候、 ね カン 御 追 け は K 世 且. 置 0 兼 承 右 話 候 れ 配段 を憚 盗取 哉覚 候 居 由 申 相達不 候 申 × 候色品寺 候、 出 に右之内拾 者 無御 候 兼 事 被 而 重器什 申 座 1 候、 候、 N ŋ 五. 北末 物類 仕置 右之外 色 相 寺 返 = 候 n \$ 寺 小 処 申 無之 中 前 豆 候 島 夜

と奉存見候処、

前

書之通物数

相見得不

申右之座

敷

放路次

脇指

寺迄

住居 候 間 定禅寺家中医 声 故目 不 月 誰 江大小羽織 承 + 屋 K 覚 敷 候 几 馴 と押 海道 声 誰 日 故我等とわ 拙 = 返 候哉と承候得 共 者 き 師 針 尤メ候得 儀 わ 生玄 品 12 病家 = 而 指 表 悦 何者に 江 罷 竹 は 置 承 は 我 臥 出 届 垣 候処、 等に 我 入候 門計 候 夜 等二 哉と声 四 処、 候、 " = 候と申 過 而 拙 与風 カン 罷 者 騒 屝 無御 儀 け 帰 力 間 何 な 候 玉 兼 分 カン 敷 カン 座 **座**候、 我等と 物音仕 5 伊 由 而 起 答 之 在 居 当 村

月 預に 勿論 人 預 别 見得 座 敷 候 = 臥居 処心 人と見留 候 下 人呼 申 起 候、 L 候 尤遠 内 盗 クも 人逃出 追 懸 申 候 不 候

> 有之所 外障子 候処、 不覚事盗人所為に可有之と奉存候、 指 申 并 表座 綿 1 御 聞 水を 置 座 間 入羽織壱ツ 候哉尋 有之候処立合を 候、 敷之方板 相 尤 何 留 候 相 人様被仰 方な 相見得 尋 戸 候 半 処脇 間 相 渡、 繩 あ 人 不 、候哉達 指 に き 申 無之由 堀 居 而 候間· 詰結 石之所 ハー 右之段 且. 付力 而 方ニ 申 拙 置 囲 等損 出 者 申 6 候、 御 逃 候 屋 1 座 其 事 敷 去 \$ 侯 無御 節 廻 手 申 故 0 侯 定 前 堀 水

脇

権大夫子出奔無行海 名取郡笠島村百姓 郎

右八三 盗物有之分 平. 奉 右詮議之趣を以罪 治、 一行高 郎 九月 斎 橋丈大夫、 藤 ハ召上本 九 源治、 日 6 無行 主江 荒 付 同 井 吟 仮役五 加右 味評. 衛罷 相 返 定役松 候様 島 衛門、 成 候 首 大夫遂 由 評 岡 尾 御 定 新 仕 郡 所御 方な 左 相 候 談 衛 事 役 御 門 申 出 人 并 藤村 御 置 候 町

遠流

之

通

仰付日

候

持道具 闕 所

> 出伊沢郡六原 茂由紀 茂山原 弐十弐歳八 無原宿

様之赦にも御 免被成下 間

依 出 奔 無御

> 無百名 行姓取 7衛 大夫子出奔 以那笠島村

郎

出入司

荒

所草

餇

等出入一

件御

愈議被

成

F

度旨

御

郡

奉行等

相

江刺郡

小田代村百姓

甚

七

郎儀、

同村百姓甚兵衛等

地

付 達

右之通 御 町 奉 行 定 所御役人申渡之一 巻評 定 所に 納置 者 也、

宝

曆

+

年十二

月

+

九

日

鮎

貝

志

摩印

立 目 下 野

ED

大

列 座 申 渡 月廿三

一日御 奉

仕

済

右御

町

行御

目 置

付

評定

所

御 役

人

養子半之丞知

横 尾半 左 衛 門

持道

所

妻子無御 具闕

親 類 共

右 半左衛門儀去月令出奔候 ニ付右之通 被 仰付候 事

右之通

御

奉行評

定所御

一役人申渡之壱巻評-

納

置

也

宝曆

7 町

年十二月 廿二 H 松 定 前 所ニ 主 水⑪ 者

同 月廿 日 闕 所之首尾

甚七

郎

方ニ

而自

由 仕

間

敷

由

=

而

追返申

候、

然処右

六右

門儀近流

ニ而其節帰参仕

居候故先年

御

取

捌之儀

承

処、

御評

定 御

所 免

=

而

甚兵衛被下

置

候

Ш

所は、

六右衛門先

祖 候 衛

右御徒目付を以申渡之

申渡於評定所相糺 申 ・達候に付、 候趣 可遂愈議旨 御 町 奉 行評 姓刺郡 甚 定 所御 七 役 郎

六右 地 付 下 曆 人長左衛門專右衛門相咎候 右甚七郎相糺 -度段同 罷 高 主六右衛門と出入之砌御評 Щ 元 江 年 成同 衛門儀寬延三年 宇地付 御年 朝草刈ニ内之者共遣候得は、 村 年 貢諸色皆済可仕様無之内禿 武右 願 候処、 山 申 上如 共ニ 衛門 願被 拙者儀 無残拙者永代ニ遜相受代百姓 = 地形出入二付近流被 跡 地被下 仰付候処、 旧肝入六右衛門子 定所二而被下置 -置候、 右数ケ所之山 同 村御百 然処 宝曆弐年之夏右 = 罷 成候 仰付 武 右 候 姓甚兵衛 ハ先年先 持高 間 御 衛 一付、 門儀 座 被 此 候 闕 末 成 右 処 X 添 地 所

年出 存候

入之節

如 申 相

何様 出 載

被仰

渡候哉不

相 Ш 申

知

候

付、

宝

年

之外

Ш 切

所相

譲候儀無之候

処

右

両

人大

畑

Щ

其外論 一候と有

Ш

\$ 右

右

証

=

付

訴

候 所

扨又拙者

地付

之内

荒所 段

有之候

加 = 何

先

文二不

候を前条之通

聞

候

1 不

都

合

奉

土手 兵衛 左衛 聞 下 七右

甚兵衛屋

敷之上土手る内

宇相

入申

之

候

然るを

外之山

沱

拙

者

方と手

入仕

簡 被

敷 仰

旨 渡

車 由

右 承

衛門

開

申

聞

享保六年

·祖父喜三

郎

地

譲

証

文ニも

山

は

甚 長

屋敷裏之山梨木平土手之内まく

れ 形

Щ

[畑之山

「南之洞

6

右高

江

附

侯 郎

Ш

所計

同

人自

L由仕筈

=

候

段 =

申

衛門喜

代

=

証文仕置

候四百八文之高

甚兵

衛

被

証

立

=

罷

喜三郎

立への御

見

立

二不罷

成

由

仕置 共 口 江 伺 高 何 隠 様 仕 相 相 申 = 付候 心得候 被 旨 田 K 成成下 三人之者 仕 8 可 居 四 間 F 仕 年被仰渡侯 度旨是又訴 候 甚兵衛方ニ 右荒 間 様 先年御 共 甚 無之追々 自 兵 所 衛 由 十八ヶ所之内四 処、 而 :評定所御落居之節七右衛門代之古 申 = 被相 於御 上儀 作 自 方仕 今以不 由 渡候 郡 仕 御 方申 候 座候、 残十 分 四 相 上候、 ケ所 ケ 渡指 江 御竿 所之外数ケ所起 四 且 置 ケ は 一被相入 尤右之者 候段 所 又右三人之者 四 百八文之高 は 内 拙 拙 者自 × 者持 共 = 方 新 而 曲

> 衛門長 保六年 申分ニ 門 候を田 通 見合右証文写をも 有之故を以押 合 由 一年御 代段 法 相 四 申受候御打出 聞 文御見 百八文之高 至 違 候 極 無御 左 証 有之候、 弐 処、 落居之節 K 奉存候、 衛門弁 相 文表之通 反分程畑弐反分程と証 座候 渡置 享 而 保 拙 右証 三之高百 処、 候 別 二罷 六年 成 三人之者共 者起 指 御取 且 田 最初畝 Ш 「畑高 喜三郎 添御 文二 御愈議之上白状仕候 成 目切 捌 五 候 所之儀被仰渡候事 田 郡 被 事 拾四 弐百 成下御 代之証 添仕候 方江 申 反等相紛相 畑 証 -懸侯儀 一文を右之弐百 Щ 御 五. 文改直相 申 共 座 文江 拾 畝 上候、 侯 事と奉存候 = 四 **以**処、 永代 反坪 二七可 相 文之之外 違之儀 記 渡候節先祖 数御 此段も 通 B 相 偖又甚兵衛専右 有之歟、 拙 不 渡候と申 五. 同 者 申 切 相 繩 年 拾 上此段 付、 添地 儀 引御改之 聞 不取合之 几 御 得 |文江 御竿 検 七 為御 文言 地 有 右 答 享 延 取 御 之 衛

地 御 不 1 仕置 中受田 座候、 祖 父代 候段 専右 る鍬 畑 ハ不調 御 衛門長 立仕 繩 引 法至 起目 罷 左 成壱丁六反三セ 衛門 極 = 而 ニ奉存候、 并 拙 同 者 代新 村久兵衛と内 大畑 弐拾歩 切 山くさ 添等仕 有之候 H 候 訳 洞 而 抔 取 無 右 替

仕候 申訳 付、 右專右 高 指支候段 御 ケ所江専右衛門長左衛門等草飼入合仕候とも違背仕儀 所 申 延三年之落居已後専 合ニ仕 有之拙者 拙者儀享 仕分之由 座 Щ 候 · 分明 甚兵 I之内享 侯 無之由 其 仕 訳 (御竿答不仕置を見添其身持高ニすへ ハ右草飼之儀は古来る甚兵衛弁専 分身事 度存 来候段 於御 八衛屋! 門長 方異乱 保 可 相 申 申 上候 出 保六年之証文ニ 六年之証 同 慮を以申 有之有体 知 相 候間 左衛 無相 郡 敷裹之山 ...村甚兵衛幷専右衛門長左衛門等父之代切 論候得とも、 は 方御糺之節右之者江草 無御 拙 開 不 者儀 違 等父 右之地 文甚 上 可 右 由 調 座 性 候、 曲 御 法 .專右衛門長左衛門儀 ハ右証 此 衛門長左衛門等新 段不 人々切 代官等申 至 兵 拙 衛屋 相 極 自 何辺ニも甚兵衛ニ 添起目 者 載專右 調 相 = 由 文ニ不相 一奉存候 仕 一敷裏之山と有之居久 法 糺 江 出 候様 至 候 口 处処、 被相 仕 衛門長 極 置之処、 且其身地 右衛門長左 由 飼入合二為仕 被 載 奉存 き Щ 申 成 御 渡 紀之通 所存 之由 起目 左衛門 F 下 口 居久 譲り 荒 候 = L 先年 仕 付、 双 付 所 由 1 右 衛門入 而 Щ + 候 根 論 自 申 拙 候 落居 之内 Ш 根 と申 と申 不 候 四 口 者 + 由 實 力 由 添 持 審 儀 無 DU 口

> 竿答不仕を存 一竟右 仕、 田田 起目之所数代御竿答不仕作 而 畑其身所務すへき巧先以不届 寬延三年 取 替 知 地 右落居已後新二 VI 其身父六右 た L 置 彼是不届 衛門と出 一隠田 1) 至 居、 一極之旨 至 仕 入二 極 候 又 成候 由 = 候、 専右 事を 相 糺 砌 右之 候 衛 且 門等 其 処 申 申 地 身 出

起目

と内

K

8 畢

切

添

晴

無御

候

事

居当同 侯時百 長 専 左 右 衛 衛 門

家家内京

附死

付、 年夏朝草 糺 郎 有之草飼も入合ニ 一飼入合之所と申 尋. 両 被成候 即 父六右 X = 付、 相 ハ無之由 lix 私 候処、 ハ草 = 前 衛 門と出 人 X 相 6 申 餇 上候得 - 拙者共 同 Ш 地 村 入仕 仕 候を拙者共 尻 江 一来、 境 御 地 百 前 人頭儀 頭 は、 御 等も 愈議 其上寬 は 姓甚七郎 然ラは 自 由 VI 相 甚七 任居 たし 罷 延三年 防 如 候 儀 成 置候哉 候節 儀 候 郎先祖より之家分 地 何様二心得居 段 - 拙者共 は、 付 申 と被仰 畠中 右 上候 = 父々右 而 Ш 处处、 古 助 宝 候 惣様 来 候 暦 甚 夫 7 弐

御

そうと御意被成候

12

付、

弥以拙者共自由仕筈之儀と

相

御 t 草

右

不

調 故

法

奉

右甚七

始拙者分

起目

内

H

甚 居

七

郎

成老 甚

衰

仕

体

御

座

侯

申出

其

、身共

同

相

済候

以後荒

所引渡可

申

と延引仕

此段

父々 と取

代之儀

ニハ

御

座候得共今以御竿不申

請

其

上此度御

事

地

仕置 存候 - 飼之儀

候儀

は、

於 郎

御

郡

御代官様

御 幷

改之節

申 而

候

涌

村 歳 衛 極 儀

百

姓 罷

七

郎

地 前

付 後

山

=

お K

あて

同

人下 由

朝 候

草

lix

候

を

得 郎下人 候処 心得罷 人所存 百姓 僅之儀故 位草刈 几 在候、 武右 百八文江之養 ハ右十 取 候故 衛門内 御竿 勿論鍬立等も仕父々代起目之田 兀 「ケ所相」 相 \$ 禿 制 不 U 候 申受罷在候、 不足仕 訳 渡候とも草 成甚七郎 = 御 田 座 座候、 [畑荒 代百 右田 飼不為仕 所 姓 扨又六右 畑之辺 仕外 相 [畑少々 由 立 侯已 無 衛門跡 御 御 而

座 座

無御

座候条立

而

相

論

H

申

儀

4

無御

座

候、

専右

衛門屋

敷裏

候

有之

甚

地 t

右荒 之草 相渡 成下 荒 セ 其 t DL 拾六歩、 E 所 所相 度旨 餇 相渡候儀 歩 父々代先御落居以前 不 一飼之地 有之何も御竿答不仕指 渡候 足 申出 長左衛門分八反七 以後草 延引 罷 は 優故、 成候間 追々 仕 相 右 餇 候、 之儀 右 田 願侯様被仰含候得 御 荒 畑 る之切 申 郡 所之内 = 方御 は 置 セ 侯 候 五 添等甚兵衛分田 な 糺之節先以十 n 歩、 = 而 候を 而 付、 は 専右 草 新 無拠右 甚七郎 共 規 飼被渡下 願之様 衛門 四百 持高 分壱丁 四ケ所 + 畑 度候、 八文江 ニ奉存 四 起 「ケ所 目 = 弐 被 弐

> 無御 六年 文二 繩 兵衛屋敷裏之山 表不吞込ニ 不 調 引御改之通 座候間、 証 相入候· 法 文表 至 極奉存候、 而 由 此段 居久根 を以 申 相違無御 は 候儀 段 同 何 と申 且又大畑 人居久根之由申 = 々取合申 れ 有之甚七 座 候処、 二名義 儀も無之外 候 山 相 郎 処、 等之内論所享保六年之証 最初 立 Щ F 候 此段 = 二居久根 ハ寄坪行違申上 共双· 相 候 処、 違 \$ 方勝 無御 拙者 此 手不 共右 相 座 段 なも享保 決候 尤甚 勝 一彼是 証 証 文

之山 只今に 応草飼之所被渡下御 候通土手 百 至候 三十 而 坪之所土手 ハ不 る外二候 残白状仕 儀 を心得 る内 = 御 候事と申、 平 = 一候得は 違 候 申上 由 申 難 彼是不調法奉存 几 候 有仕合外ニ 百八八 処 文之田 御絵 可 図 申 畑 候 Ė 被 相

相

記

門儀は 無御 奉存候、 座候、 疾 右 = 病 心得違を以最 起目等父々代之儀 死 仕、 長左 衛門父又左衛門事 初不都合二申 御 座 候 処 再右 上此 一付、 段不 衛門父吉 当八拾古 調法 左 至

起り 遊出七 郎 訴 申出 同 人山 荒所十八ケ所之内四 ケ所

人頭甚兵衛四百八文之持添高 ハ甚七郎自由すへき由宝暦四年於御郡 江 附候間 自 由 方申渡候之処 残十 四 力

先以 右高江之草飼不足之由 可引渡を草飼場不足故其分不被渡下内は右十四ケ所 ハ無余儀候得共、 応承知之上

り居、 方仕由ニハ候得共所々切添起目之地御竿答も不仕私 も享保六年証文ニ無之山所其身共自由 且 一甚七郎と内 々取 替地をし、 追而 山之由申 ハ申 直とい 出彼是不 二作 へと

相渡兼候由ニ而数年延引先以不届ニ有之、其上父々代起

届 至極之旨相糺候処申晴無御座候

百姓和那小田代村 兵 衛

然処拙者持高セ坪之内甚兵衛後家家内長左衛門作 右久兵衛於御郡方相糺候処、 主六右衛門弟ニ付同人方ゟ地形分貰人頭御百 拙者儀は同村甚七郎先 姓 = り前之 罷 成候、 々地

郎 段相分可 官様御見分之節申上候通取替地仕置不調法至極 自由 仕 ·申上様無御座 甚 七 郎 地 付山之内拙者儀 候、 拙者屋敷きわ 自 由 任居 地付山之内甚七 候段も御代 奉存候

地頭ラ江

相

紛居侯段

ハー向心付不申、

此度御

縄引ニ

而

此

由 申 ĖН 候事、

同村百姓死亡

右甚兵衛儀於御郡方相糺候節専右衛門長左衛門同

様

申

右専右衛門長左衛門申口二、其身代切添起目仕候儀 は 其後死亡於評定所相糺不申候事 御座父々代切添仕侯段申 死亡仕、 長左衛門父又左衛門儀は当八十六歳ニ 出候処、 專右衛門父吉左衛門 罷

衰仕候段申出候に付相糺不申 候事、

仍右甚七郎父六右衛門承届候処、

寬延三年

拙者儀田

地

成

老 儀 無

後子共甚七 出 入之儀二付御愈議御 郎承候に付 落居之儀、 申きかセ候儀は同 拙 者流 人申 罪 御 免帰 Ė 一候通 参已

御 座候由申 出 候事

右甚七郎甚兵衛并專右衛門長左衛門 代官繩引相改候田 畑御竿答等之儀 切 御郡 添 派起目、 方格之通 此度御

尾セしむ へき事

右之者共取替地仕置候儀も是又御郡方格之通可令首尾 右甚兵衛後家持高四百八文江之草飼場御代官等申渡見 事、

加

右衛門、

御

郡

奉

行今泉七

三郎 町奉

評

定

所御役

右

一会議之趣を以罪付吟味御

行高橋丈太夫、

荒井

同

平治、

斎藤源治、

同

仮役五島十

太夫遂相

談御

仕置 人藤村

之通被仰付候

七

郎

地附

山

= 相

決候

等相改絵図指出候処分明土手

ら外二

一相見得

候 此

一付、

甚

宝

+

年十二

六年之証

|文ニ土手ゟ内と有之所之由

申

出

度

御

代官

右之通御町

奉

一行評定

弐ケ年奴

御郡奉 右甚兵衛屋敷裏之山 分吟味為仕候処、 江令首尾候 一行申 聞候、 荒所四 仍 右高 専右衛門等居久根之由 相応之草飼吟味相渡候様 ケ所計ニ 而 は不足 申 相

御代官等見分之上不相分候得共、 享保六年証 文二甚兵 H 候 処

|鋪裏之山と有之居久根と申訳無之侯間、 甚兵衛後 戸 結

+ 日

依 死亡 無御

専右衛門等享保

右専右衛門屋敷裏之山百三拾坪之所、

家地

附

Щ

相決候事

屋

所御役人申渡之壱巻評 定所ニ 納置 過者也、

月廿三日 鮎 貝 志 摩印

大 立 目 下 野 FD

十二年正 月廿 九日御仕置 済

右御 町 奉 一行御目 付 評 定所 御 役 人 列 座 申 渡

久兵衛以下之者於御村御 代官 申 渡 候様 同 日 1令首尾 侯 事

次左衛 本吉郡 門 柳 所 津 町 江 煙草 煙草商 荷 人所右 相 衛門 同 町 儀 丁 大町 目 大泉屋与 五. T 目 六借 海 老 屋 屋

武兵衛二売渡候処、

右次左衛門儀煙草価弐拾両余武兵

四十壱歳郎

百江姓刺郡 甚

小田

弐ケ年 奴

決候段

御

郡

六十四歳 門

弐ケ年 奴

同

長

五左

十衛六

歳門

姓刺郡小 代村

六兵 弐歳衛

甚 兵 衛

衛方な 御 清 町 公無行衛 奉 行評 定所御役人申渡於評定所 成 候 品 X 町 奉行 申 達候 相 糺 付、 趣 可

遂

何やら

治

:左衛門

=

内談右

煙

草十

兵

衛も

調

候答

罷

成拙

大泉屋

一敷を 糸 買取 候 処 移 拙者儀 罷在候得 元 元来肴町 共未軒牒 ハ不 住 居 相 仕 直与 候 処、 兵 六借 衛 沂 屋 来

右

武 兵衛

相

江 居

候得 所江 付 # 任 柳 去月十 口 津 然由 左候 町 所右 四 申 日 衛門と申 右治 半分も其 付、 左 金子不有合 者 衛 内に 煙草 荷 調候得先買 罷 左様: 相 入 越 候 之俵 所 間 右 数調 衛門二 主 右を 成候 兼 候 出 調 一会入 様 煙 由 草 申 申

泉様 取 と附

御

宿守兵右衛門する

め候

同

町

7煙草問

屋

治

左 西

衛門

移

候

間 申 屋

别

渡

世

取

付 居

申

度

何

かと了簡罷

在候

以処, 少处,

村

理 江

候

肴町

候節

1

五

+

集渡世仕

候

大町

谷煙草 右煙草荷受取 十六日近 Ŧi. 所ニ 俵 武弐拾 居候仲蔵 朝 治 司 弐両 町 左 衛門 浜 を 七 П 類治 屋 罷 分 五(厘)所 十兵衛と申者参居 越 八右 五. 左衛門 右 衛門蔵 兵 右 調 所江 候等 衛門 本 借 遣 所 申合 所右 1) 入置 参候得 衛門 罷 由 帰 方な 候 由 同 申

> 早 は

-速其

分身江

申

通

且. 衛門二

此

砌

治

左

衛

門

所江

米谷之吉兵衛と

不

相渡直

X

所右

相

渡呉侯様申遣、

尤右

П

E

仲蔵

付同

道

罷

越

修候処、

柳津

町

候処、

同

人

者方と 始末何様 畢竟拙 名之宛書ニ 1 沿者買 几 二首尾 一両三歩 主 而 仕 価引揃受取 罷 候哉其段 治 成候樣 左 衛門 候趣 治 八不相心得候処、 相渡、 左 衛門等申 = 認 + 候を受取 兵 聞 衛調候煙 候故 売券 置 申 何之心付 草金代 候、 拙 右

衛門無行衛罷 取 越右代金相 なく其意ニ従罷帰居 置 候 由 申談候得 渡候様 成拙者方合相渡侯 共 申 候処、 同 聞 X 候 方江 付、 同 不 日 金子も 尽 相 治左衛門 達 所右衛門儀拙者 由 所右 申 聞 衛門 渡 其 L 手 砌 方 る治 江 形 所 迄 不 受 相

江

多ク相 取 治 頼 事 左衛門問 遣候節 候 聞得 而 相 聞得 ハ必違却可 候に付、 屋 所 無拠 右 な から 衛門儀 仕合 相 処 所右衛門儀右煙草代金始 途中 出と心付、 × 奉存候 ゟ相入候煙草金銭 追 翔 由 其 申 右金子 方な仲蔵 İ 付、 必治 始末段 末治左 不 を 審仕 左 頼 K 衛 煙 不 衛門 門 候 草 埒 帯

竟ケ様之儀も有之旁所右衛門も右之通 1参り会治 衛門 金銀不埒之事 付 何 申遣候事 カン 取 合 有之候、 相

此段 始 否拙 座、

不

極

奉存

候

由

申

=

付、

其

身

末

を

取

殊 至

両

名

江

判を

不都合と

申

所

不

心得

私

日

者方 所右

る引揃

金子不 直

相

渡候を

真

正 0

金 口

而 仲

相

而

衛門

H

金子

渡

侯

様

=

2 高

1

蔵

申

伝

承 趣

知

且

七 屋

冒

求

候 調

五. 法

+

俵

之煙

草

価

治 П 用

左

衛門

不

相 事

渡 所

直 右 8 渡候

H 衛

所 門

右

衛門 + 遣 12 兵衛方と之か は = L 渡呉 候 儀 相 先以 (候得 渡 儀 不 由 いとり 候 都 同 を其 合、 人 金江 方台 人身買 H. 指引 価 仲 真 求 蔵 不 高 候 を 都 之内 分 以 合 几 申 + 両 聞 候 候 本 歩 上 其 余 治 所 治 左 為 左 衛 治 衛 門 左 任 門

無故 付

大金

損

失二 右

仕

儀

無拠

町

高

橋幸 候

郎

親

類

滞

留

任

品

H

御 候

町

奉

行

所 大

江

訴 肝

申 入

由

申 t

候

事

申 < 候

旨 其 江 候 一年入二 身る 可 左 る 治 所 由 畢 衛 通 右 其 左 相 美 門儀 竟 身 衛 衛 渡 仕 治 + 門 門 而 儀 江 厳 左 両 + 連 は 咄 衛門十 判を 余之金 名 無之、 力 兵 右 候 衛 相 買 由 糺 方な之 用 金 認 仲 学 加 候得 候 兵 不都合之手 蔵 衛等 一両三歩 処、 引 申 揃 懸 共 出 人 全以 = 相 n 方 右治 申 渡 金 る其 治 合奸 申 形 L 左 V Ŀ 指 候 身受取 左 衛 衛門 開所 候 計 引 候 治 趣 候 外 口 -左 有之有 余 手. 事 勿論 置 右 衛 形 渡 -門 衛 候 渡候 門 品 相 其 墨 身追 迚 体 其 行 聞 両 相 得 余之 名之 口 8 1 治 妆 無 由 不 候 H 右 左 御 出 申 間 取 処 価 衛 金

> 受取 認 置 173 本吉 置、 其 剰治 彼 治 郡 柳 是 左 衛門 津 不 衛 届 門 町 所右 之旨 所右 方な之手 衛門 衛 相 門 糺 一両名之 承 形 候 処 届 買 金高 申 候 心処、 間 晴 無御 引揃 江 拙 判を 受取 者 座 儀 候 煙 事 押 候 萱 趣 不 商 埒 相 仕 成 違

を右 然処 一二付、 取 同 由 不 分 治 は 又 埒多 人所 直 違 右 相 申 煙 Ŧ. 左 共 候得 聞 A 却 治 草 衛 月 9 先以同 無心 渡呉候様 門 力 左 取 + 共 仲 衛門 金子 相 売 几 所 蔵 遣 渡候等 聞 元 江 日 受取 存候 儀 候間 人 何 得 相 入 頼 仲 V 候 問 入 谷 口 金子 間 間 申 蔵 屋之 右仲 煙 承合と 遣 相 司 草 候得 候 治 密 武 儀 右 蔵 約 町 五. 金代限 左 П 兵 = 前 候 武 罷 衛 上 は 衛 頼 処、 H 兵 俵 門 先 越 江 衛出 武 御 駄 方 知 達 6 候 不 兵 座 送大町 同 加 相 処 相 引合始 衛 候得 十六 而 治 治 2 会五 渡 治 方江 左 左 申 候 行 左 衛 衛 共 H + 煙 末 衛 申 門 門 衛 金 渡 仲 俵 草 無 武弐拾 罷 故 門 遣 銭 遣 蔵 問 被 成 相 置 不 始 7 申 屋 B 違 相 相 渡 末 候 申 弐 海 由 カン 翌 渡 候 渡 段 者 両 候

大町一丁目五文字屋幸八借屋仲蔵承届

候処、

去月

十六

H 候容子 武兵衛 取 者罷越居殊之外取合、 右煙草荷受取ニ 右 西村理泉宿守兵右衛門 之通口上も 主 両 門二金子為引渡候処、 治左衛門儀問 渋責付を得迷惑仕候 能帰 所 衛門儀 近 江 余 所 江罷 がは内 罷在候武 三居 武兵衛方江相渡申侯、 意二 二申 追々問屋入煙草を以首尾仕由 越 金代 相見得笑止 通 候武兵衛 御座 申遣候事ニ 始末之儀 煙草商 兵衛二 ハ治左衛門 屋入煙草 人候様 候処、 参候節治左衛門所へ米谷之吉兵衛と 人所右 は不 調 間 相 一被頼 畢竟治, 相 存罷帰 1類候間、 柳 候様拙者する 有之候間 申 承 几 三不 届 一両三歩 -延呉侯様. 津 聞得候段迄咄 相心得候処、 衛門 候処、 同 町 师候、 相 右煙草荷受取帰 町 + 左衛門金銀不埒に仕行詰 罷帰 渡直 煙 相払申 武兵衛方合 兵 出 草 相賴候 衛 拙者儀 彼是之儀も 一会煙草 問 其 々其身ニ 8 方 ニ而右十兵衛方江 訳 屋海老 於 候 度 治左 江 申 拙 由 間 由 遣候煙草 海老屋治 一荷 申侘侯 衛門 者宅治 申 申 诵 相渡外十 候節右 一二付、 渡呉候様 屋 候 玉 出 有之故右 治 + 候事 儀 - 俵受 左衛 H. 処 左衛 左衛 銭 煙草 大 申 亦 所 難

得

届

出

其

、身事治

左

衛門

方江かし方有之由

ハ候得

共

武兵

衛買

候を心

主と成価引そろへ治左衛門方江引渡候趣ニ始末し

方江始末 之指引ニ仕事ニ 書付 相 相 渡 候由 聞得申候、 申 候 其節十兵衛方ゟ治 左

本吉郡柳津町

候処、 江段 不相 責付候得共埒 右十兵衛相糺候処、 付 門煙草之内其身かし方ニ指引候儀分明ニ 方る治左衛門 求候始末江 西村理泉様御宿守兵右衛門等を以色々 相 候上、 候様 は 々煙 無行衛罷 出 量付に 被申 候儀は 不相済候間猶責付 草相 右之通墨付有之上ハ武兵衛買主ニ成求候 煙草 ハー向拙者 方江相 明 入候処、 候 成 相 不申 候、 も受取不申 ハ 違 無御 拙者儀煙草商に仕海老屋治左衛 其 出 候 且又武兵衛 売立 故 座 品 置候墨付同人兄文蔵方合召上 ハ携不申 可申と 候、 口 金拙者 申 - 候得共墨付 御 出 畢 一義同 E 由申 此 竟 旨厳相糺 間 様 方江不相渡候 兵右 出 治 村 江 申分候 訴候 左 候二付、 所右 相 衛門 候処、 衛門 候、 衛門 由 候由 所江 二付 是 若其身方と 申 成程 断 = 右十兵衛 申 非 方より 付 相待居 墨付 罷 候 口 所 如処、 門方 数度 右 為見 = 此 越 付 買 候 墨 相

牢

舎二

+

H

押

込

Ŧi.

H

右之 依

通

御

町

奉

行 構

評

定

所

御

役

人申渡之壱巻

評

定

所

納置

者

世

出

百奔無御

な カン 5 草 主 江 も吟 味も なく 其 身 之指 引 申 合不

得

之旨 相 糺 候処 申 晴 無御 座 候事

出奔無行衛 海無行衛 大町五丁目

次 左 衛門

右煙草 候事

1

武兵

衛

方な召上

所右衛門方江

返し

与

候令首

尾

右愈 議之趣を以罪付吟味評定役松岡 新 左衛門、 石 田

定之丞并御

町

奉

行高

橋丈太夫、

荒

井 加右

衛

門

御

郡

兵

衛

申

一候旨右·

内相

達候段大番

頭

申

達候に

付、

可

遂

詮

H

喜

衛

門

御

町 H

奉

行評

定

所

奉行今泉七 郎 評 定所御役人藤村平 治 斉 藤 源治

仮役五島十太夫遂相談御仕

置

左之通

仰付

候

目大泉屋 武 十四歳

本吉郡柳津 三兵 歳衛

海老屋次, 海太町五丁目煙草 左 衛 門

同 月 廿 六日 御 仕 置 洛

+ 兵 右 〈衛儀 御 町 は於 奉 行 你御村御! 御 目 付 評 定 所御役 人

列

申

渡之、

代官申

渡候様同

日 座

令首尾

儀 松 尚 妻子 新 左 召 衛 連無行 門 組 小村 衛成候処 右内旧 此 宿守喜兵 度居 所 衛智 相 知 家督 候、 品 右 右

右喜兵衛 相 糺 候 処、 拙 者儀菊地定右衛門様御宿守 御役人申渡於評 定所 小村右内旧宿空 相糺 候趣 罷 在候 衛

節、 候、 取 抔 申 承相別候処、 不図出会候処、 然処拙 T度候、 去春 中 先年 者儀養女有之智養子吟味仕 相 応之者在之候 其後八右衛門儀 右 巻に 同 人方と言葉を懸ケ互 而出 一会候 1 心を附 八右 拙 者 所 衛門と申 候折 承吳侯 江 .尋 一安否を 節 参、 様 者 御 後 本 = 妻を 問 相 於 居 途中 頼 呼 申 所

処同意に付、 八右衛門儀幸 然ら 柄 \$ 仲 実体 人 相 立可 相 見得 然候、 候 間 尤持参金抔望侯 口 申 合と内 談 候 所

候

処、

大 立 目 下 野 FD

鮎 貝 志 (FI)

宝 暦 十 年 十二月廿

Ŧ H

其後八右

衛門相借

候平 去冬十

-助と申 遭可申

-者仲人二被頼

候 候

存

8

無之候、

祝儀迄二結納金壱歩

由申合相

返し

由

而

麗越 通

納之事

抔

相談、 屋 三居

月廿二日八右

礼

罷 結

越

候間

養女江取

合候処、

同

人申

聞

候

1

只 衛門

今

迄

本材木町

罷在候処先以当分右之所江罷在度候,

勿

所ニ成我等夫婦養ひ呉侯事

候

ハ

当分は

何

方ニ

居

ハト妻も召連渡世相続仕度由申候ニ付、

末々さ

三日 本材木町江罷帰居候、 候 煙草を給なから了 由 取 散シ 合候処娘迄失ひ候儀無拠、 類之内内々咄申 、共勝手次第可仕旨申候得は、 口 有之、 然処翌年 晚八右 娘も 候間 屋 敷主人右定右衛門様御嫡子弥七郎 扨又拙者儀娘を召連参侯 炉辺ニ居 衛門方江罷越候処、 正月罷成右八右衛門儀妻召連出奔心 拙 候 者 簡 候処、 に一付、 仕候は不審 も何とか 右八右衛門を聟家督ニ申 末々養ひをも 兼 行当 菟角容子も見 而と違夫婦 成樣子 八右衛門儀座 一候得 両日過八右衛門妻召: ハ、出奔存止 弥以 共 共ニ 可相請と智 出奔心 先座 可 一辞をも 申 様迄 敷江 一合候段 と正 縣 寸 諸 申 中儀可 養子 候由 上置 月 懸不 わ 帳 + 連 1) 面

道又以三郎平方江相越申

断

罷帰、

翌朝

屋敷主人江も

達

口

申 召

と五

番丁

二居

候兼々

懇意ニ交り

候津右

衛門

相 平

頼

連

無行衛

成

候儀

も難計、

猶

始

末之儀右

郎

断

得は、 自 か召 付、 処、 二付、 申 如 我等と参候得由申 有之と娘ニ向申候ハ、 之了簡可然由 尤此品々宿守主人江 様申断、 竟八右衛門出 聞 何様之所存二而左様之儀申候哉、 由 一候、 侯間、 1連申 拙者申候 此方な可召 不軽儀勿論父子 同 我等と立引仕見候得此座 候二 人妻二 夫ゟ直々此訳仲人平助ニ可申 縦 右之所存之上ハ其通りニも不罷 胴 何之子細可在之哉と申 ハ何故 行嚀 奔心懸候 1 遣候共首 略 連候、 候得 申 _ た様に ニも相 申 \$ 聞 其方ニかゝ用事 御手 は、 相達 事 候付先其場退キ 世 候上大屋菊 ハ遣不申 前 侯間 辞江かとを立申 八右衛門辞ニかとを立用 相 成候事と申先今夜 聞得 渡 左様 し遺候 候間 寸も引不申 由 不都合 候得 近頃不取合之由申 相心得預度由 地 有之由 候処、 屋三 断と相越候処 油 儀 は、 断 郎平 **尼成其** 候哉、 不罷 三申 仕 - 抔と猶 我等妻之儀 二候間今夕 右之次第 候 八分心得 一候に付 罷 委 成 而 娘を父 帰 申 曲 由 留 申 事 娘共 談 穏 申 強 便

気

=

Tri

出 候

走

此

所

江 而

\$

可 H

候

処

心以 仕

来

嗜

17

候 右

得

由

申 畢

候

語

n

候

上 在

其 処 候

以

後 当

喜 春

5

と答

而

然

挨 罷

拶 越

\$

不

候

間

八

衛

開

竟

若

渴 頃

> H 八

相 右

続罷

候 私

右

衛

菛

相

処、

主 御

人

江

申

聞

御

達

罷

成

候

由

由

出

候

事

候 き幼 而 曾 共 付 咄 候 妻之伯 後 断 戸 右 処当 \$ ^ 而 何 出 申 は 是 口 とも、 一右吟 様 難 一会候 右 少 候 類 亦 \$ 門 6 春 右 居 処、 父里谷 _ 方 衛 屋 明 拙 義 味 カン 養 衛門 門 様 敷 5 き 先平 座に 8 者 小 申 罷 忍 夫婦 N 主 不 方な 右 村平 夫婦 不 3 置 聞 F 居 人 申 す - 仕引合 訳 候 候 衛 行衛 候 江 家 申 八右 を立 治力 わ 娘 闸 六 段 候 8 内 n = 迄 拙 及 儀 由 所 段 申 不 者内 衛 言 従 召 右 日 候 申 临 承 K 達 居 門 葉 申 N 1 連 平 開 罷 町 心 合 候 御 息災 を 六兄 + と之儀不得其 妆 養 付 H 候 越 を 町 出 J 掛 郎 奔 面 吉 附 奉 奔 不 右 を 11: 簡 + 付、 八右 当八 所 承 行 = 居 申 衛 \$ 候 = 郎 配 所 相 黙止 候 阴 罷 可 儀 右 本 衛門 月 1 候 江 見 哉 為 八 所 衛 所 在 同 御 得 意事 右 7 居 江 仕 御 門 欠落之品 初 候 所 披 候 由 罷 候 儀 巫 方 発 間 衛 江 露 開 間 لح 候 越 2 候 江 F 罷 迫 罷 其 得 ·候始 候 奉 間 儀 罷 下 里 段 成 無 得 相 存 右 拙 在 H 承 谷 候、 大 1 者背 心得 末 言 は 候 親 候 委 村 衛 配 屋 お -処 曲 承 門 其 候

> 儀 抔 0 は 而 間 カン

置

翌

朝

様子

無覚

東

八

右

闸

所

江

罷

越

見

申

候得

は

は、

と不 座 江 此 迚 両 拙 左 可 カコ 最 義 所 人之親 様 8 召 者 仙 訳 是 と了 都 済 初 之吟 = 連と之了簡 を 方な 亦 台 合之 申 而 申 立 然 類 簡 立 聞 取 間 味 呉 存 H 仕 置 合 口 敷 共 帰 候 慮 候儀 候 申 8 あ 上 様 強 而 口 \$ 系図 6 儀 候 -申 申 不 カン 無之 難 而 而 刊 不 此 候 談 仕 をは 同 得 召 VI 掩 拙 8 八 由 罷 意之 不 居 坪 者 連と 候 右 は 申 在 A. 申 儀 明 0 衛 聞 候、 門天 罷 不 腹 申 儀 此 L 余 八 候 登、 段 由 を 候 候 右 1) 処 扨 義 辺 無 相 7 H 衛 又 11 一候得 行 吟 手 奔之 門 先以 右 達 -衛 御 儀 味 成 而 H 共 糺 挨 相 た 所 聞 仙 親 明 無之 災拶之由 之 知 奔 1 不 台 類 之 拙 # 候 相 而 申 共 親 江 段 者壱 放 品 待 候 口 発 知 由 類 候 X 屋 而 申 候 召 訇 共 仕候 人之 外 敷 事 屋 1 候 n 連 何 申 無 得 敷 主 VI 強 候 様 候

兵 喜 者 衛 兵 儀 衛 拙 先 妻 者 於途中 離 所 别 江 尋 仕 幼 参 不 郎材 八平木 少之子 候 旧町 節 H 右借菊 拙 会 衛屋地 互 共 後 = 有

念

者故同 候覚 誰そ相 聞 論 共 尋候 候様 仕 並 何 夜中喜兵衛拙 前之儀衣類等迄質物指置 人方
る
米
銭
等 か又以代遣候様申 二二祝 候間 分宜 候 相応有之候 人柄を見届 是無御 奔仕 由 申 什 金等相 | 抔咄 人相頼、 頼侯様申 金壱歩 世 話 候故、 拙者答候は 喜兵衛方江も度々銭等指 座 候 上候、 候得 品 預 行当 も遺可 申合 者 ハ 度 H 子候に付、 由 方江 兼 は、 御 やくわ 出 尤喜兵衛娘 縁 糺 候得共 申 聞 候 候 奔之儀 候得 罷 申 近 上 組 夫に付為ニ成候事 由 候無之由申 = 越 御 由 頃 申 N 添儀御 候節 弁し 相借 八何様 祝 度存居候処幸 は、 相払 而 申 座 ハ拙者も段々内 金等曾 度々才覚之儀 合 候 拙者方江 心処、 遣申 実 遣 同 屋平助と申 尤仲. 座候、 候得 人 か少分も祝儀之真 可 喜兵衛娘有之何方江 候、 申 喜 = 而望候 賦り遺候以後 悪口 **|**兵衛罷 呼 人なし ・と致 は、 併拙。 有之由 其 且又当 取 仕、 方江 候得 質 々至 申 申 者 所 佐、 物二 聞 別 存 越 -者 候節 同 可 申 正月十三日 候 至 而 1 は 無之由 遣候、 其以後 懇意仕 成 聞 何 不 夜妻子召 間 而 遣兼候 而 神 一疑 困 候間 相 左様 時 悪 \$ 一之頃 一第人 続行 親同 間 置 ハ可 口 候 勿 申 成 遣 什: 敷

> 成者二 右書付ハ 儀を妻母方之伯父権太郎と申者承 迫里谷村妻之親類平六十郎 太郎申 八衛ニ 而 1 聞 出 1 候間 一被申 候事 可然候、 敷尤相続ニも罷成間 聞 在郷之伯父十郎右衛門 拙者共夫婦何方二居候共支不申 もきび 三而 候儀を尤と存、 間 娘を取返し可 敷 太候、 併 妻と取合 縦其 敷人二御 我等もら 方共相続ニ 申 申 尤相: 敷候、 座候、 候儀を喜兵衛承、 由 右衛門方江罷下居侯、 VI = 続 方ニ 遣 丽 一成候共 腹立 仙 n にも甚行当忍ひ 州者· 相 申 先在辺ニ而も 台 候 由 預 、払書付 末永 夫婦 置 由之書付 由 而 申 か月居 拙 候、 相 = 座 者 等容易 申 出 右之通 候 以 呉 罷 候 候 不 右之 都合 来右 而三 而 申 下 候

候

相 1 カン 兵

喜

VI

妻申

た打渡 相 払 夜泊り路銭等も遺候様申 相 世罷在候、 渡弁麦等も 遺申候、 然処当八月喜兵衛罷下 随分機 付候故、 嫌能 代三百文二 何 -候節拙 方ニ 8 者方ニ 妻帷子を 相 続さ

親類共

八世話

= 而当

兀

月ゟ岩ケ崎

町

養吉

方江当座

借

宅

権

文言

仕合奉存候由申口 奉存候処、 不 に付い、 慮之儀 不審仕候 而 御 様御苦労ニ ハ其方聟家督 相 懸り = ハ不申

而

は早

速人参茶

二而も

相

出

口

申

·様無之行当候間

由

仕居

候得

は克候

由

而

罷

登

族間

ケ様

御達

等

K

日

罷

成

候

故 候

停

n 喜 連

候挨拶し

喜

兵 墨

衛 竟

相帰

L

候事 遣候得 遣候

状

無疑

果し

7

妻

江 L 承

口

召

由

候得

は

悪

口 な 喜

胴

共 其

省

不

遣 5

由

抔 兵 等

言

訇 方

由

兵

衛 申

申

出

元妻渡し

は

妻召

連

奔難

成

出 正

奔

心

掛

候様子

に付 身

右

止

候 衛 衛 戸 郎 衛

ため

方

妻

喜

衛

月十三

日

夜其

所

江

兵

相

越

候

節 出

諸

帳

面

取 由

散

共妄り 郷 由 子 候 を 台 合候 召 由 江 江 下 連 口 上 罷 候 養父方な安否を問とい 候二 不 奔 帰 -義之誘 末 同 処 及ひて 養 無其 人申 H 喜 父 儀 状 N = 兵 熟 衛 事 = 妻親 を不当 喜 口 談 実 従義 せ 江引合無相 兵 衛 す 養 類 不叶 示 共 = とも 無之、 叶 H を 義を 会候 相 義 不遜之答する而 違 頼 = 妻之伯 節 其 其 而 相 罪 上養父其 4 聞 得 無 を 縦 謝 父す 相 言 聟 続 、方夫婦 養子 早 7 成 而 X E 谏 兼 罷 仙 候 在 な 有

> 妻呼 尤其頃 墨付 様喜 得 5 罷 連判 判之儀同 最 背 相 地 L 初 難 は、 候 す 下 出 成事 兵 口 以 相 由 相 取 趣 壻 衛 候 喜 江 被 出 成 申 仙 前 頼 人覚 以 戸 家督 仰 程 兵 并 度 と望之通 不 台 望 後 候 申 聟 衛 在 江 由 旨 奏得 無之段 Ξ 間 候 御 家督 厳 申 口 直 郷 墨付 得 不 談之上 町 糺 召 江 1 曾 墨付 連と 当八月喜兵衛尋 罷 は は、 人 申 別 申 是 登候、 而 相 屋 仕 候得 郸 先以 合候 相 出 敷 亦 0 E 不 附 1 申 御 無 吟 候 出 候 拙 合 拙 味 由 申 様 主 出 共 相 且 由之墨付 一拙者 申 者 候、 候 申 者 候 違 弘書付 募候 方 得 付 様 方よ 相 而 成 儀 候故、 より 下 扨 共 聞 -程 1 -候節共 壻 T 而 判 又右 拙 得 正 拙 付 家督 実 相 者 是 ~ 月 直 拷問 舅 者 入候 方な 等之次 + 拙 H 墨付 N 者判 口 前 妻払 = = 父と心 仕 書之通 申 間 聞 相 を 日 江 書付 合候 以 夜 由 仕 七 相 出 第 め 相 仕 郎 出 候 由 在 申 合 得 挨拶 郷 得 太 = 得 難 趣 呉 糺 H 候 被 之 白 候 而 共 候 共 連 違

謀判

候二 其

無疑候、

第

喜兵

其

方共

一奔之心

懸 由 墨付

候

及

申

合候

由

行

此

段

喜

屋

敷

主

江

\$

壻

無

候、

右 造置

連

七 兵

太承

届

候 人 連 申

少処、

右

江 養子

連

セ

寸 紛

証

-且

同

人其 判之親類

頃

ハ江

江

登

居

合不

由

由

出

其

衛

方

江

其

身方よ

n

親

類

七 喜

郎 兵

太仲

人平

助

判 出

而

智家

督 喜

合手

前

江

呼

取

候

妻に

而

衛

舅

之由

る之

処、

兵

妻脇 罷下 妻拙 父之気ニ 永 者 奉 ク妻 入不 兼 公 H 差置 8 申 申 仕 暇 聞 候、 置 出 候 具候 只 請 被 八今迄 申 出 様 候 間 總之間 妻 相 頼 候付 可 此 度 仕 数 召 人壻も入候 由 喜 連 在 兵 罷 江 申 候 成 処 聞 共 将 召 何 金 連

之外ニ身代金懸り武歩半余有之候を拙者方ゟ才覚相

出

居候

立帰之処無其儀 兵衛追々尋下候節ハ前非を悔親類共を頼申侘本所江 儀ハ分明ならすとい 不居合儀を御当地 郎太名元後付ニし印形する而已ならす、 喜兵衛其節屋敷主人江も申聞置、 寄相咄全出奔ニ無之由不都合之申口に付、 敷御家来衆江右金子持参御暇申請拙者方江召 とも喜兵衛聟家督申合侯由之儀其身方る証状も有之、 候処申 ハ前条申上候通ニ而権太郎方江内々罷下懸ニも立 丁鍛冶町丁切根之御屋敷御名ハ失念仕候、 甚不順之次第御糺 三居 へとも養父背キ妻迄召連出奔 候由 偽り申出、 且右墨付江先妻親類 明に及申陳其罪不 第一養父に悪口之 此者江戸江登 其身事申募と 連申 右御 候、 も可 剰喜 軽 出 1) 屋

越、

·晴無御

座

候事

右八右衛門妻

然処当正月八右衛門ニ被連相続之ため在郷親類方江罷下

彼是不届之旨相糺候処申晴無御座候事

相請当拾

七歳

二罷

然処去冬喜兵衛方より八右衛門

一具ら

八右衛門ハ 成候、

聟家督とハ不相心得

龍 在候 右

5

紀候処、

拙者儀喜兵衛養女に而三歳之節

る養育

ニ背き出奔之儀 不届候、 心得由申 山中 第一幼少ら被養候喜兵衛事縦夫すゝめ候共養父 出るとい 口に付、 ハ不順之事ニ 其身事夫八右衛門喜兵衛聟家督とハ不 へとも、 右ハ夫荷担之状ニ相聞得先以 候処、 共二出奔親類方江 忍

本材木町

郎

1/

居不届之旨相糺候処申晴無御座候事、

出御達 悪口 聞処等閑 候品々再応喜兵衛申 子召連同 越申断候間、 越候得は、 樣可然由申談相帰候処、 儀早速不及吟味ニも第一 等仕候品々相断候由右喜兵衛有増申聞候処、 一郎平相糺候処、 拙者借屋八右衛門義出奔心掛候容子ニ有之、 三仕 十三日夜無行衛罷成候に付、 候由申口に付、 右之者留主二付彼是延引及候内八右 右八右衛門借屋口入方江罷越吟味可仕と 右之者及出 聞候 当正月十三日夜喜兵衛と申者不図 ハハ、 同夜又以津右衛門と申 退き疾と了簡仕内々に而 其身事借屋八右 奔 其節早 候 而 無品 速検断方江 右之段検断 衛門 出奔之由 出 奔心 門儀 右に付 \$ 方 同 相 江申 申 道 済 達 罷 申 候

右之品

K

咄

而

承候得共喜兵衛さして

腹立候様子ニも不

尤御披

露仕

候段

も不

申

聞 候間

其

介之儀

と相

心得

所をも

且.

百姓里谷村 郎右 衛門

身共二八右衛門本所出奔之訳并品々も申談候

由

尤事

状

平同

不図 拙者共八右衛門妻伯 妻召連罷下、 畢竟仙 父に 台 御 而 座 1 相続仕 候 当 六 兼 IF.

条、

画

人相

私

候処、

衛門義

事も 之儀 八不心付、 向不相 仕 一候者 心得罷在候処、 近き親類之上不 前 高書之通-便成事と両 申 聞 人仕 侯間本所出奔 世話仕、

見忘 仕吳侯

候様 様

二候 聞

へとも 座候、

段々相考無相 尤八右

違、

八右衛

門儀

初

申

候

八右衛門妻ハ七歳之節逢候

儘

=

而

初は

罷下候、

何卒世話

任当

所ニ

渡 世二而

も仕

露

命助

候様吟

味

而

対

面 n

御

衛門事

喜

兵衛聟

申

·合候

と申

談候覚

無御

座

候、

喜兵衛儀在郷

=

而

ハ指

而

立

一候様

幸岩ケ崎 養父喜兵衛義八右衛門夫婦を尋下候由ニ而平 屋 二二指置 綿打 町養吉と申者方ニ小家有之をかり申候而当座 渡世為仕指置 區候、 然処当八 月右八右衛門 -六所 江 相 越 妻

> 引合相 之儀可及披露ニも処無其儀却 八右衛門養父背き妻子迄召連 其身とも心を付急度早速養父ニ為申分候上、 聞得候処其方共承知せさる趣甚不都合ニ 田 而 系図 [奔忍居 は 候儀 つし 候、 ハ不 吟 届 味 出 至 奔者 第 = 極

候

無

之候而 不心附此段ハ不念至極 違相聞得候条有体可 ハ相済間 敷 由 申 杯不都 奉存候、 一出旨相 合ニ 糺 一申談候 扨又系図をはつし 候処、 由 御不審之通之儀 喜兵衛申 候様抔 出 無相

兵衛 子ニも不相見得、 御披露相 も不承候、 も機 成無拠仕合奉存候由申口に付、 嫌克罷登、 少々同 尤八右衛門方とも 人方る夫婦仕才覚世話仕路銭 御達等ニ 可仕とハ不存寄候 戻り 其身とも喜兵 候挨拶等仕 杯相 処不 渡喜 候儀 慮 衛

門妻子召連下侯節出奔之訳其節 二不都合之儀申談候事 不承 届数 月岩ケ崎 ハ分明ならすとい 町 養吉 所借 ハ不心附 屋 二指 由二 へとも、 置牒外 一候得 八右 共 K 本 衛

養父方江為申分ケ本所江相帰告達之始末す 喜兵衛儀 八右衛門を尋下るに及て ハ八右衛門ニ ^ き処 心を附 其

相見得、 居 候 ハ八右衛門養父喜兵衛義八右衛門夫婦を尋罷下、 御 愈議 麗 成無拠 世合ニ 奉存候 由 申 П 不 其 審

右養吉相糺候処、

平六十郎右衛門申上候通、

八右

衛門と

儀不届之旨相糺候処申 晴 無御 座候 事、

三迫岩ケ崎町

候

相伝可

申

由

申置罷帰

候、

且.

何歟高声

等

15

×

聞

吉

付、 八右衛門と申者本所払書付も不請取数月借屋ニ指置不念 指置候、 其身事 一四月より此度被召登侯迄右両人請合ニ而当 ,里谷村平六十郎右衛門請合候事に 尤当座之儀故本所払書付も請 散不 由 ハ候得共 由 |座借屋 申 口 K

之旨相糺候処、

不調法至極

一奉存候

由

申

出

候

事

候節 も取次候、 相心得罷在候、 被賴侯儀相違無御座侯、 仍本材木町菊地屋三郎平借屋平助承届候处、 屋八右衛門儀喜兵衛娘を貰妻ニ申合候節拙者儀仲人 拙者儀留主ニ而出会不申一 且八右衛門出 尤八右衛門方より喜兵衛方江之墨付等 拙者儀も聟家督ニ申合候儀 . 奔之前夜喜兵衛拙者方江 向不相心得由 拙者相 申出 罷 越 借

事

得候得とも其 1 向不承付由 审 出 候

福井吉右 兵 衛二被頼 衛申 上候 菊地 衛門宿守津右 通 無相 屋三 違候 郎平方江 衛門承 由 由 同 人同道 候事 届候、 罷 旧臘十三日夜喜兵 越候儀、 委曲·

共妻も無之、 三日八右衛門家内出奔仕候儀も跡ニ 拙者とも其節居合不申、 喜兵衛と申者罷越、 埒者ニも不相見得者 者共八右衛門相借 本材木町菊地 日手間米擣等二罷越渡世仕居侯 屋三郎平借屋 屋 取合ケ間敷事有之候儀被相尋候処 三御 二而罷 一向 座候、 在候処、 万之助惣兵衛承届 相心得不申候、 且又当正月十三日 而承 同人義兼而気強不 知仕 由申出 候処、 勿 拙者 論 夜中 拙 候 +

支倉町 類 くハ不仕候、 而被相糺候処、 中合候節、 二御座候処、 七郎太承届侯、 拙者方

る墨付遣置候由八右衛門申 且又八右衛門儀喜兵衛と申者方江智家督 右養子申合侯儀も不相心得、 八右衛門儀先妻離別仕候付如 拙者儀本材木町 八右 衛門 尤印 前々之親 先 候 形仕 妻親 由

同

人妻まん承届

候処、

喜兵衛当正

月十三日夜中 相答候得は

相

I会申度·

由

申

聞 候、

留主之由

八右

衛門 越平

方ニ而 助二出

取合仕御長屋を噪し申候間

御断二参候由罷帰

者

屋

敷

婚

礼

為

相

調

候

K

付、

夜

呼

置

其

者

妻

相

候

由

申

H

候

不 候 覚 由 無御 由 申 H 座 候、 候 事 拙 者 儀 其 節 は 江 戸 江 走帰 = 罷 登 居

合

右

養子

菊

地

弥

七

郎

承

届

候

処、

父同

氏

定右

衛

門

旧

宿

兵

御 郎 候 方 得 指 開 大 汔 は 置 承 所 申 縁 1 届 出 組 処 候 並 心処、 候 申 御 合 去 由 小 候 臘 拙 性 者 候 押 頭 尤御 支 処、 詰 配 宿 罷 至 帳 守 当 合之首 而 成 去 時 及 同 H 御 月 年 城 X 尾 迫 娘 春 番 仕 支 候 相 中 間 度 見 よ 配 旨 得 n IE 身 喜 持 月 忰 不 由 菊 = 兵 入首 氏 候 衛 圳 間 弥 1 定 右 申 尾 承 七

IF.

7 右 趣 申 壻 -合候 家 其 督 節 由 最 相 八 初 右 達 6 置 居 衛 門 合 申 候、 方 不 6 申 H. 之 K 付 証 文と 追 八 X 右 8 承 衛 -奇寄 闸 指 候 得 添 かは、 申 家 節 盟 拙 聟 申 候 間 家 拙 右 督

右衛 合

門

并

娘 存

共

無

行

衛罷

成 旬

候 頃

由 喜

申

聞 衛

候 申

処

拙

者

方

之

を

罪

御

行

高

橋

丈太夫、

#

司

仕

奉

候

内

IF.

月

中

兵

候

聟

家

督

候

事

兵

方台 節 は 銚 為 子 相 盃 用 等 も借 候 間 其 用 節 L 貸 候 段喜 渡 候 哉 兵 衛 拙 申 者 儀 候 由 至 而 御 而 用 人 用 多

夜 当 勤 等迄 刀 月 離 什 候 節 仕 尚 故 更 口 向 承 不 様 相 無之上、 心得 尤 妻 喜 \$ 兵 衛 申 事 聞 当 候 春 妻 中

> 父同 衛 衛 月 喜 月 氏 + 迫 人 兵 方 定右 取 数 衛 江 前 日 込 儀 右 候節 相 H 衛 門 人 娘 八 右 故 候 方 首 日 よ 当 壻 衛 門 春 n 尾 家督 夫婦 仕 其 = 入 度旨 節 越 八 右 居 相 無 首 一去年 候 達 尾 衛 儀 門 申 衛 可 仕 候 罷 旨 申 向 成 候 申 月 者 相 H. 由 付 末 申 1 八 得 右 申 置 合 衛 聞 申 候 候 不 門 処 間 申 聞 候 間 儀 由 申 喜 半 喜 至

亚 加 右 治 愈 右 議 衛 斎 門 趣 藤 源 御 郡 以 治 奉 同 行今泉 付 吟 仮 味 役 七 五. 町 島 郎 + 奉 太 評 遂 定 相 所 談 御 役 御 仕 藤 置 左

涌 被 付

遠 家別 欠追 放

> 居町当三本喜津福 侯養時郎材兵右井 吉三平木衛衛吉
> 所迫旧町聟門右

八右衛門 い妻

八

右

美門

拾 歳ち

七

壱ケ 年 奴

戸 結 +

日

三迫里谷村百姓十

郎

六拾四歳 門

戸 結十 日

押込五

押込五

同 II

平 五拾四歳六

菊地 五拾七歳

本材木町

樋

三迫岩ケ崎町

弐拾四歳 吉

喜 衛

右衛門

魚占 貝 志 摩印 右之通御 無御

町

奉行評定役御役人申渡之一

巻評·

定所納置

者也、

宝曆十一

年十二月廿五

大 立 目 F 野 FD

同月廿六日御仕 置済

右御 町 奉行御目付評 定所 御 役 人列座申

戸 結押込之者於御村御代官申渡候様同日令首尾候事

> = 諸願達 編

諸願 達 編 集

養子 願 之事

氏家又八郎片廻従弟無足氏家又右衛門嫡子同 拾八歲二罷成、右円治娘当拾五歳 渡円治義当四 1拾九歳 二罷 成候処男子持不申候間、 二罷成侯江取合聟養子 氏藤馬

他人

申、 下置度奉願候、 被成下度、 本家家分分地仕候者、分地請候親類之內養子可奉 右円治御知行高何貫何百之所末 右之外同姓二廻り他性指渡之従弟(姓) 々右藤馬江 ハ不及 被 願

愍ヲ以如願之被成下度奉存侯、 三而罷在候ニ付、右又八郎方ニ而役介仕罷在申候、御憐者無御座候、右又右衛門義右又八郎父同氏筑前伯父無足 何百永代弐番着座 右又八郎義御知行高何貫

右円治義御番所御広間 三付、 若年寄衆江も 御座候、 樋 相 達候上双方 渡 以上、 円 治 連

ヲ以奉願侯、

安永何年何月

氏 家 又 八 郎

安永何年

何月

白

石

九

郎

連判

ヲ

以

奉

候

右三

一九郎

御

番 以如

所 虎之間 願之被

御

座

以上、

高

泉杢

組

御 願

座

候、

御憐愍

7

成成下

- 度双方

親

類

候者、 間奉願

其 候、

外遠近

親

類之内

養子

口

奉

願

者無

御 仕

座

候、

右九

奉 蔵

願

如

願

之同

年

何月被

仰付候以後出

任之弟

御

座

右之外同

性他

性本家家分分地

候者、

分地

請 候 筑 後 殿

白

石三

一九郎

義当五

治歳

罷

成候処、

子 共持

申

付

11

桶

渡

九

+

郎

氏 家 八 +

郎

集隼

人

殿

ニ付伯 郎(ママ) 之処、 内 指 江 郎養子之祖父同 渡之從 養子 他性本 嫁候已後 奉 可 母之 候 末 願 五 弟養子 奉 郎 家家分分地仕者、 候 H 心処、 原 出 服忌相受候 付 右 一男同 者無御 生仕 九 三郎 被 氏吉十 養母之服忌 子 成下、 候 共 氏 故故、 座候、 八無之右 九 二被下置度奉 郎娘卜三九郎養父同 一付、 右三 指 郎義当拾 分地 渡之從 右勇五郎 七 一九郎 九三郎 無之候得 郎 請 兵 候 弟ニ 衛 願 義御 八 院病死仕、 御 者 義 候 歳 共 知 御 ハ右 知 其外遠 行高 座候、 行高 罷 九 右吉十 養 氏 成 母 以後 七 郎 何貫 候 何貫何百 右之外 近 郎 養 勇 義 过親類之 郎 右 方 五 は 何 兵 実娘 衛智 郎 百 = 勇 文 同 方 九 文 而 玉

> 奉願 家分同 市 当六歳ニ 一付、 左衛 明 田 候、 和 島 八年 明 苗 市 甲甲 罷 和 右 進 小 左衛門義当四 -病死仕 七年 市 退 成 田 御 左 島 衛門義 切米何 父方ニ 何月長病被 候 郎 名代 [拾七歳 付、 病 両御マ 而双方四 同 気 右九十 何人分末々・ 氏 仰付 付 九 廻之従弟 + 罷 石山三 郎義 郎 御 成候処子 城当 養方之弟 明 右 和 郎 番 市 養子 九年 義嫡子 共 郎 両度懈怠 持 被成下、 同 被下 氏 何 月養子 同 申 市 氏清 置 仕 郎 候 右 間 候 度

愍ヲ以如 郎 義 進 退 願之被成下度双方親類 御 切 米 何 両御扶 持方何 連判 人分 ヲ以奉 誰組 願 御 候、 座 候 右市 左

白 中 村 勇 玉 郎

石 桃 之 丞

坂

久

助

衛闸 御脱 番力 所 御 広間 御 座 候、 以上、

永 が何年 -何月

11 島 市 左 衛 門

宮 沢 仲 太 夫

11

田

島

九

+

郎

H 沢 卯 兵 衛

主

水

殿

杢

右 願 相 出 候得 は、 殿 支配 頭 手

其 、段願 江 添 達 而 御 奉 行 衆 江 被相 出 御 格 = 候 間 判之

前

迄存

慮

通

相

叶

不

申

訳

承

届

高 七 何

橋

義

蔵 助 誰

宮

宅 之

之

式願双 親類 (共別 主之親類為証之相紀 方親類壱人宛連判 紙之通横折 重判願之宛書之通 三候所、 信マ 存慮 相 出 認 合不申 可 指 出 候、

在

常

願 申 侯 事

節

次男 歳 之助方台幾廻之従弟二 方何人分末々右誰 横 二罷 田 誰当何歳 権之助義当何歳 成候、 寛次方ゟ幾廻り権之助(治) 罷 成 二被下置度奉願 候養子被成下、 = 御座候 罷 成候 所子 遠 藤多膳弟同 共持 候、 方より 右 権之助 右 不 誰義 申 幾 氏寬治 侯 る幾 処、 廻之従弟 進 退 義当 廻 御 何 扶 n ノ誰 何 権 持

御 右之外同 巫 一候処、 性 他性 右寬治義権之助存慮 本家家分分地仕候者分地受候者、 相叶 不申 候間 不奉 其外 願 遠 候

安永何年 奉 御 願 ·何月 座候、 候、 右 御憐愍ヲ以如 誰義御番 所何方ニ御 願之被 成下度双方 座 横 候 田 以上、 権 之 親 助 類 連

何

誰

ヲ

以

近親類之内養子

二可

奉願者無御

座候、

右

誰義

進

退

何貫

文

横田 権之助 添達 横折之事 養子 願

申

E

侯

処、

親

類

遠

藤多

膳

弟

同

氏

寬治

義

治内 存慮ニ 付 品品 届 如 連判 H 承 斯 K 届申 存 相 二御 仕 叶不申 慮 候 战哉可 候所 座 侯、 相叶 一候二付 無余儀 申 一旨被 不 申 願 聞 儀 得 仰 不申 御 侯間 座候 渡承 F 知仕 底 処、 付 拙者共 候、 養子 右之趣無余儀 (連判 二願不 右 権之助 仕 奉 申 願 E 遠 段 候 藤 承

貫

七 宮 宅 之 助 ヲ以如

願之被下置度双

方親類連判ヲ以奉

一願候、

右八太夫

一御座

候

以上、

安永三年何月 御番所虎之間

下置、 座候、右八兵衛義御知行高何貫文誰組ニ御 家家分分地仕侯者、 歳二 持不申 置度奉願侯、 之、 然不仕自然と相 候 Ш 御 「路八太夫義当四拾歳 呼座候、 配 当時 段々医師等引替薬用仕候所無然、 右八太夫御知行高何貫文之所末々右八郎治二被下 候間 成侯江右八太夫娘当八歲二罷成侯卜取合智養子被 黒川郡吉岡町 右之外同性弐廻他性指渡従弟ハ不及申ニ、本(姓) 八太夫方合一 同苗本家山路八兵衛次男同 衰指 分地請候親類之内養子可奉願者無御 重り残命不定之体ニ罷 無足医師千葉玄番療治相受申(蕃カ) 二罷成候所、 廻り八郎治方ゟ三廻り之従弟 久々下 其上積指発指込 氏八郎治当拾弐 座候、 成候処、 -血之症 御憐愍 相煩 男子 候処 有 申

Щ Щ 路 路 八 八 兵 太 衛 夫

> 養子 一候 L 願之内親類之内ニ有之候 智養子急病養子申 其外遠近親類之内養子 上共 (趣意右 二可奉願者無御 相伺 同 然二有之、 可 申 候、 座候と 智 常式

但

安 田

藤 村

金

右

衛

門 郎

平

Ξ

急病養子 ,跡目 願 泛之事

文言可相加

在候処、 憐愍ヲ以如願被成下度奉存候、 死仕候二付、 草刈善十 成下度段当何月何日奉願侯処、 二罷成候処、 十郎義右病症相煩罷在申 氏太郎右衛門義当何歲二罷成候二被下置度奉願候、 右善十郎存生中急病聟養子奉願置侯内馬場孫太夫次男同 何月何日病死仕候、 昨 郎義三拾八歳二 何日 男子持不申 右太郎右衛門義同 忌明二付拙者共 跡式御知行高何貫文御扶持方何人分、 一候二付、 一候所、 罷 成 八親類 被 右善十郎御番 日ゟ日数五拾日忌相受罷 病気指重り残命不定之体 当 右太郎右衛門聟 四 (連判 仰渡無御 一月中 ラ以奉 水腫之症 座内同 所御広間 願 **修** 養子被 相 日 右善 煩当 御

御 座 候、 以上、

何 年 ·何月

誰

死仕候、

跡式御

知

行高右誰存生中

-急病養子

願 何

候同 何

性 病

遠慮

明

付、

拙者共

仍

親

類 連判

仕

奉

願と連判之列

何

龍在 無御

候 座

内 内

幾 幾

日 H

何之誰次男同

氏

何

1

誰

義当

|何歳ニ 申 二付、

罷

成

候二

一被下 奉

置 置

度

願

候、

右誰

義右 成

病症

相煩

罷

候処、

病気指重り残命

罷

子共持不

申

候 在

右誰ヲ養子被

成

下

度段 不定 奉 何之誰義当

何

歳

罷

能成候処、

傷寒之症相煩当

月

日

殿

草 [IX 佐 左 衛 門

草 IIX 彦 九 郎

内 馬 場 孫 太 夫

判印

形少も

無相

違

様可仕

候、

若急病養子

申

E

候節之印 初発之書

残連判

日

申

上候、 養子

文言之義は

趣意右同

断 出

勿論

形 等行 違候 ハ、

其

八段跡目

願申上候節紛

失之訳添

達仕

口 申 E 候、 養子之者幼少二 候 1

病死仕 候二 付、 司 日ゟ日数五拾日遠慮仕 被仰 渡

而 8 初之通 超相認可 申 候事

木 兎 郎

佐

H

候、

以上、

何年

一何月

病死仕 当何 之体

候

一付、

拙者共仍親類

連判 誰義御

ラ以

奉

一願 何之間

候

御

憐愍

月

何日奉願

候処、

未被

仰渡無之内幾月何日右

誰

義

桜田

嘉古義当八歳二

罷

成

候処、

疳

症

相

煩

何月

何日病

死仕

以如

願之被

成下度奉願候

右

番

所

御

座

右多蔵

義嘉吉方と七廻り多蔵方と四

廻之従弟

御 座

候

嘉吉養祖母方ゟ弐廻之従弟ニ御

座候得

共他性知

御

侯間 座

不

之 誰

奉

願

何 何 之 誰

> 苗 跡 願之事

成候 候間 = 性親類誰 右嘉吉進 退 組桜 何貫之所被下置苗 田文蔵次男同 氏多蔵義当 跡被立下 度奉 一式歳 願 罷

伝五 郎義 候、 は 双方指渡之従弟 双方指渡之従弟ニ御座候得共、 二御 座候安原 嘉右 衛門次男同 父も養子

但

急病

跡

目願は急病養子

願

申

候節之親

類不

誰

殿

=

御

目

見被 願

御憐愍ヲ以

願

之被下 御

置

病

何年 連判

幾 ヲ以奉

月

類 幷

候

右誰 仰付、

義御

番

所何

0

間 如

座

上候、

以上、 度親

性 も養子之義 他 性 本 家家分分地仕 = 而 服忌 相 懸り不 候 者、 分 申 候 地 請 間 候親 不奉 類之内 願 可 右之外 奉

進 退 無御 何貫 座 **座**候、 = 御 御憐 座 候、 、愍ヲ以如 右文蔵支配頭 願之被 江 成下度奉存 相 達 候上 候、 双 方親 右文蔵 類

8

連判 ヲ 以 奉 願 候 右 嘉吉 御 番 所御 広間 御 座 候、 以

上

桜 田 \equiv 弥

何

年

何月

桜 田 文 蔵

本 郷 久 兵 衛

罷

誰

殿

居 願 泛之事

得共

付、

志

田

郡

飯

JII

村無足医師後

藤

道意二

療治

相

受薬用仕

候

時

当何歳 何之誰 付 ?隱居被 義当六拾歳 = 罷 仰付、 成候ニ 被下置度奉 跡 = 罷 式 進退 成候処、 何貫文嫡 願 老衰仕 候、 子江 右 誰 御 奉公相 義 加 養子 何 年 何 同 勤 月家督 兼 氏 誰 候 義

何 何 之 誰

申

誰

殿

候、 但 御 知 先 行 年 取 御 候 番 所 書 何貫何百文之所卜 調 不 申 候 処、 明 和 Ŧi. 年 6 調

=

相

調

口

申

若隠居 願 之事

七宮 式 御 知 藤 右 行高何貫文之所、 衛門義当五 拾 嗣子 歳 = 罷 同氏定之進 成 候処、 養当代 隠居 被 拾 仰 一歳 付 跡

成候二 × 相 煩 被下 申 候 置 処、 度奉 明 和 願 四 候、 年 六 右藤右衛門義 月頃な浮 腫 在之下 兼 而 疢 症 血 積之症 仕 候

用仕 付、 、然不仕、 玉造郡 新 其上 田 村無足医師鈴々木秀林ニ 飯 喰仕内 ニも吐 寫之気指時 療治 引 H 御 替 取 座 詰 候 薬

療治 屈仕 薬用 候得共無然、 病症も不相定片時之内 仕 候得共、 去春ゟ志田郡 多年 相 煩 候 = \$ 故 中 余病 里 村 \$ 相 御 無足医師 加 座 ŋ 候 哉 右 病 去冬台 井 症 純 = 而 安

薬用仕 生本 聞 候 度奉 間 服 可 願 隠居 仕 病症 候 願 右定之進 申 無御 年 座 齢 義何 侯 = 由 \$ 年 無 右鈴 何 御 座 木秀林 候得 共 八隠居 玉 井 仕 純 安も 緩

月家督 并 御 目 見

之 誰

被 仰付 候、 御憐愍お以如願之被 成下度親類 連判 お 以奉

願 候、 右 藤右衛門義御番所次之間 = 一御座 候 以上、

七 宮 藤 右 衛 門

兼 田 善 蔵

但 加病等在之候三付御 医 師 何 ノ誰 療治 相 転

殿

誰

何

之

誰

殿

養子原仕 病気ニ而家督相除次男家督

> 被 成下

御

定之事、

何

之

何之誰 左之通被御申聞趣致承知候、 何之通嗣子願指出候様御

尾可有之候、

何月幾日

猶 以 分別紙何書 書相 返し 申 候

何之誰 様

組 何之誰義智 養子何之誰病身二付家督被除下候処、 右

之

誰

歳二罷 誰義先年誰ヲ智養子被成下候以後出生実子 成侯ヲ嗣 子 一仕度由、 品 H 别 紙之通親類 同 氏誰義 連判 お以 当何

得共、 出申候処、 私方二而首尾仕 何年御 例相見得 触お以被 不 仰 申 出候事 候 間 如 は 何様首尾 相見得候

哉 応 相 伺 仕 度別紙指 添相伺 申 候 以上、

仕

何年 ·何月 之間 以如

二御座候、

願之被成下度親類

連判

お以奉願侯

右誰義御番

所

何

誰 可

義御

手

伝御

年中家督并

御

目

見被

御憐愍お

同指

処、

申上年齢ニ無御座候得共不及是悲ニ(非)

如

斯二奉 仰付、

願

候、

右 願

然不仕一生本腹難成病症之由右誰申

下聞候間、

隠居

色々加病等在之候二付御医

師

何之誰

療治ニ

相転薬用仕侯

私

受候処、

然不仕候二付無足

医師何之誰引替薬用仕

候処、 療治

候、

右誰義何時何之症相煩候二付御町医師

何之誰

相

何貫文之所、 何之誰義当四

何

歳

罷

成候

被下置度奉願

拾五 養子同

歲二罷成候所、 氏誰当

隠居被

仰付

一跡式進

退

何 之

誰

何月何日

仰付

間敷候、

可奉願!

併養子跡

敷品

在

触之趣養子相除候上

は養子以後出生之実子家督ニ

壱歳

罷

成

右千蔵義嗣子ニ被

成下候様奉願度奉存処、

右利兵衛智養子二被成下候以後出生之実子千蔵義当弐拾

義当六拾七歳ニ罷 願度奉存候処、 仰付難有仕合二

成候処早速養子可

奉

之病中

而

決

而

御奉公難成 又以養子

義

相 條候、 極

候

而

養子

相

除候 々悪

1

御

支配 御支配 頭合実子ヲ家督ニ 江御吟 味之上実 御願被成下、 方お も被 相 軽キ病気又ハ養父之 糺 無相 違候

弥増然不仕黒白之見分も無御 氏理兵衛義当三拾三歳 右利兵衛子共御座 男女共二子共無御 其上眼病相煩当年迄年 無御座候 何月幾日 願義ニ 詰薬用仕 兵衛一 座 侯 に二付、 御 = 座 仍半兵 如 生夫婦共 座 候得 数 罷 承祖 候所、 願之被 無拠 向忘目 成候処、 何 共玉 ケ年 衛 仕 奉 嗣子 被成下度利兵衛養 子ヲ願申上兼義 数年養育仕罷在侯義は御座 嗣子ニ被成下候得は利兵衛 利兵衛実方同然得養育成生仕者之義 利兵衛義若年ゟ半兵衛養子奉願如願之被成下実子 被 奉願度奉存候得共 実子ヲ指置養子 仰付間 敷候との義 = 実親類 相 見得 ヲ可奉 申 御触之趣三付 何年 同連名 侯間、 候得 願義も無拠仕 生千蔵 何 共、 0 お以奉 此 何月御 段何様可 介抱仕義 千蔵義も幼少之節 御 而 座 伺 ハ半兵衛方る実 合二 触承 一候間、 候 仕 = 奉 知

膿之症

二是 御

成

御

医師 年

町

医師数人療治.

相受、

色

]々取:

何

春

る上昇之症

相

煩、 同

国井半兵衛義聟

養子

iL

叶不申壱通之義迄ニ

而

養子

相除候義は、

実子

家督

候

E 且

存 罷

候、 在

同

同

然

罷

成

生御

奉公可仕体ニ

半兵衛方二指置侯様被成下度段、

奉存候、

病身二而

奉存候得共不及是悲ニ家督被除下

利理

鹿 都

又

小 勘 半

太 太 兵

夫 夫 衛

沢 井

> 哉御 以上、

御

座 右千

誰

殿

一は被

触写

生候共、 養子致候者若養子 其実子家督被 ヲ返義在之、 仰付間敷候、 最前養子致候以後 又養子ヲ可奉願 実子 出

公難 然共右返候者養子何行跡悪候品有之、 相尋無相違候ハヽ、 成義 相極養子返候 其品頭支配ゟ実子ヲ家督可奉願 頭支配疾と承届実方江 病気ニ而決而 御 奉

跡 軽 病気又ハ養子之心ニ叶不申壱通之義迄ニ 実子家督ハ被 仰付間敷候、 但右実子御奉公被 而養子返シ、 仰

願

義

勝手次第二候、 以上、

付間敷と之義は無之、

分地可奉願外二養子杯遺候義

口

何年何月

右之通従 公儀被 仰 出 候、 仍之此方様ニ而も向後此通

仰付候条、 其心得御家中不残如兼而之被相触 印 申 候

以上、

被

享保七年六月

目 付

中

御 奉

嗣子承祖之事

行

古 内 新 + 郎 殿

[井半兵衛義聟養子利兵衛義病気ニ付家督被相除下 去冬如願之被 病 而忘目 同 然二罷 仰付難有仕合二奉存候、 成御奉公難 成病体 一付奉 且利 度段 嫡子病

奉 玉

一願候処、

兵衛病気眼

願

候段申上

候処、

右病体相違儀ヲ申上候義ニも無御

座無

も御

召出は嗣子願ニ可申上筈掟也、

死次男三男

い嗣子

達

病体眼 遠慮可申上旨被 病二而数年薬用仕候得共本腹仕兼、 仰渡承知仕候、 右願申上 玉濃之症 一候通右利兵衛 = 而

決而御奉公難成義相極候二付、 三御 座候、 軽キ病気又ハ養子半兵衛心ニ 無拠仕合ニ奉存候得 一叶不申 共

相尋候段被 重キ 病体申立候義ニは無御座候、 仰渡候間如斯之御 座候、 以上、

拙者実方親

類

二付被

何年 -何月

都

沢

甚

太 九

夫 郎

右之通渡辺隼 人殿と御当番ニ付御聞 届 御 都 願被成下 沢 甚 相済

候事、 実子千蔵家督被 仰付候事

指置次男嗣子 願 は御吟 味難被 成候旨被 仰渡 候

大

条

監

物

嫡孫ヲ

は三拾貫以上平 一計右 并 小進

而

何年

·何月 拙

誰

殿

存候、

者御

知

行高

何貫御番所虎之間

一御座候、

以上、

嫡子養子出奔次男三男嗣子ニ仕侯義は三百石以上以下共 願 差出

代御

奉公願申上候御掟、

子共病気ニ

而

名代御

奉公願

申

歳以上之子共在之無品名代御奉公隠居願申上候義ヲ半

兼候品有之は早速名代御奉公願申

兼侯段可相

拾

B

延引ニ而は不調法

=

相成候事

御目見相済嫡子病死次男嗣子ニ仕侯願は三百石以上計御 召 田 は進退不寄多少ニ 願申 上候 事

名代御奉公願之事

腹仕 拙者義嫡子同氏市三郎義当弐拾歳二罷成侯、 被 幷 大井昼安療治相受薬用仕候処、 久々眼病之症相煩、 無御座由右昼安申聞 候 仰付被下置度奉願 ハハ 御 目 早速御奉公可申 見 被 仰付候、 其上手足不自由二罷成候二付: 候、 候間如斯 御憐愍 上候、 拙者義当五 二奉願 然不仕早 右市郎義何年何月家督 お以如願之被成下度奉 候 拾 -速本腹 五. 歳 取詰薬用 名代御 二罷 可 仕 御 成 仕 医師 候 奉公 病 処 本 症

中 村 新 三 郎

名代之者本腹願之事

退御 不申 拙者義当五拾壱歳 腹仕江戸 二付、 公被除下度奉願 仰付難有仕合ニ奉存候、 候間、 · 知行高何貫文御番所次之間ニ御座侯、 養子同氏誰義当三拾壱歳 他国御奉公は不及申 御憐愍お以如願之被成下度奉存候、 候、 二罷 拙者義. 成候処、 其後取詰薬用 何の = 御 病 病気本腹仕候処名代御奉 罷 軍 症 用 成候二名代御奉公被 相 共二相 煩御 仕候得 奉公相 勤 拙 侯義指 は透と本 者義 勤 兼 候

何年何月

相記不申侯軍

弥

長 (病本腹 願

長病被 仰付候者子共拾七歳以上之者ニ在之上は早速名

拙者義長病被除 下度奉願候、 何の病症ニ而何年何月長病

戸他国 被 願之被成下度奉存候、 仰付候処、 [共ニ御奉公相勤候義指支不申 取詰薬用仕透と本腹仕御 拙者進退何程二御座侯、 侯間、 軍 御憐愍お以如 用 (不申二江 以上、

門御

知行高何貫文ニ御座侯、

右鉄右衛門何 知行高

0

組

御

座

候

二付如斯二奉

一願候、

右権十郎御

何貫文、

右鉄右

年号月日

何

之 誰

連判お以奉願候、

以上、

如願之被成下度奉存候、

湯村専蔵義権十郎親類ニ付双方

湯 村 千事

蔵

年号月日

古

内

鉄

右

衛

門

右縁組願 ハ同所不相入候事、 尤御憐愍お以相除侯

得共死去之者亡父ヲ養父ニ准シ侯ニ付右誰養父誰義誰養 以上、 日 本多弥門娘当拾七歳ニ罷成候ヲ太田長兵衛養女ニ被成下 下置旨

過

ル 幾 日被

仰付候所、

死去之者拾七歳以下二候

養女願之事

何之誰義当何月幼少二而病死仕候二付、

苗

「跡之者忌中達之事

次男何の誰苗跡被立下度品々奉願候処、

苗跡無御相

違被

親類之内何の誰

座候、 知行高 末々相応之所江縁付申候様仕度如斯ニ奉願候、 出生以前る別而養育仕置候女之義ニ御座候間、 度奉願侯、 门何貫文、 御憐愍お以如願之被成下度双方連判お以奉 右弥門義長兵衛本家ニ御座候処、 弥門御 知行高何貫文右石母 田 長兵衛子共 備 長兵衛御 養女二仕 中 願 組

御

以上、

縁 組願之事 右之通

相達御定之事

忌相受罷在候間 父ニ准シ申侯ニ付、

拙者共

、仍親類 二右之段相達申侯、

何

之

誰

右誰義過ル

何日ゟ何日迄日数五拾り

年号月

日

加 右権十郎先年之妻何の誰娘ニ御座候処何年何月病死仕候 隱権十郎後妻古内鉄右衛門伯 母 緣 組被 成下度奉 一願

太 本 田 田多 長 弥 兵 衛 門

年

号

月月日

拙 お

者義 以如

進

願之被

成下度奉存候、

右平治義登

仙

為仕罷

在

申候、

間受取

申

様 申

候

处处、

落

人

無之事

御

座

候

間

請

取

申

様

口

相

伺

申

何

月 侯

当 御 用 願 部 屋 住

春 者 養子 秋 両 度共 同 氏平 二月 治義 数 当三 # 日 宛本番之通 拾 六歳 = 罷 成 為 相 為冥 勤 八加之御 御 進之節 城当

は

毎度相

応之御

用

被

仰付候様被

成下

度奉

願

候

右平治

居

義去年 成下、 同 五月養子二被成下 人義拙 者進 退高之通 度段願申 身 持 お以部 Ė 候処、 屋 居住 如 御力 願 心之同 奉 公被 月 被

付候 仰付、 月本役同 樣被成下度段奉 御 軍 用 然御歩目付 不及申 願 候 饭役被 江 同 戸 他 + 月 共ニ 仰付当三月迄引 如 願之被 相 応之御 仰付、 用 続 被 相 勤 司 仰

罷在候、 人義願之上去年 仍而 右身 ·七月家督弁 持 奉 願 候義 御 -目見被 御 座候得 共 仰付、 如 御 願 憐愍 泛之同

退 何貫文御 番 所中 之間 御 座 候 以

苅 苅 谷 谷 権 権 太 + 郎 郎

> 怪 鋪 者召 捕 之段 相 達 事

承 届 候処、 屋 敷境二 無宿 幸蔵 尽 怪 と申 鋪 者 者之由申 臥 居 申 候 間 出 候、 召 如 捕 何様之訳 置 五. 人 組 合立 = 而

丁通御 無御 候哉と承 座候得 士 御 届 屋敷合欠入忍入候段申 共 候所、 八右幸蔵 何方ニ 義 而 盗仕 相 付置右之段相達 出 候処被 候、 拙者外 追懸不及 申 候、 お 是 る 悲非

=

何 臥

8

年号月日

n

以上、 T

品

何 之 誰

拾 物請 取 伺 達之事

拙

者義

去年三月江

戸

詰

御

番

明

=

而

罷

下候節、

弐本松於問

屋

候処、 候様仕 場ニ 金子壱切 同 度由同 人方 拾取 所 問 而 屋斎 8 申 候 向 K = 藤 一付、 江 源右 相 衛門 追 届 張 々 申 落 紙等仕 談右 人相 金子 候得共落人無之 知 V 相 候 渡罷 1 下り 相 返 申

上受取 候 様仕 度 如 斯 相 達 候、 以

樋 渡 又 之

助

内 蔵 殿

拙者義今 日 御 城 江 出 勤 仕 候 処 拙者 詰 所 江 指 置 御 用

主

得共弥以相見得不申候処、 相勤罷在候、 下宿之節拙者刀無御座候二付段々相尋申 拙者共詰居候脇御障子之陰 候

今日諸願諸達等持参仕候者之内取違候と奉存候、 一無刀壱 腰御座候二付、 段々吟味仕候処右刀主無之候、 仍テ右

刀高 義刀拵等覚書別紙指添相達申侯、 備九右衛ニ申は(門脱カ) 達御番方御帳役部屋相渡置申候、 以上、 拙者

長サ 何程

何月

幾日

右之通 二御座候、 以上、 黒鞘

拙者親類佐藤平右衛門義持病之病気指 発り腰痛仕候 二付、

類

以上、

々相 平右衛門腰指江指替無行衛相成申候二付、 為保養之御宿町湯屋江罷越湯ニ相入申候処、 尋申候得共一 円 相 知レ不申候、 右指替之腰指 湯屋守立合色 何者 二候哉 至 一而損

申候、 取寄罷帰り 写之通湯屋. 右之通ニ 然取違之義も可有之哉、 御座候間御吟味被成下度奉存候、 申候、 人四郎 平右 方江始末請取 衛門脇指別紙覚書お 右本人相知兼申候間 相 渡置 平右 以相 衛門 出申 方指 別紙 候 替

> 達不申 病気ニ而腹痛仕候間早速湯江相入候 可然と右之段相

上

何年 H

何月 幾

山

長

右

門

深

一龍越申候、 拙者義仍テ親類ニ右之段相達申侯、

以

事、

小田四郎左衛門名代同氏忠助妻井江相入相果候

候、 果侯義二御座侯得共、 11 田四 三右之段相達申侯、 昨 郎 夜迄気不同之義も無之罷在候処、 左衛門名代同 横死之義ニ在之候間拙者義仍 氏忠助妻与風今朝 別 井江飛入相 而 品も無之相 テ親 果申

大 松 沢 喜 膳

石賀浅之丞於御

役所自害相

果申

-侯段親

類

相

達

付

申

過ル 石賀浅之丞御塩方釜横 浜田長右衛門申聞侯間右之段相達申侯、 何日之夜於御役所二 旨御 自 害相 用二 果候段同 而気仙吉浜江 所 勿論浅之丞義御 詰居 罷 下 候同 居 候処、 役

平右衛門義急

年三月家督

一并之

御目見被

仰付候、

右七郎

左

衛門義

相煩候二付御奉公相勤兼、

何年何月右伝右

I 衛門名

拾九歳 居被

二罷成候二被下置度奉願候、

右伝右衛門義寬保三

嫡子伝右衛門当三

加

藤

七

郎左衛門義当六拾

九歲

二罷

此成候処、

老衰仕

候間

隠

共名代御奉公二罷成申候者隠居願之事

仰付跡式御知行高何貫文之所、

仰付、

御憐愍お以如

願之被成下度親類

連判

お以

奉

願

代御奉公被 何之症

仰付被下置度奉願

候処、

如

願之何年

-何月被

用支配 御 奉 一行江も 相 達右長右 衛門申 以上、 聞 候 間 早 谏 類 相

F

年号月

日

加

藤七郎左

佐

々

木

運

八 衛門

郎

年号月日 拙者義仍 ア親類 相 達申候、

野 久

治 主

名代御

奉

公二

而

隠居

願之節直名前外ニ

連判親類壱人

水 殿 開料

者家中 清 匹 郎 義慮外仕候二付、 於其 場 = 昨 夜手 討 三仕

候、

以上、

拙

外討

候間 年号月日 御 断申上度如 此 二御 座

松 本 勘 之 丞

七

日

辺見善· 病死仕 歩 九郎義当 小性組病死之事 跡式進 五拾八歲二而卒中 退 御切 米 何両御扶 風之症

子同 氏源左衛門義当弐拾三 歳 罷成候二被下置度奉願

以 持 方 何

相煩去年

月

右源左衛門義何年何月家督 并 御 目見被 仰付 候、

御

憐愍お以如 右善九郎義御番所中之間御歩小 願之被成下度拙者共 仍親類 性組二御 連判 座候、 お 以 以上、 奉 原

斎名代 清 郎

備 中

年号月日

殿

佐藤善太夫寺替仕両寺之証状相済申達候 并宗旨替之例

付承済置

右七郎左衛門義御 番 所 何の 間 二御座 候

候事、

遠方ニ 拙者義只今迄刈田郡円田村真言宗円明院檀中 御 座候得は諸 事 指支迷惑二御 座 侯間 伊具郡 二御 座候処、 大蔵

段相達申候、 以上、

村臨済宗大蔵寺檀中

一二罷

成候二付、

両寺之証状指

添

右之

年号何月何 折重判二有之候

右

ハ横

左佐 藤 善 太 夫

> 何年 一何月

> > 遠

藤

庄

左

衛

門

典 膳

殿

候、 拙者義当五 御憐愍お以如願之被成下度奉存候、 年齡 加籠 拾 九歳 乗願之事 罷 成候処年齡乗御赦免被成下度奉 拙者義御

年号月日 相勤御知行高何貫文何の誰ニ御 座候、

典

全体真言宗竜宝寺末

拙者義寺替仕候様被成下度奉願候、

二御座候処、

同宗大聖寺檀那二

罷

成候様

膳 殿

> 何 之 誰

以上、

金山

存候、 ヲ見当 候処、 仕候処自分ニ相分兼候ニ付、 入仕候間 ル 何月幾日相達置候拙者蔵相破被盜取候二付 盗被取 右色品之内 弐品 候 尤右誰方江も相 相頼、 二付承届 候品見当り達之事 先以どり為致指置候て御吟味被成下 候処、 断候上如斯二 何の誰召仕何と申 古物相 何町

調候

由申

聞候、 者着用

色々

吟味

仕 品

罷

在候

々相達

目明誰

近

所ニ

而

兼

-度奉

何 之 誰

相達申

候

以上、

座候、

奉存候、

拙者義

妻子共 而

三切支丹類族

8 御番

無御

座

候

拙

支無御

座

由申聞候二付、

大聖寺西性院両寺る之証状相受

仕様無御

座候、

仍竜宝寺江其段吟味

ニ相懸右西性院

二指

殿等も無之位牌等指置かね候、

尤年忌相当候節執行等可

度奉存候、 寺西性院檀那

西性院儀

ハ凶年已来無住ニ罷成宗院

ハ勿論客

右両通相

添如斯

奉願候条、

御憐愍お

以如願之被成下度

以上、

義進退何貫文三

一何の誰

組二

御

座候、

所中之間

御

在候 達申候段右誰 拙者召仕 ラ右 一誰義、 何の誰見当吟 申 聞候、 何の 誰 尤召仕誰義誰方ニ留置 衣類被盗取 味仕候処、 品之内 相分不申 何品 候 申 相 候 付 調着用 品品 仍テ H

相 罷

分三り三毛以上ハ五分一役金共

被成下候間願文之內江当

五分

御役金卜書可申

事、

円御用捨被成下

候

御掟

也

此段相達申候、 何 月 幾 日

何 之 誰

ケー

水旱損御用捨願之事

拙者義御知行高何貫文之内遠田郡 合何貫文、三ケ壱引方ニ而物成所務不仕 水早損 何郡何村 三而 何貫文、 永荒畑何貫文、 大貫村 一候間、 -而田 当五 代 永荒取 何貫之 分

横目中 配 御役金御格之通御用: 頭 ニも 書御郡 前達仕 司末書之証状 置 候 E 捨被成下度、 一如斯ニ (両通指) 御 座 御村改 候、 添奉願侯、 拙者義. 書江御代 尤九月中 何 0 官御 誰 組 支 郡

御 座 以上、

年号月 日

何

誰

所二而湯治仕候得共然不仕、

有馬湯

治仕可然哉と右

誰義

御 勘定奉行衆

候 但 F 御 都 代官証状取揃 而 水早 損 前達 願 可 申 九 上候、 月中支配 三ケ年以上迄御用 頭江左之通 相 達置

> 拙者義御 以上引方二可罷成候由 知行高何貫文二御 座候処、 地 肝 入 共 当水旱! 申 聞候処、 損 永荒取合三 只今ニ

九月

村改相済不申候間右之段相

達置申

候

以上、

但 大番頭 格以上之輩 すは御 勘定所 江直

有馬湯治願之事

拙 共無然候間 拙者義数年何 何月何日 者義摂州 ゟ何月幾日迄日数何拾日御 有馬江湯治御暇 湯治仕 の症 相煩甚上昇在之候二付色 可 然由 御 被下置 矢 師 度奉 何 暇被下置度奉 0 誰 願 申 聞 々 療治仕 日 候 間 数之義 願 御国 候得 は

奉存候、 二も取合候処、 一候義遠 拙者義御知行高何貫文二 慮 至 極 弥以可然由 一奉存候得: 共 申 聞 御憐愍お 候間 御 座候、 奉 以如願之被成下 願 條、 以上、 遠方御 暇 度 申

E

何年何月

支配頭宛名

仰渡、 右之通願申出、 箱根江之通判支配頭二而被相渡候事 番頭合ハ御奉行衆江相出、

御下知之上被

何 之

誰

名改願之事

陽之輔

城之輔

右両名之内名改仕候様被成下度奉存候、

鶴太郎ト申名

以如願之被成下度奉存候、 幼名ニも在之、尤性ニも合不申候ニ付奉願候条御憐愍ヲ

私義御一

家

=

而御知行高六拾

何月何日

八貫七百八十壱文二御座候、

以上、

村

田

鶴

実名 書判

但 木 主 馬

奉願侯、

妻義何月中ゟ何の症

相煩候

二付段々御医師等

拙者義来ル何日ゟ

御城当番二御座候間妻看病被成下度

病御暇願之事

後 藤 孫 兵 衛 殿 殿

以上、

詰り

源太左衛門殿

願之被成下度奉存候、

拙者義進退何貫文二御座侯、

[1] 部

寅

治

郎

年号月日

々看病可仕者も無御座候間如斯ニ奉願候、

御憐愍お以

如

も引替薬用仕候得共此間

二電

成弥增然不仕、

無人之者前

但 L 医師証状指 添不申 上不苦候事

安政五午四月写之

西条忠之丞一秀(花押)

近年郡村衰微百性共立続兼候程之者相增事ニ聞得、 普請向之人足被召仕高も多ク甚相痛終ニ 古風ヲ失遊惰 指当及迷惑ニ侯義は高懸り等之諸償相嵩、 ニ押移り農業怠慢ニ成行候訳も可有之哉

地逃活却ニも

殊二 相

候得は、

旨ヲ心へ郡村害ヲ除百性之疼相省キ候之義等寛政三年ゟ 続之御吟味被成下候条、 締之義精々御吟味被相尽、 到候様ニ粗聞得も有之候、 所拝領之輩は勿論諸給人壱統 右ニ付而は役々も被相備専立 右様ニ而 は不相済義故 此度取

所拝領之輩

八不及申諸

給人

統農事

盛之時

節百

姓不召仕

217

心懸候、

其

細

吟

味ヲ尽し右召仕

高

相

减

候

儀

侍

他古(巨)

勿論 様可心

都

而

百

姓共雜費為相省候様可仕

去々 従 年迄 E 御 段 制 道被成下 K 相 触候趣吃度相守候上、 候御 趣意 速 相立 一族様 猶又厚吟味ヲ 可 仕 候 尽 右

付

荒増心得方之義左ニケ条ヲ以申

百性共召仕侯義初田 植 ゟ草引分中 は不時之外 1 都 テ 諸 人

足不召仕之義は 勿論、 金代取立共ニ 相 控 候

用

悪水路普請

人足壱ケ年

被召仕分

ハ定人足幷代取

立之分

能

取越被 共ニ 肝入手前首尾合二 何程と申儀早春村切ニ張紙為相 成下候上、 弐季 候ヲ御吟 二御代官手 「味之上、 前 右はは 出 = 而 尤代取立是迄大 返 被 納之首尾為致 相 控從

味之上安政年中御改革已前之通小役人足ニ限り実百姓 も無之金代取立之分共ニ右 三応 L 相 過 候処、 此度御 吟

諸給人ゟ普請 掟之通 被召仕、 被召上 尤普請 候 方江人足被召仕候儀、 上 = 無之候得は右も不召仕、 而 金代等聊 たり共相 近年 -被召仕 償候ニ不及候事 釘等之入料 候儀 高

> 無僕、 L 御 其他諸 諸事御蔵入之地江不同無之行届候様可仕 :蔵入之儀は廻村之小役人小道三拾里已 賄等迄右ニ准し 為相略 何事 も村方ヲ E 義 は 厭 歩 候 立 候

処、

但

扱二 被相 改候間、 不分之儀も 候 ハ 御 代官手 前 承

取

合候而 此度御吟 々吟 、味ヲ尽し百 成共御蔵入之地江言 味相 成候条々之内一 [姓共引立物成取固] (簡) 1並行届2 統心得 候様 \$ 可 相 可仕 相 成分申 增 候様 候、 右之 -渡候条、 可 仕 候 通

将 候義 亦諸給人諸 8 相 聞得候間 家中共御蔵入村役付取 御代官御 郡 方横目御代官 扱 8 様不仕 手伝役 行届

相立候様可 諸 等合給所々々江も為及撮当 事費ヲ為省耕作 仕事、 右之通 ヲ 専 要二 H 相 心掛 候間 通 由 百 姓 御奉行中 共質外 上之御行ヲ一 か申 押 移 郡 和 村

各其心得 可有之候、 以上、

木 Щ 城

但

御 名 元 殿 文政六年十二廿二

H

并 諸 家中 衣 類 被盗取 候 達

拙 者儀 何方住居 御 座 一候処、 過 ル 何日之夜衣類等別紙之

通被盗取侯間右之段相達侯侯、(ママ) 過ル 何日朝 起見申候得 は

勝手ト 江相入置候衣類不相見へ候間屋敷之内見申候処、 か茶之間之障子相明居候間心付立申候得 は 門相と 何箱

候処相明居候間右之処ゟ出入仕候儀ニ奉存候、

依而家来

御

族

1

五.

百

義も疑敷心付無之依而は被盗取候色品書相添右之段相達 之者内之者迄承届侯処疑敷心付 一円無之段申聞候、 拙者

申候

何月何日

何

之

誰

外二

一色品

大円右之通住居屋敷付在郷は何方ト申訳相認、

書出 相添可申 候事

一屋敷焼失火鐘擋* (擂) 不 ·調法自分遠慮申達候間御奉行衆 丰 御町奉行御詮義相済候而も、 江被相 達 候 事 支配頭 遠慮致候

江

様

ニと指図は不致候事、

火鐘ツキ不申

出火ニ

而

も相達候

但 早速御奉行衆江被相 し、 達書二屋 敷何方と申訳無落認、 達候事 為指出 日は御倹使 (検)

被遣二相入候故之事

衣類着用之事

御紋付之品一度も拝領不仕者は縦御一門衆初御紋御免之 輩ゟ貰侯共着仕間敷事、 家御一 ハ三百石以上、 享保七年七月被相 御役目付番頭格已上 触 候

石以上、 平士ハ名代或ハ使者ニ指出 御目見被 仰付

候者、 而長敷召仕候家来二候 且又 御目見被 ハ 仰付名代并使者計 絹紬為着可 申 御 相勤候節計 国 而外人 兼

百石已下之御一家御 使者ニ遣候節ハ是又其節計絹紬為着 族、 千石以下之平士は名代幷使者 可 申 候、 右之外三

共ニ木綿為着可申 事

平士 御紋付拝領不仕者ハ縦親之拝領処持仕候共着仕間(所) 長敷召仕候下女、 絹 御国元ニ而は多は有之間敷事 細差立候節は為着可申事 共ニ千石以下之輩ハ長敷召仕候下女家来之妻計ニ 長敷召仕候家来之妻ハ外人出会之事も 子二候間、 家柄之輩御役目付

子共二為着候 度も拝領仕者 ハ不苦候事 ハ不及遠慮 二着可仕候、 女并拾五歳以下之

口

本家幷兄江ハ同然向へ苗字無之、

文通之格之事

御一 不苦、 右之外何も布木綿着用可仕候、 分羽二重以下幷竜紋着用不差支候、 以上之輩、 之家三而御紋付拝領ニ侯 併其家二居内計着用他家江参侯 触候処親拝領仕候御紋付嫡子ハ不及申次三男等着不苦候 家る家来差次迄代々着座之家来は此格ニ無之、 門衆家来一家る小姓迄御 家 6 留居迄代々着座并大番頭格以上之家来(守脱力) ハ、着用不苦 家御一族御家老并三千石 ハト遠慮可仕事、 但し帯は巻物以上ハ

右之

し着可仕候、 五百石以上之番頭格以上之家来并千石以上之平士之家来、 右家老差次迄外人之使者其外指立候節計絹紬着用不苦候: 等二絹紬不苦、 附木綿着用之者之内小姓以上之者带衿端袖 女ハ右ニ准シ可申候事 勿論女は父夫之身分ニ応

> 大番組三百石以下百石以上百石以下身持之者文通 父方之伯父江ハ本家兄之文言伯父ゟ挨拶も同然可為、 門衆江ハ家老留居小姓頭用人等之名元ニ仕、(守脱力)

御

門衆初御紋御免之輩家来共へ為取候儀小姓通以上ハ

不苦侯、

其已下ハ為着申間敷候事、

右之通享保七年被相

様付、 此段申上度存候、 恐惶 謹 言

壱万石以上御一

家御

族江

ハ様付、

小 姓頭用·

人 江

衆

乍去向

御一

此段申上可預、 恐惶謹

御奉行衆江も右同 断 御一 家御 族江は向苗字なし、

御

代々着座千石以上は向片苗字御勇健、 勇健被為成御座、 拙 者義 道付 可 仕 千石以下之衆江

若老大番頭迄ハ向苗字無シ、 以上之輩向片苗字御堅固 御堅固被成御座之由珍重之至ニ侯、 二被為成御座、 江戸 番頭御鑓奉行迄 双方諸苗字、 但し支配請 番 頭

苗

字なし、 御 家御一 門衆家老并 族御 (守脱力) 奉行衆御宿老代々着座之輩家老用人留居(守脱力) 申入侯、

御

迄は様付

着座以下之輩家老用 人殿付、 但し親類之内ノ者ニ侯

片苗字、

此方江ハ諸苗字、

Ξ 御礼廻并五節句御定之覚

社家山伏座頭江は三百石之以上之大番組之文言、 東光院なと兼而 御目見等被 仰付、 或 ハ組士格ニも被

但し、諸家中山伏御郡方又ハ御町人ニ而町人百姓之山 仰付候山伏江ハ組士之通少し上而書可申 事

(表紙)

伏禰喧侯者ハ苗字なし或ハ家老名元、(宜)

山田土佐守弁守ヲ名乗り候社家江ハ大番組

三百石以上之

文通、 又何ノ塚ト名乗候者江は右同断

蔵

候処、

宝曆六年五月

組士江之義は格無之、

前々

る往来等諸苗字文通仕候由

F 野

着も

の御定

釆

御礼廻并五節句御定之覚

たり共江戸着用物不苦候事 寛政十年四月廿八日御付札

不相成候而は及迷惑候趣ニ相聞得候ニ付、以来は常交代

守旨寬政元年八月御沙汰相成居候処、

ては江戸着用物被相免、

常交代ニは兼而御定法之通可相

常交代之節も着用

女

御物頭已下御供ニて江戸仙台へ出立前日、丼御着翌日ま

初而

御礼廻并五節句御定之覚

屋敷地有次第被下侯段御沙汰二而、

追而屋敷地被下候節共二本文之通

江戸表ニて組付之面々御供之節丼御客様方御出有之御通 向之節計、 着物之内ちりめん茶ウ茶丸着用不苦候事

御徒組は是まて之通相心得可申事 文化三年二月

着座以下御作事奉行以上右同断之事

組付御礼事覚

家督新知御足高格式組替都 は 勿論、 名改居屋鋪拝領下屋敷代替二付差上度旨相 而 上江御礼申上候程之儀 順直

々被下候節、右御礼御当地御目付以上 但シ、家督被 仰付候節は付添罷出候親類同

道 相廻、

江戸江は家督之もの合計

右願之通被 縁組 仰付候節御礼御当地御目付以上御礼右同断

右願之通被 仰付候節右同断

屋敷替

御目見

計品 右願相済候節は願 日々同断、 江戸江も御目附已上へ其身る計御礼状可為差 人御目付已上 相 廻 御 目見之節は其

身

登事、

但シ、 老中謁之節是迄之通 可 相 迎事,

忰御役替被 右御当地御目附以上其身計御礼廻之事 召出 御潤色之筋被 仰付候節、

右親は

御当地御目付已上御礼 廻り、

但シ、 セ可申候事 其身ハ御当地御目付已上御礼廻り、

御礼状差登

廻り、 御番代并初而勤方初勤番ともに右父子共ニ御目付已上相 江戸表へも右同断、 其身合計御礼状為指登可申事

事

但シ、

御番代之節、

江戸へは親ゟ計御礼状為差登可申

初勤番被差免追々又之勤番被 仰付候節不及御礼廻候

事

此ケ条之内

初而勤方之節御当地父子共二、 御番代之節は御当 地 父子共二御礼 廻、 江戸へは親る計、

初而勤番之節は御当地并江戸とも二其身る計

御意被下もの并江戸仙台発足着共ニ右御会席三支配頭月

番御目附中へ可相廻事、

忌血忌遠慮 御免之節、

指控已上御答メ同断之節、

右御会席支配頭月番御目附中

可相廻事

但シ、忌懸り親類自分指控、 節も本文之通 追而不及其儀段御差図之

都而御暇等ニ而出立帰宅共ニ支配頭并月番御目附中へ届 格式有之ものは御会席御役頭并月番御目付中へ右同断、

可申

天明弐年之御定

年中行事

年始正月元日御礼之部

御在邑年明六ツ時揃

同二日五日御礼之部 御 留 主年 明 少半時揃

御在邑年五ツ時揃

御留守年五ツ時より八ツ時まて御広間御帳ヲ以可申上

但シ、右両条御用ニ而御礼不申上分ハ正月十五 てニ被為 請候事、 病気指合等は是まて之通流ニ相

日ま

成候事、

七種御礼

御在邑年五ツ半時揃

但シ、

御留守年五ツ時ゟ八ツ時まて御広間御帳ヲ以可申上侯 御物頭已下御帳ヲ以可申上候事、

事

正月十一 日御用始五ツ時揃

初卯

御在邑年幷御留守年共ニ明六ツ時 紙致、 但シ、 何れも相心得居候様可致候事 其年之何日と申義は年始之節御広間へ各る張

上巳端午七夕八朔重陽御礼 御在邑年五ツ半時揃

同

月十五

日

但 席 々ニおゐて御礼申上ル、

御歳暮知 御 留守年五ツ時ゟ八ツ時迄御広間御帳ヲ以可申上候事、 御

御在邑年八ツ半 -時揃

但シ、

御馬廻組已下御帳ヲ以可申上候事、

御舞台

而申上候面 々は是迄之通

御留守年八ツ半時ゟ暮時まて御広間御帳ヲ以可申上候

事

月並御礼四ツ時揃 御目付並已上

但

月並之内不被為

請候分左之通

毎月廿八日 三月朔

玉 一月朔日

九月朔 H

七月朔

日 H

節分は其時々各合相 触 可 申事

御在府年

殿様江年始御太刀目録添状日附十二月十五

日

御作事奉行已上格通

御在府年年始御規式如恒例之相済候御悦上状、 但 + 月廿八日迄二 御目付中手 が 相 廻し 日付正月 可申事、

> 五日御目付 並以上連状

但シ、

御目付中手前承合セ書判可致候事、

御物頭以下御作事奉行已上同断連状

迄ニ相廻シ可申事

但シ、

書判取揃之上例年之通御目付

中手

前 正

月二

日

宝寿院様へ年始一 但シ、 御目付中手 通日付正月五日御目付並以上連状、 前 へ承合セ書判可致候事

御物頭以下御作事奉行已上右 同 断

但シ、 書判取揃之上御目付中手前

へ正月二日迄ニ

相 廻

シ可申 事

吉五郎様江年 始 通 ŋ 白附正 月五 日御目付並已上

但シ、 御目付中手前承合セ書判 可致候事

每年御家中初惣而門松枝木相用

一可申事

口

盆中風立候節 毎年二月朔日より御家中之面 統松火相 控可 々火消道具心懸置 申事

附、 花火一切停止之事

前書之数ケ条兼而及差図置候処、 此度新キ

有之二付、

尚又為心得改而可被相触置候、

且年始其外御剋 被相載之ケ条も

有之哉ニ候間厳ニ可被相触候、 限等之義は追々及差図候へ共、 以上、 心得違之面々及延引候事も

文化七年二月廿一日

御会席る御沙汰

文化八年正月写

藤 原 尚 中 控

御下屋敷三千九百四十坪壱合

御中屋敷千四百七十六坪八合 御上屋敷三千四百四十坪弐合七夕

江戸御屋敷間数

私本国奥州、 先主会津盛隆御座候所、 御養子盛末発変以

後祖父因幡十八歲二而仙台御領江罷越候所、

給主被召出

右衛門江御預被遊候所、 鈴木和泉江御預被遊侯、 私親左馬助と申候、 御先代様江寛永十八年ニ被文政二年迄百七拾九文政二年迄百七拾九

召出、私出生ハ古河ニて御座侯、年ニ成ル

中川善之助略歴・主要著作目録

	F 丿 善 人具 田 暦	中川島と力各を
	一、三男寺化上銀	•
2	9 • 27	1
2 3 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	東北帝国大学助教授(民法講座分	糸好
	(民法講座分	

		10 • 4 • 30	9	7	9	大正4・3		44 • 4	43 • 4	38 • 9	明治30 · 11 · 18	年月日			ロノ言に則	中川阜之力
文部省給費生として東大法学部研究室	入り、東北大学法文学部官制公布まで	東京帝国大学法学部卒業、同大学院に	東京帝国大学法科大学独法科入学	第四高等学校卒業	第四高等学校一部丙(独法)入学	金沢一中卒業	沢一中に転校	父の郷里(本籍地)金沢市に移住、金	愛知一中入学	名古屋市に移住	東京神田に出生	略歷	E	***		
21 • 2	20 7	2 •	19 1 1	17 6 1	12 6	14 • 7 ? 8	13 • 7 \ 8		8	3 3 10	昭和2.7.6	14 7 29		12 5 23	9 27	11 • 4 • 9
沖和寮を宮城県岩沼町に開寮	仙台空襲	学術研究会議第六〇一研究班員	日本学術振興会学術部第一常置委員	東北帝国大学評議員	家事審判調査会委員	第二回南洋群島調査	南洋群島未開社会身分法調査	子相続の現地調査	この年から昭和11年まで、諏訪地方末	仙台無料法律相談所開設	東北帝国大学教授(民法講座担当)	帰国	フランスなどに留学、8月下旬出発	在外研究員としてドイツ、イギリス、	東北帝国大学助教授(民法講座分担)	結婚
	21・2 冲和寮を宮城県岩沼町	『給費生として東大法学部研究室 21・2 冲和寮を宮城県岩沼町東北大学法文学部官制公布まで 20・7・9 仙台空襲	文部省給費生として東大法学部研究室 21・2 沖和寮を宮城県岩沼入り、東北大学法文学部官制公布まで 20・7・9 仙台空襲 2・1 学術研究会議第六○	9 東京帝国大学法科大学独法科入学 19・1・1 日 ・4・30 東京帝国大学法文学部官制公布まで 20・7・9 仙 入り、東北大学法文学部官制公布まで 20・7・9 仙	・ 7 第四高等学校卒業 17・6・1 東京帝国大学法科大学独法科入学 19・1・1 目 第・1・1 目 第・2・1 学 10・1・1 1 1 目 第・2・1 学 10・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・1・	9 第四高等学校一部丙(独法)入学 17・6・1 東京帝国大学法科大学独法科入学 17・6・1 東京帝国大学法学部卒業、同大学院に 2・1 学 入り、東北大学法文学部官制公布まで 20・7・9 仙 文部省給費生として東大法学部研究室 21・2 沖	・3 金沢一中卒業 14・7~8 第四高等学校一部丙(独法)入学 14・7~8 第四高等学校一部丙(独法)入学 17・6・1 東京帝国大学法科大学独法科入学 17・6・1 東京帝国大学法学部卒業、同大学院に 2・1 学 17・6・1 東京帝国大学法学部本業、同大学院に 2・7・9 仙	・3 金沢一中に転校 13・7~8 南 ・7 第四高等学校一部丙(独法)入学 14・7~8 南 ・7 第四高等学校卒業 17・6・1 東 ・9 東京帝国大学法科大学独法科入学 17・6・1 東 へり、東北大学法文学部官制公布まで 20・7・9 仙 文部省給費生として東大法学部研究室 21・2 ゆ	・4 父の郷里 (本籍地) 金沢市に移住、金 13・7~8 南 ・3 金沢一中に転校 13・7~8 南 ・7 第四高等学校一部丙(独法)入学 14・7~8 南 ・7 第四高等学校卒業 17・6・1 東 ・2 19・1・1 日 ・2 1 学 ・2 1	4 愛知一中入学 8 この年から昭和11年まで、 4 愛知一中入学 13・7~8 常洋群島未開社会身分法調沢一中に転校 13・7~8 帝洋群島未開社会身分法調沢一中に転校 9 第四高等学校卒業 17・6・1 東北帝国大学法科大学融法科入学 12・6 家事審判調査会委員 5 東京帝国大学法科大学独法科入学 19・1・1 日本学術振興会学術部第一年学術研究会議第六○一列を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	9 名古屋市に移住 3・3・10 仙台無料法律相談所開設 ・4 愛知一中入学 13・7~8 帝洋群島未開社会身分法調 ・3 金沢一中本業 14・7~8 帝洋群島未開社会身分法調 ・7 第四高等学校本業 17・6・1 東北帝国大学法科大学独法科入学 ・9 東京帝国大学法科大学独法科入学 19・1・1 日本学術振興会学術部第一 ・4・30 東京帝国大学法科大学独法科入学 2・1 学術研究会議第六〇一研究 ・カり、東北大学法文学部官制公布まで 2・7・9 仙台空襲 ・カり、東北大学法文学部官制公布まで 2・7・9 仙台空襲 ・大学活費生として東大法学部研究室 2・7・9 仙台空襲	11・18 東京神田に出生 昭和2・7・6 東北帝国大学教授(民法議・9) 4 愛知一中入学 8 この年から昭和11年まで、20・7・9 4 愛知一中入学 13・7~8 南洋群島末開社会身分法調で、20・7・9 9 東京帝国大学法科大学独法科入学 12・6 家事審判調査会委員 9 東京帝国大学法科大学独法科入学 19・1・1 日本学術振興会学術部第一年学術振興会学術部第一年学術振興会学術部第一年学術振興会学術部第一年学術振興会学術部第一年学術振興会学術部第一年学術振興会学術部第一年学術振興会学術部第一年学術振興会学術部第一年学術表現	11・18 略 歴 14・7・29 帰国 ・11・18 東京神田に出生 昭和2・7・6 東北帝国大学教授(民法議・11・8 ・9 名古屋市に移住 3・3・10 仙台無料法律相談所開設・20・7・8 子相続の現地調査・20・7・8 アール・5昭和11年まで、20・7・9 中和寮を宮城県岩沼町に開設・3・7・8 第二回南洋群島調査・20・7・9 中和寮を宮城県岩沼町に開設・3・7・8 東北帝国大学教授(民法議・11・7・29 第二回南洋群島調査・20・7・9 中和寮を宮城県岩沼町に開設・20・7・9 中和寮を宮城県岩沼町に開まる・20・7・9 仲和寮を宮城県岩沼町に開まる・20・7・9 仲和寮を宮城県岩沼町に開まる・20・7・9 仲和寮を宮城県岩沼町に開まる・20・7・9 中和寮を宮城県岩沼町に開まる・20・7・9 中和寮・20・7・9 中和寮・20・10・10・10・10・10・10・10・10・10・10・10・10・10	11・18 東京神田に出生	略 歴 12・5・23 在外研究員としてドイツ、 ・11・18 東京神田に出生 昭和2・7・6 東北帝国大学教授(民法離り・11・18 ・4 愛知一中入学 8 14・7・29 帰国 ・4 愛知一中入学 8 2・7・6 東北帝国大学教授(民法離り・2・7・6 東北帝国大学教授(民法離り・2・7・8・7・8・7・2・8・7・8・7・8・7・8・7・8・7・8・7・8	19 17 18 18 19 17 18 18 19 17 18 18 19 17 18 18 19 19 19 19 19 19

現地出張	30・4・3 第二回奄美大島学術調査団団長として	11・1 著作権審議会委員	29・7・19 法制審議会民法部会委員併任	現地出張	12・17 第一回奄美大島学術調査団団長として	28・12・11 日本学術会議第三回会員当選	8・1 社会福祉審議会委員	査主任研究者	26・6 民法改正後の農家相続の全国的実態調	12・12 日本学術会議第二回会員当選	6 東北法学会創立、理事長	4・1 金沢大学教授兼任	25・4・1 東北大学法学部長	12・22 日本学術会議第一回会員当選	昭和24・6・26 日本私法学会理事	民法改正要綱案作成、民法改正案起草	委員
46・7・1 大学設置審議会委員	45・12・7 中央心身障害者対策協議会会長	43・3・31 学習院大学退職	42・9・22 金沢大学学長(学習院大学教授兼任)	12・12 著作権制度調査会会長	受賞者選考委員	9・19 文化功労者選考審査会委員、文化勲章	39・4・1 学習院大学法学部長	4・1 学習院大学政経学部長	37·2·12 日本学士院会員	4・1 学習院大学教授	36·3·31 東北大学退官	11 · 18 還曆	7・30 憲法調査会委員	32・6・26 税制特別調査会委員	してスペインへ出張	8・30 法学国際協会第一回大会に日本代表と	31・5・1 著作権制度調査会委員

0	0	0	
Z	Z	9	

		. ,															
	昭和2	大正11				50				49				48			昭和47
代家	フュス	相続法	主要			3 20	10 31	7 • 18	6 • 4	4 29	12 • 22	12 • 3	10 23	9 21	11 3		6 . 5
代家族(訳)Fustel de Coulanges,	ュステル・ド・クーランジュ 古	有斐閣	主要著作目録		ける(七七歳)	逝去、正三位に叙され、銀盃一組をう	婦人に関する諸問題懇談会座長	放送番組向上委員会委員長	法制審議会民法部会長	勲一等瑞宝章をうける	弁護士登録(第一東京弁護士会入会)	検察官適格審査会会長	臨時大学問題審議会会長	金沢大学学長退官	金沢市文化賞受賞	49 3 3 31	婦人に関する諸問題調整会議議長(~
15				14	13					12		11	10	8		5	
親族相続判例総評第3巻	大学法学会編)	法学瑣論(随筆集)(共著・東北帝国	分関係	身分法の基礎理論――身分法及び身	戸籍法及び寄留法〔新法学全集〕	和12年—13年)	篇全5巻〕 (穂積重遠と共編) (昭	家族制度全集「法律篇全5巻、史論	親族相続判例総評第2巻	親族法〔新法学全集〕	法学協奏曲(随筆集)	妻妾論	親族相続判例総評第1巻	民法Ⅲ〔親族相続〕〔岩波全書〕	法律学	略説身分法学――親族相続法の社会	La cité antique, 1864
岩波書店	岩波書店	Ι	河出書房		日本評論社	河出書房			岩波書店	日本評論社	河出書房	中央公論社	岩波書店	岩波書店	岩波書店		弘文堂

	結婚・離婚――その法律〔家庭文庫〕		八 著)三元社	〔社会主義講座第8巻〕(共著) 三元社	る変革〔社会主		
有斐閣	共著)			民法に於け	革命と法律		
٤	(千種達夫・市川四郎・平賀健太・		毎日新聞社	新らしい民法の話	新家族――新らし		
2	〔親族法・相続法ポケット註釈全書2〕	28	国立書院	及〔新憲法大系〕	新憲法と家族制度	23	
培風館	日本の家族制度		国立書院		木霊(随筆集)	22	
勁草書房	私は思う(随筆集)		行人社	关)	女の一生 (随筆集)	21	
河出書房	「女大学」批判		東洋経済新報社		助「私法篇」共著)		
有斐閣	註釈親族法下巻 (編)	27	1	「公法篇」・中川善之	(宮沢俊義「公		
法文社	註解相続法(編)	26		〔現代日本文明史第5巻〕	法律史〔現代日本		
角川書店	法学概論(木村亀二と共編)		日本評論社		民法大綱中巻	19	
宝文館	婚姻と離婚		大明堂書店		我妻栄と共著)		
勁草書房	民法大要下巻〔親族法・相続法〕		•	(石田文次郎	現代民法の基礎理論		
有斐閣	註釈親族法上巻(編)	25	日本評論社		民法大綱上巻	18	
勁草書房	相続法の諸問題		河出書房	集)	随想「家」(随筆集)		
朝日新聞社	新民法の指標とその立案経過点描 お		日本評論社		日本親族法	17	
法文社	註解親族法(編)		岩波書店		身分行為		
真日本社	共著)		O.	課題——身分権及び	身分法の総則的課題	昭和16	
	親族法〔新法律学叢書〕(谷口知平と	24	河出書房	(随筆集)	雪やけ陽やけ(味		

肇・福島正	家族問題と家族法		32 法律学ハンドブッ	妻の座(随筆集)	法と人生——	31 家族法読本	家族「らいど	民法大要上巻	民法入門		日本の法律	30 註釈相続法下巻	相続・相続税	昭和29 註釈相続法上巻	著)	契約〔実務法律講座〕	
福島正夫・兼子一・川島武宜と共編	〔全7巻〕		-ブック民法〔全7巻〕	集)	-家は変る(随筆集)		ぶらりい・しりいず」	で「総則・物権法」			[毎日ライブラリー]	-巻(編)	代(結城義人と共著)	巻(編)		[律講座] (打田畯一と共	
重と共編)	(青山道夫・玉城	青林書院] (編)	有信堂	青林書院	有信堂	(編) 有斐閣	勁草書房	青林書院	毎日新聞社	(編)	有斐閣	青林書院	有斐閣	青林書院	共	
昭和40		39	38					37			36		33				
民法風土記	をんなの座(随筆集)	相続法〔法律学全集24〕	民法下巻 [実例法学全集2]	民法上巻 〔実例法学全集1〕	文集〕(田岡良一・千葉正士と共編)	法と法学教育「広浜先生追悼記念論	民法・活きている判例	民法事典(編)	家族(編)		北向きの部屋――学生とともに40年	赤いベレー――法学つれづれ草	親族法上巻・下巻〔現代法学全書〕	(島津一郎と共著)	離婚原因〔総合判例研究叢書民法3〕	法律相談30年	
			(編	(編	士と#	悼記念		青林書院新社			も に 40 年	れ草日	学全書」		書民法?	民主教育協会	

*遠藤先生の原案を編集の都合で一部修正・作成した。		勁草書房	家族法研究の諸問題	44
雄と共著) 有斐閣		勁草書房	人生万華鏡(随筆集)	
相続法〔新版〕〔法律学全集〕(泉久	昭 和 49	第一法規出版社	旅情(随筆集)	
〔全四巻〕(監修) 日本評論社		第一法規出版社	年)	
現代法学事典――法学セミナー別冊		() 49	実用法律事典〔全12巻〕(共編)(~49	
と共編)第一法規出版社		社会思想社	編)	
暮しのための法律(我妻栄・遠藤浩		夫と共	法学〔現代教養文庫〕(清水英夫と共	43
注釈民法(26)相続(3)(編) 有斐閣	48	雷鳥社	家族のゆがみ	
同監修)(~50年) 青林書院新社		有斐閣	注釈民法(24)(編)	
実務法律大系〔全10巻〕 (兼子一と共		第一法規出版社	人と家と法(随筆集)	
青林書院新社		有信堂・高文社	家族法のはなし〔新書〕	
判例による民法入門〔家族法〕(編))有信堂	民法小事典(広中俊雄と共編)	42
青林書院新社		青林書院新社	体系民法事典(編)	
判例による民法入門〔財産法〕(編)	47	民主教育協会	選書」	
判例による法学入門(編) 青林書院新社		E教育	親子・社会・教育「I・D・E教育	
注釈民法(22)のⅠ親族(3)(編) 有斐閣	46	日本評論社	法学	
共同監修)(~47年) 青林書院新社		日本評論社	家族法判例講義 上・下	41
不動産法大系 〔全7巻〕 (兼子一と	45	第一法規出版社	家庭法律大事典(編)	

中川善之助寄贈文書(中) 学習院大学史料館所蔵史料目録 第4号 昭和54年3月8日発行

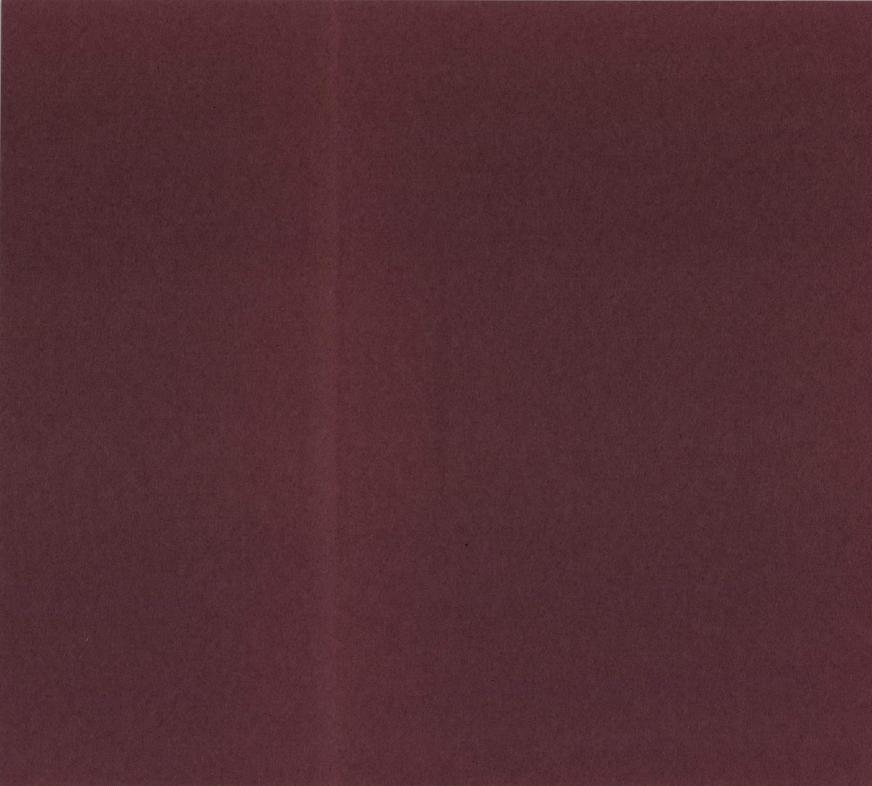
発行者 学習院大学史料館 代表者 大石慎三郎

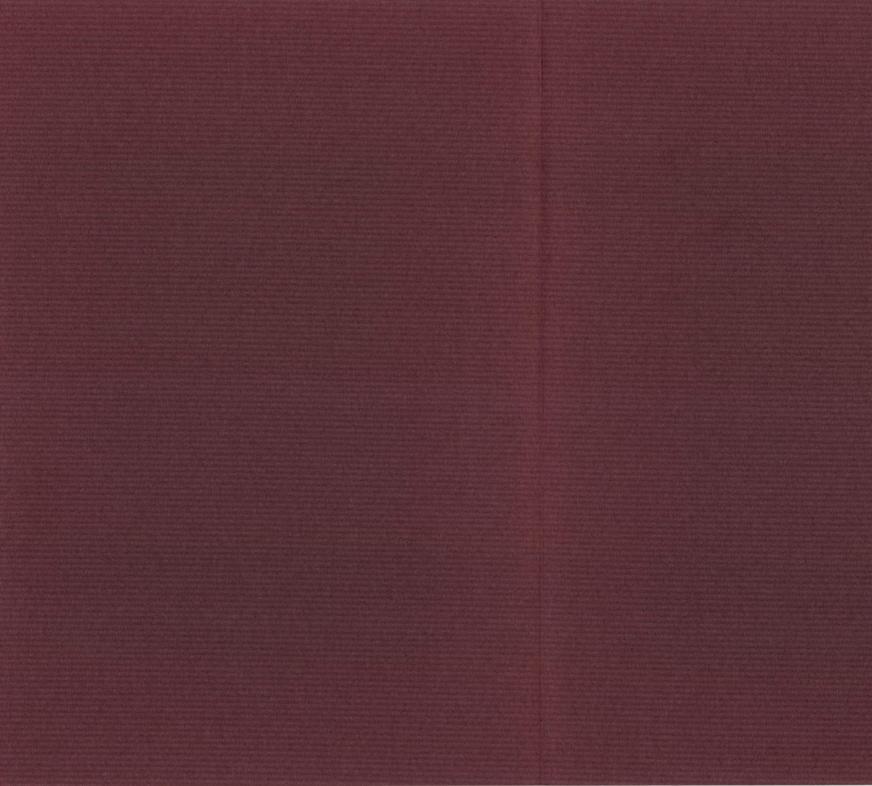
> 東京都豊島区目白1-5-1 (電)03-986-0221 〈内〉569



÷		







中川善之助寄贈文書中

